

令和5年度 第4回海老名市子ども・子育て会議 次第

日 時：令和6年3月22日（金）午前10時から

場 所：えびなこどもセンター 201会議室

1 開 会

2 議 題

（１）小・中学校児童生徒の教材費無償化について

（２）海老名市子ども・子育て支援に関するニーズ調査の実施報告について

3 その他

4 子ども・若者に関するワークショップ

5 閉 会

小・中学校児童生徒の教材費無償化について

【就学支援課】

1 目的

現在、小学校1年生及び中学校1年生を対象に実施している教材費の支援について、対象を全児童生徒に拡大し、教材費の無償化を行います。

2 対象となる教材

学校で使用する教材

(ワークブック、ドリル、テスト、問題集、植物栽培セット、リコーダー、習字セット、絵具セット 等)

3 実施方法

市から各学校へ教材費を支払いますので、保護者の手続きは必要ありません。私学等へ通われている方には、補助金として支援します。

4 その他

本事業は、令和6年度予算の成立が前提となります。今後、内容等に変更が生じる可能性がありますので、ご了承ください。

5 事業計画の変更
次のとおり変更します。

〈変更前〉

支援事業No.	40	教材費支援事業	就学支援課			
事業概要	小中学校の入学準備などにより、教育費の出費が多い小学校1年生と中学校1年生の保護者の経済的負担を軽減するため実施します。公費負担の上限は、小学校1年生で10,000円、中学校1年生で17,000円です。					
計画の指標となるもの	対象人員	令和2年 2,309名	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続
5年後の方向性	事業を継続することで、保護者の経済的負担の軽減を実現します。					



〈変更後〉

支援事業No.	40	教材費支援事業	就学支援課			
事業概要	小中学校に通学する児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、全児童・生徒を対象に教材費を無償化します。					
計画の指標となるもの	対象人員	令和2年 2,309名	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業拡大 10,463名
5年後の方向性	事業を継続することで、保護者の経済的負担の軽減を実現します。					

海老名市
子ども・子育て支援に関するニーズ調査
結果報告書
(案)

令和 6 年 3 月

海老名市

目 次

I アンケート調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	2
II アンケート調査結果（就学前児童）	3
1 居住地域について	3
2 子どもと家族の状況について	4
3 子どもの育ちをめぐる環境について	8
4 保護者の就労状況について	22
5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	30
6 子育て支援センターの利用状況について	39
7 子どもの病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用している方のみ）	42
8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	47
9 小学校就学後の放課後の過ごし方について	55
10 育児休業など職場の両立支援制度について	61
11 母親の妊娠、出産等について	68
12 「こどもの権利」について	72
13 子育てと子育て支援について	73
III アンケート調査結果（小学生）	88
1 居住地域について	88
2 子どもと家族の状況について	89
3 子どもの育ちをめぐる環境について	93
4 保護者の就労状況について	106
5 子どもの病気の際の対応について	114
6 放課後の過ごし方について	119
7 「こどもの権利」について	135
8 子育てと子育て支援について	136

I アンケート調査の概要

I 調査の目的

本調査は、令和7年度から令和11年度までの5か年を計画期間とした「海老名市こども計画(第3期海老名市子ども・子育て支援事業計画)」の策定にあたり、子育て支援サービスの利用状況や今後の利用希望などを把握し、その結果を計画に反映することを目的として実施しました。

2 調査概要

	就学前児童	小学生
調査対象者	0歳から6歳までの小学校にあがる前の児童 3,000 名の保護者を無作為抽出	市内 13 校の各学年から1クラス(1組)を抽出した小学校児童 2,324 名の保護者を対象
調査期間	令和5年 12 月 14 日(木)～令和6年1月5日(金)	
調査方法	(配布)郵送 (回収)郵送／専用ウェブサイトからの回答 ※どちらかの方法を回答者が選択	(配布)小学校を通じて配布 (回収)郵送／専用ウェブサイトからの回答 ※どちらかの方法を回答者が選択 ※学校の連絡用メール配信サービスを利用して回答用の URL を送付 ※調査票が複数届いた世帯は、下のお子さんのみ回答

3 回収結果

	配布数	回収数	回収率
就学前児童	3,000 件	1,468 件	48.9%
小学生	2,324 件	1,076 件	46.3%
合計	5,324 件	2,544 件	47.8%

【回収方法】

	郵送	専用ウェブサイトからの回答
就学前児童	668 件(45.5%)	800 件(54.5%)
小学生	385 件(35.8%)	691 件(64.2%)
合計	1,053 件(41.4%)	1,491 件(58.6%)

4 報告書の見方

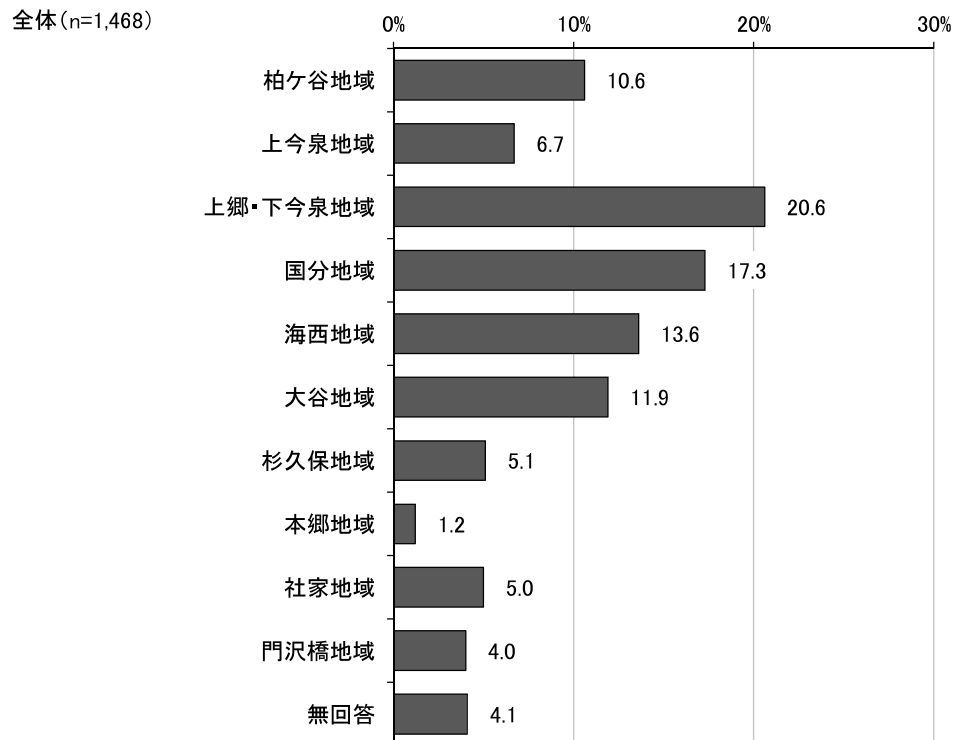
- ◇「n(number of cases)」は、集計対象者数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◇回答結果の割合「%」は集計対象者数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇表中において「その他」「無回答」を除き、回答の割合が高いもの第1位に網掛けをしています。
- ◇前回調査とは、平成30年度に実施した『海老名市子ども・子育て支援事業ニーズ調査』を指します。

Ⅱ アンケート調査結果（就学前児童）

Ⅰ 居住地域について

問1 お住まいの地域（1つに○）

居住地域についてみると、「上郷・下今泉地域」が 20.6%と最も高く、次いで「国分地域」が 17.3%、「海西地域」が 13.6%となっています。



居住地域について（小学生調査も同様）

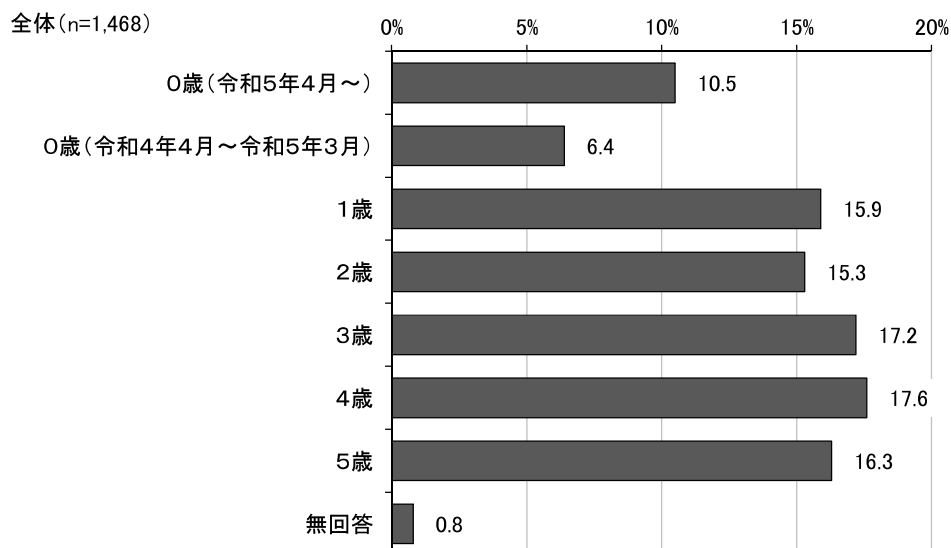
柏ヶ谷地域	東柏ヶ谷、柏ヶ谷
上今泉地域	上今泉
上郷・下今泉地域	上郷、下今泉、扇町、泉、めぐみ町
国分地域	中央、国分南、国分北、望地、勝瀬
海西地域	河原口、さつき町、中新田
大谷地域	大谷、大谷北、大谷南、国分寺台、浜田町
杉久保地域	杉久保北、杉久保南
本郷地域	上河内、中河内、本郷
社家地域	社家、今里
門沢橋地域	中野、門沢橋

2 子どもと家族の状況について

問2 お子さんの生年月を西暦でご記入ください。(数字で記入)

年齢

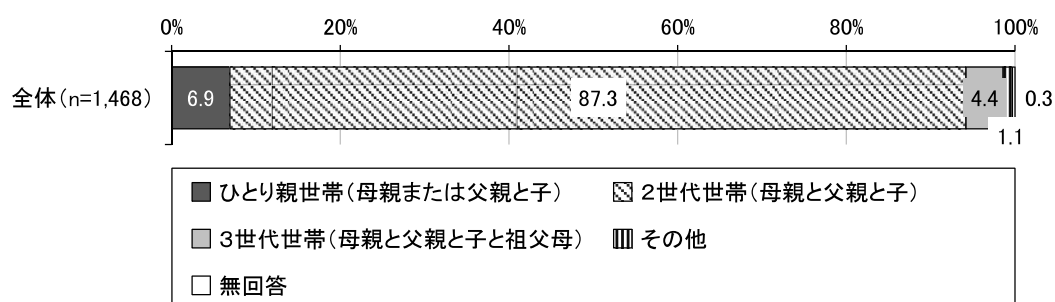
年齢についてみると、「4歳」が 17.6%と最も高く、次いで「3歳」が 17.2%、「5歳」が 16.3%となっています。



問3 世帯構成についてお答えください。(1つに○)

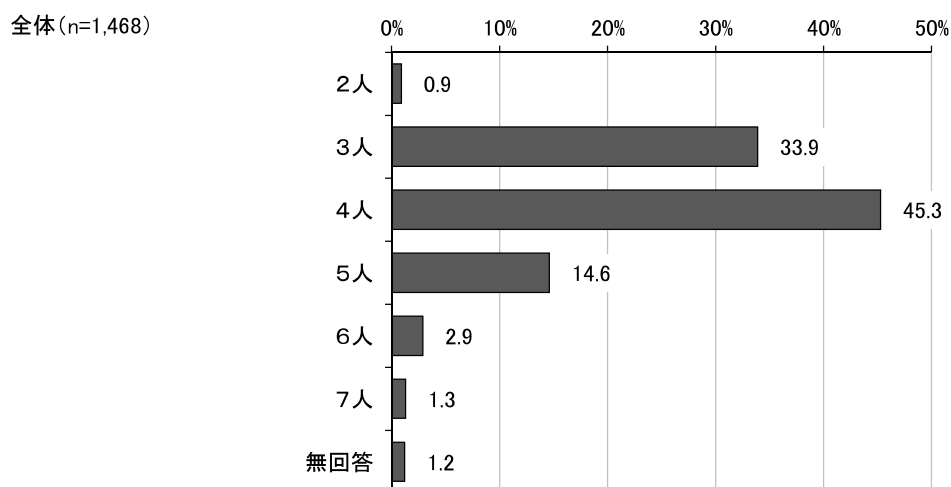
また、同居している家族全員（保護者と対象のお子さんを含む）の人数をご記入ください。

世帯構成についてみると、「2世代世帯(母親と父親と子)」が 87.3%と最も高く、次いで「ひとり親世帯(母親または父親と子)」が 6.9%、「3世代世帯(母親と父親と子と祖父母)」が 4.4%となっています。



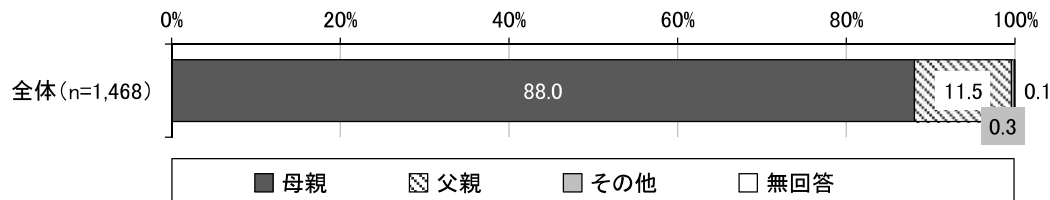
同居している家族全員の人数

同居している家族全員の人数についてみると、「4人」が 45.3%と最も高く、次いで「3人」が 33.9%、「5人」が 14.6%となっています。



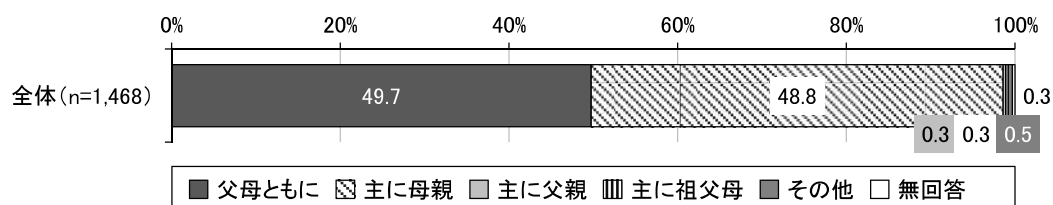
問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。
(1つに○)

調査票の回答者についてみると、「母親」が 88.0%と最も高く、次いで「父親」が 11.5%、「その他」が 0.3%となっています。



問5 お子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(1つに○)

子育てを主に行っている人についてみると、「父母ともに」が 49.7%と最も高く、次いで「主に母親」が 48.8%、「その他」が 0.5%となっています。

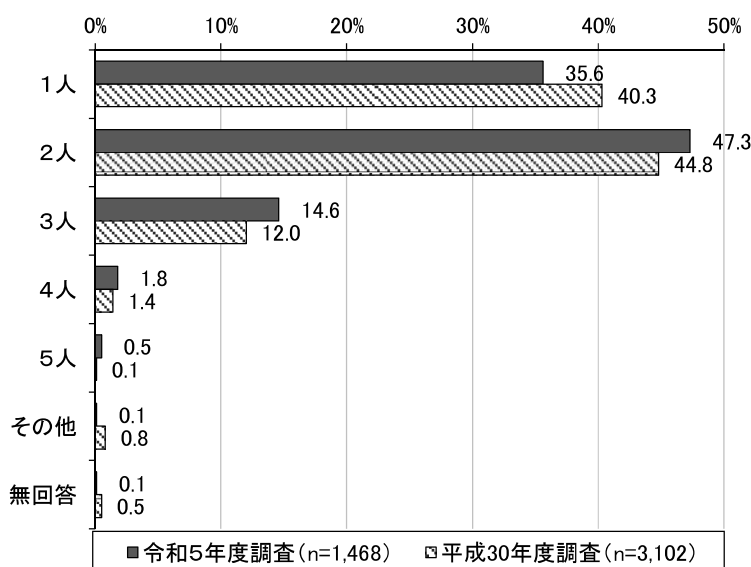


問6 あなたには、何人お子さんがいらっしゃいますか。また、理想的なお子さんの人数は何人ですか。（それぞれ1つに○）

①実際のお子さんの人数

実際の子どもの人数についてみると、「2人」が 47.3%と最も高く、次いで「1人」が 35.6%、「3人」が 14.6%となっています。

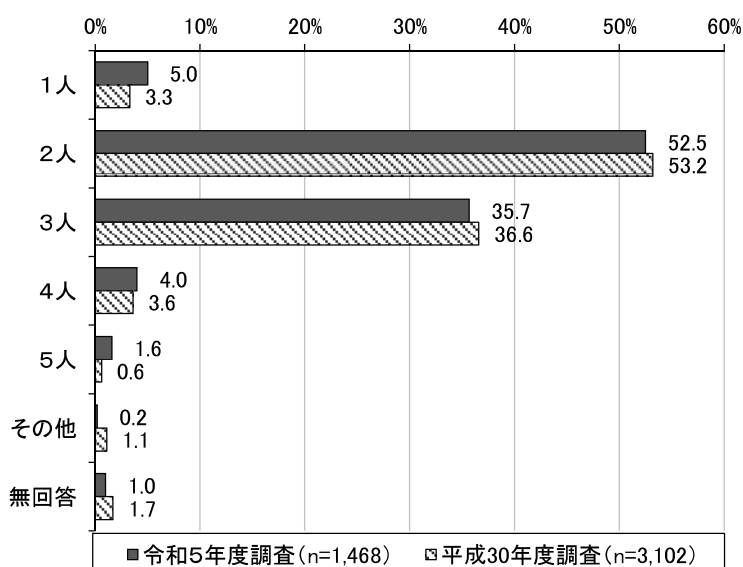
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②理想のお子さんの人数

理想の子どもの人数についてみると、「2人」が 52.5%と最も高く、次いで「3人」が 35.7%、「1人」が 5.0%となっています。

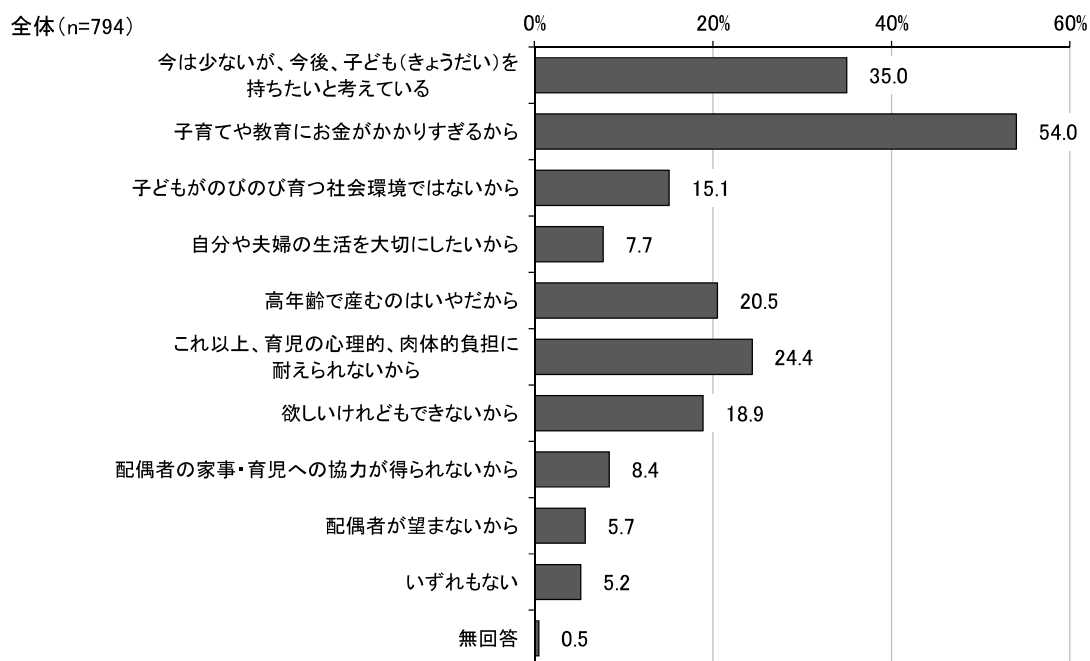
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



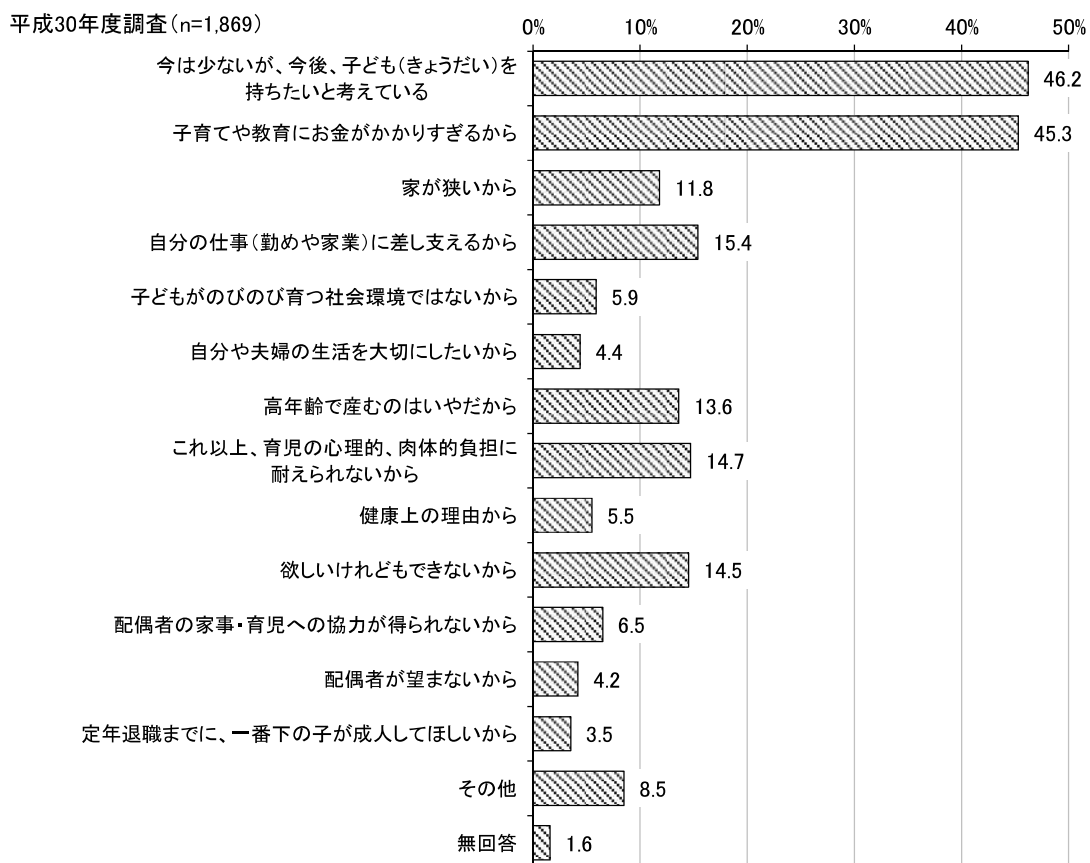
問6で「理想のお子さんの人数」より「実際のお子さんの人数」が少ない方

問6-1 少ない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

理想より現実の子どもの人数が少ない理由についてみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が54.0%と最も高く、次いで「今は少ないが、今後、子ども(きょうだい)を持ちたいと考えている」が35.0%、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」が24.4%となっています。



【参考】

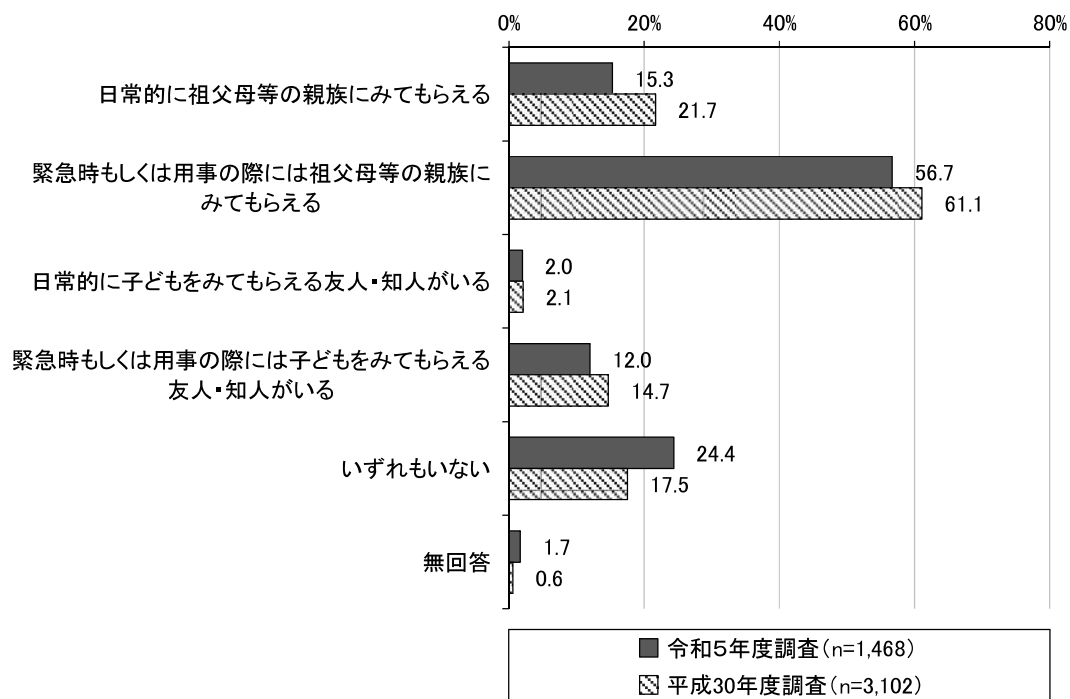


3 子どもの育ちをめぐる環境について

問7 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人はいるかについてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が56.7%と最も高く、次いで「いずれもいない」が24.4%、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が15.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



■世帯別

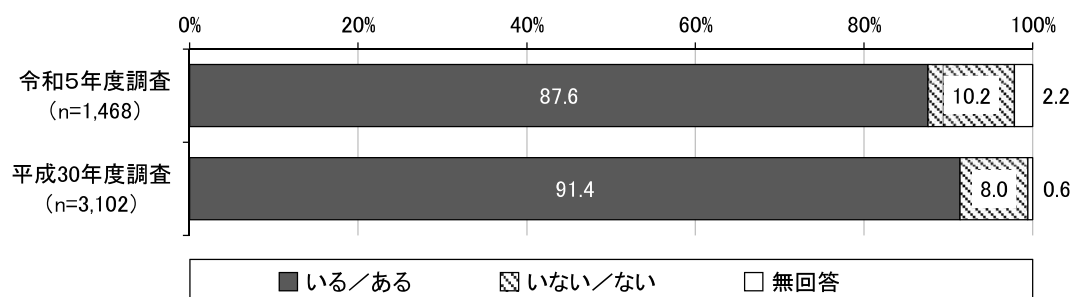
世帯別にみると、ひとり親世帯、2世代世帯では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、3世代世帯では「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高くなっています。また、ひとり親世帯、2世代世帯では「いずれもいない」が2割を超えています。

単位: %		日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には友人・知人がいる	いずれもいない	無回答
全体 (n=1,468)		15.3	56.7	2.0	12.0	24.4	1.7
世帯別	ひとり親世帯 (n=101)	18.8	51.5	2.0	13.9	21.8	4.0
	2世代世帯 (n=1,282)	12.2	58.2	2.1	12.2	25.7	1.6
	3世代世帯 (n=64)	64.1	39.1	0.0	9.4	7.8	0.0

問8 お子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はありますか。（1つに○）

子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はあるかについてみると、「いる／ある」が 87.6%と、「いない／ない」の 10.2%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



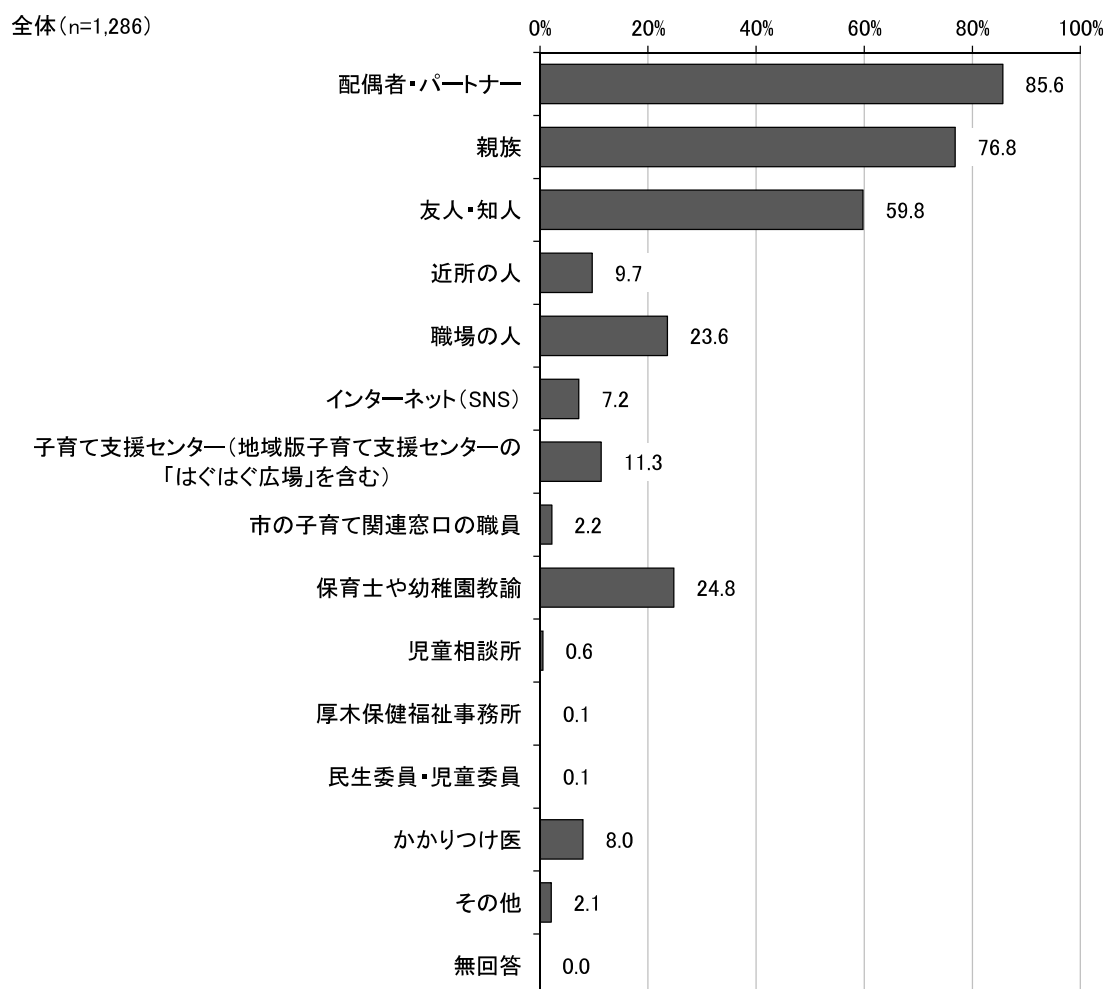
※平成 30 年度調査では「ある」「ない」

問8で「いる／ある」と回答した方

問8-1 お子さんの子育てに関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

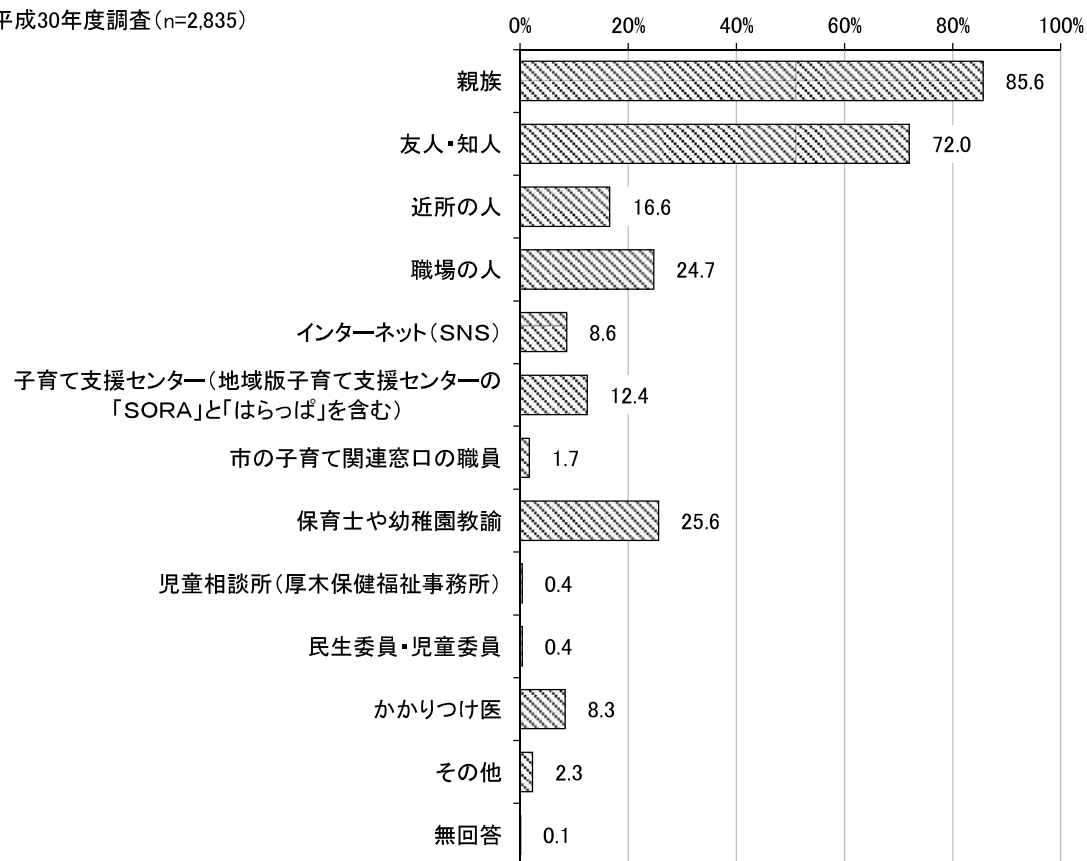
（あてはまるものすべてに○）

子育てに関して、気軽に相談できる先についてみると、「配偶者・パートナー」が 85.6%と最も高く、次いで「親族」が 76.8%、「友人・知人」が 59.8%となっています。



【参考】

平成30年度調査 (n=2,835)

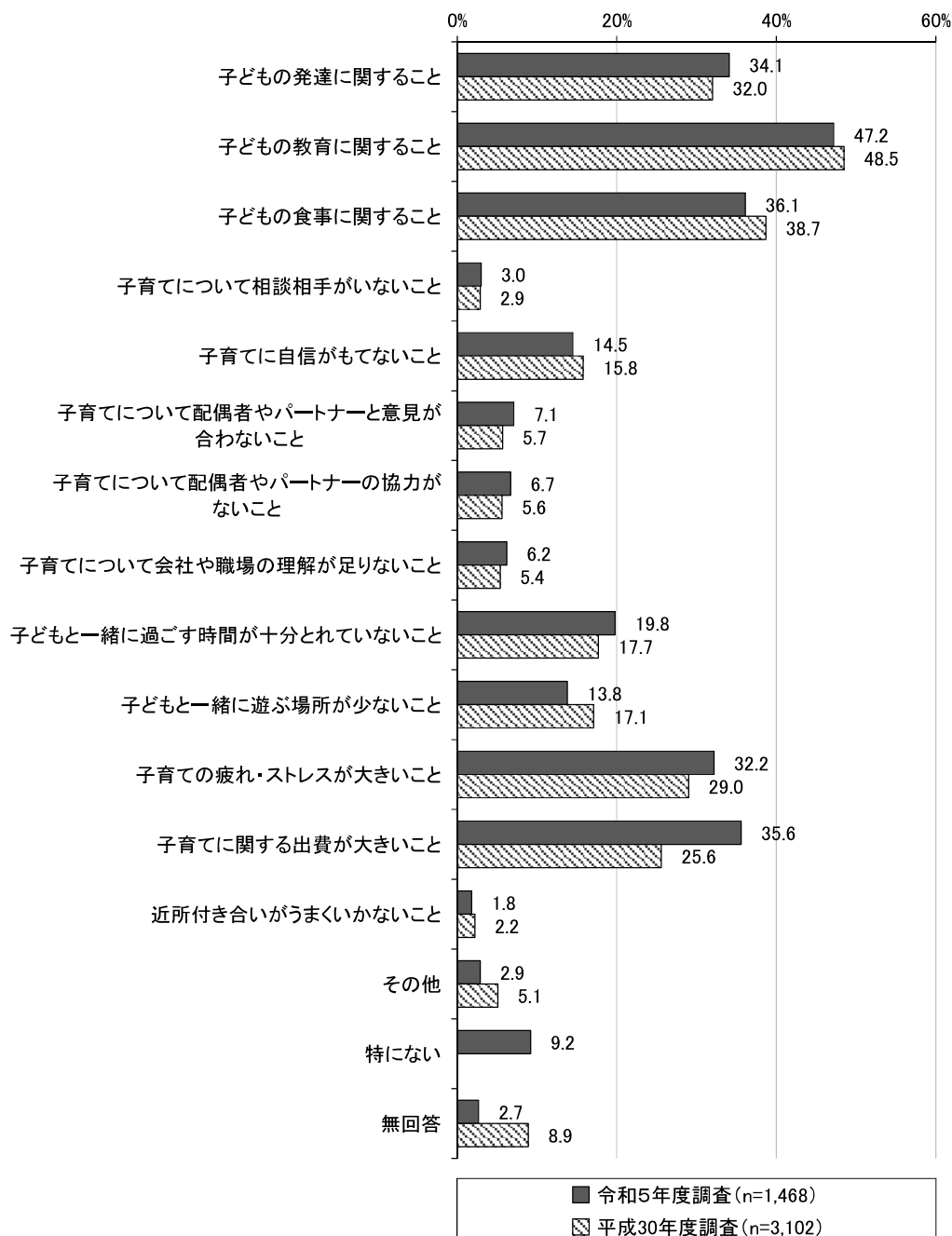


問9 子育てに関して、日頃悩んでいること、また気になることはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して、日頃悩んでいることや気になることについてみると、「子どもの教育に関すること」が47.2%と最も高く、次いで「子どもの食事に関すること」が36.1%、「子育てに関する出費が大きいこと」が35.6%となっています。

前回調査と比較すると、「子育てに関する出費が大きいこと」が10ポイント増加しています。



※「特になし」は、令和5年度調査のみの選択肢

■年齢別

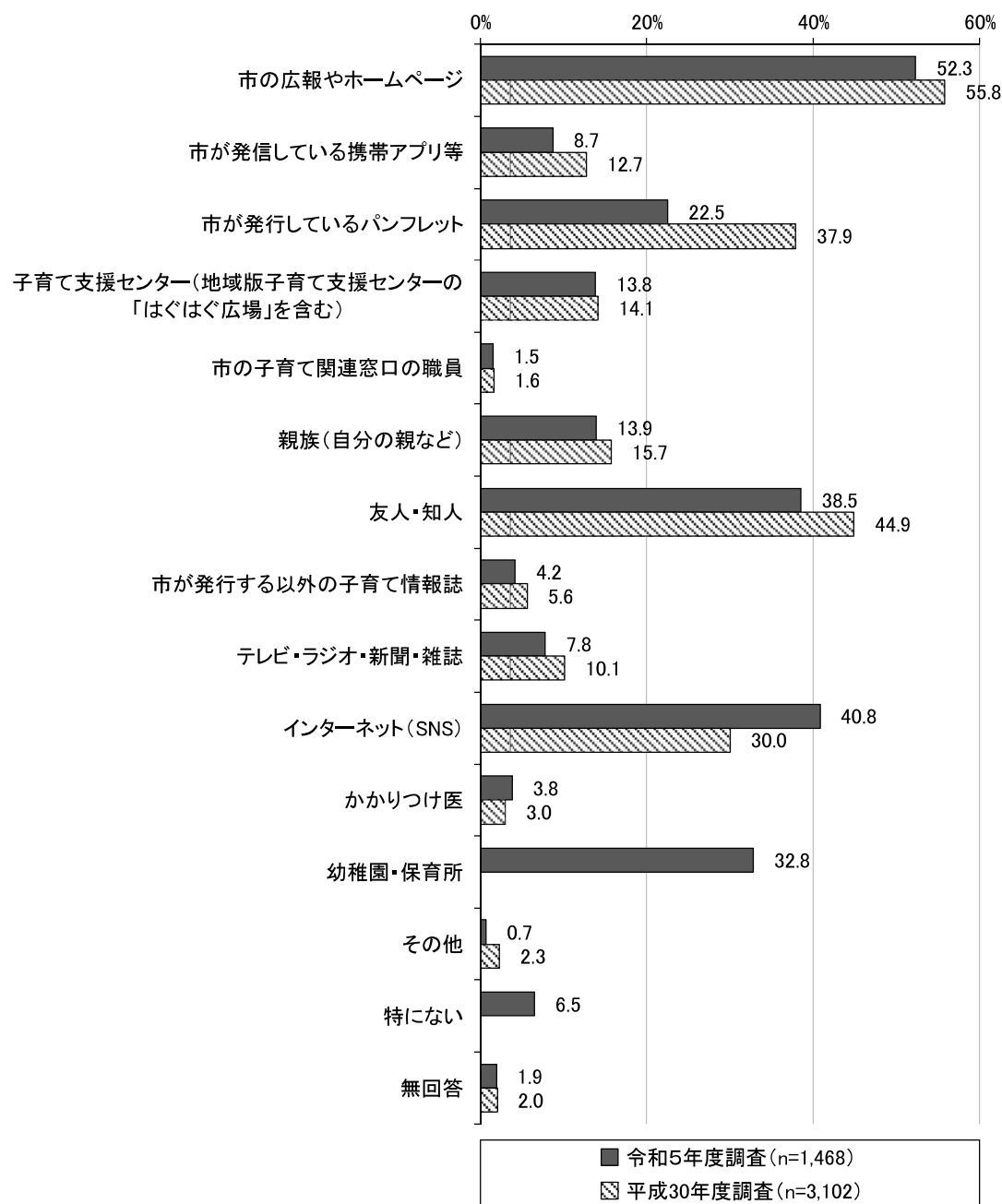
年齢別にみると、0歳(令和5年4月～)では「子どもの発達に関すること」、0歳(令和4年4月～令和5年3月)以上では「子どもの教育に関すること」が最も高くなっています。

単位：％		子どもの発達に関すること	子どもの教育に関すること	子どもの食事に関すること	子育てについて相談相手がないこと	子育てに自信がもてないこと	トナーと意見が合わないこと	トナーの協力が合わないこと	子育てについて会社や職場の理解が足りないこと
全体(n=1,468)		34.1	47.2	36.1	3.0	14.5	7.1	6.7	6.2
年齢別	0歳(令和5年4月～)(n=154)	44.2	36.4	40.3	2.6	11.7	4.5	4.5	7.1
	0歳(令和4年4月～令和5年3月)(n=94)	46.8	50.0	46.8	3.2	9.6	5.3	7.4	4.3
	1歳(n=233)	37.3	45.9	42.5	3.0	12.4	4.3	6.4	4.7
	2歳(n=224)	28.1	46.0	35.3	4.0	20.1	6.3	6.7	5.4
	3歳(n=252)	31.3	45.2	35.7	4.0	16.3	9.9	7.1	7.5
	4歳(n=259)	34.0	51.7	32.0	2.3	14.7	10.0	7.3	7.3
	5歳(n=240)	29.2	53.3	29.2	2.1	13.3	7.1	7.1	6.3
単位：％		子どもと一緒にごす時間	子どもと一緒に遊ぶ場所が少ないこと	子育ての疲れ・ストレスが大きいこと	子育てに関する出費が大きいこと	近所付き合いがうまくいかないこと	その他	特にない	無回答
全体(n=1,468)		19.8	13.8	32.2	35.6	1.8	2.9	9.2	2.7
年齢別	0歳(令和5年4月～)(n=154)	7.8	15.6	24.7	39.6	0.6	4.5	9.7	3.9
	0歳(令和4年4月～令和5年3月)(n=94)	11.7	14.9	29.8	48.9	1.1	5.3	7.4	2.1
	1歳(n=233)	15.0	15.0	32.2	32.2	1.3	2.1	7.3	3.0
	2歳(n=224)	26.3	14.7	40.6	37.9	2.2	2.2	5.8	2.7
	3歳(n=252)	17.9	12.3	32.5	34.5	2.4	3.2	9.1	3.6
	4歳(n=259)	28.6	13.9	33.2	31.3	1.9	1.9	12.4	2.3
	5歳(n=240)	22.1	10.8	29.2	35.0	2.5	2.9	10.8	1.3

問 10 子育て支援に関する情報を主にどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

子育て支援に関する情報の入手先についてみると、「市の広報やホームページ」が 52.3%と最も高く、次いで「インターネット(SNS)」が 40.8%、「友人・知人」が 38.5%となっています。

前回調査と比較すると、「インターネット(SNS)」が 10 ポイント以上増加、「市が発行しているパンフレット」が 15 ポイント以上減少しています。



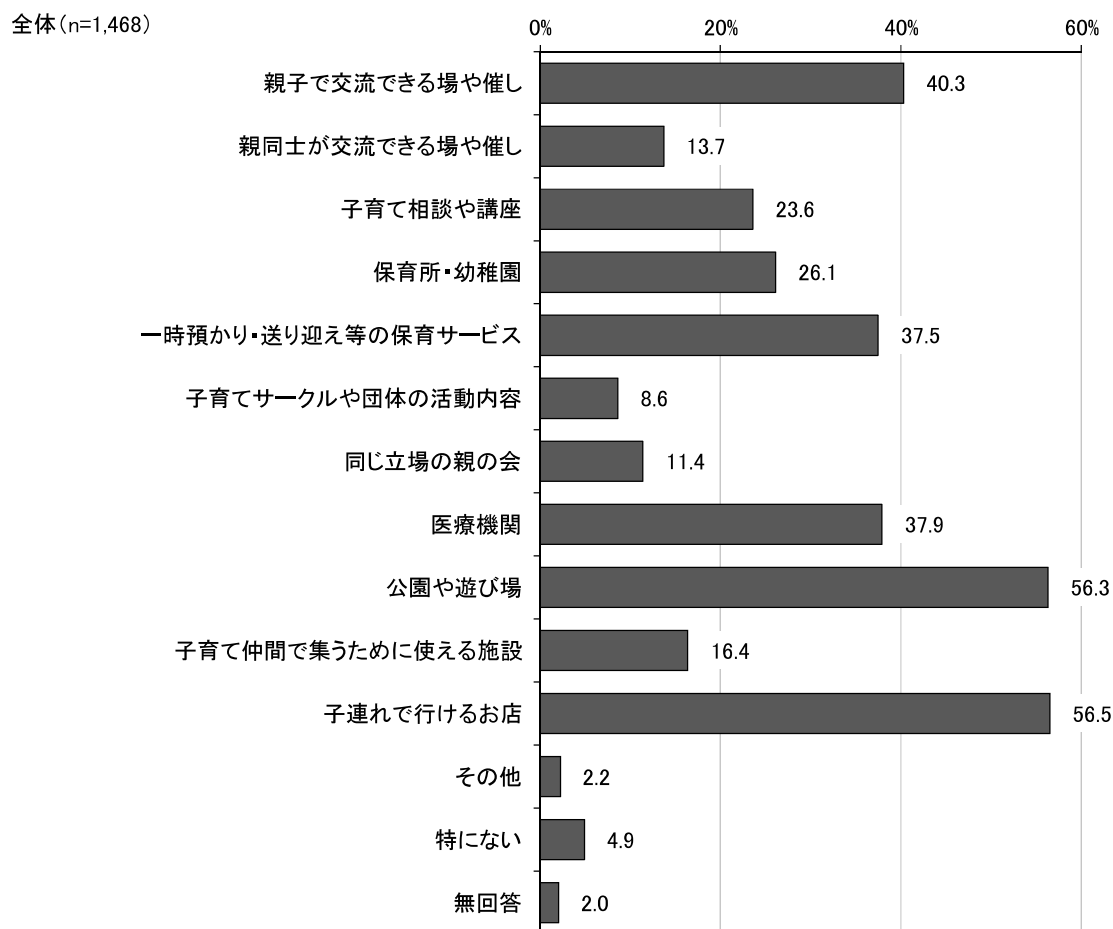
※「幼稚園・保育所」「特になし」は、令和5年度調査のみの選択肢

※「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」は、平成 30 年度調査では「テレビ・ラジオ・新聞」

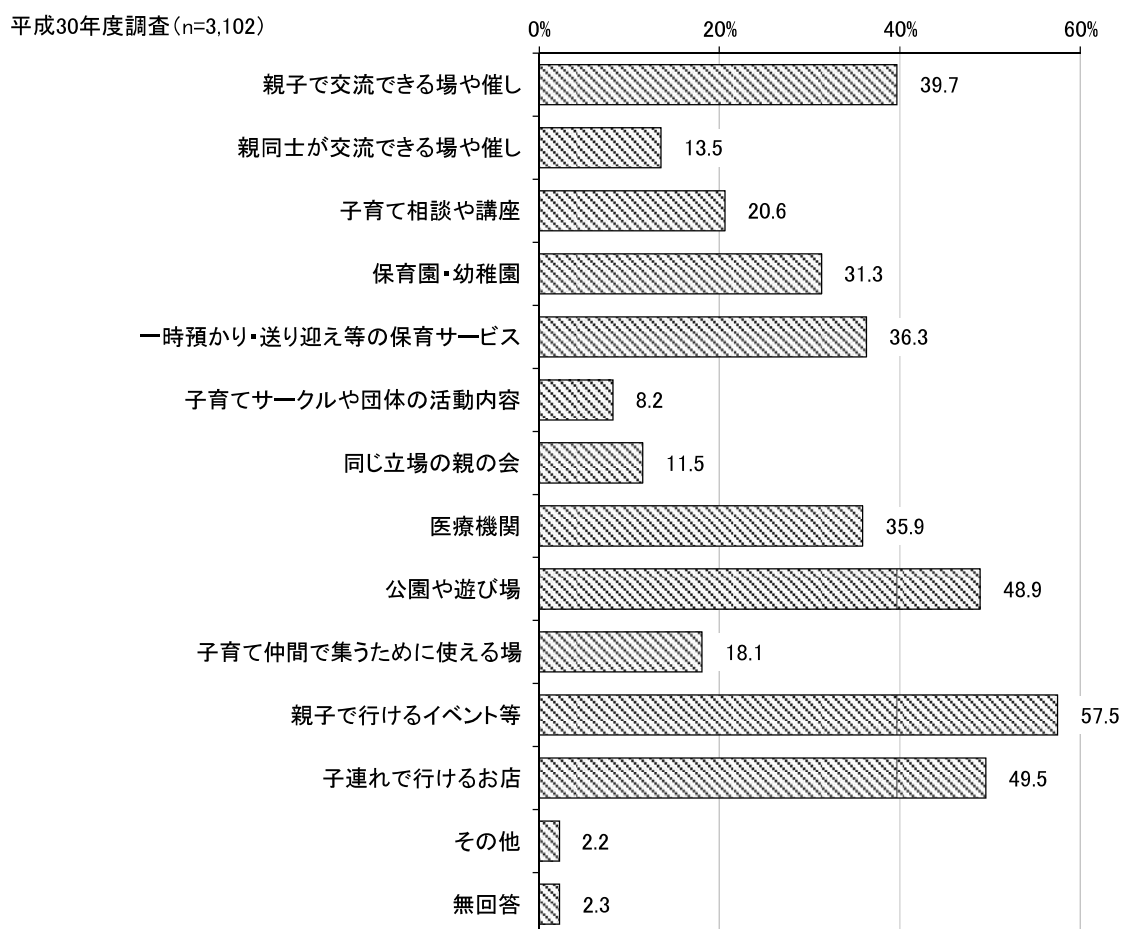
※「子育て支援センター(地域版子育て支援センターの「はぐはぐ広場」を含む)」は、平成 30 年度調査では「子育て支援センター(地域版子育て支援センターの「SORA」と「はらっぱ」を含む)」

問 11 子育てに関してどのような情報を知りたいですか。(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して知りたい情報についてみると、「子連れで行けるお店」が56.5%と最も高く、次いで「公園や遊び場」が56.3%、「親子で交流できる場や催し」が40.3%となっています。



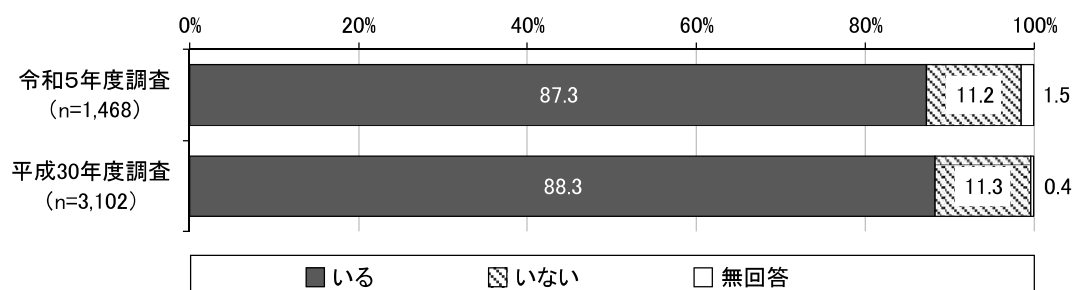
【参考】



問 12 お子さんのかかりつけの（病気や発育について相談できる）医者がいますか。（1つに○）

子どものかかりつけの（病気や発育について相談できる）医者がいるかについてみると、「いる」が87.3%と、「いない」の11.2%を上回っています。

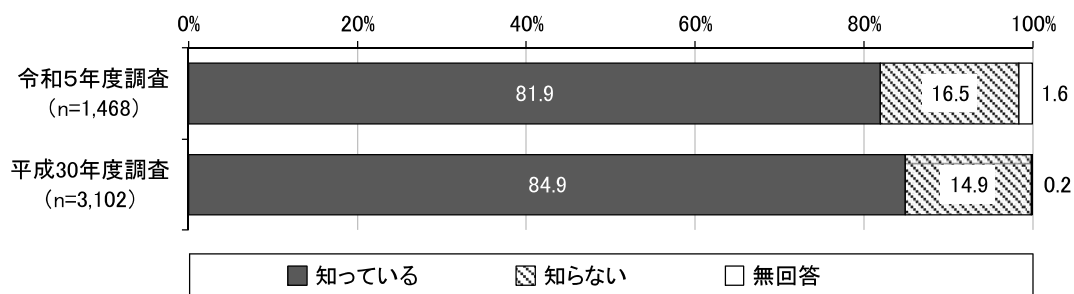
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 13 休日や夜間にお子さん（対象のお子さんに限りません）が病気になったときに受診できる医療機関を知っていますか。（1つに○）

休日や夜間に子どもが病気になったときに受診できる医療機関を知っているかについてみると、「知っている」が81.9%と、「知らない」の16.5%を上回っています。

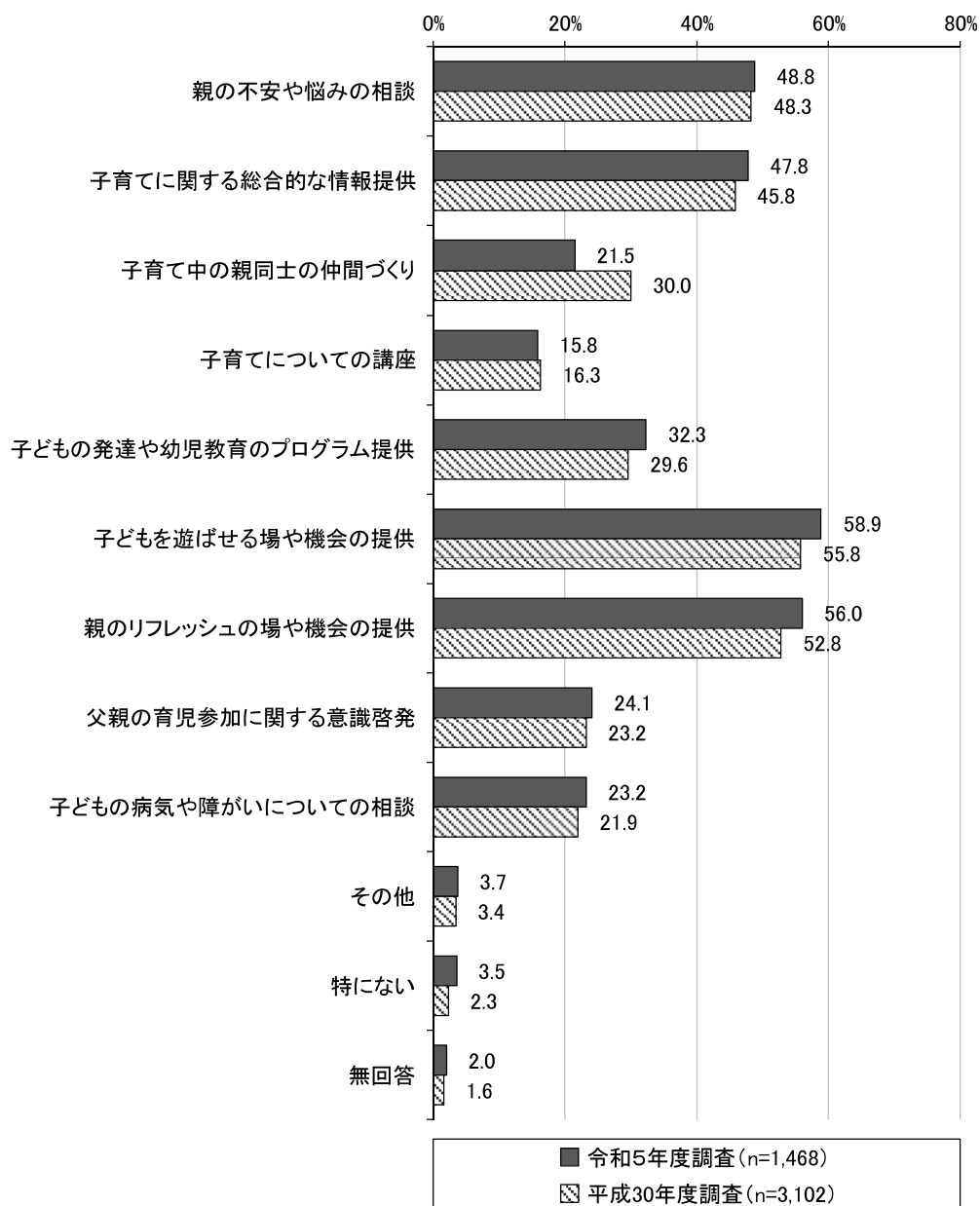
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 14 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートはどのようなものだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要だと思うサポートについてみると、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が 58.9%と最も高く、次いで「親のリフレッシュの場や機会の提供」が 56.0%、「親の不安や悩みの相談」が 48.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



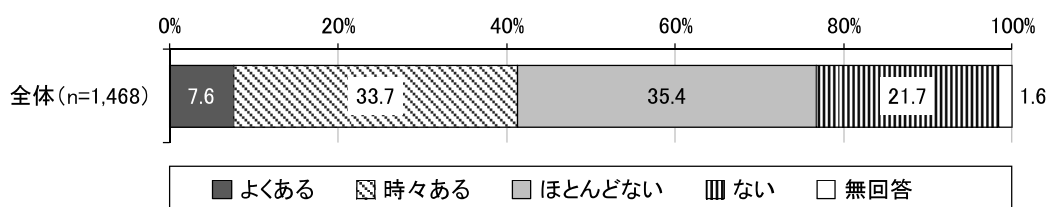
■年齢別

年齢別にみると、2歳、4歳では「親のリフレッシュの場や機会の提供」、その他の年齢では「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が最も高くなっています。

単位：％		親の不安や悩みの相談	子育てに関する総合的な情報提供	子育て中の親同士の仲間づくり	子育てについての講座	子どもの発達や幼児教育のプログラム提供	子どもを遊ばせる場や機会の提供	親のリフレッシュの場や機会の提供	父親の育児参加に関する意識啓発	子どもの病気や障がいについての相談	その他	特にない	無回答
全体(n=1,468)		48.8	47.8	21.5	15.8	32.3	58.9	56.0	24.1	23.2	3.7	3.5	2.0
年齢別	0歳(令和5年4月～)(n=154)	55.8	57.8	24.0	22.1	35.7	59.7	56.5	30.5	27.9	5.2	1.9	3.9
	0歳(令和4年4月～令和5年3月)(n=94)	55.3	54.3	24.5	28.7	36.2	72.3	55.3	35.1	21.3	5.3	2.1	3.2
	1歳(n=233)	53.2	53.2	20.2	16.7	34.3	58.8	56.2	25.8	23.6	3.9	3.0	2.6
	2歳(n=224)	50.9	41.5	21.9	12.5	35.3	58.0	62.5	21.9	23.7	3.6	4.0	1.3
	3歳(n=252)	43.7	42.1	21.8	13.9	27.8	57.5	57.1	21.4	19.4	2.8	4.0	1.6
	4歳(n=259)	47.5	45.9	19.7	13.5	29.7	53.7	55.6	25.9	22.8	3.9	4.6	1.5
	5歳(n=240)	42.9	47.1	21.7	14.2	30.4	59.6	49.6	17.5	24.2	2.9	3.8	1.3

問 15 子育て中に孤独・孤立を感じることはありますか。(1つに○)

子育て中に孤独・孤立を感じることはあるかについてみると、「ほとんどない」が 35.4%と最も高く、次いで「時々ある」が 33.7%、「ない」が 21.7%となっています。



■世帯別

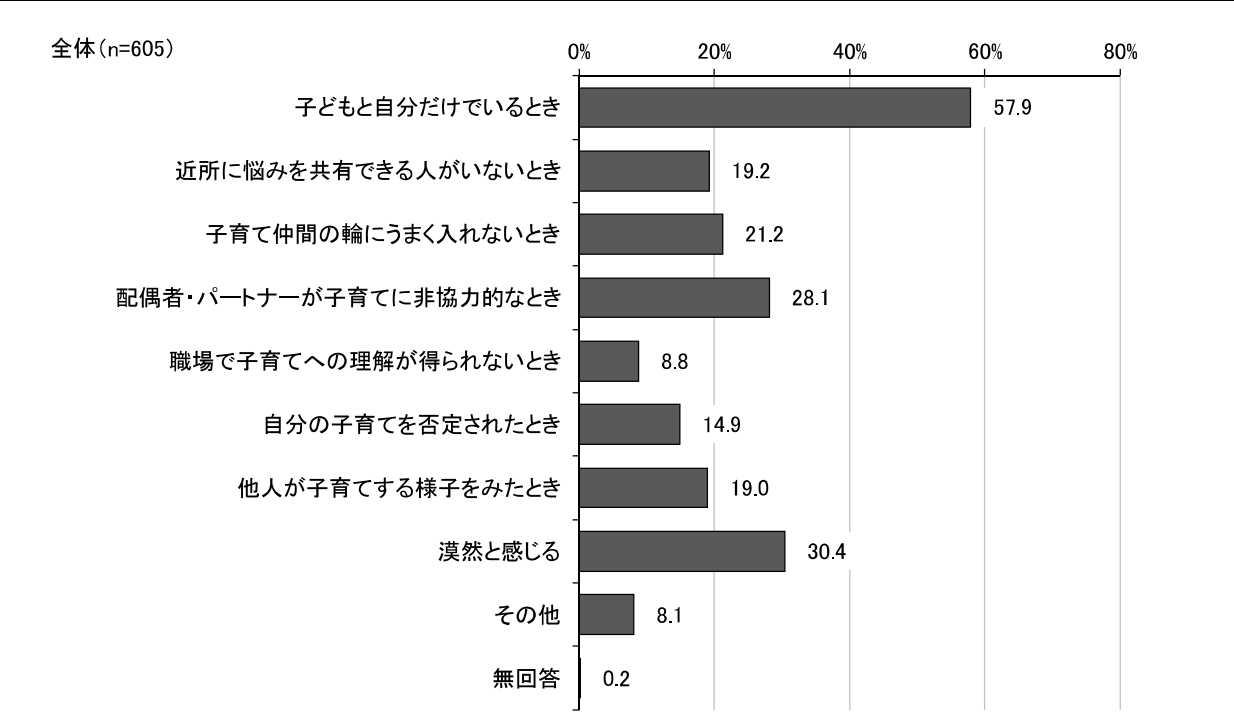
世帯別にみると、ひとり親世帯では「時々ある」「ほとんどない」、2世代世帯では「ほとんどない」、3世代世帯では「ない」が最も高くなっています。また、ひとり親世帯、2世代世帯では『ある（「よくある」と「時々ある」の合計）』が4割を超えています。

単位：%		よくある	時々ある	ほとんどない	ない	無回答	『ある』	『ない』
全体(n=1,468)		7.6	33.7	35.4	21.7	1.6	41.3	57.1
世帯別	ひとり親世帯(n=101)	8.9	31.7	31.7	22.8	5.0	40.6	54.5
	2世代世帯(n=1,282)	7.6	34.0	36.2	20.7	1.4	41.6	56.9
	3世代世帯(n=64)	3.1	28.1	29.7	39.1	0.0	31.2	68.8

問 15 で「よくある」または「時々ある」と回答した方

問 15- 1 どのようなときに孤独・孤立を感じますか。（あてはまるものすべてに○）

孤独・孤立を感じるときについてみると、「子どもと自分だけでいるとき」が 57.9%と最も高く、次いで「漠然と感じる」が 30.4%、「配偶者・パートナーが子育てに非協力的なとき」が 28.1%となっています。



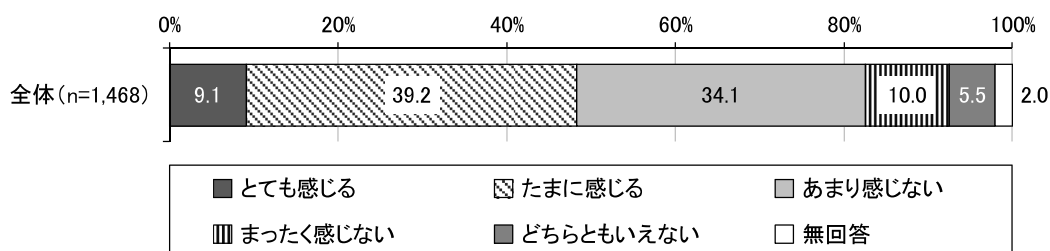
■ 年齢別

年齢別にみると、いずれも「子どもと自分だけでいるとき」が最も高くなっています。

単位：%		子どもと自分だけでいるとき	近所に悩みを共有できる人がいないとき	子育て仲間の輪にうまく入れないとき	配偶者・パートナーが子育てに非協力的なとき	職場で子育てへの理解が得られないとき	自分の子育てを否定されたとき	他人が子育てする様子をみたとき	漠然と感じる	その他	無回答
全体 (n=605)		57.9	19.2	21.2	28.1	8.8	14.9	19.0	30.4	8.1	0.2
年齢別	0歳 (令和5年4月～) (n=55)	61.8	29.1	20.0	14.5	9.1	12.7	10.9	21.8	10.9	0.0
	0歳 (令和4年4月～令和5年3月) (n=43)	69.8	9.3	27.9	16.3	7.0	11.6	16.3	30.2	7.0	0.0
	1歳 (n=107)	63.6	15.9	20.6	26.2	10.3	15.0	18.7	30.8	8.4	0.0
	2歳 (n=102)	60.8	22.5	18.6	32.4	5.9	12.7	19.6	31.4	4.9	1.0
	3歳 (n=106)	54.7	16.0	14.2	35.8	9.4	15.1	21.7	26.4	10.4	0.0
	4歳 (n=107)	57.0	22.4	23.4	31.8	11.2	13.1	19.6	31.8	7.5	0.0
	5歳 (n=82)	41.5	17.1	29.3	26.8	7.3	22.0	20.7	39.0	8.5	0.0

問 16 あなたは、海老名市で子育てをしていて、地域で支えられていると感じますか。(1つに○)

海老名市で子育てをしていて、地域で支えられていると感じるかについてみると、「たまに感じる」が39.2%と最も高く、次いで「あまり感じない」が34.1%、「まったく感じない」が10.0%となっています。



■ 地域別

地域別にみると、柏ヶ谷地域では「たまに感じる」「あまり感じない」、上郷・下今泉地域、杉久保地域、本郷地域では「あまり感じない」、その他の地域では「たまに感じる」が最も高くなっています。また、国分地域、大谷地域、社家地域では『感じる(「とても感じる」と「たまに感じる」の合計)』が5割を超えています。

単位: %		とても感じる	たまに感じる	あまり感じない	まったく感じない	どちらともいえない	無回答	『感じる』	『感じない』
全体 (n=1,468)		9.1	39.2	34.1	10.0	5.5	2.0	48.3	44.1
地域別	柏ヶ谷地域 (n=155)	10.3	37.4	37.4	5.8	7.7	1.3	47.7	43.2
	上今泉地域 (n=99)	8.1	40.4	34.3	10.1	6.1	1.0	48.5	44.4
	上郷・下今泉地域 (n=302)	6.6	36.1	37.4	13.2	4.0	2.6	42.7	50.6
	国分地域 (n=254)	12.2	41.7	30.3	8.7	4.7	2.4	53.9	39.0
	海西地域 (n=200)	9.5	38.0	35.5	10.0	5.0	2.0	47.5	45.5
	大谷地域 (n=174)	11.5	45.4	29.3	9.2	4.0	0.6	56.9	38.5
	杉久保地域 (n=75)	5.3	40.0	41.3	8.0	5.3	0.0	45.3	49.3
	本郷地域 (n=18)	5.6	33.3	38.9	16.7	5.6	0.0	38.9	55.6
	社家地域 (n=73)	11.0	42.5	27.4	11.0	5.5	2.7	53.5	38.4
	門沢橋地域 (n=58)	5.2	41.4	36.2	8.6	6.9	1.7	46.6	44.8

4 保護者の就労状況について

問 17 お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）を伺います。

（①母親・②父親それぞれ1つに○）

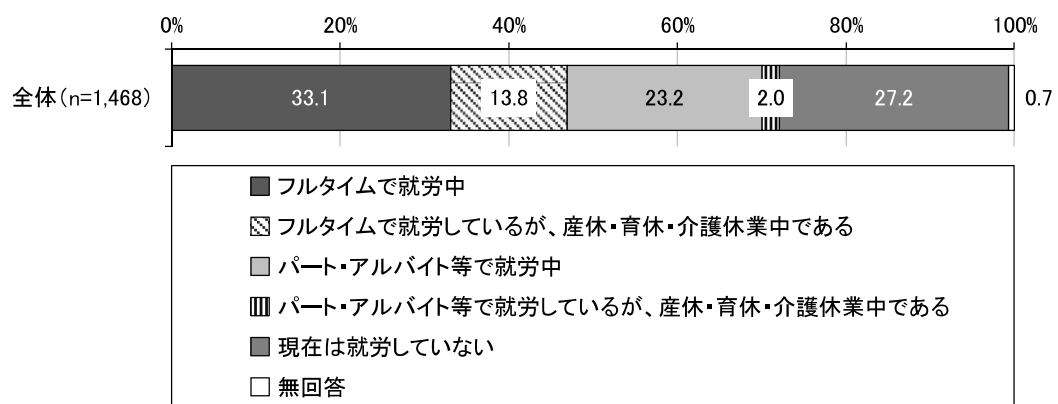
※ひとり親家庭の場合は母親または父親のみお答えください

※フルタイム…1週5日程度・1日8時間程度の就労、パート・アルバイト等…フルタイム以外の就労

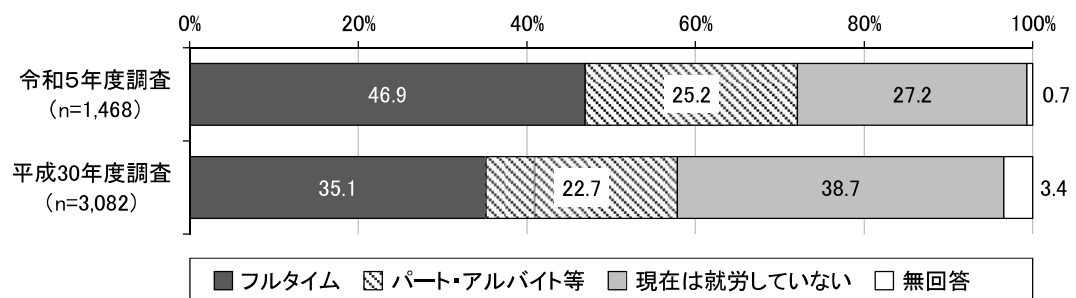
①母親

母親の現在の就労状況についてみると、「フルタイムで就労中」が 33.1%と最も高く、次いで「現在は就労していない」が 27.2%、「パート・アルバイト等で就労中」が 23.2%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイム」が 10 ポイント以上増加、「現在は就労していない」が 10 ポイント以上減少しています。



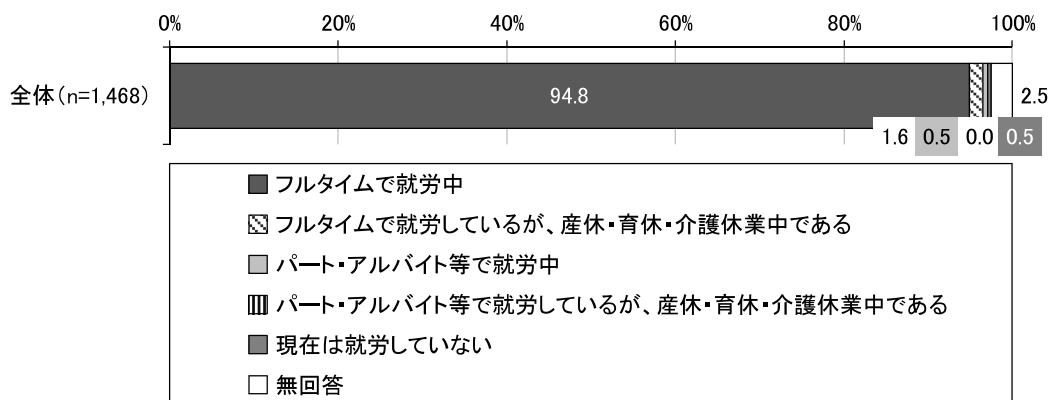
【参考】



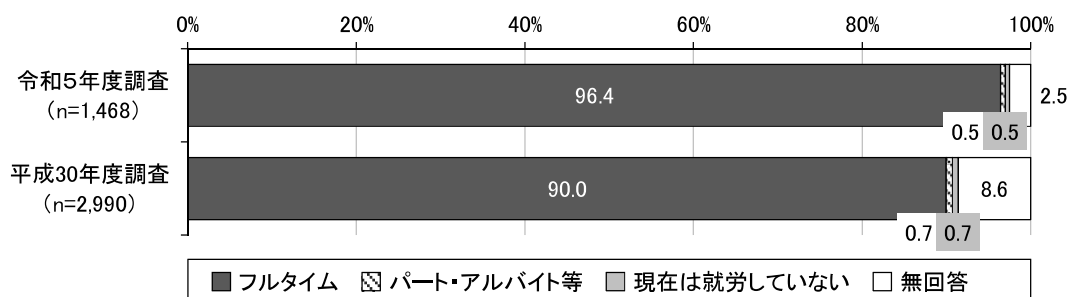
②父親

父親の現在の就労状況についてみると、「フルタイムで就労中」が 94.8%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」が 1.6%、「パート・アルバイト等で就労中」「現在は就労していない」が 0.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



【参考】



問 17 の①母親または②父親で「現在は就労していない」以外を選択した方（就労している方）

問 17- 1 1 週あたりの「就労日数」、1 日あたりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、平均的なパターンについてお答えください。（①母親・②父親それぞれ数字で記入）

※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

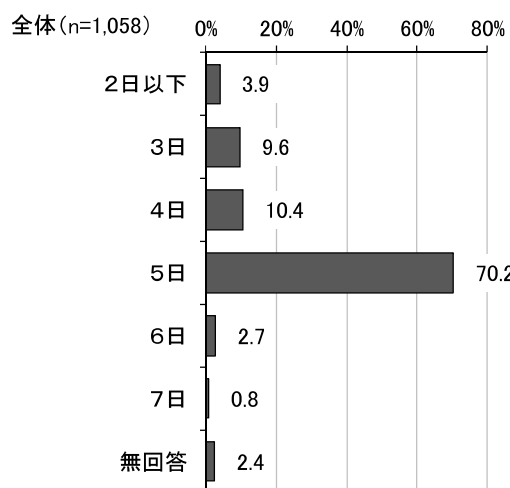
①母親

1 週あたりの就労日数／1 日あたりの就労時間（残業時間を含む）

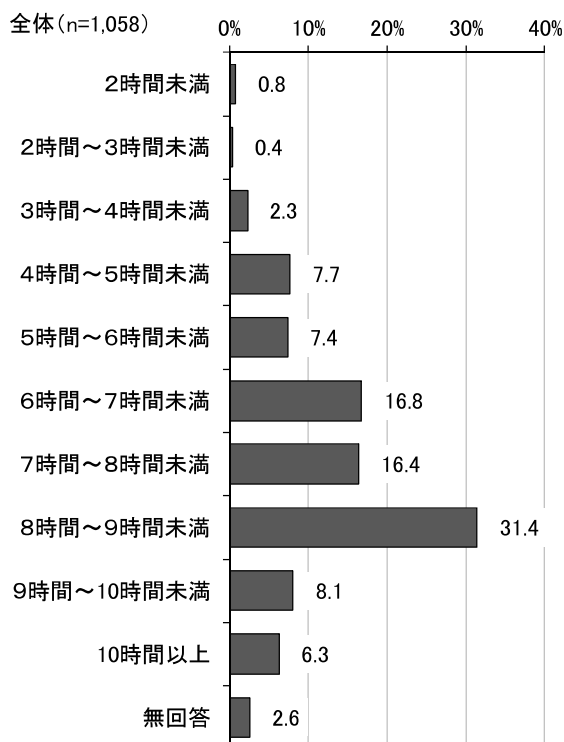
母親の1 週あたりの就労日数についてみると、「5 日」が 70.2%と最も高く、次いで「4 日」が 10.4%、「3 日」が 9.6%となっています。

母親の1 日あたりの就労時間（残業時間を含む）についてみると、「8 時間～9 時間未満」が 31.4%と最も高く、次いで「6 時間～7 時間未満」が 16.8%、「7 時間～8 時間未満」が 16.4%となっています。

■ 1 週あたりの就労日数



■ 1 日あたりの就労時間（残業時間を含む）



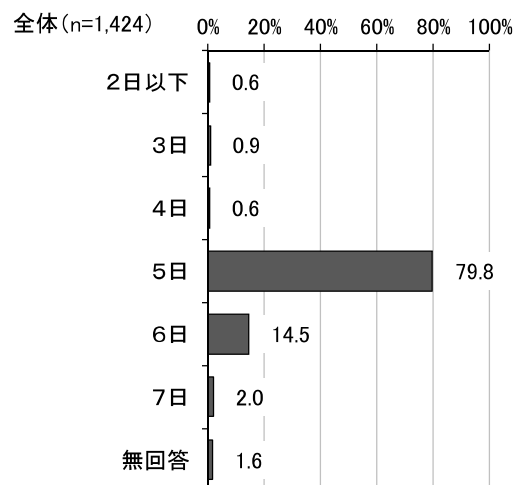
②父親

1週あたりの就労日数／1日あたりの就労時間（残業時間を含む）

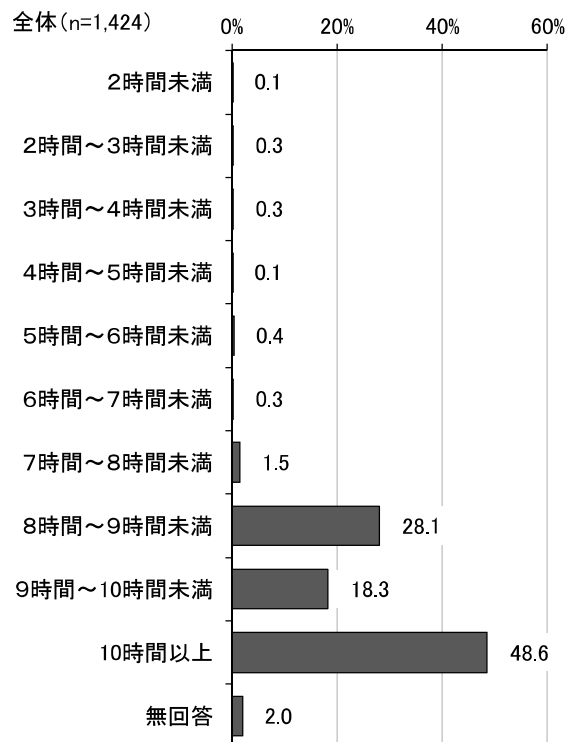
父親の1週あたりの就労日数についてみると、「5日」が79.8%と最も高く、次いで「6日」が14.5%、「7日」が2.0%となっています。

父親の1日あたりの就労時間（残業時間を含む）についてみると、「10時間以上」が48.6%と最も高く、次いで「8時間～9時間未満」が28.1%、「9時間～10時間未満」が18.3%となっています。

■ 1週あたりの就労日数



■ 1日あたりの就労時間（残業時間を含む）



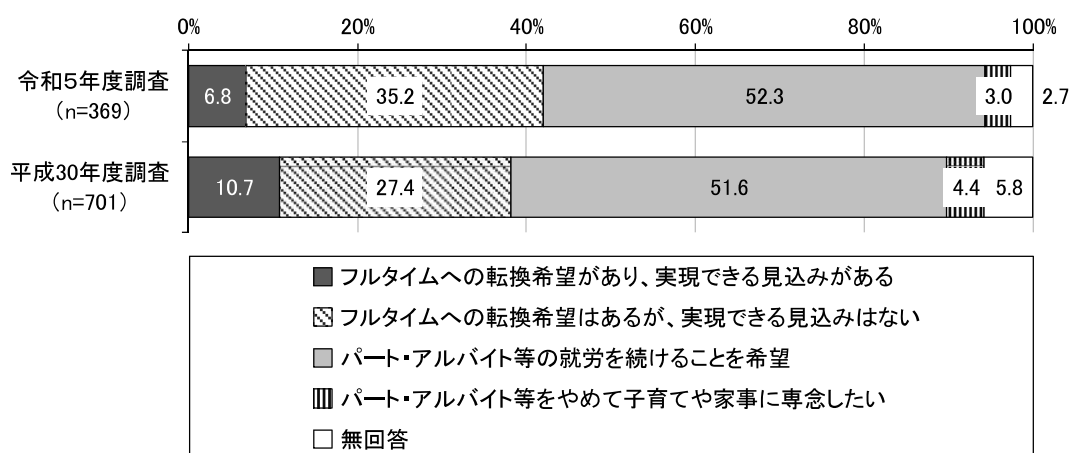
問 17 の①母親または②父親で「パート・アルバイト等で就労中」または「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」と回答した方（パート・アルバイト等で就労している方）

問 17-2 フルタイムへの転換希望はありますか。（①母親・②父親それぞれ1つに○）

①母親

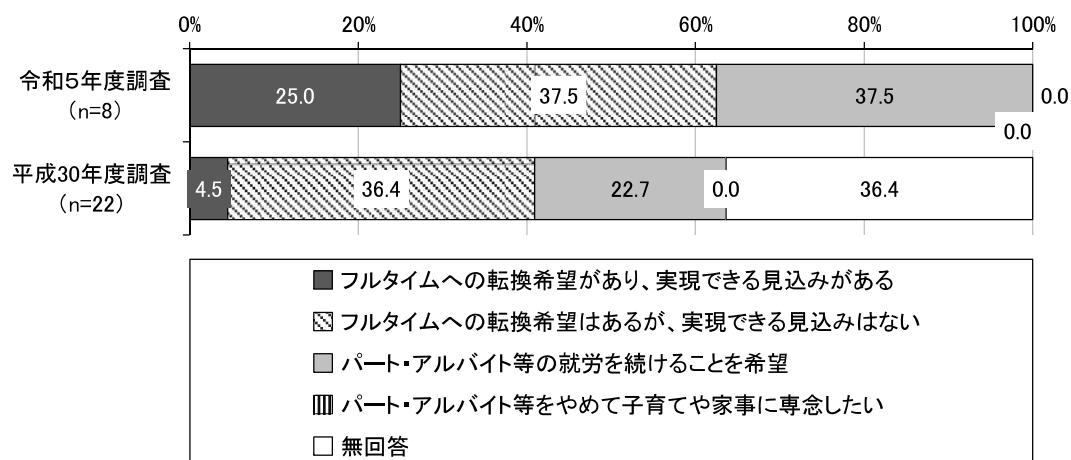
パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望についてみると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 52.3%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が35.2%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が6.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②父親

パート・アルバイト等で就労している父親のフルタイムへの転換希望についてみると、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が37.5%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が 25.0%となっています。



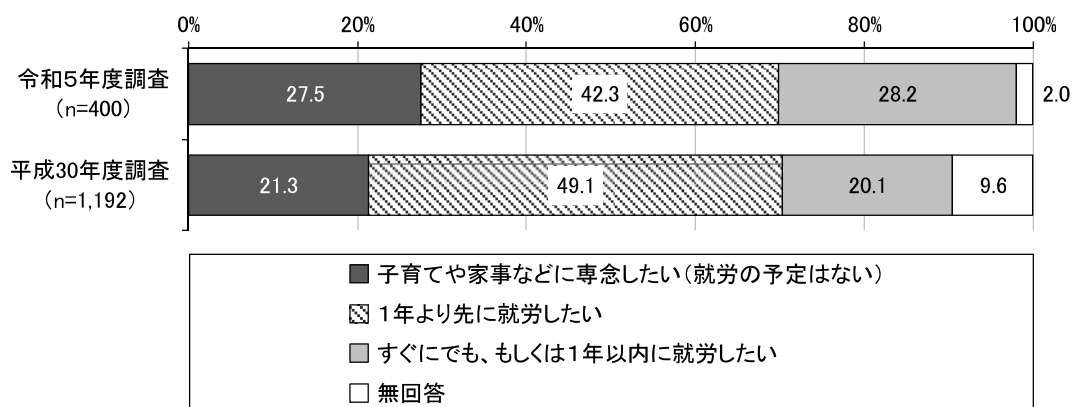
問 17 の①母親または②父親で「現在は就労していない」と回答した方

問 17- 3 就労したいという希望はありますか。(①母親・②父親それぞれ1つに○)

①母親

現在就労していない母親の就労希望についてみると、「1年より先に就労したい」が42.3%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が28.2%、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が27.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



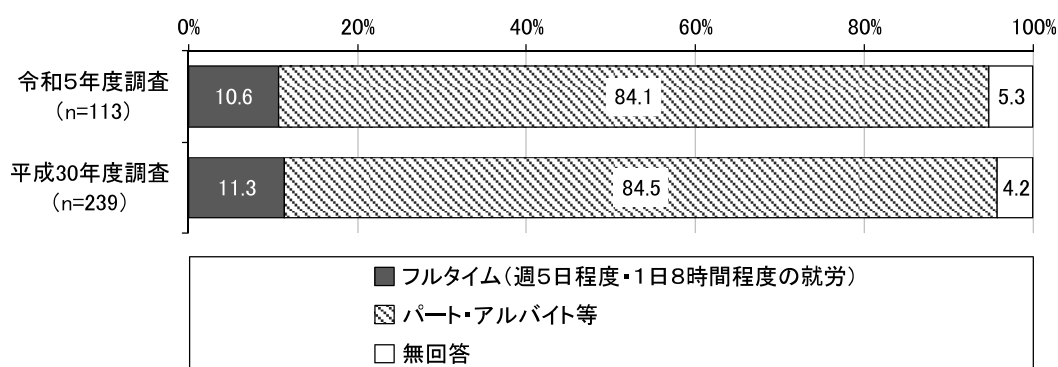
※「1年より先に就労したい」は、平成30年度調査では「1年より先、一番下の子どもが[]歳になったところに就労したい」

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した方

希望する就労形態(母親)

母親の希望する就労形態についてみると、「パート・アルバイト等」が84.1%と、「フルタイム」の10.6%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



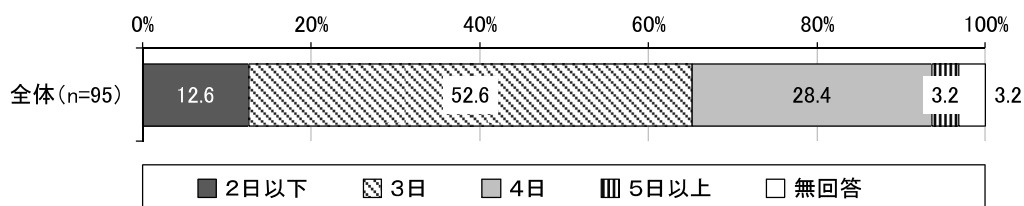
希望する就労形態で「パート・アルバイト等」と回答した方

1週あたりの就労希望日数／1日あたりの就労希望時間（母親）

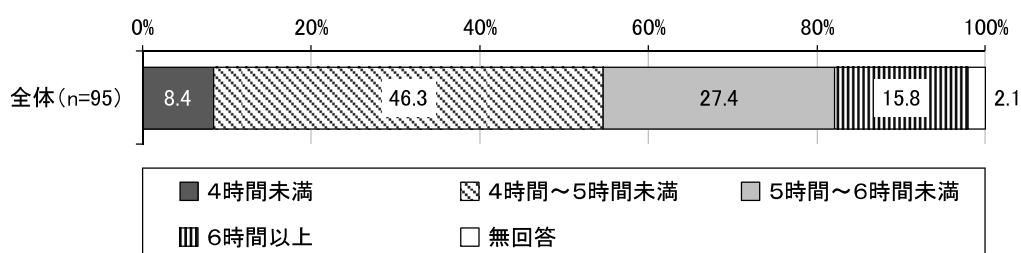
母親の1週あたりの就労希望日数についてみると、「3日」が 52.6 %と最も高く、次いで「4日」が 28.4%、「2日以下」が 12.6%となっています。

母親の1日あたりの就労希望時間についてみると、「4時間～5時間未満」が 46.3%と最も高く、次いで「5時間～6時間未満」が 27.4%、「6時間以上」が 15.8%となっています。

■ 1週あたりの就労希望日数

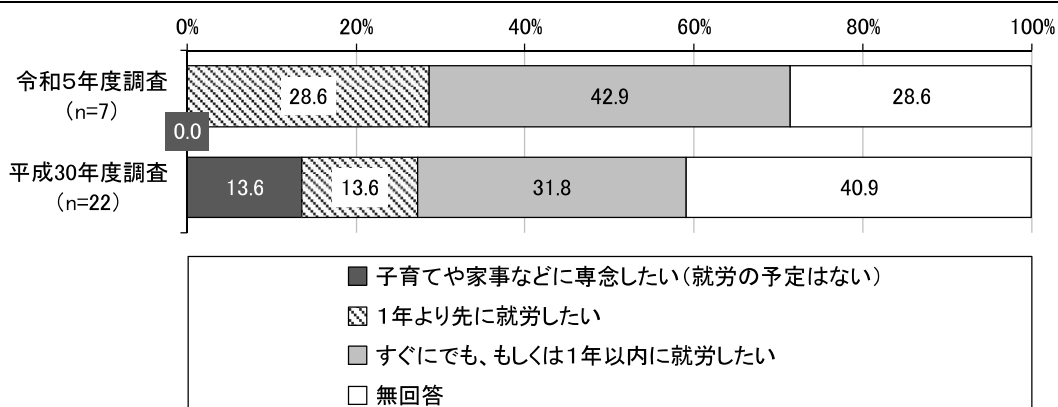


■ 1日あたりの就労希望時間



②父親

現在就労していない父親の就労希望についてみると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が42.9%と最も高く、次いで「1年より先に就労したい」が28.6%となっています。

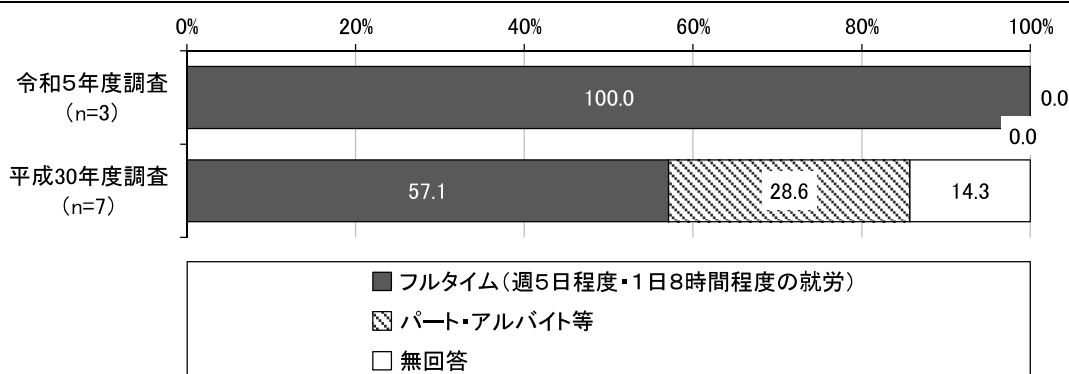


※「1年より先に就労したい」は、平成30年度調査では「1年より先、一番下の子どもが[]歳になったころに就労したい」

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した方

希望する就労形態（父親）

父親の希望する就労形態についてみると、「フルタイム」が100.0%となっています。



希望する就労形態で「パート・アルバイト等」と回答した方

1週あたりの就労希望日数／1日あたりの就労希望時間（父親）

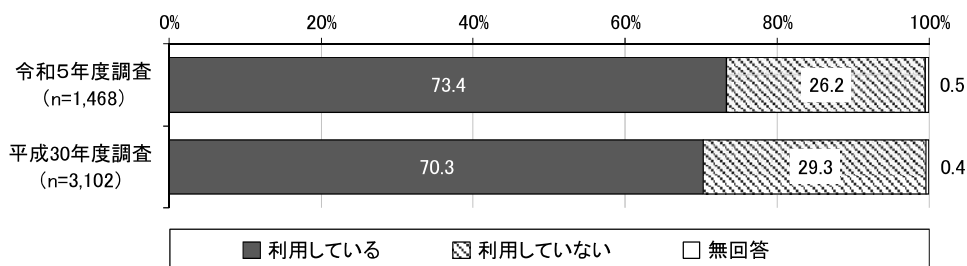
n=0 のため記載なし

5 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問 18 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。（1つに○）

現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用しているかについてみると、「利用している」が73.4%と、「利用していない」の26.2%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

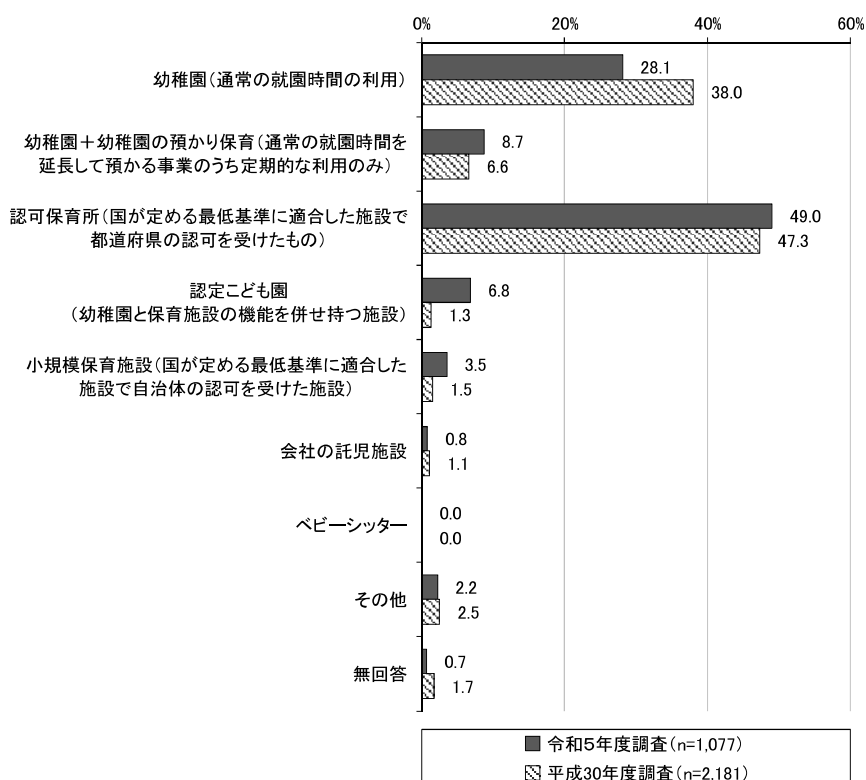


問 18 で「利用している」と回答した方

問 18- 1 お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（1つに○）

平日に利用している教育・保育の事業についてみると、「認可保育所(国が定める最低基準に適合した施設で都道府県の認可を受けたもの)」が49.0%と最も高く、次いで「幼稚園(通常の就園時間の利用)」が28.1%、「幼稚園+幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)」が8.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 18 で「利用している」と回答した方

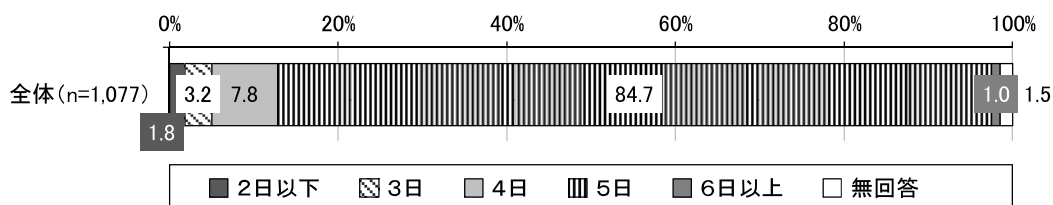
問 18-2 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、(1) 現在どのくらい利用していますか。(2) 希望としてはどのくらい利用したいですか。(1つに○)(数字で記入)

※複数の事業を利用されている場合は、合計の数字でお答えください。

(1) 現在

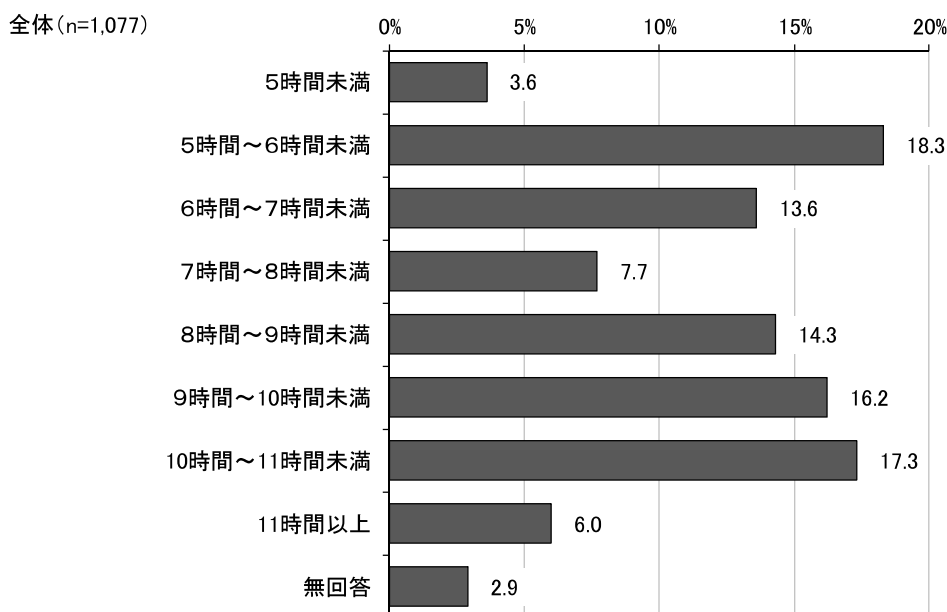
① 1 週あたりの利用日数

1 週あたりの利用日数についてみると、「5 日」が 84.7%と最も高く、次いで「4 日」が 7.8%、「3 日」が 3.2%となっています。



② 1 日あたりの利用時間

1 日あたりの利用時間についてみると、「5 時間～6 時間未満」が 18.3%と最も高く、次いで「10 時間～11 時間未満」が 17.3%、「9 時間～10 時間未満」が 16.2%となっています。

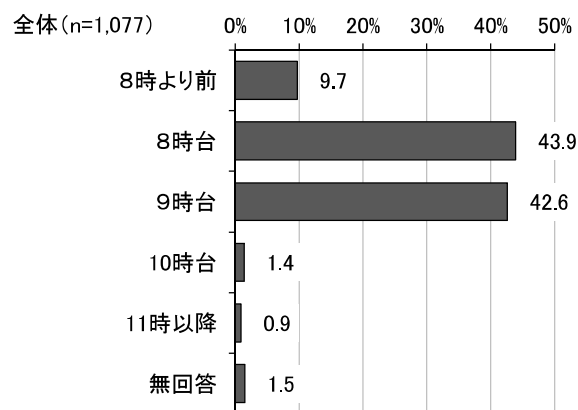


③開始時間／終了時間

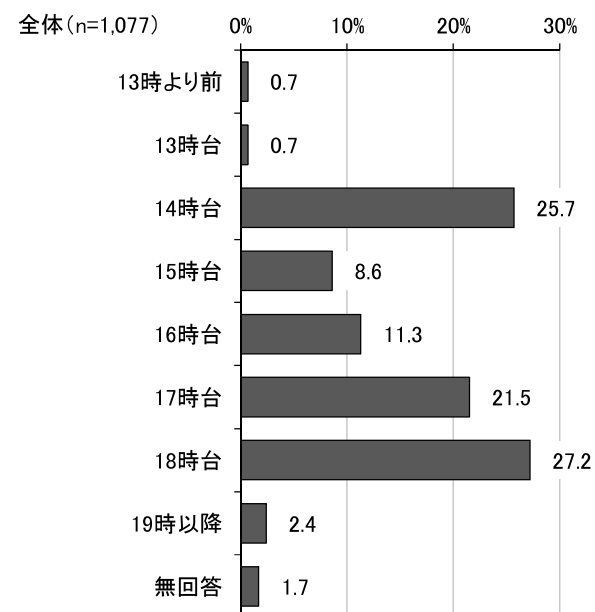
開始時間についてみると、「8時台」が 43.9%と最も高く、次いで「9時台」が 42.6%、「8時より前」が 9.7%となっています。

終了時間についてみると、「18時台」が 27.2%と最も高く、次いで「14時台」が 25.7%、「17時台」が 21.5%となっています。

■開始時間

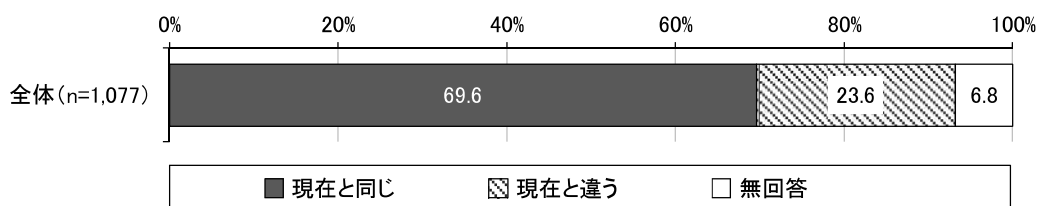


■終了時間



(2) 希望

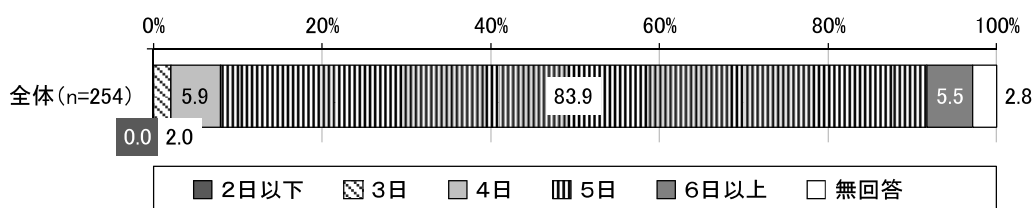
希望する教育・保育の状況についてみると、「現在と同じ」が69.6%と、「現在と違う」の23.6%を上回っています。



【現在と希望が異なる方】

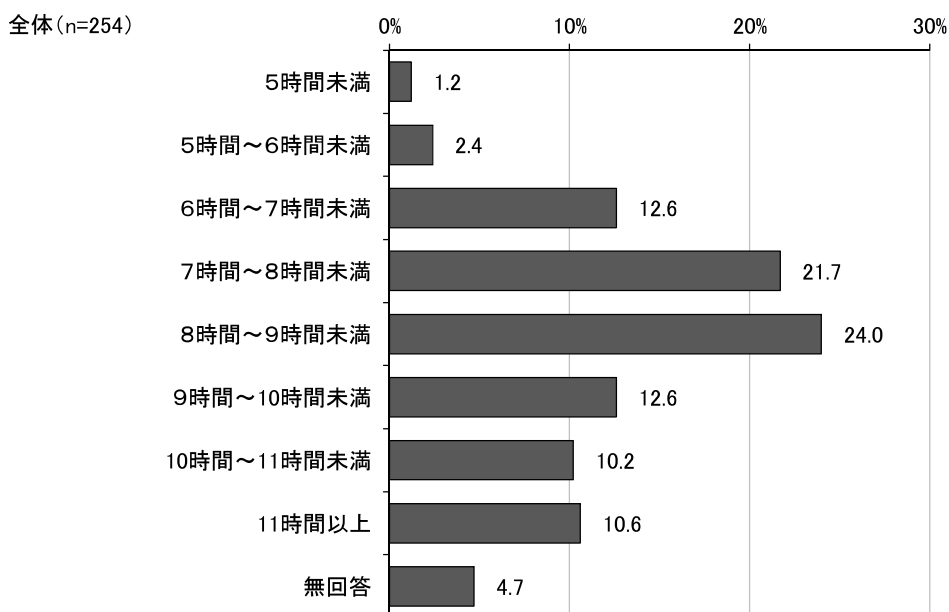
① 1週あたりの利用希望日数

1週あたりの利用希望日数についてみると、「5日」が83.9%と最も高く、次いで「4日」が5.9%、「6日以上」が5.5%となっています。



② 1日あたりの利用希望時間

1日あたりの利用希望時間についてみると、「8時間～9時間未満」が24.0%と最も高く、次いで「7時間～8時間未満」が21.7%、「6時間～7時間未満」「9時間～10時間未満」が12.6%となっています。

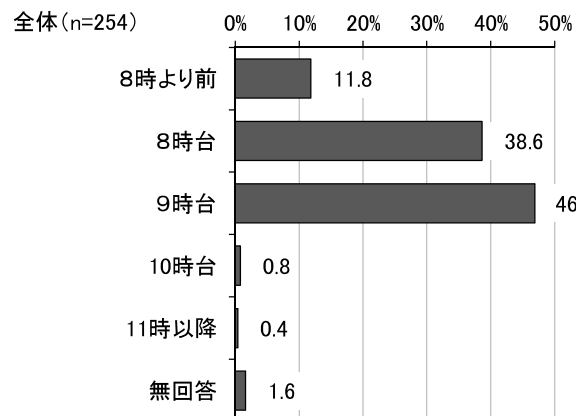


③開始希望時間／終了希望時間

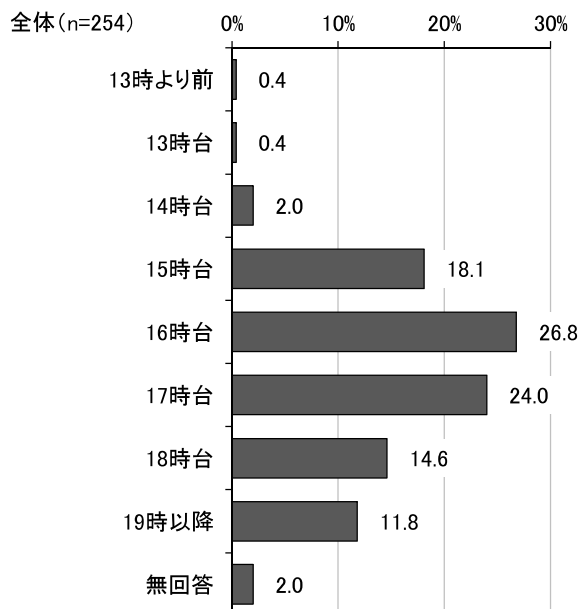
開始希望時間についてみると、「9時台」が 46.9%と最も高く、次いで「8時台」が 38.6%、「8時より前」が 11.8%となっています。

終了希望時間についてみると、「16 時台」が 26.8%と最も高く、次いで「17 時台」が 24.0%、「15 時台」が 18.1%となっています。

■開始希望時間



■終了希望時間

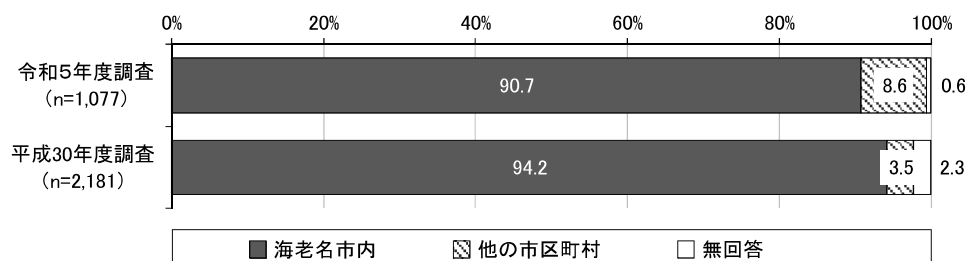


問 18 で「利用している」と回答した方

問 18-3 現在、利用している教育・保育事業の実施場所はどちらですか。（1つに○）

現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてみると、「海老名市内」が 90.7%と、「他の市区町村」の 8.6%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

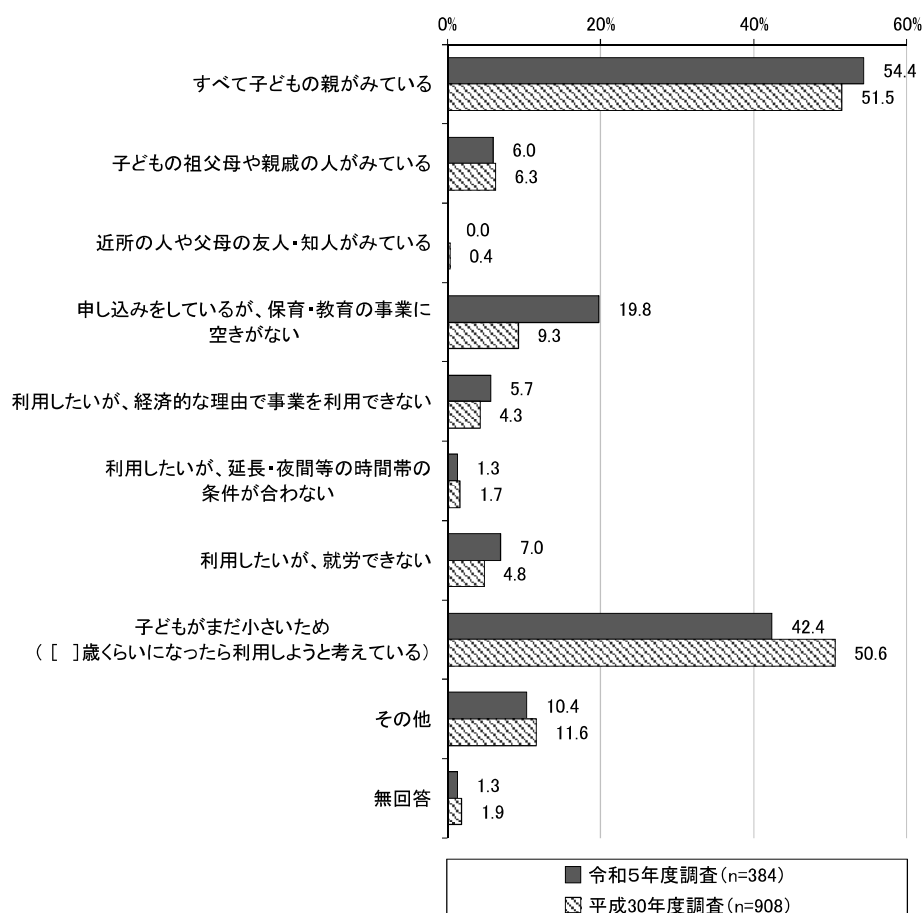


問 18 で「利用していない」と回答した方

問 18-4 利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

利用していない理由についてみると、「すべて子どもの親がみている」が 54.4%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため（[]歳くらいになったら利用しようと考えている）」が 42.4%、「申し込みをしているが、保育・教育の事業に空きがない」が 19.8%となっています。

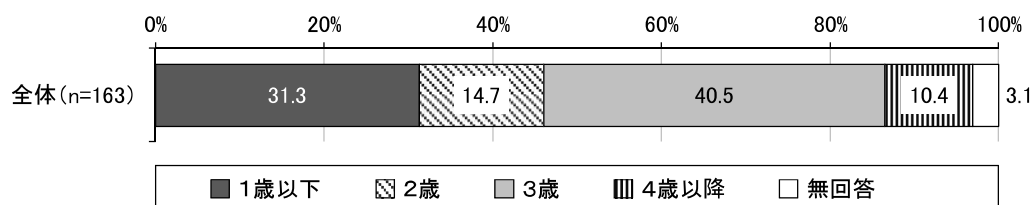
前回調査と比較すると、「申し込みをしているが、保育・教育の事業に空きがない」が 10 ポイント以上増加しています。



「子どもがまだ小さいため」と回答した方

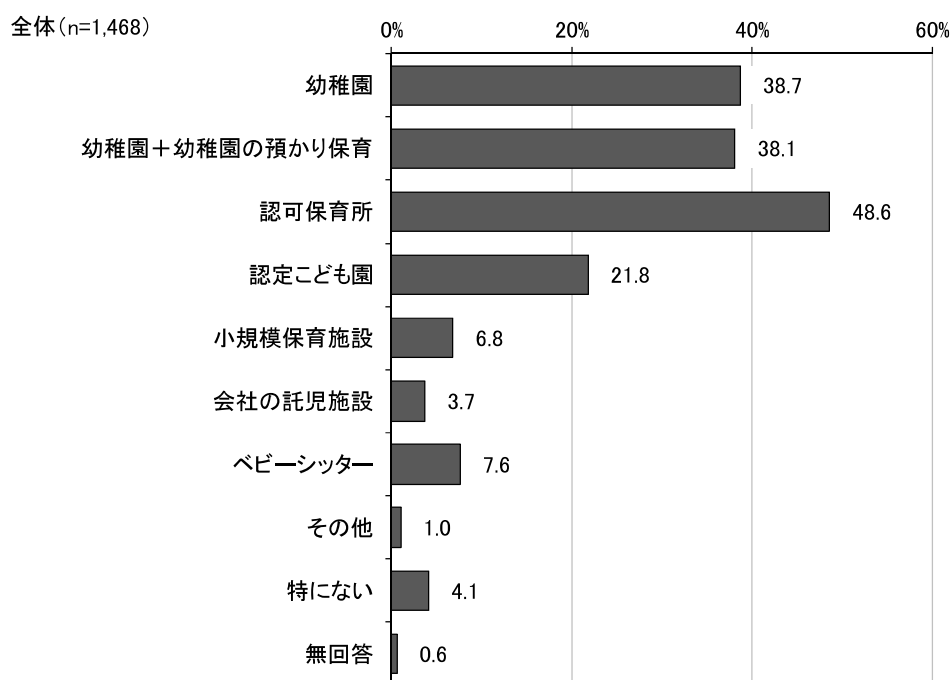
教育・保育の事業を利用しようとする子どもの年齢

教育・保育事業を子どもが何歳くらいになったら利用しようと考えているかについてみると、「3歳」が40.5%と最も高く、次いで「1歳以下」が31.3%、「2歳」が14.7%となっています。



問 19 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として定期的に利用したいと考える事業は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

現在、利用している、利用していないにかかわらず、子どもの平日の教育・保育の事業として定期的に利用したいと考える事業についてみると、「認可保育所」が48.6%と最も高く、次いで「幼稚園」が38.7%、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が38.1%となっています。



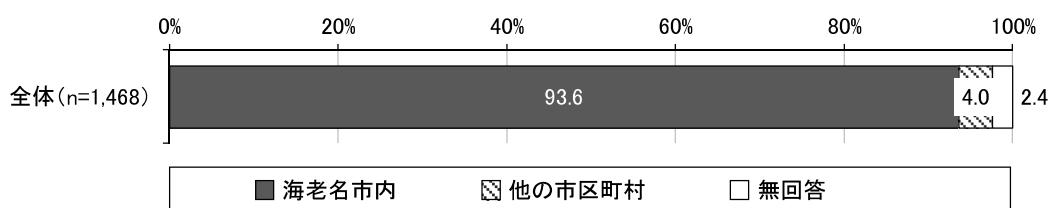
■年齢別

年齢別にみると、4歳以下では「認可保育所」、5歳では「幼稚園」が最も高くなっています。また、低年齢になるにつれて「認定こども園」が高くなっています。

単位：％		幼稚園	保育幼稚園＋幼稚園の預かり	認可保育所	認定こども園	小規模保育施設	会社の託児施設	ベビーシッター	その他	特にない	無回答
全体(n=1,468)		38.7	38.1	48.6	21.8	6.8	3.7	7.6	1.0	4.1	0.6
年齢別	0歳(令和5年4月～)(n=154)	32.5	45.5	59.7	30.5	14.3	5.8	9.7	1.3	3.2	1.9
	0歳(令和4年4月～令和5年3月)(n=94)	34.0	30.9	63.8	28.7	18.1	3.2	6.4	1.1	3.2	1.1
	1歳(n=233)	36.5	38.2	61.8	24.5	9.4	4.7	7.3	0.9	3.0	0.0
	2歳(n=224)	40.6	33.0	54.0	24.1	5.4	3.1	11.6	0.4	3.6	0.4
	3歳(n=252)	38.5	40.9	41.3	20.2	4.4	3.6	7.1	1.2	4.0	0.0
	4歳(n=259)	38.6	36.3	40.9	17.8	3.5	3.1	7.7	1.2	4.6	1.2
	5歳(n=240)	44.6	40.8	34.2	15.4	2.9	3.3	3.3	0.8	5.8	0.4

問 19- 1 教育・保育事業を利用したい場所はどこですか。（1つに○）

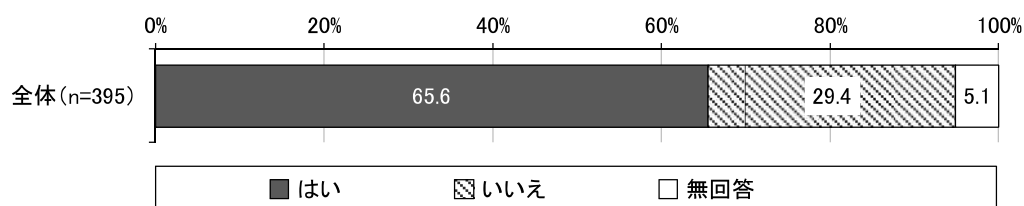
教育・保育事業を利用したい場所についてみると、「海老名市内」が 93.6%と、「他の市区町村」の 4.0%を上回っています。



問 19 で「幼稚園」または「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」と回答し、かつ「認可保育所」～「その他」いずれかを回答した方

問 19- 2 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（1つに○）

特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかについてみると、「はい」が 65.6%と、「いいえ」の 29.4%を上回っています。

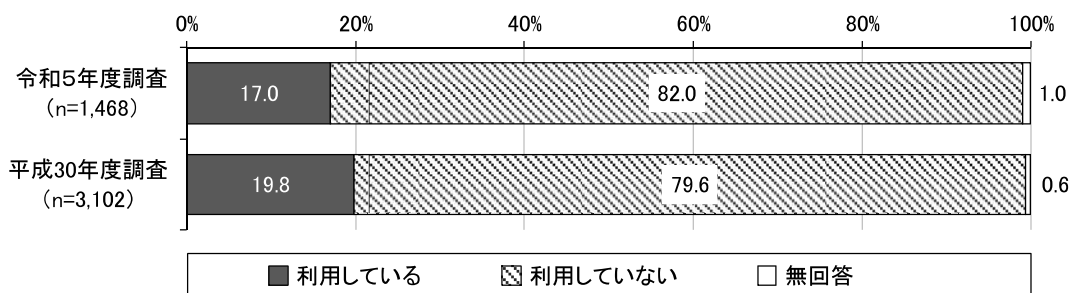


6 子育て支援センターの利用状況について

問 20 現在の子育て支援センター（地域版子育て支援センターの「はぐはぐ広場」を含む）の利用状況についてうかがいます。（1つに○）

現在の子育て支援センター（地域版子育て支援センターの「はぐはぐ広場」を含む）の利用状況についてみると、「利用していない」が82.0%と、「利用している」の17.0%を上回っています。

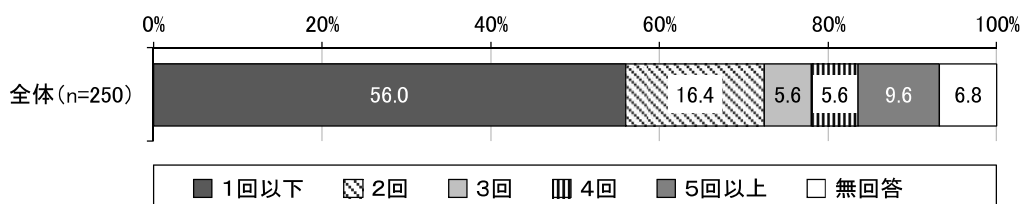
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



「利用している方」と回答した方

1 か月あたりの利用回数

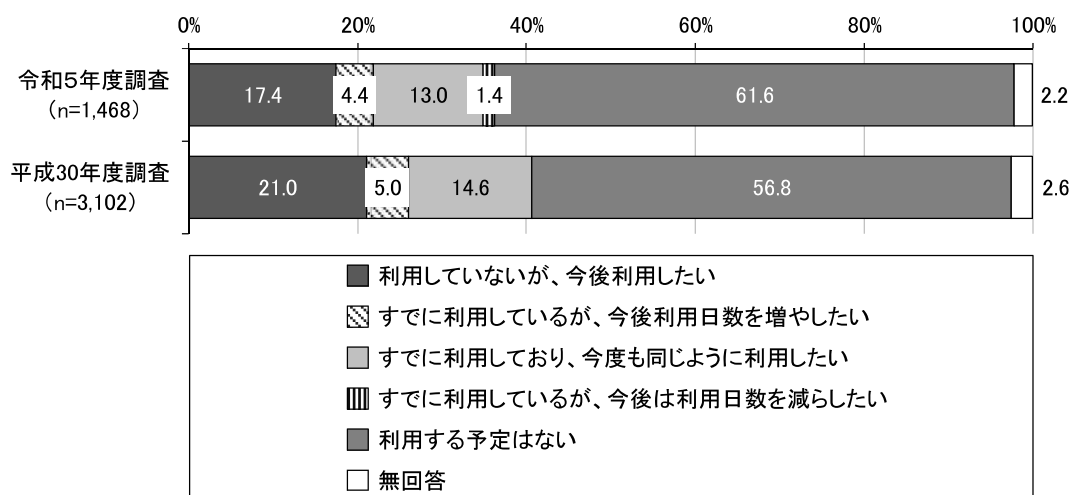
1か月あたりの利用回数についてみると、「1回以下」が 56.0%と最も高く、次いで「2回」が 16.4%、「5回以上」が 9.6%となっています。



問 21 今後の子育て支援センターの利用希望についてうかがいます。（1つに○）

今後の子育て支援センターの利用希望についてみると、「利用する予定はない」が 61.6%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が 17.4%、「すでに利用しており、今度も同じように利用したい」が 13.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



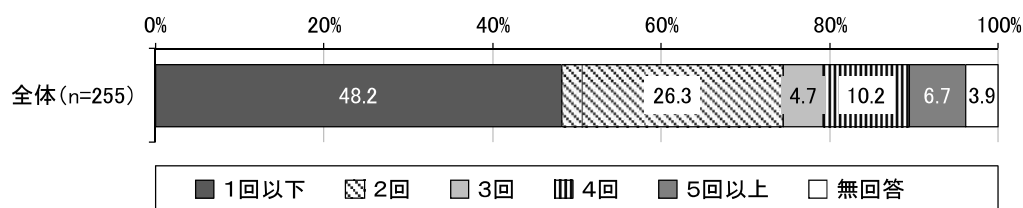
※「すでに利用しているが、今後は利用日数を減らしたい」は令和5年度調査のみの選択肢

※「利用する予定はない」は、平成 30 年度調査では「利用しない」

「利用していないが、今後利用したい」と回答した方

1 か月あたりの利用希望回数

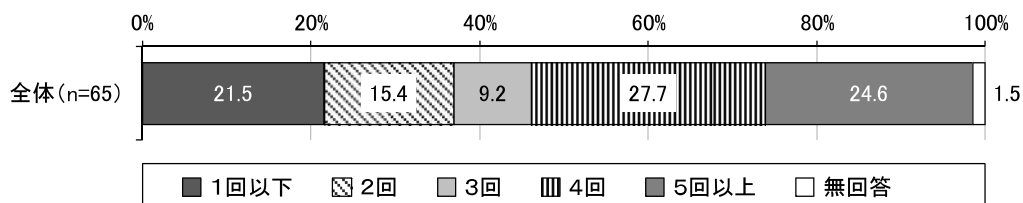
利用していないが、今後利用したい方の利用希望回数についてみると、「1回以下」が 48.2%と最も高く、次いで「2回」が 26.3%、「4回」が 10.2%となっています。



「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した方

1 か月あたりの利用希望回数

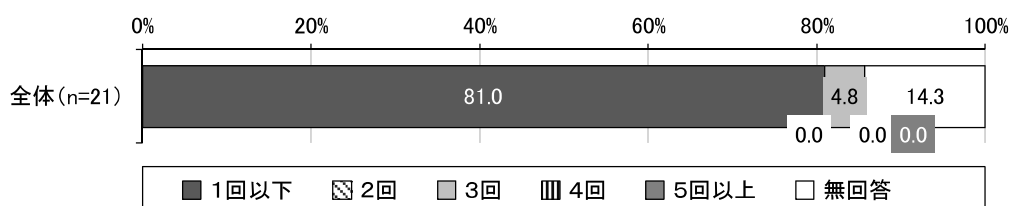
すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい方の利用希望回数についてみると、「4回」が27.7%と最も高く、次いで「5回以上」が24.6%、「1回以下」が21.5%となっています。



「すでに利用しているが、今後は利用日数を減らしたい」と回答した方

1 か月あたりの利用希望回数

すでに利用しているが、今後は利用日数を減らしたい方の利用希望回数についてみると、「1回以下」が81.0%と最も高く、次いで「3回」が4.8%となっています。



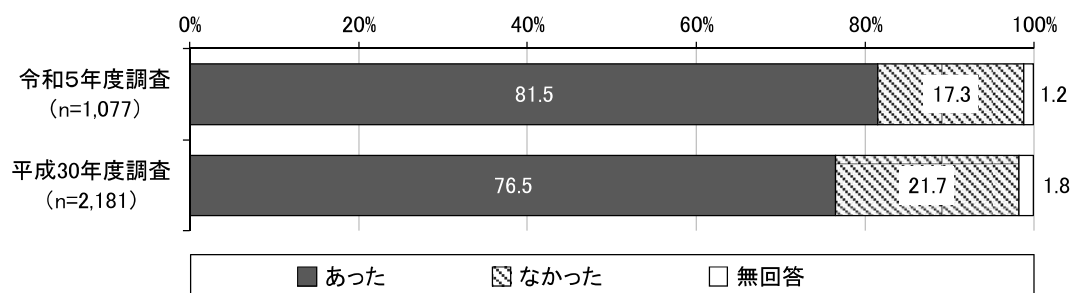
7 子どもの病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用している方のみ）

平日の定期的な教育・保育の事業を利用している方（問18で「利用している」と回答した方）

問 22 この1年間に、お子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことはありますか。（1つに○）

この1年間に、子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかったことはあるかについてみると、「あった」が81.5%と、「なかった」の17.3%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

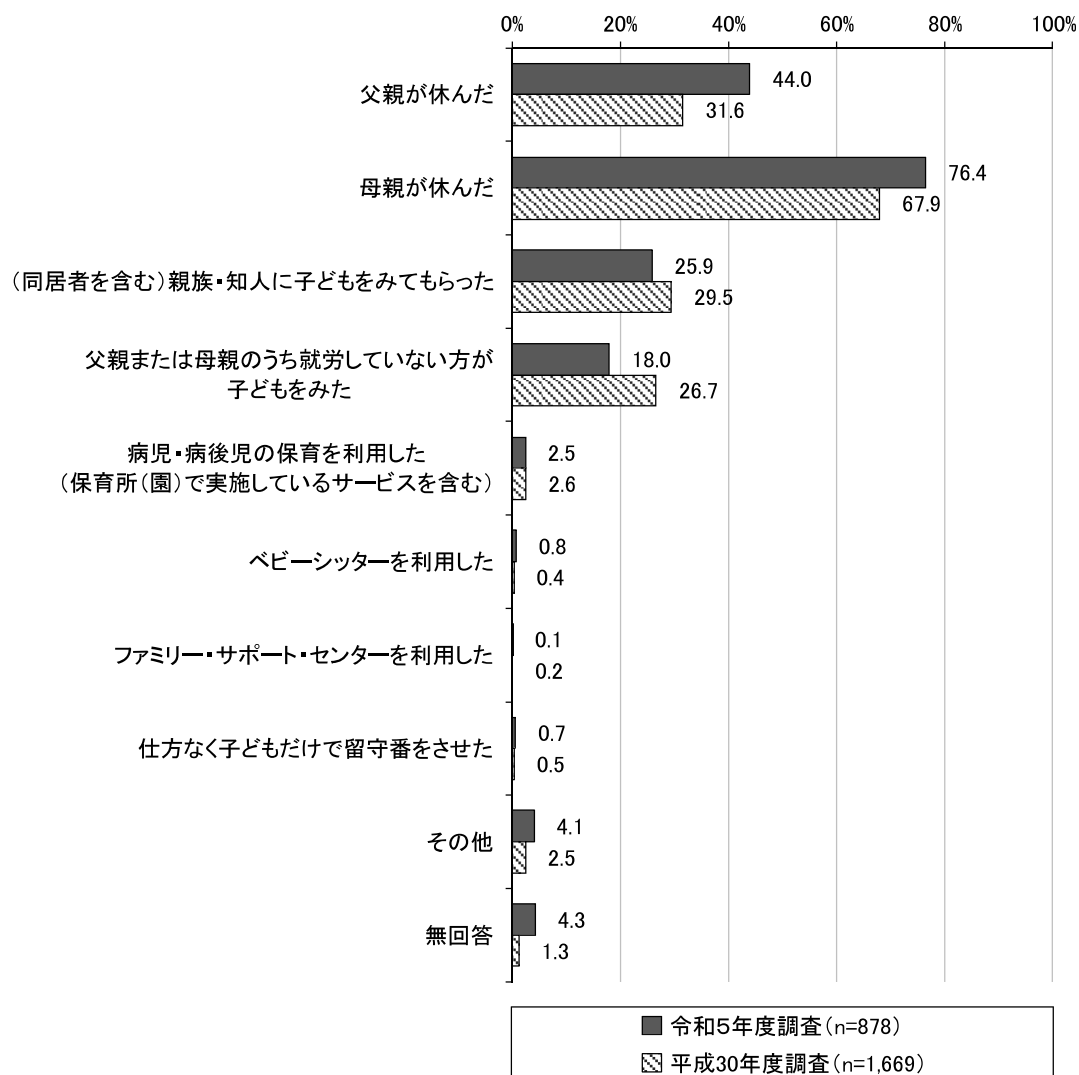


問 22 で「あった」と回答した方

問 22- 1 お子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法についてみると、「母親が休んだ」が 76.4%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が 44.0%、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」が 25.9%となっています。

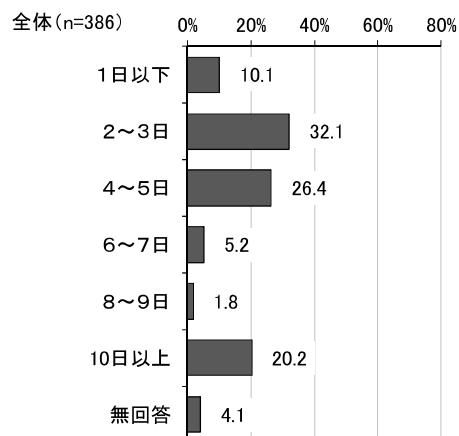
前回調査と比較すると、「父親が休んだ」が 10 ポイント以上増加しています。



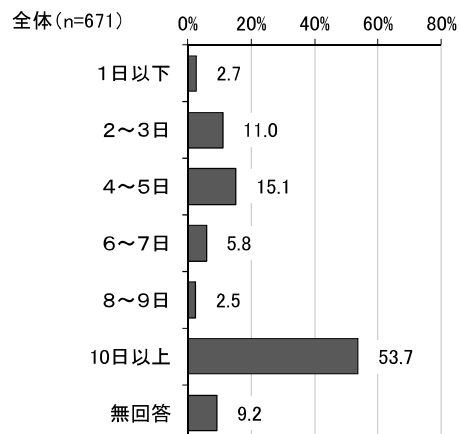
1年間の対処方法別日数

1年間の対処方法別日数についてみると、【病児・病後児の保育を利用した】【ベビーシッターを利用した】では「1日以下」、【父親が休んだ】【（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった】では「2～3日」、【仕方なく子どもだけで留守番をさせた】では「2～3日」「4～5日」、【母親が休んだ】【父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた】【その他】では「10日以上」が最も高くなっています。

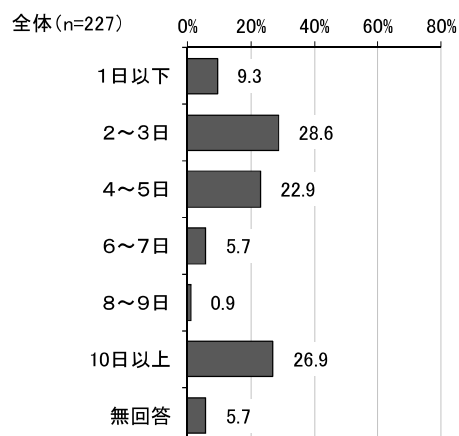
【父親が休んだ】



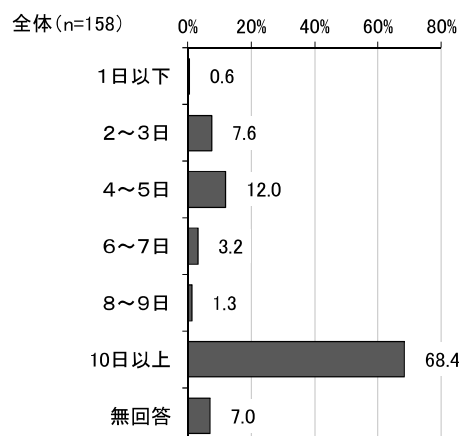
【母親が休んだ】



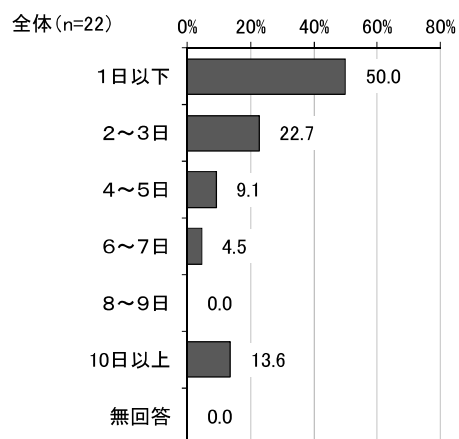
【（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった】



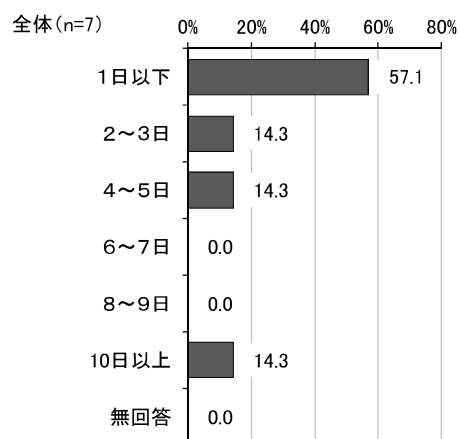
【父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた】



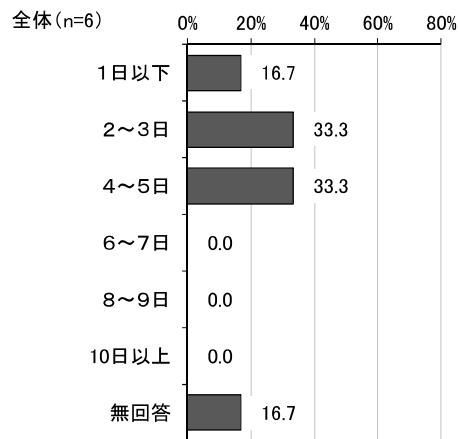
【病児・病後児の保育を利用した】



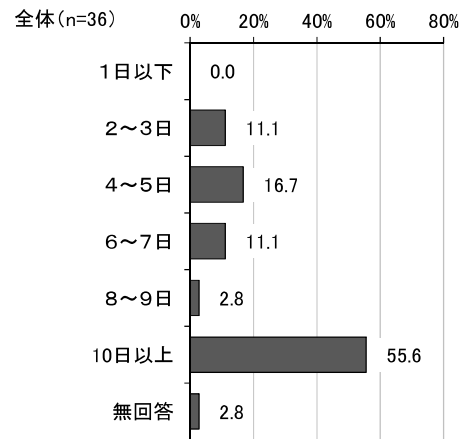
【ベビーシッターを利用した】



【仕方なく子どもだけで留守番をさせた】



【その他】

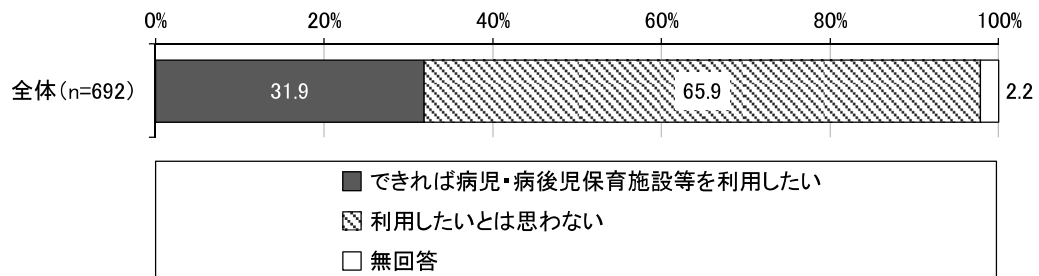


【ファミリー・サポート・センターを利用した】(n=1)「2～3日」:1件

問 22- 1 で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した方

問 22- 2 保護者が休んだその際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思われましたか。(1つに○)

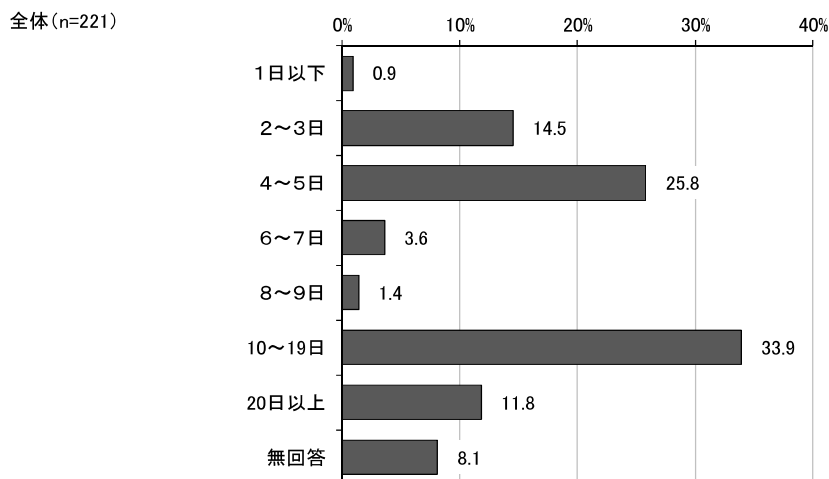
保護者が休んだ際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについてみると、「利用したいとは思わない」が65.9%と、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の31.9%を上回っています。



「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した方

利用したい日数

利用したい日数についてみると、「10～19 日」が 33.9%と最も高く、次いで「4～5日」が 25.8%、「2～3日」が 14.5%となっています。

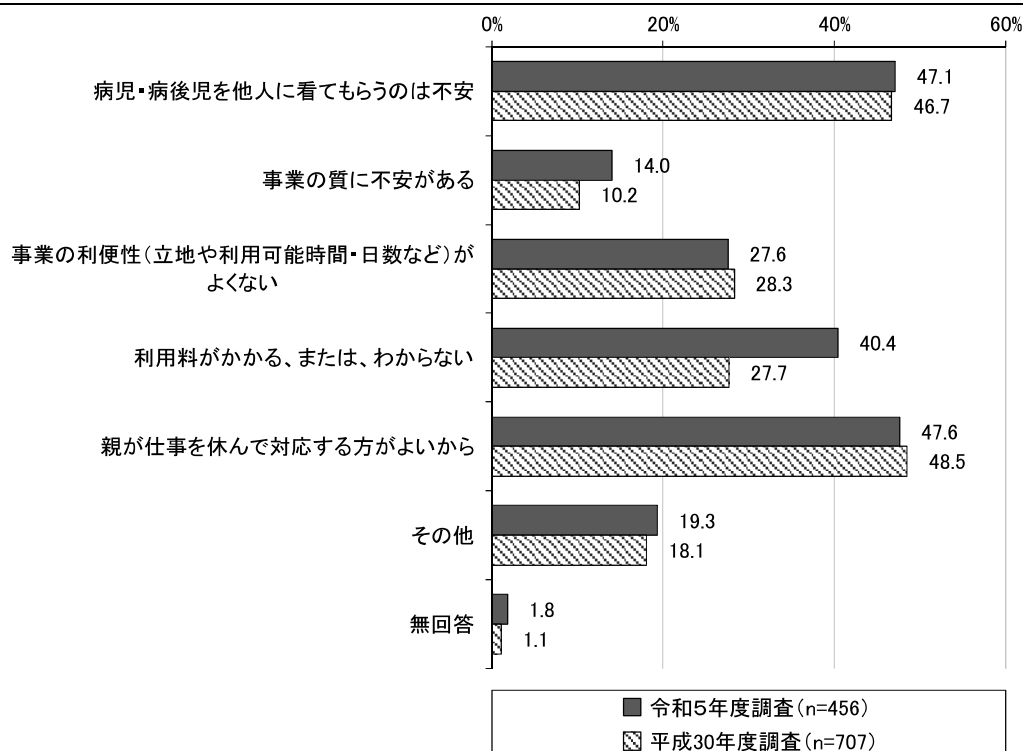


問 22- 2 で「利用したいとは思わない」と回答した方

問 22- 3 そう思われる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

利用したいとは思わない理由についてみると、「親が仕事を休んで対応する方がよいから」が 47.6%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 47.1%、「利用料がかかる、または、わからない」が 40.4%となっています。

前回調査と比較すると、「利用料がかかる、または、わからない」が 10 ポイント以上増加しています。



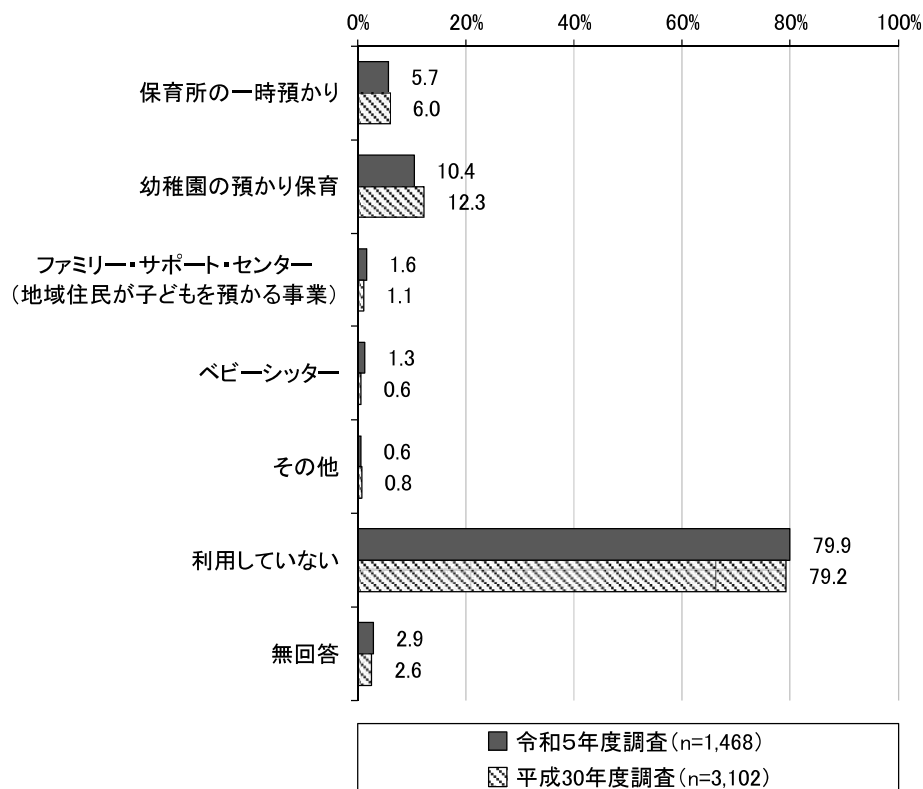
※「親が仕事を休んで対応する方がよいから」は、平成 30 年度調査では「親が仕事を休んで対応する」

8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 23 お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。（あてはまるものすべてに○）

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はあるかについてみると、「利用していない」が 79.9%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が 10.4%、「保育所の一時預かり」が 5.7%となっています。

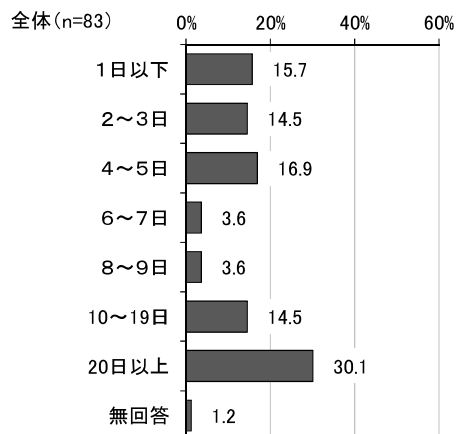
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



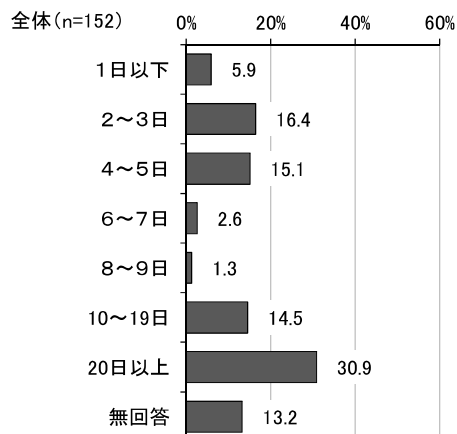
利用日数

利用日数についてみると、すべての事業で「20 日以上」が最も高くなっています。【ファミリー・サポート・センター】【ベビーシッター】は「2～3日」も最も高くなっています。

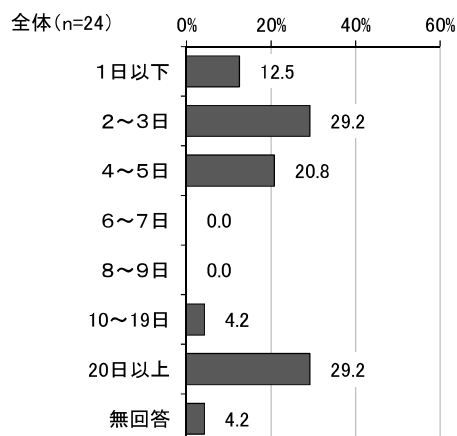
【保育所の一時預かり】



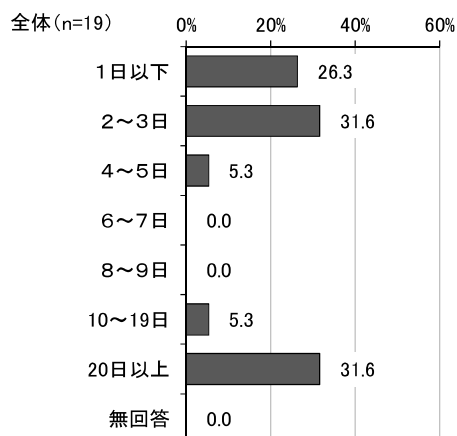
【幼稚園の預かり保育】



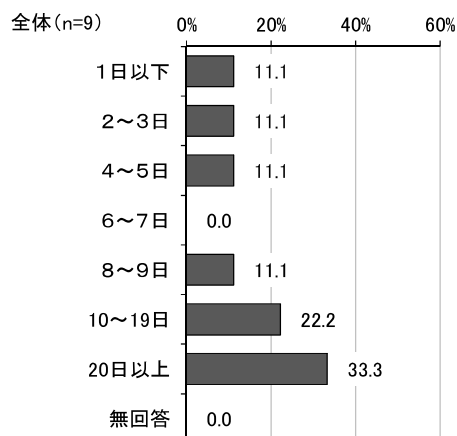
【ファミリー・サポート・センター】



【ベビーシッター】



【その他】

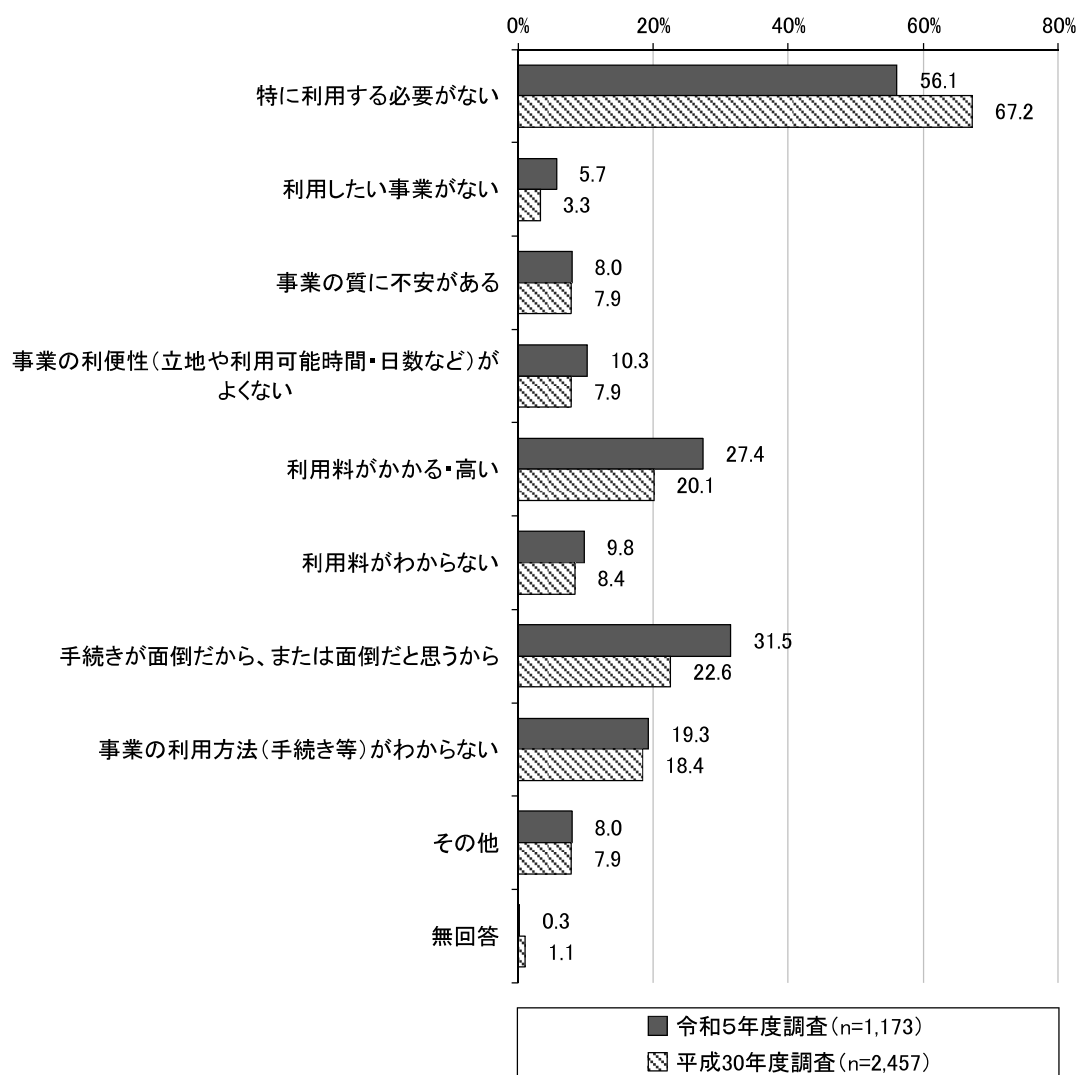


問 23 で「利用していない」と回答した方

問 23- 1 現在利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

現在利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がない」が 56.1%と最も高く、次いで「手続きが面倒だから、または面倒だと思うから」が 31.5%、「利用料がかかる・高い」が 27.4%となっています。

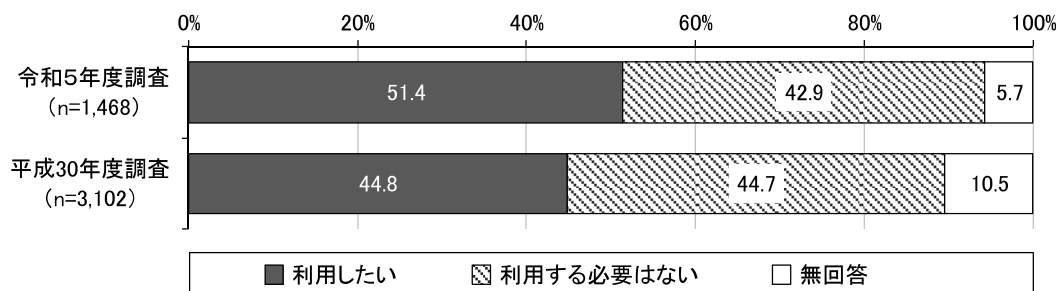
前回調査と比較すると、「特に利用する必要がない」が 10 ポイント以上減少しています。



問 24 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業（問 23 の選択肢）を利用する必要があると思いますか。（1 つに○）

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、事業を利用する必要があるかについてみると、「利用したい」が 51.4%と、「利用する必要はない」の 42.9%を上回っています。

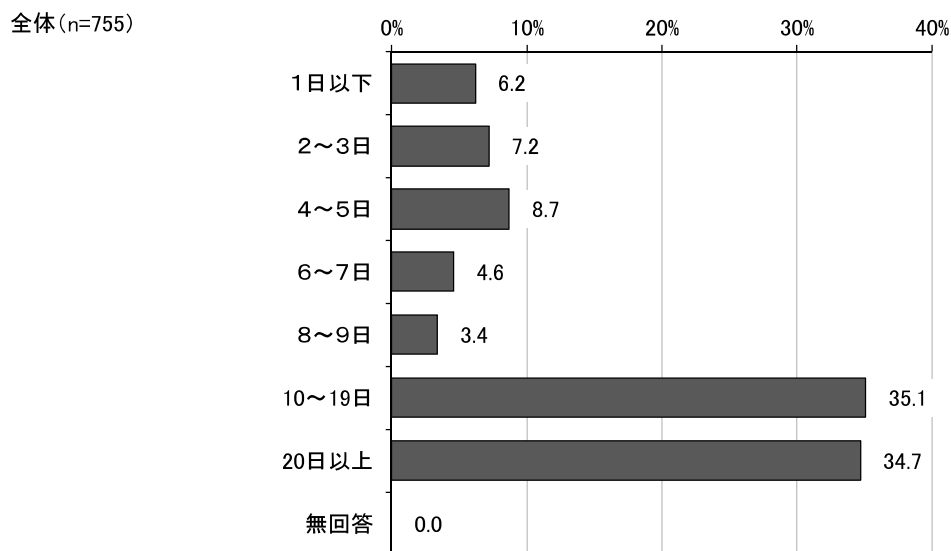
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



「利用したい」と回答した方

年間利用希望日数

年間利用希望日数についてみると、「10～19日」が 35.1%と最も高く、次いで「20日以上」が 34.7%、「4～5日」が 8.7%となっています。

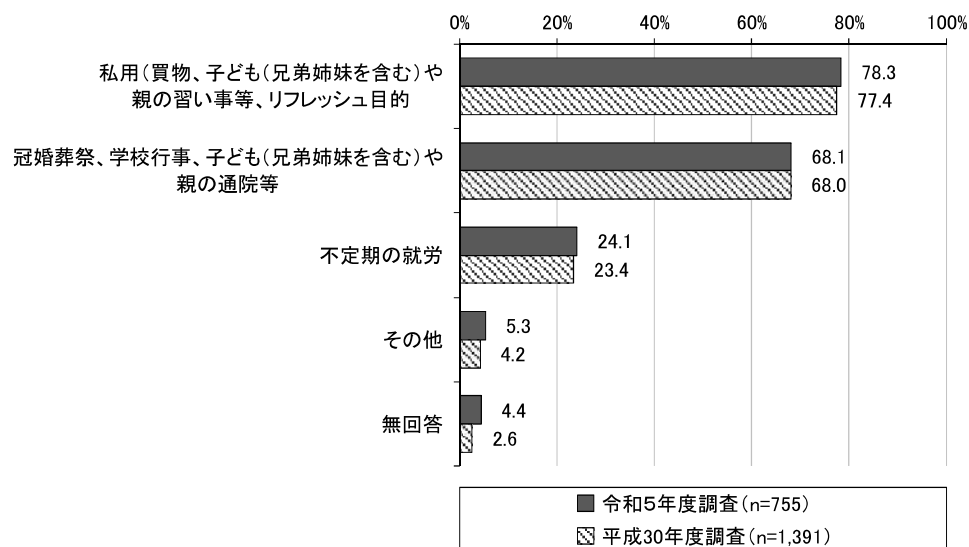


「利用したい」と回答した方

利用目的

利用目的についてみると、「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等、リフレッシュ目的」が78.3%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」が68.1%、「不定期の就労」が24.1%となっています。

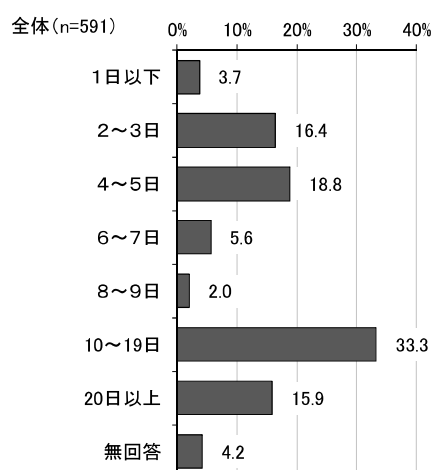
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



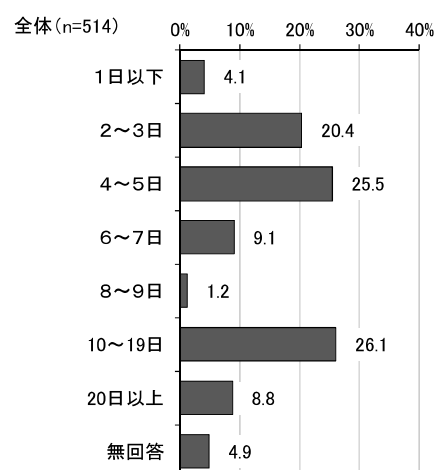
目的別利用希望日数

目的別利用希望日数についてみると、【私用や親の習い事等、リフレッシュ目的】【冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等】では「10～19 日」、「不定期の就労」では「20 日以上」、「その他」では「4～5日」「10～19 日」「20 日以上」が最も高くなっています。

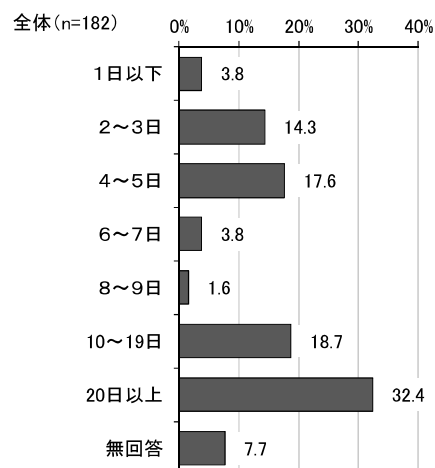
【私用や親の習い事等、リフレッシュ目的】



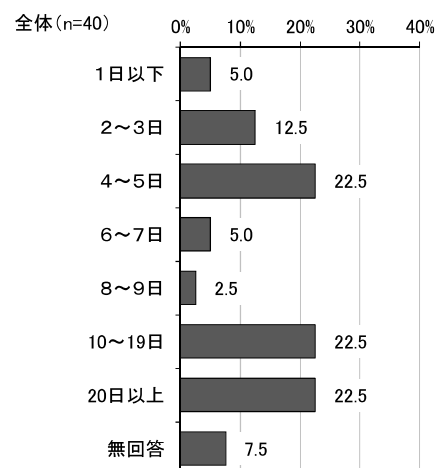
【冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等】



【不定期の就労】

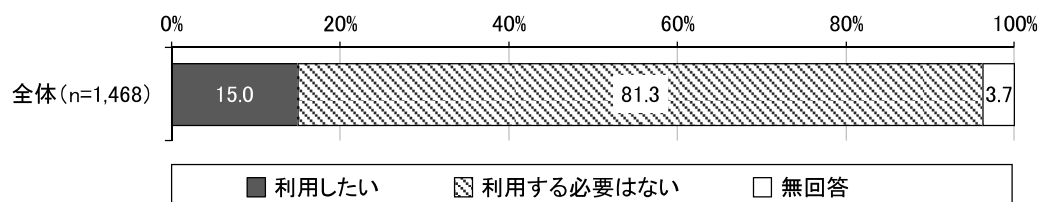


【その他】



問 25 お子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。（1つに○）

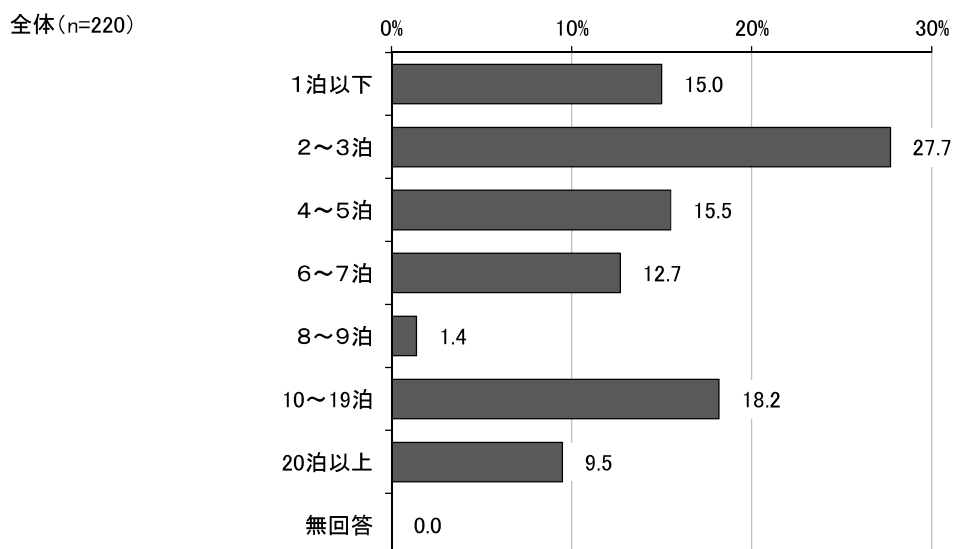
短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望についてみると、「利用する必要はない」が81.3%と、「利用したい」の15.0%を上回っています。



「利用したい」と回答した方

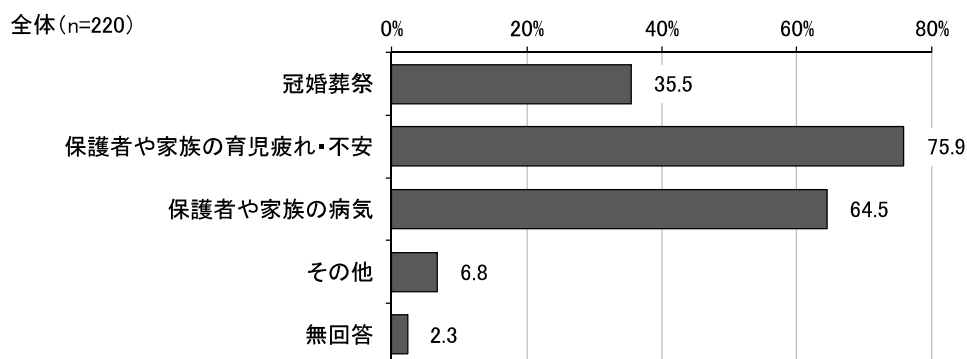
年間利用希望泊数

年間利用希望泊数についてみると、「2～3泊」が 27.7%と最も高く、次いで「10～19 泊」が 18.2%、「4～5泊」が 15.5%となっています。



利用目的

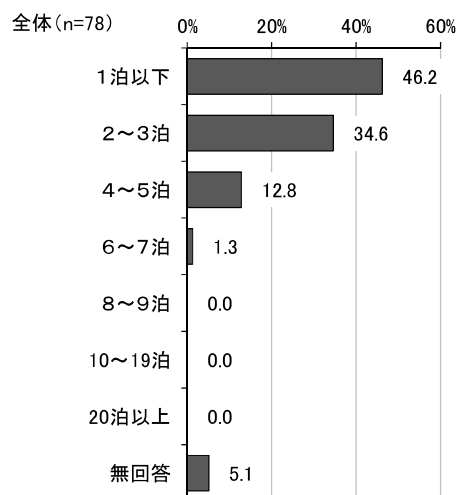
利用目的についてみると、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 75.9%と最も高く、次いで「保護者や家族の病気」が 64.5%、「冠婚葬祭」が 35.5%となっています。



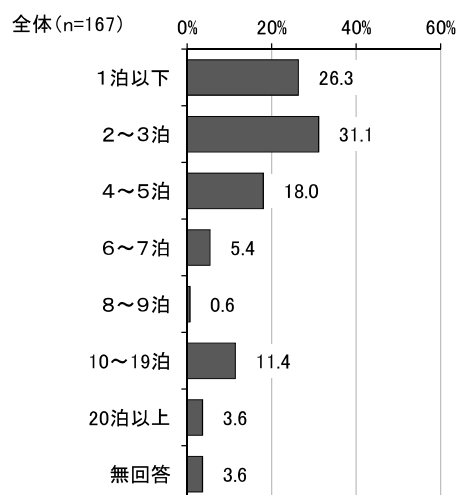
目的別利用希望泊数

目的別利用希望泊数についてみると、【冠婚葬祭】では「1泊以下」、【保護者や家族の育児疲れ・不安】
【保護者や家族の病気】【その他】では「2～3泊」が最も高くなっています。

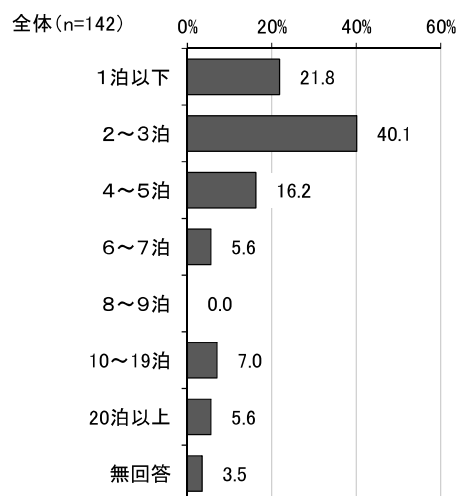
【冠婚葬祭】



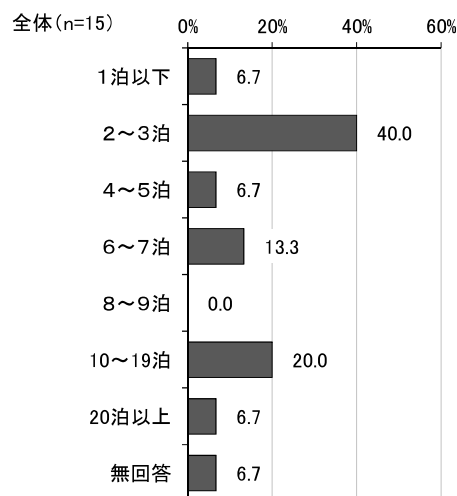
【保護者や家族の育児疲れ・不安】



【保護者や家族の病気】



【その他】

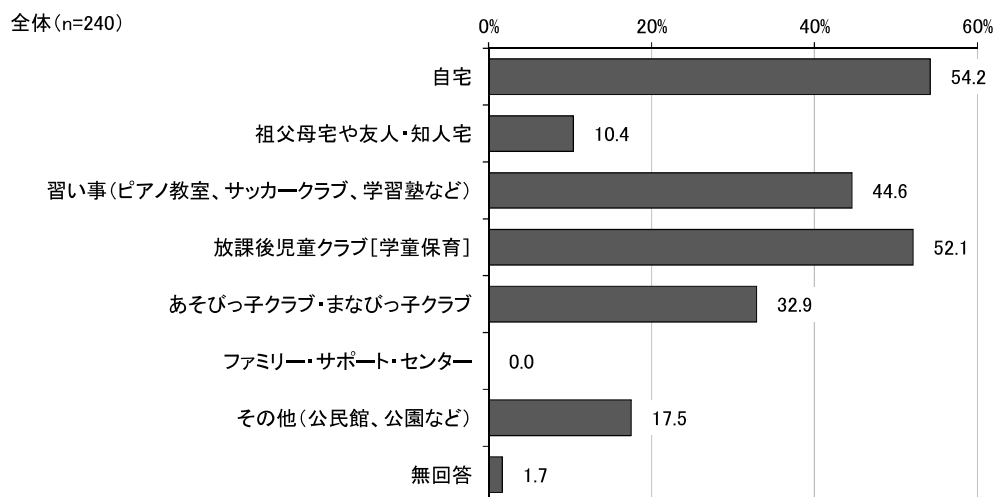


9 小学校就学後の放課後の過ごし方について

対象のお子さんが5歳以上の方

問 26 お子さんについて、小学校に就学した際に、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

小学校に就学した際に、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所についてみると、「自宅」が 54.2%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ[学童保育]」が 52.1%、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が 44.6%となっています。

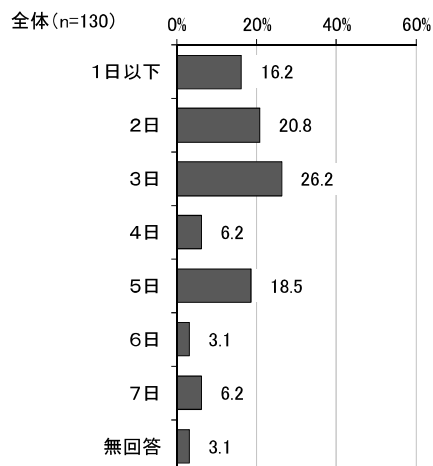


※「その他(公民館、公園など)」は、平成 30 年度調査では「その他」

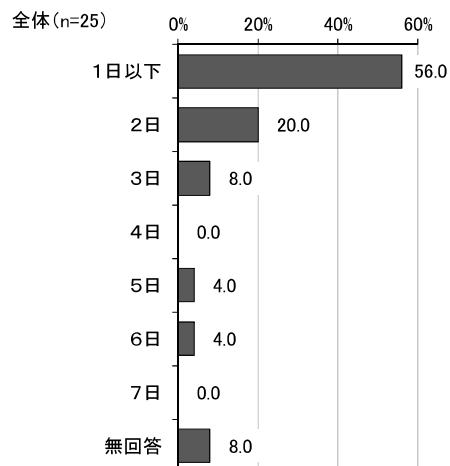
1 週あたりの場所別希望日数

1週あたりの場所別希望日数についてみると、【祖父母宅や友人・知人宅】【あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ】【その他（公民館、公園など）】では「1日以下」、【習い事】では「2日」、【自宅】では「3日」、【放課後児童クラブ〔学童保育〕】では「5日」が最も高くなっています。

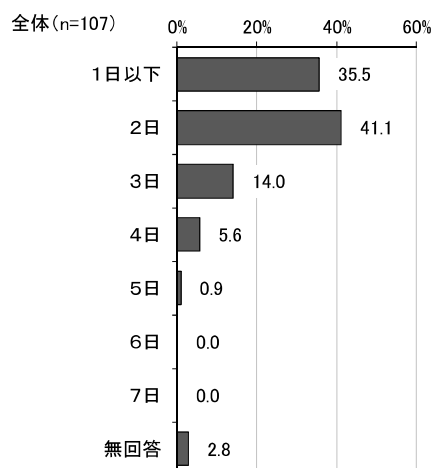
【自宅】



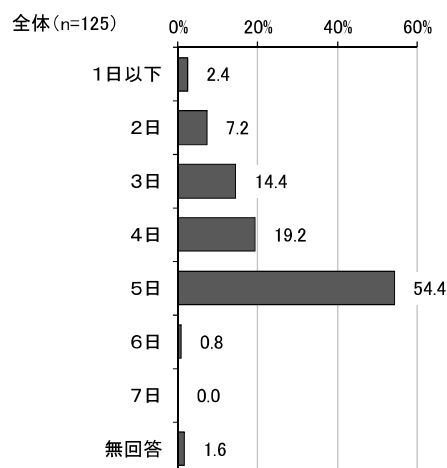
【祖父母宅や友人・知人宅】



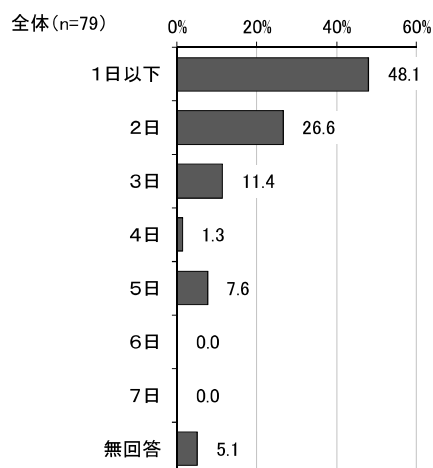
【習い事】



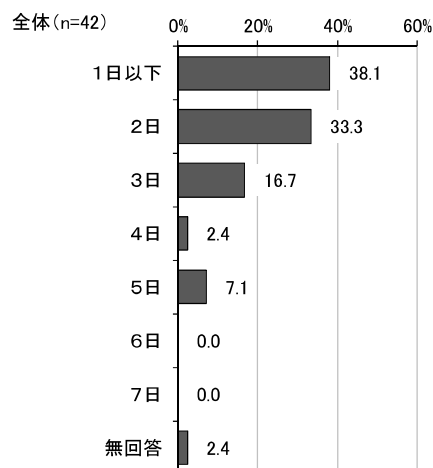
【放課後児童クラブ〔学童保育〕】



【あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ】



【その他（公民館、公園など）】

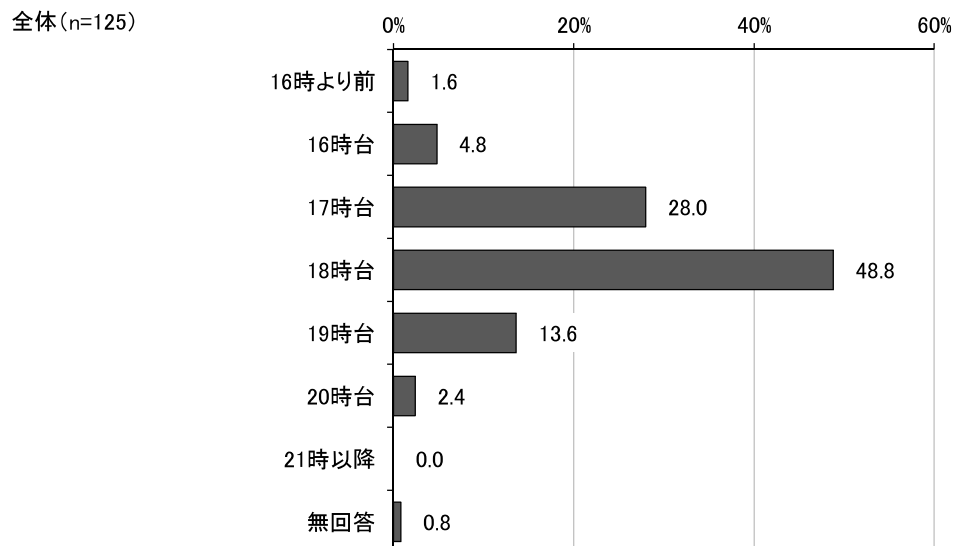


【ファミリー・サポート・センター】 (n=0)

問 26 で「放課後児童クラブ」と回答した方

放課後児童クラブ〔学童保育〕の希望終了時間

放課後児童クラブ〔学童保育〕の希望終了時間についてみると、「18 時台」が 48.8%と最も高く、次いで「17時台」が 28.0%、「19時台」が 13.6%となっています。

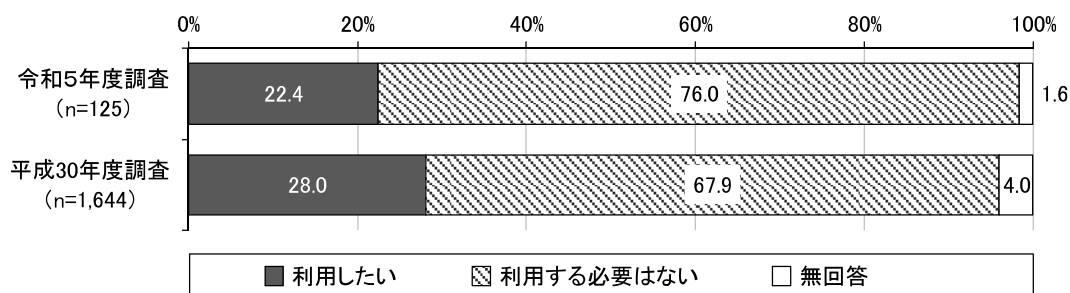


問 26 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 26- 1 お子さんについて、①土曜日と②日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。(①・②それぞれ1つに○)

①土曜日

土曜日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が 76.0%と、「利用したい」の 22.4%を上回っています。



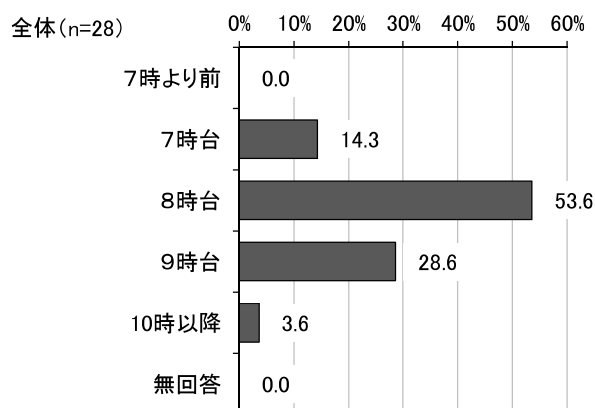
「利用したい」と回答した方

利用したい時間帯

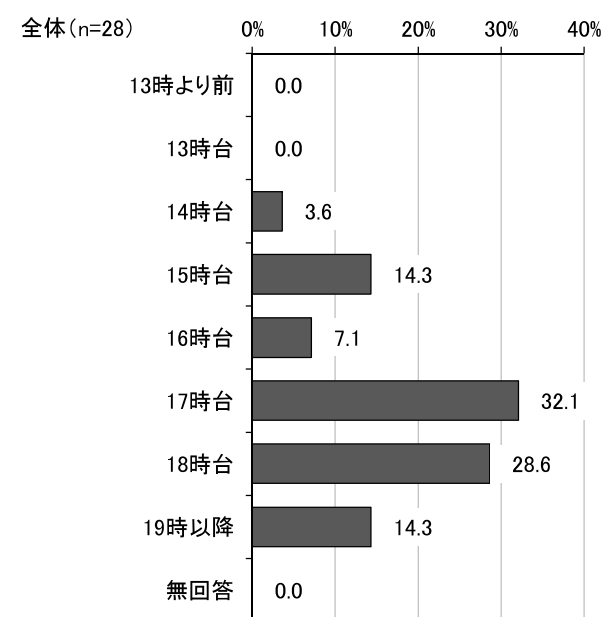
開始時間についてみると、「8時台」が 53.6%と最も高く、次いで「9時台」が 28.6%、「7時台」が 14.3%となっています。

終了時間についてみると、「17 時台」が 32.1%と最も高く、次いで「18 時台」が 28.6%、「15 時台」「19 時以降」が 14.3%となっています。

■開始時間



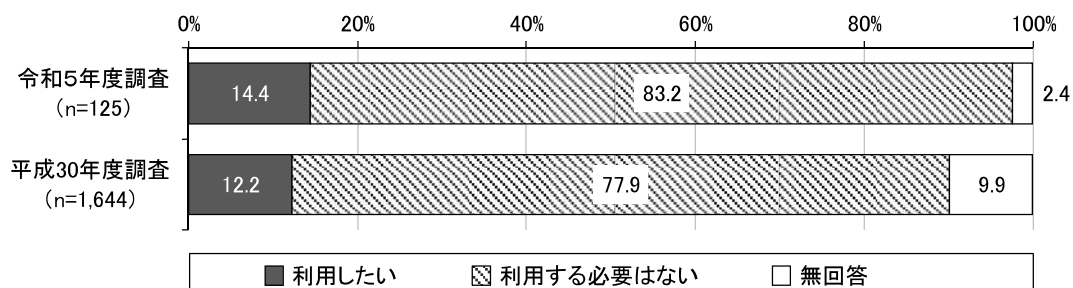
■終了時間



②日曜日・祝日

日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が 83.2%と、「利用したい」の 14.4%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



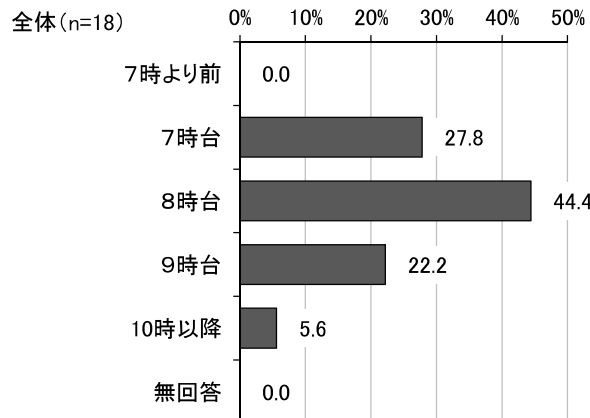
「利用したい」と回答した方

利用したい時間帯

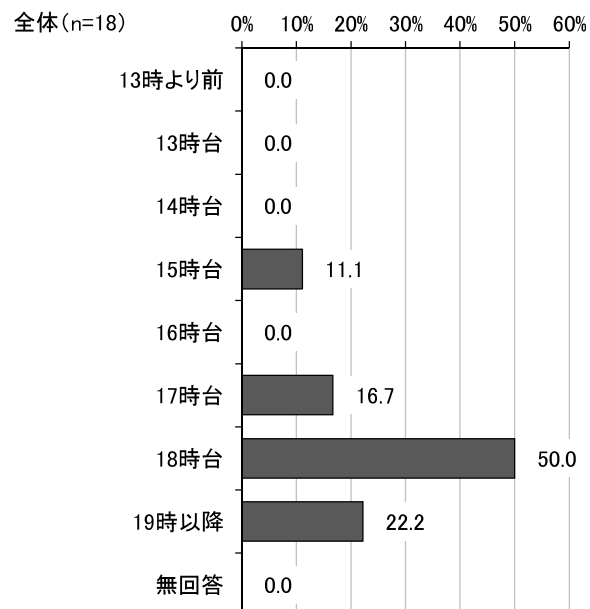
開始時間についてみると、「8時台」が 44.4%と最も高く、次いで「7時台」が 27.8%、「9時台」が 22.2%となっています。

終了時間についてみると、「18時台」が 50.0%と最も高く、次いで「19時以降」が 22.2%、「17時台」が 16.7%となっています。

■開始時間



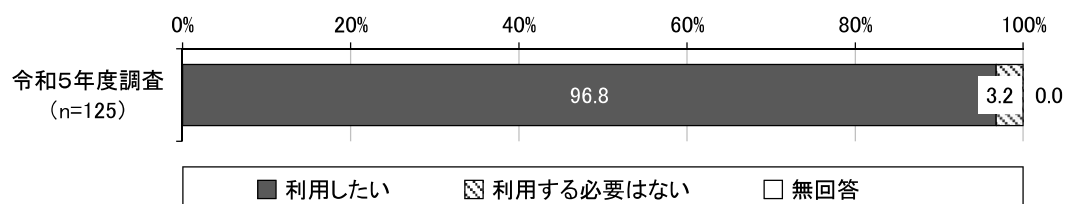
■終了時間



問 26 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 26-2 お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。(1つに○)

夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用したい」が 96.8%と、「利用する必要はない」の 3.2%を上回っています。



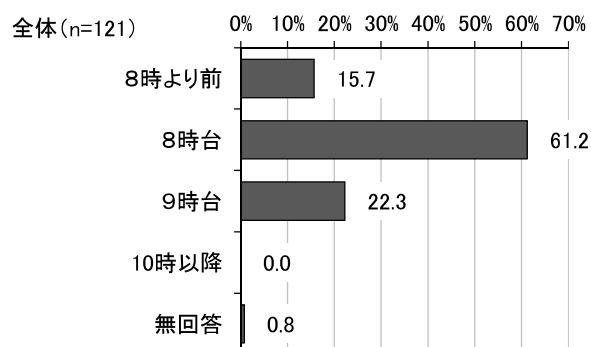
「利用したい」と回答した方

利用したい時間帯

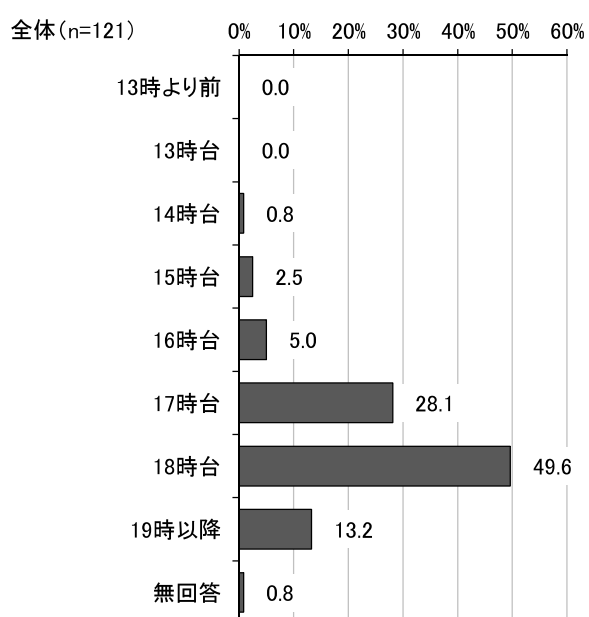
開始時間についてみると、「8時台」が 61.2%と最も高く、次いで「9時台」が 22.3%、「8時より前」が 15.7%となっています。

終了時間についてみると、「18 時台」が 49.6%と最も高く、次いで「17 時台」が 28.1%、「19 時以降」が 13.2%となっています。

■開始時間



■終了時間



10 育児休業など職場の両立支援制度について

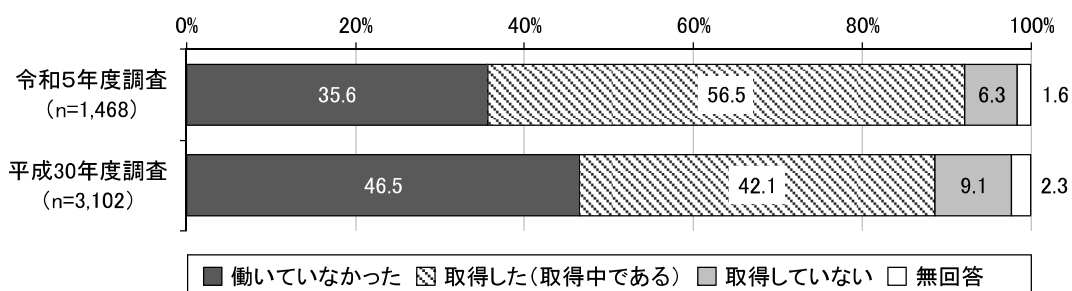
問 27 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

(①母親・②父親それぞれ1つに○)

①母親

母親の育児休業の取得状況についてみると、「取得した(取得中である)」が 56.5%と最も高く、次いで「働いていなかった」が 35.6%、「取得していない」が 6.3%となっています。

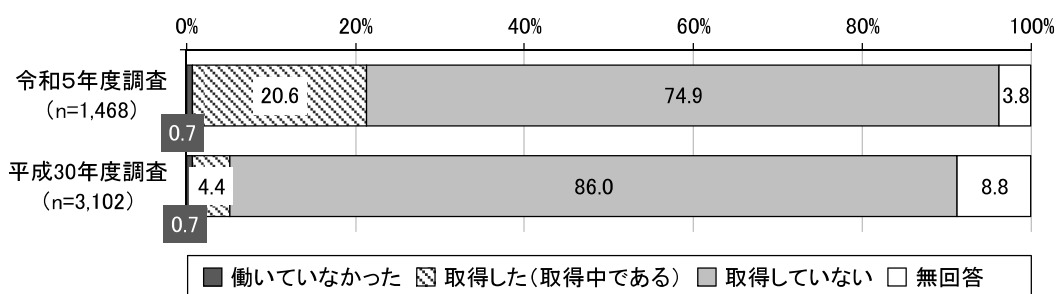
前回調査と比較すると、「取得した(取得中である)」が10 ポイント以上増加、「働いていなかった」が10 ポイント以上減少しています。



②父親

父親の育児休業の取得状況についてみると、「取得していない」が 74.9%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」が 20.6%、「働いていなかった」が 0.7%となっています。

前回調査と比較すると、「取得した(取得中である)」が 15 ポイント以上増加、「取得していない」が 10 ポイント以上減少しています。



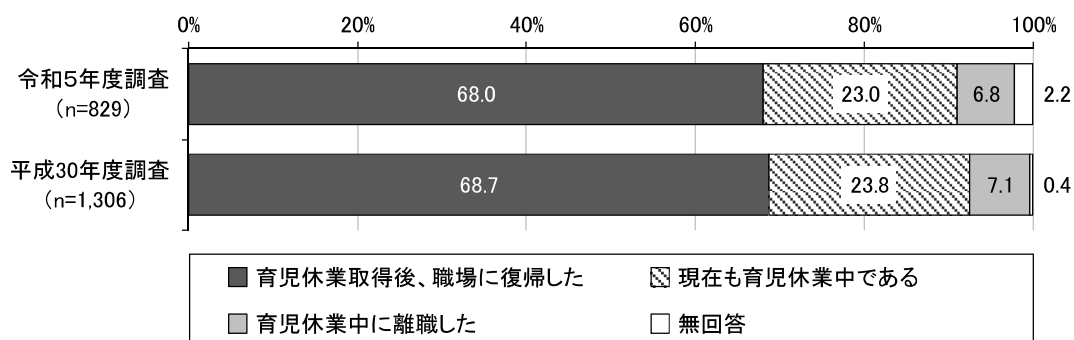
問 27 で①母親もしくは②父親が「取得した（取得中である）」と回答した方

問 27- 1 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（①母親・②父親それぞれ1つに○）

①母親

育児休業取得後、職場に復帰したかについてみると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が68.0%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が23.0%、「育児休業中に離職した」が6.8%となっています。

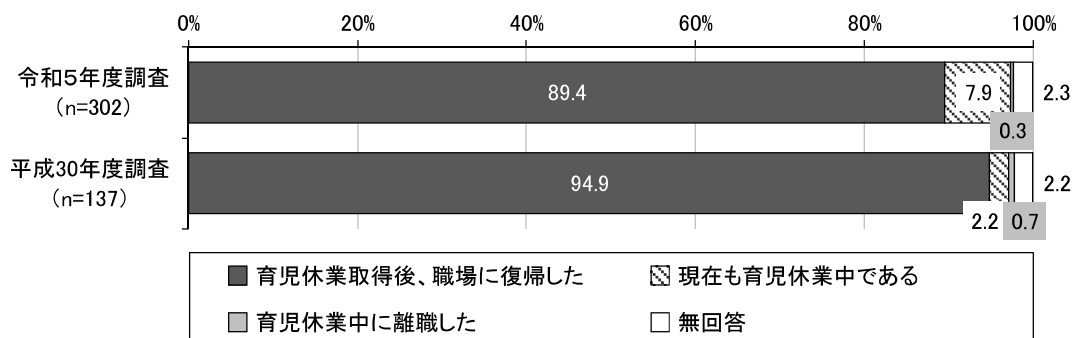
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②父親

育児休業取得後、職場に復帰したかについてみると、「育児休業取得後、職場に復帰した」が89.4%と最も高く、次いで「現在も育児休業中である」が7.9%、「育児休業中に離職した」が0.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 27- 1 で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方

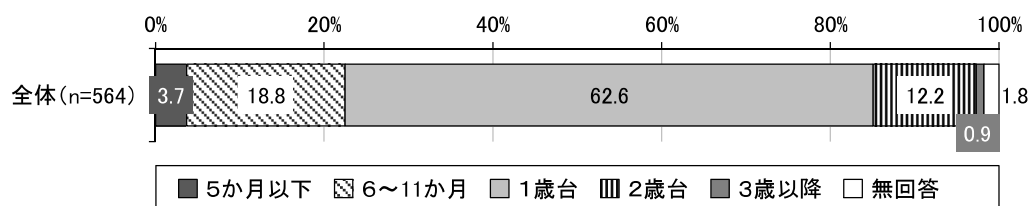
問 27- 2 育児休業からは、実際にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取りたかったですか。

(①母親・②父親それぞれ数字で記入)

①母親

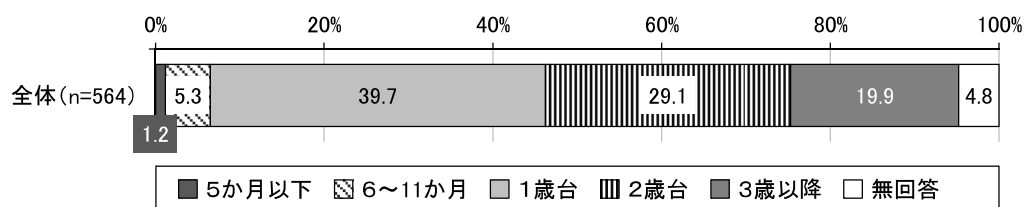
実際の取得期間

母親の実際の取得期間についてみると、「1歳台」が 62.6%と最も高く、次いで「6～11 か月」が 18.8%、「2歳台」が 12.2%となっています。



希望の取得期間

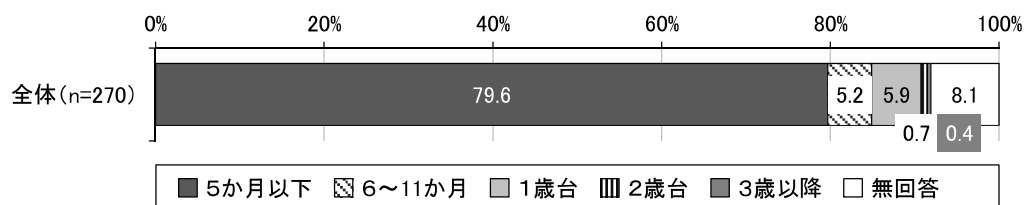
母親の希望の取得期間についてみると、「1歳台」が 39.7%と最も高く、次いで「2歳台」が 29.1%、「3歳以降」が 19.9%となっています。



②父親

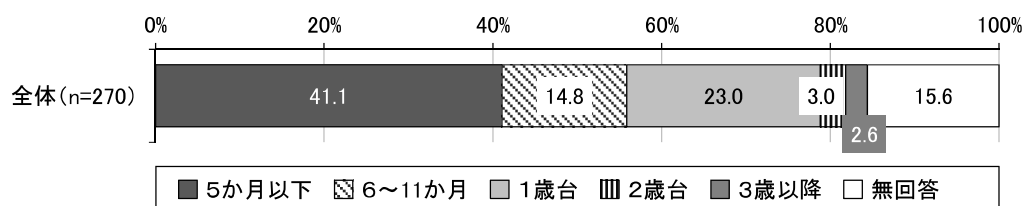
実際の取得期間

父親の実際の取得期間についてみると、「5か月以下」が 79.6%と最も高く、次いで「1歳台」が 5.9%、「6～11 か月」が 5.2%となっています。



希望の取得期間

父親の希望の取得期間についてみると、「5か月以下」が 41.1%と最も高く、次いで「1歳台」が 23.0%、「6～11 か月」が 14.8%となっています。



問 27-2 で実際の復帰と希望が異なる方

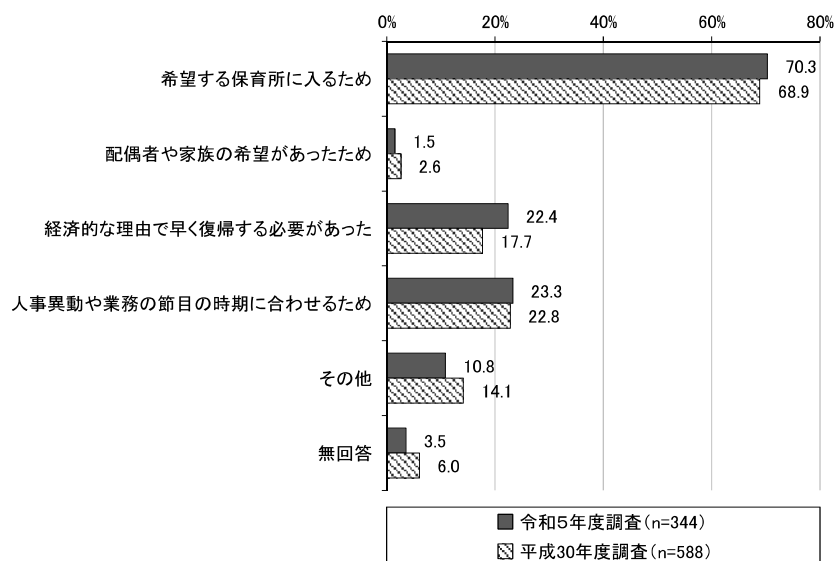
問 27-3 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

(1) 希望より早く復帰した方 (①母親・②父親それぞれあてはまるものすべてに○)

①母親

希望より早く復帰した理由についてみると、「希望する保育所に入るため」が 70.3%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 23.3%、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 22.4%となっています。

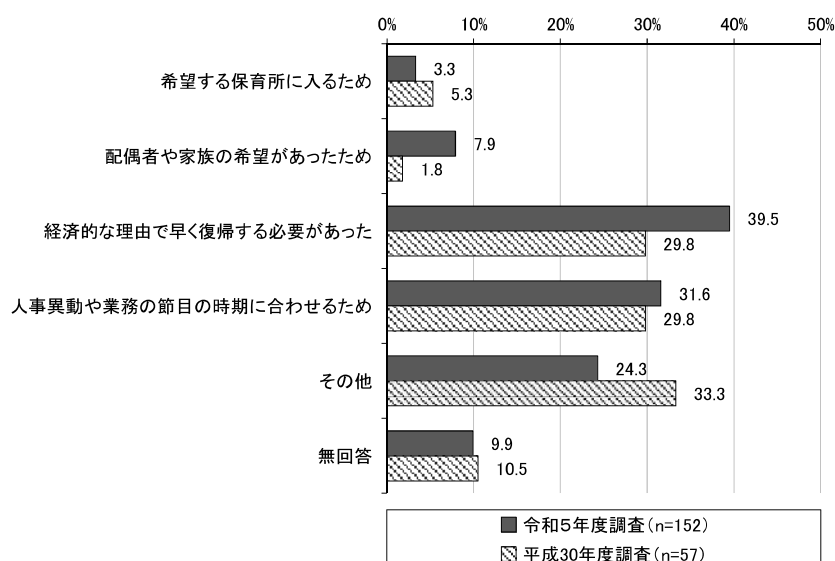
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②父親

希望より早く復帰した理由についてみると、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 39.5%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 31.6%、「その他」が 24.3%となっています。「その他」には＜会社の雰囲気＞＜評価に響かないかの不安＞＜長期で取りづらい＞等の回答がありました。

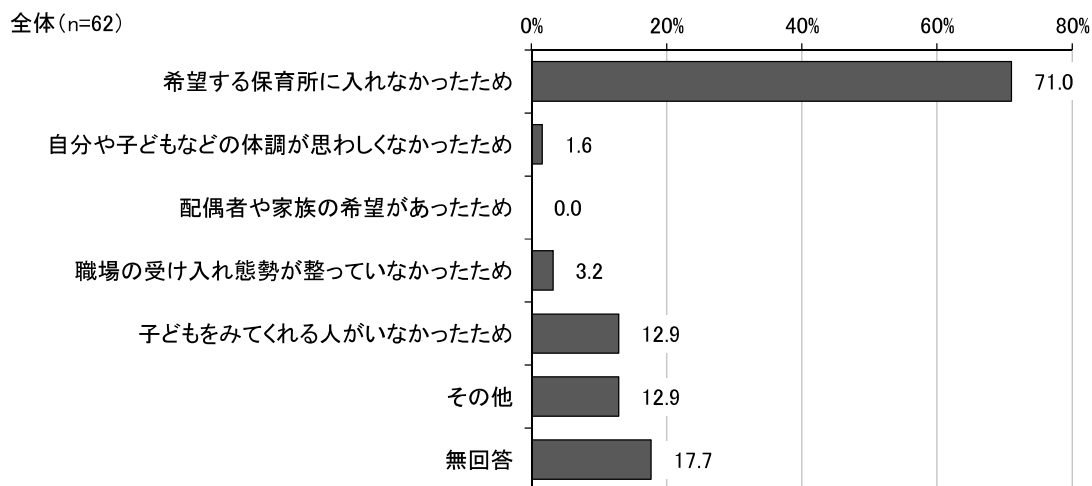
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



(2)「希望」より遅く復帰した方(①母親・②父親それぞれあてはまるものすべてに○)

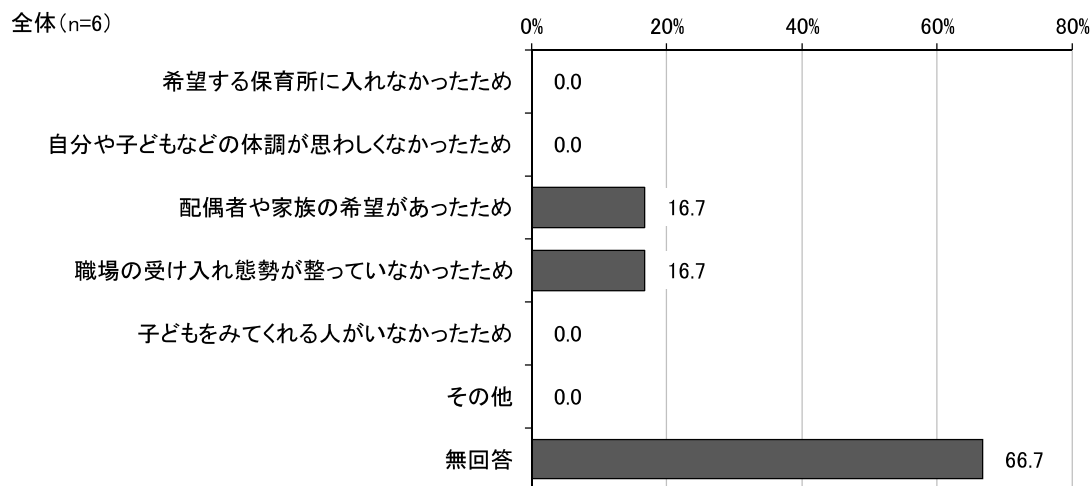
①母親

希望より遅く復帰した理由についてみると、「希望する保育所に入れなかったため」が71.0%と最も高く、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」「その他」が12.9%となっています。「その他」には＜金銭面の心配＞＜低月齢児の保育所がなかった＞＜コロナの流行のため保育園が休園になった＞等の回答がありました。



②父親

希望より遅く復帰した理由についてみると、「配偶者や家族の希望があったため」「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」が16.7%となっています。



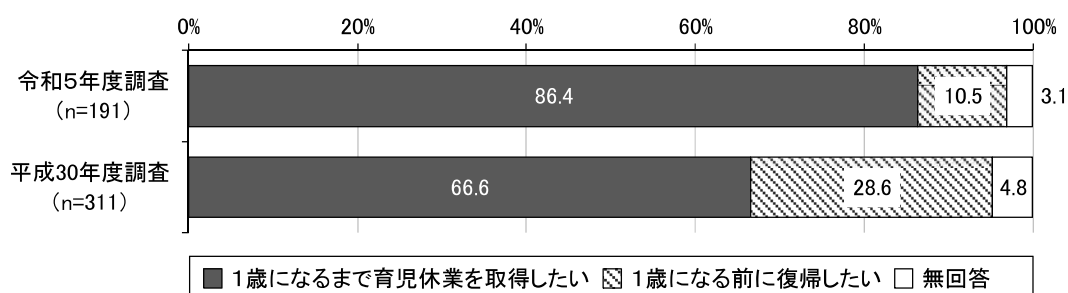
問 27-1 で①母親もしくは②父親が「現在も育児休業中である」と回答した方

問 27-4 お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、育児休業満了時（1歳）まで取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。
（①母親・②父親それぞれ1つに○）

①母親

子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、育児休業満了時（1歳）まで取得するか、または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰するかについてみると、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が86.4%と、「1歳になる前に復帰したい」の10.5%を上回っています。

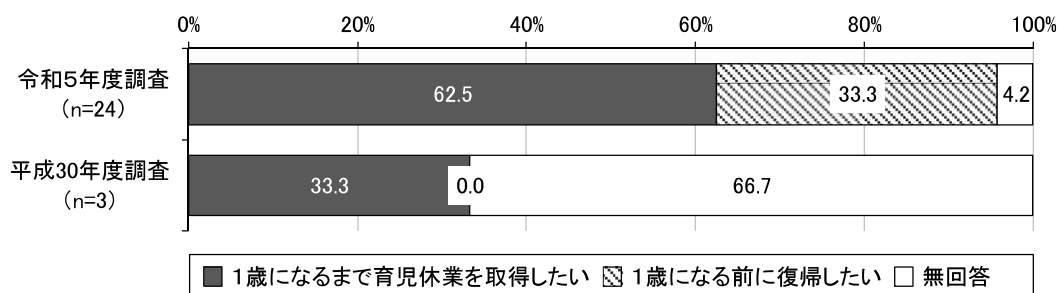
前回調査と比較すると、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が15ポイント以上増加しています。



※「1歳になるまで育児休業を取得したい」「1歳になる前に復帰したい」は、平成30年度調査では「育児休業満了まで育児休業を取得したい」「育児休業満了になる前に復帰したい」

②父親

子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、育児休業満了時（1歳）まで取得するか、または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰するかについてみると、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が62.5%と、「1歳になる前に復帰したい」の33.3%を上回っています。



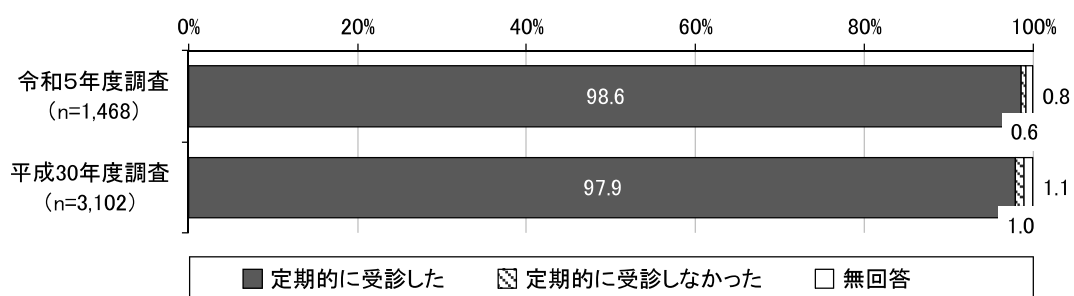
※「1歳になるまで育児休業を取得したい」「1歳になる前に復帰したい」は、平成30年度調査では「育児休業満了まで育児休業を取得したい」「育児休業満了になる前に復帰したい」

II 母親の妊娠、出産等について

問 28 お子さんの妊娠中に妊婦健康診査を受診しましたか。(1つに○)

妊娠中に妊婦健康診査を受診したかについてみると、「定期的に受診した」が 98.6%と、「定期的に受診しなかった」の 0.6%を上回っています。

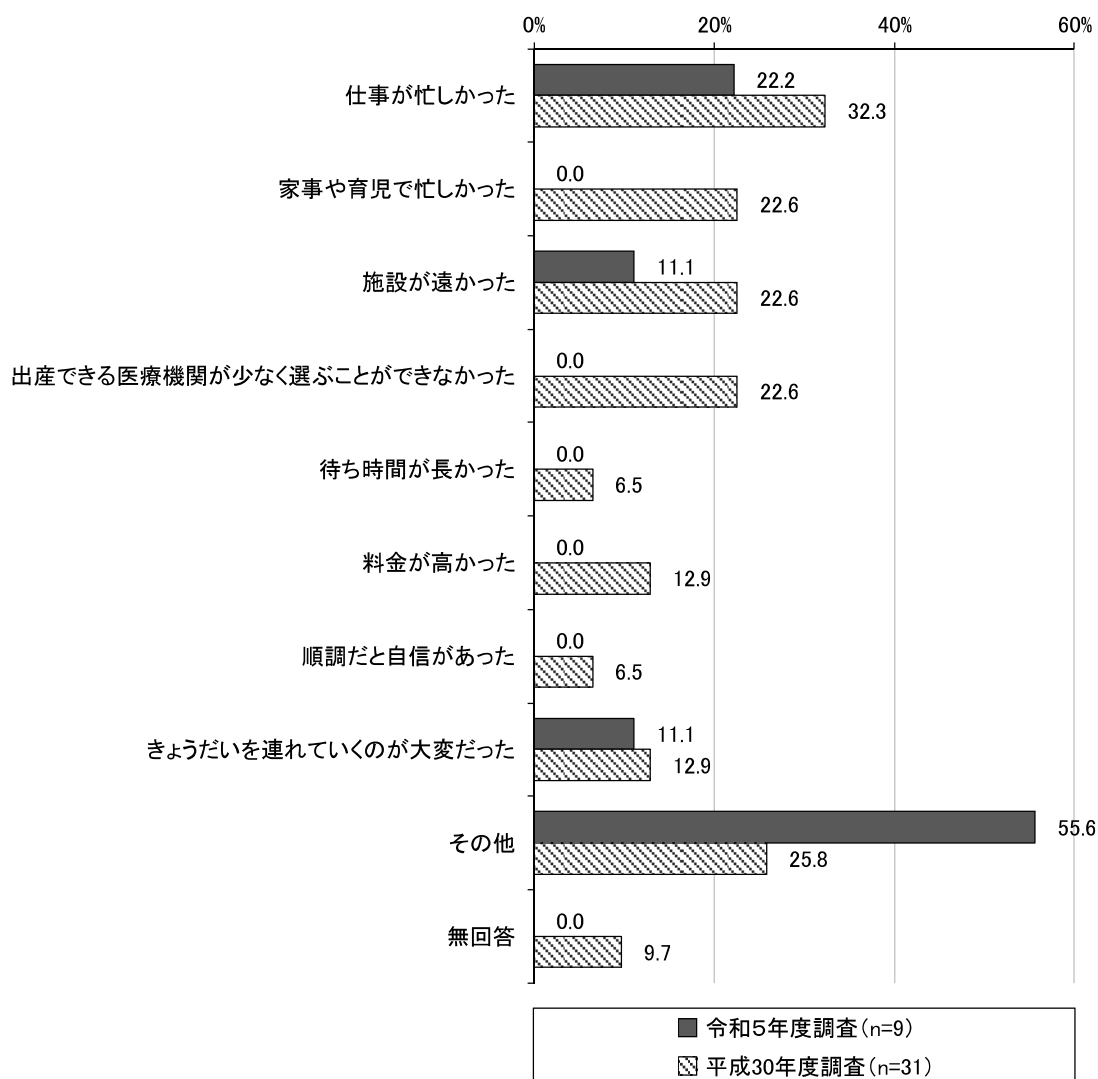
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



間 28 で「定期的に受診しなかった」と回答した方

問 28- 1 理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

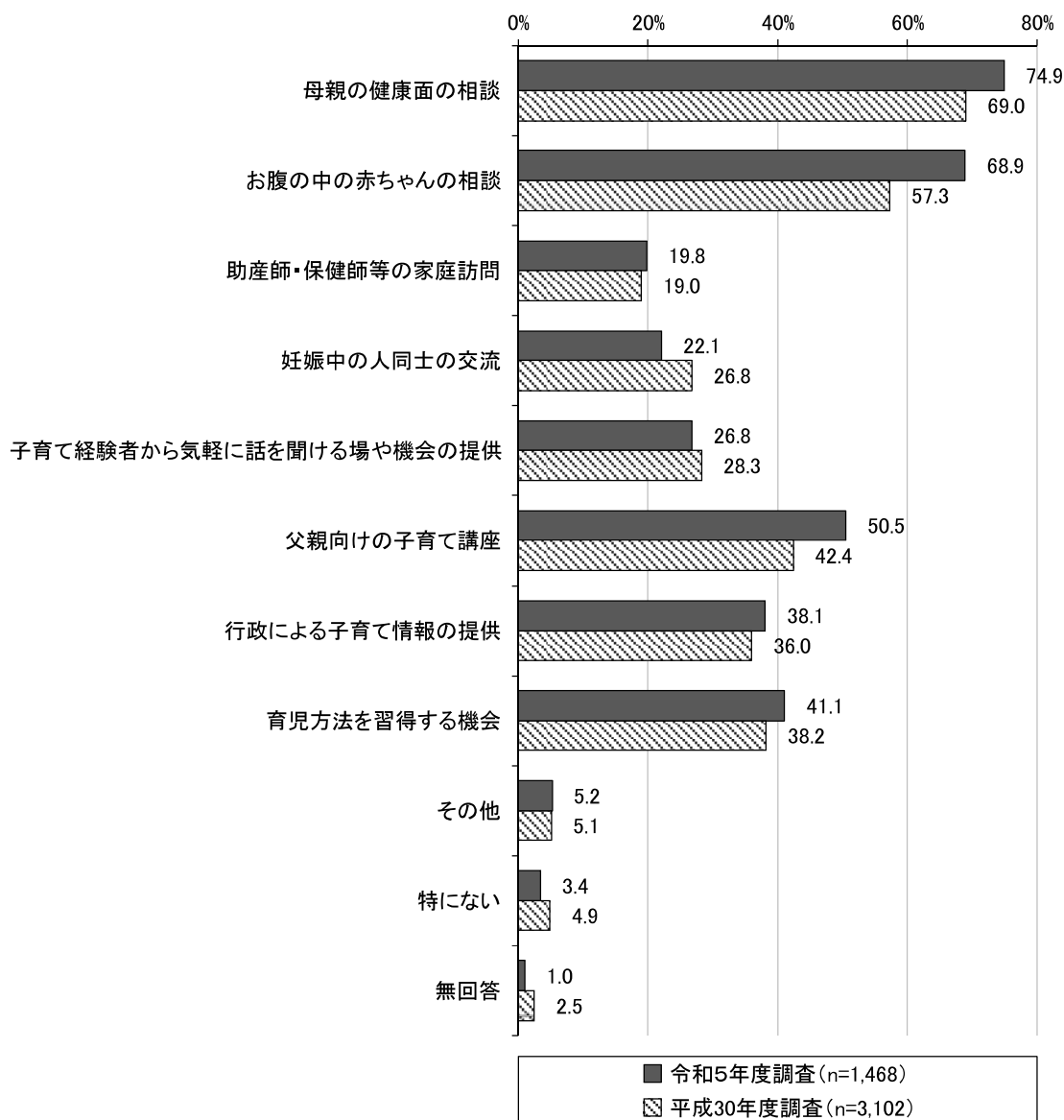
受診しなかった理由についてみると、「その他」が 55.6%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」が 22.2%、「施設が遠かった」「きょうだいを連れていくのが大変だった」が 11.1%となっています。「その他」には「妊娠に気付かなかった」「海外に住んでいたため日本のサービスを受けられなかった」等の回答がありました。



問29 妊娠中に重要なサポートとはどのようなものだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

妊娠中に重要だと思うサポートについてみると、「母親の健康面の相談」が 74.9%と最も高く、次いで「お腹の中の赤ちゃんの相談」が 68.9%、「父親向けの子育て講座」が 50.5%となっています。

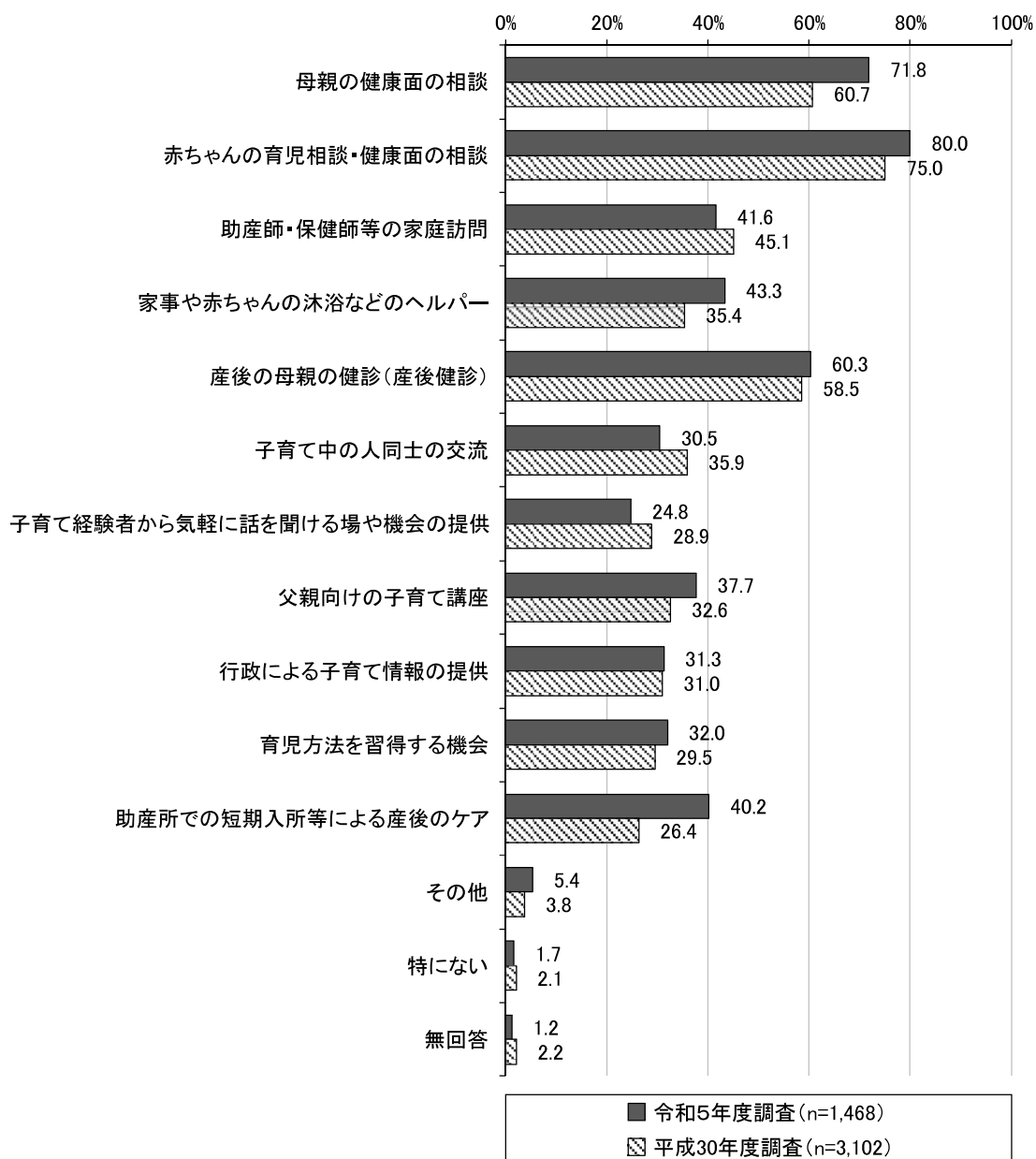
前回調査と比較すると、「お腹の中の赤ちゃんの相談」が 10 ポイント以上増加しています。



問 30 出産後に重要なサポートとはどのようなものだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

出産後に重要だと思うサポートについてみると、「赤ちゃんの育児相談・健康面の相談」が 80.0%と最も高く、次いで「母親の健康面の相談」が 71.8%、「産後の母親の健診(産後健診)」が 60.3%となっています。

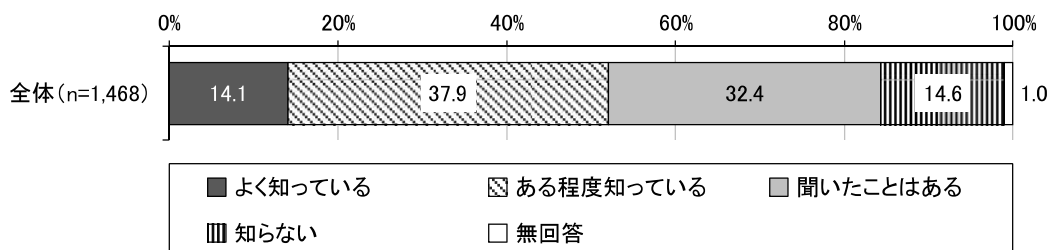
前回調査と比較すると、「母親の健康面の相談」「助産所での短期入院等による産後のケア」が 10 ポイント以上増加しています。



12 「こどもの権利」について

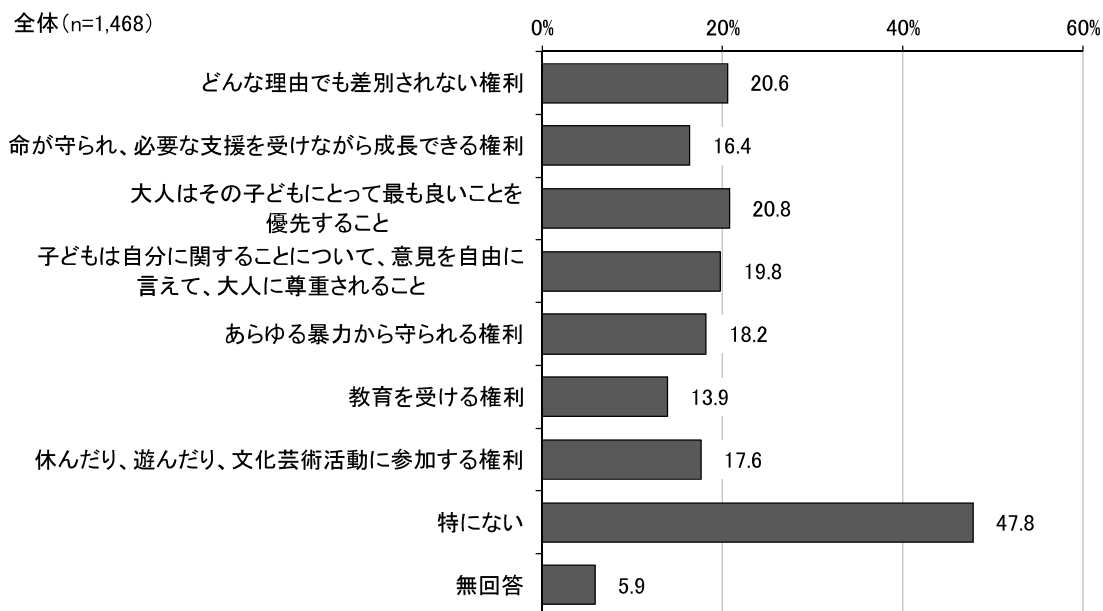
問 31 「こどもの権利」とは、子どもが大人と同じく一人の人間として持つ権利であり、安心して生活できること、自由に意見を言ったり活動したりできることなどが含まれます。あなたは、「こどもの権利」について知っていますか。（1つに○）

「こどもの権利」の認知度についてみると、「ある程度知っている」が37.9%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が32.4%、「知らない」が14.6%となっています。



問 32 あなたは、あなたのまわりの子どもについて、次にあげるような「こどもの権利」が守られていないと感じるものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「こどもの権利」が守られていないと感じるものについてみると、「特にない」が47.8%と最も高く、次いで「大人はその子どもにとって最も良いことを優先すること」が20.8%、「どんな理由でも差別されない権利」が20.6%となっています。



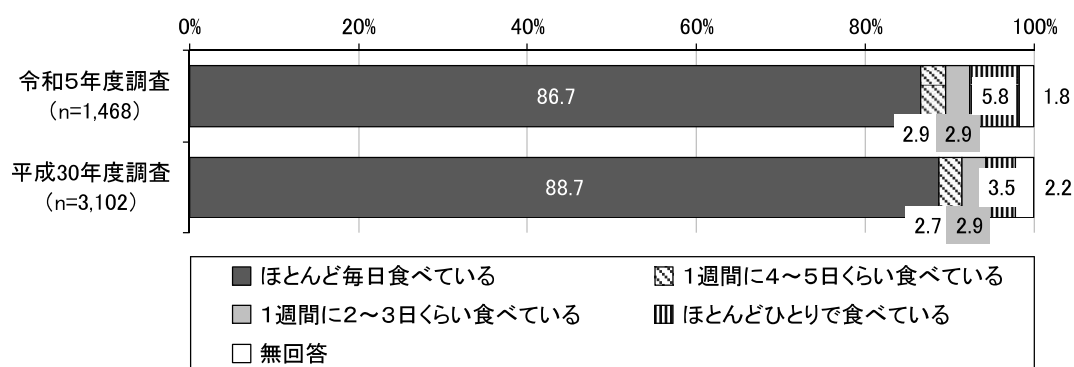
13 子育てと子育て支援について

問 33 お子さんが誰かといっしょに食べる頻度はどれくらいですか。(①～③それぞれ1つに○)

①朝食

朝食を子どもが誰かといっしょに食べる頻度についてみると、「ほとんど毎日食べている」が 86.7%と最も高く、次いで「ほとんどひとりで食べている」が 5.8%、「1週間に4～5日くらい食べている」「1週間に2～3日くらい食べている」が 2.9%となっています。

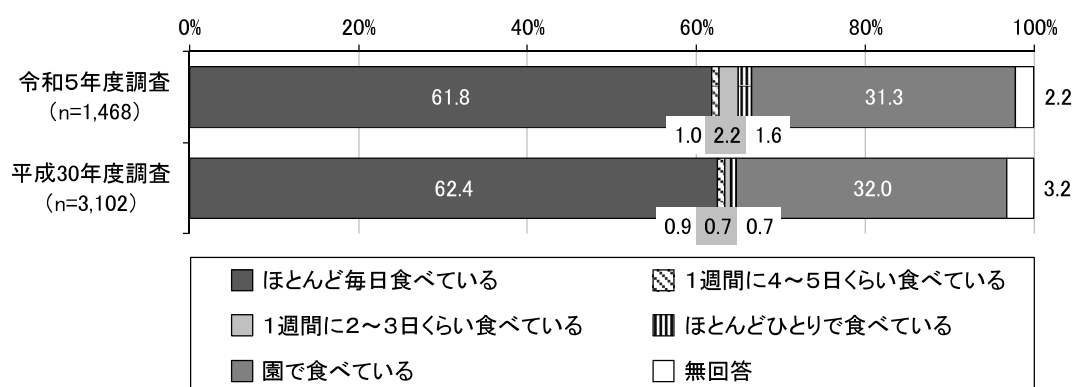
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②昼食

昼食を子どもが誰かといっしょに食べる頻度についてみると、「ほとんど毎日食べている」が 61.8%と最も高く、次いで「園で食べている」が 31.3%、「1週間に2～3日くらい食べている」が 2.2%となっています。

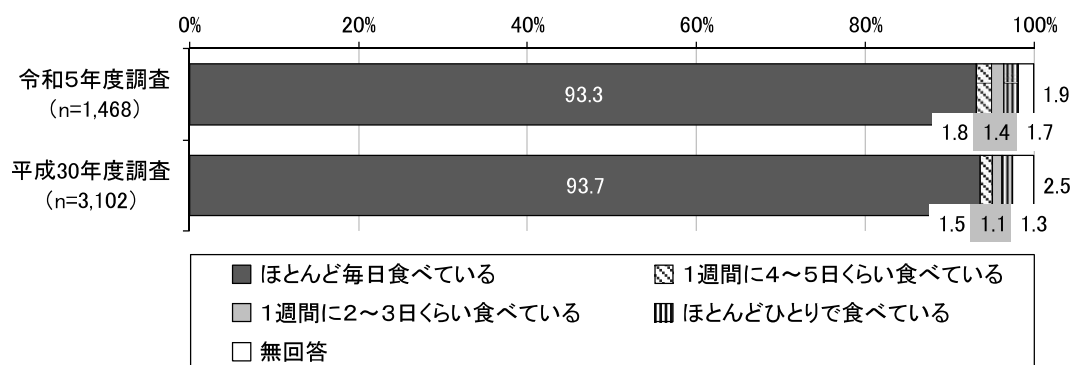
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



③夕食

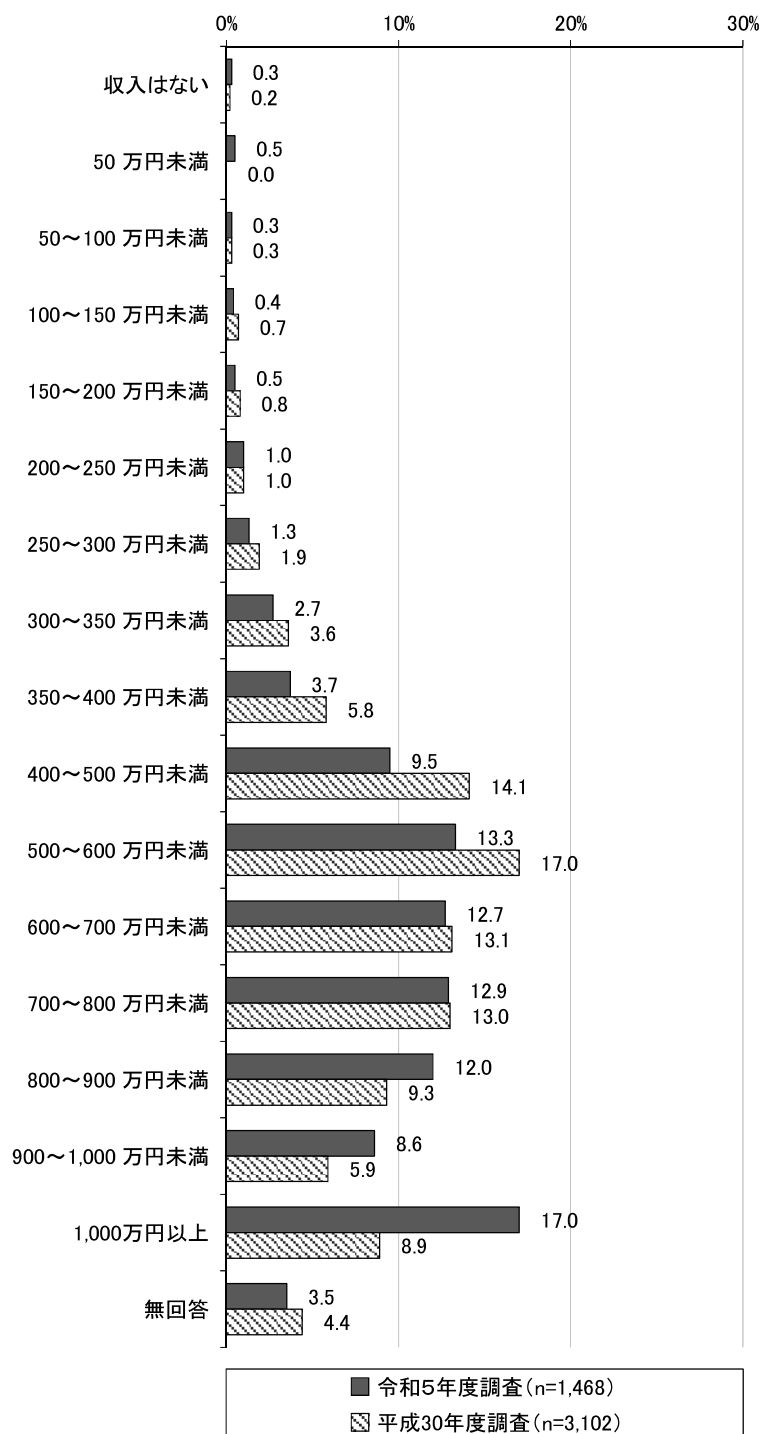
夕食を子どもが誰かといっしょに食べる頻度についてみると、「ほとんど毎日食べている」が 93.3%と最も高く、次いで「1週間に4～5日くらい食べている」が1.8%、「ほとんどひとりで食べている」が1.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 34 あなたのご家庭の全員の収入を合わせた年間の「世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）」を教えてください。単身赴任や進学などのために一時的に別居している方も含みます。
（1つに○）

年間の世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）についてみると、「1,000 万円以上」が 17.0%と最も高く、次いで「500～600 万円未満」が 13.3%、「700～800 万円未満」が 12.9%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差はありません。

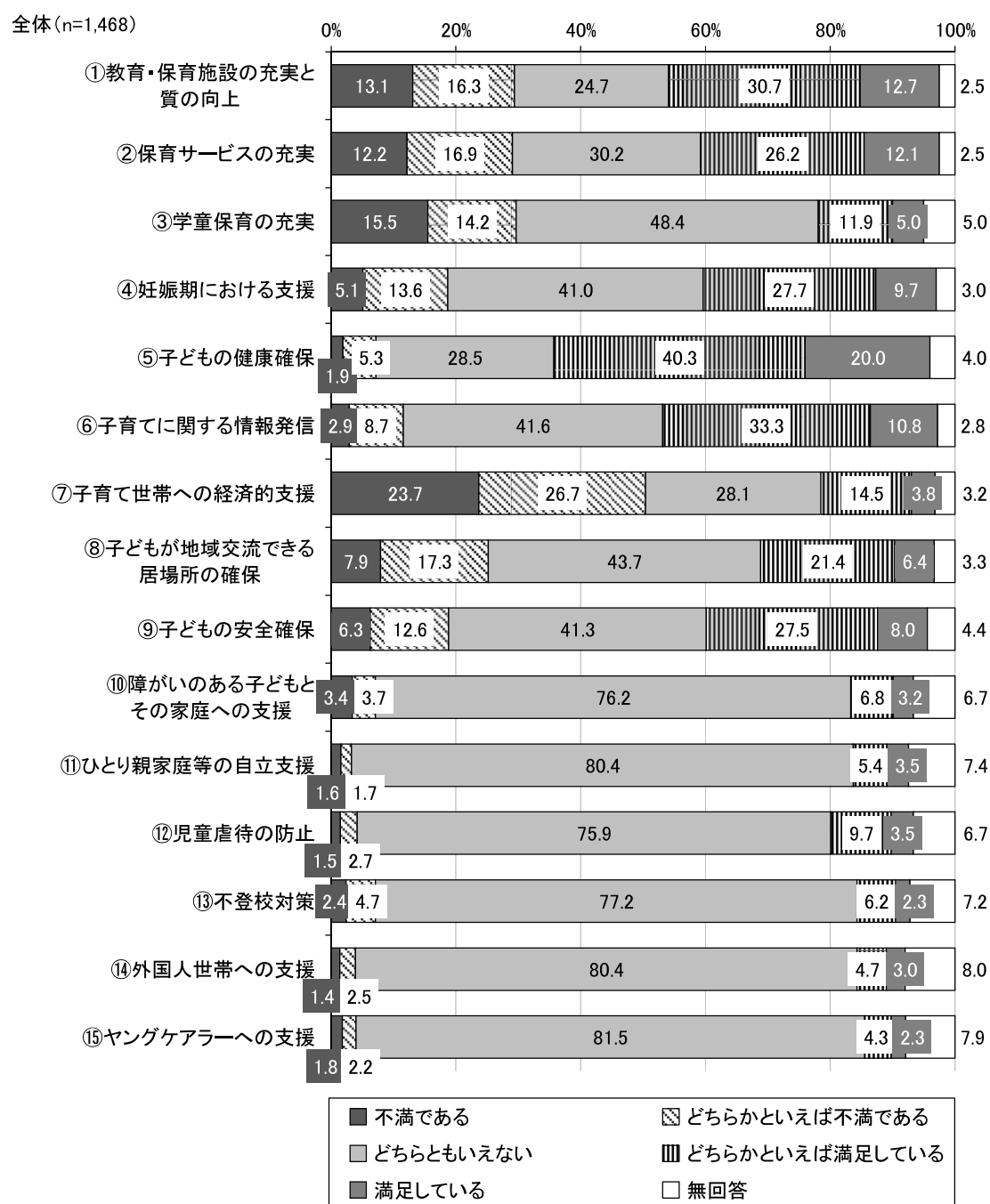


問 35 ①～⑮の市の子育て支援の取組について、(1) 現状の満足度、(2) 今後の重要度をお答えください。(それぞれ1つに○)

(1) 現状の満足度

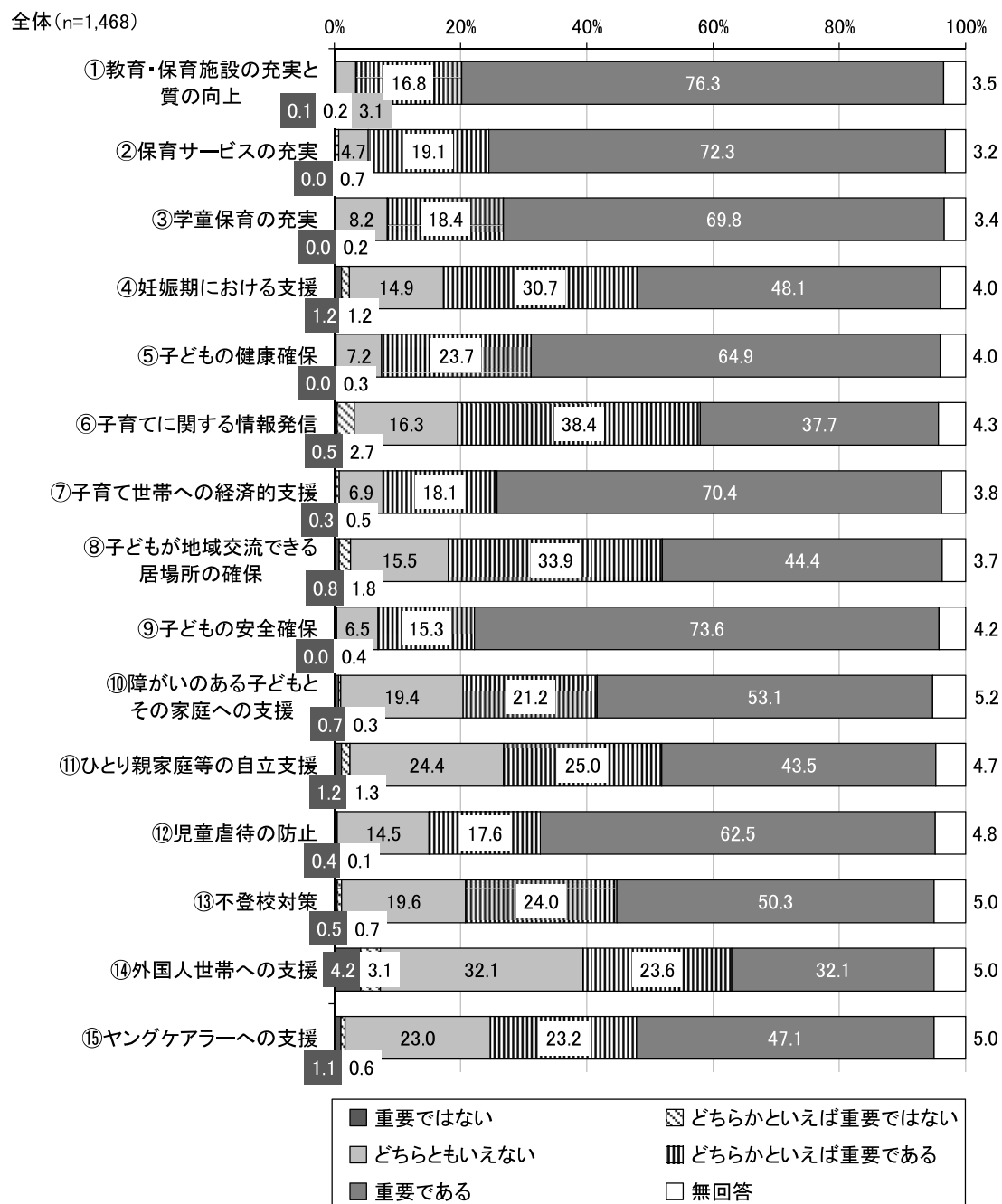
現状の満足度についてみると、『満足している(「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計)』は【⑤子どもの健康確保】が 60.3%、【⑥子育てに関する情報発信】が 44.1%、【①教育・保育施設の充実と質の向上】が 43.4%となっています。

『不満である(「不満である」と「どちらかといえば不満である」の合計)』は【⑦子育て世帯への経済的支援】が 50.4%、【③学童保育の充実】が 29.7%、【①教育・保育施設の充実と質の向上】が 29.4%となっています。



（２）今後の重要度

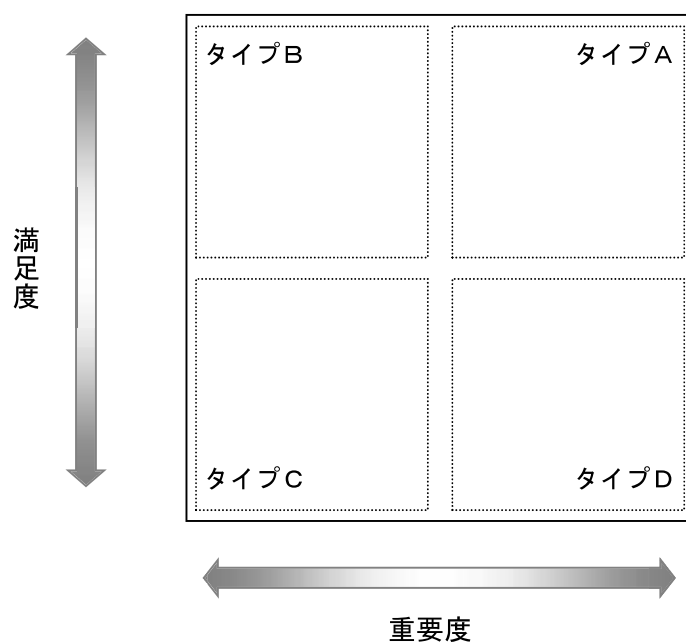
今後の重要度についてみると、『重要である（「重要である」と「どちらかといえば重要である」の合計）』は【①教育・保育施設の充実と質の向上】が 93.1%、【②保育サービスの充実】が 91.4%、【⑨子どもの安全確保】が 88.9%となっています。



◎ポートフォリオ分析による満足度・重要度の調査

散布図の右上は、重要度が高く、かつ満足度も高い項目が位置し、今後も維持していく項目となっています。右下は、重要だが不満な項目が位置しており、要改善項目が並んでいます。

各項目の満足度・重要度の得点の関係について、満足度・重要度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。



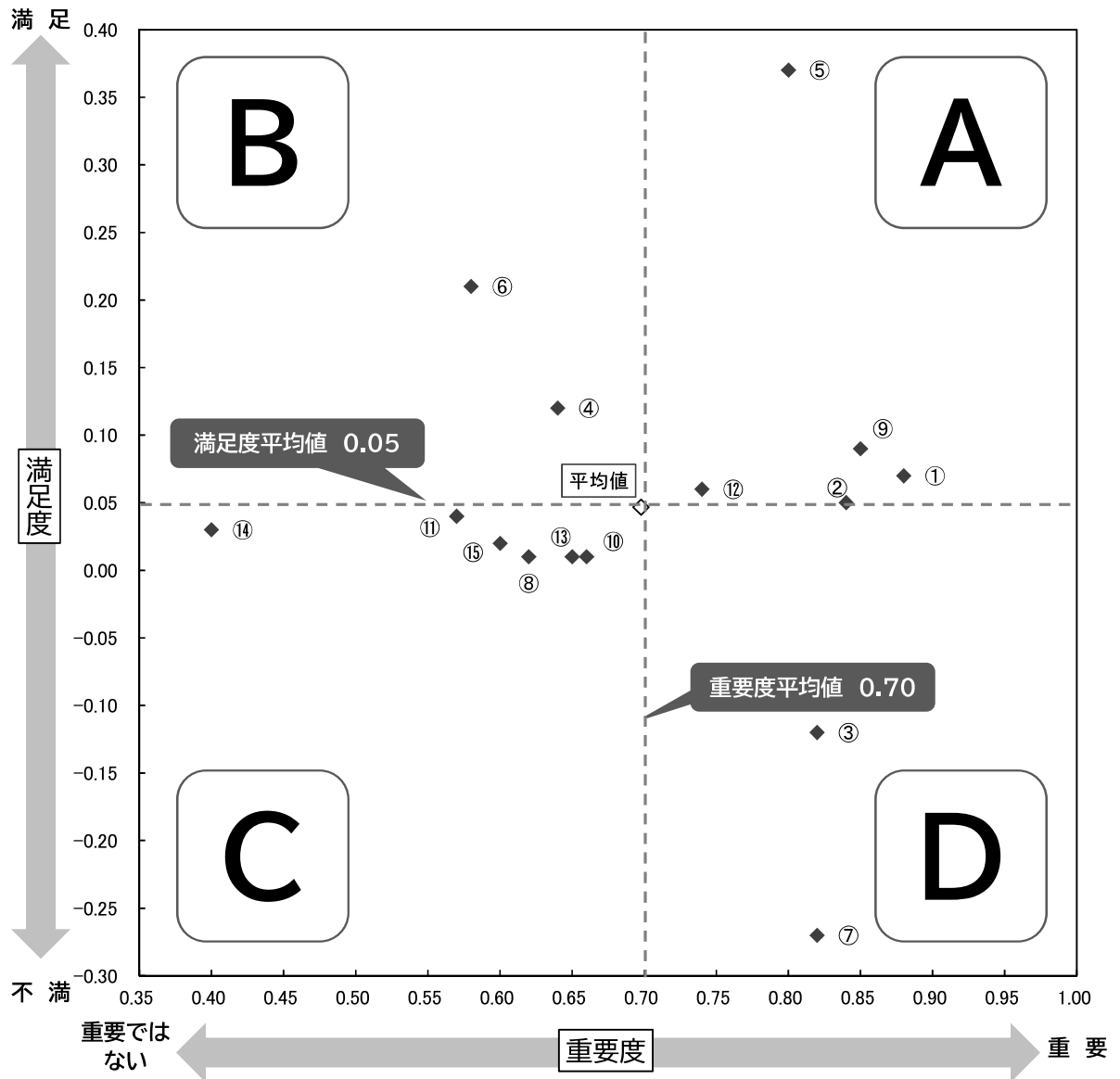
- ◆**タイプA** **継続推進**（重要度：平均点以上 満足度：平均点以上）
重要性の認識も取組に対する満足度もともに高く、現在の水準を下げないように継続的な対応が望まれます。
- ◆**タイプB** **成果検証**（重要度：平均点未満 満足度：平均点以上）
重要性の認識は低いですが、取組に対する満足度は高く、一定の成果を上げているため、必要性を検証し適切な対応が望まれます。
- ◆**タイプC** **検討課題**（重要度：平均点未満 満足度：平均点未満）
重要性の認識は低く、取組に対する満足度も低く、必要性の検証や取組内容の見直しなどを検討し適切な対応が求められます。
- ◆**タイプD** **重点課題**（重要度：平均点以上 満足度：平均点未満）
重要性の認識は高いが、取組に対する満足度は低く、他区分の取組に優先した重点的な対応が望まれます。

<加点方法>

満足度…「満足している」1点、「どちらかといえば満足している」0.5点、
「どちらかといえば不満である」－0.5点、「不満である」－1点

重要度…「重要である」1点、「どちらかといえば重要である」0.5点、
「どちらかといえば重要ではない」－0.5点、「重要ではない」－1点

「問 35」の項目であげている 15 の取り組みについてポートフォリオによる分析を実施しています。

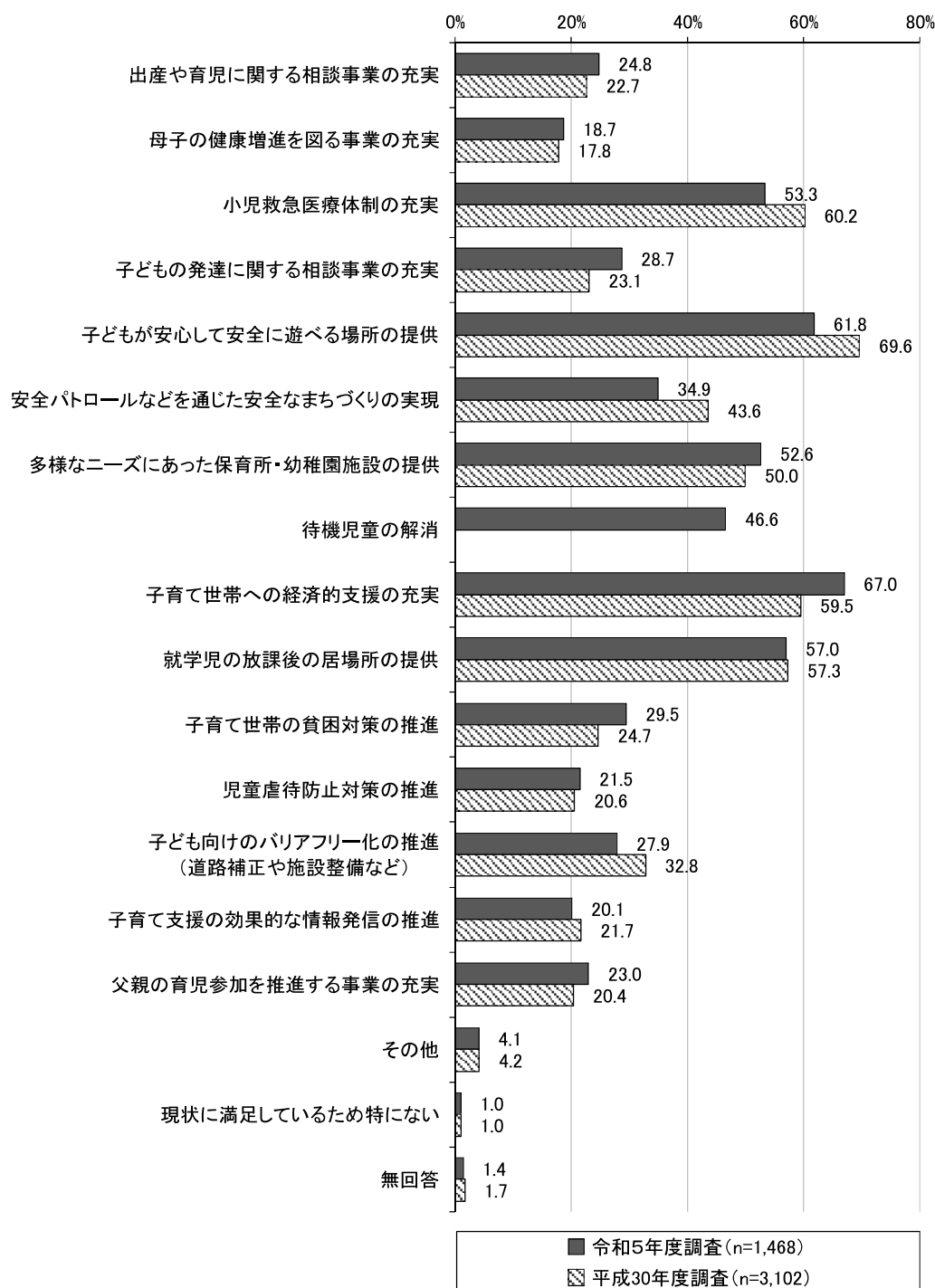


①	教育・保育施設の充実と質の向上	A	⑨	子どもの安全確保	A
②	保育サービスの充実	A	⑩	障がいのある子どもとその家庭への支援	C
③	学童保育の充実	D	⑪	ひとり親家庭等の自立支援	C
④	妊娠期における支援	B	⑫	児童虐待の防止	A
⑤	子どもの健康確保	A	⑬	不登校対策	C
⑥	子育てに関する情報発信	B	⑭	外国人世帯への支援	C
⑦	子育て世帯への経済的支援	D	⑮	ヤングケアラーへの支援	C
⑧	子どもが地域交流できる居場所の確保	C			

問 36 子育て支援でもっと力をいれてほしいものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

子育て支援でもっと力をいれてほしいものについてみると、「子育て世帯への経済的支援の充実」が67.0%と最も高く、次いで「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」が61.8%、「就学児の放課後の居場所の提供」が57.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



※「待機児童の解消」は令和5年度調査のみの選択肢

※「就学児の放課後の居場所の提供」は、平成 30 年度調査では「就学児にかかる放課後の居場所の提供」

■年齢別・世帯別

年齢別にみると、0歳～3歳では「子育て世帯への経済的支援の充実」、4歳では「就学児の放課後の居場所の提供」、5歳では「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」が最も高くなっています。

世帯別にみると、いずれも「子育て世帯への経済的支援の充実」が最も高くなっています。

単位：％		事業の充実 出産や育児に関する相談	母子の健康増進を図る事業の充実	小児救急医療体制の充実	子どもの発達に関する相談事業の充実	子どもが安心して安全に遊べる場所の提供	安全なまちづくりを通じた安全なまちづくりの実現	多様なニーズにあった提供 育所・幼稚園施設	待機児童の解消	子育て世帯への経済的支援の充実
全体 (n=1,468)		24.8	18.7	53.3	28.7	61.8	34.9	52.6	46.6	67.0
年齢別	0歳 (令和5年4月～) (n=154)	34.4	18.2	46.8	37.0	58.4	30.5	57.8	59.7	71.4
	0歳 (令和4年4月～令和5年3月) (n=94)	23.4	18.1	48.9	21.3	54.3	22.3	63.8	61.7	69.1
	1歳 (n=233)	26.2	21.0	54.9	27.0	61.4	33.9	61.8	59.7	70.4
	2歳 (n=224)	25.4	24.6	55.8	29.9	65.2	32.6	55.4	47.3	74.1
	3歳 (n=252)	25.0	19.4	51.6	28.2	66.7	35.7	48.0	41.3	67.5
	4歳 (n=259)	21.6	15.1	50.6	30.5	57.9	35.5	48.3	33.6	59.5
	5歳 (n=240)	21.7	14.2	60.0	26.3	64.2	44.2	43.3	38.3	60.8
世帯別	ひとり親世帯 (n=101)	25.7	23.8	52.5	33.7	61.4	31.7	47.5	43.6	67.3
	2世代世帯 (n=1,282)	24.7	18.4	53.5	28.1	62.5	35.3	53.2	47.0	66.3
	3世代世帯 (n=64)	21.9	15.6	50.0	32.8	53.1	39.1	46.9	39.1	75.0

単位：％		就学児の放課後の居場所の提供	子育て世帯の貧困対策の推進	児童虐待防止対策の推進	子ども向けのバリアフリー化の推進など（道路補正）	子育て支援の効果的な情報発信の推進	父親の育児参加を推進する事業の充実	その他	現状に満足しているため	無回答
全体 (n=1,468)		57.0	29.5	21.5	27.9	20.1	23.0	4.1	1.0	1.4
年齢別	0歳 (令和5年4月～) (n=154)	51.9	27.3	21.4	27.3	24.7	24.7	7.8	0.0	2.6
	0歳 (令和4年4月～令和5年3月) (n=94)	47.9	23.4	13.8	23.4	12.8	25.5	4.3	1.1	1.1
	1歳 (n=233)	58.4	35.6	22.7	27.5	20.6	21.0	3.9	0.4	0.9
	2歳 (n=224)	57.6	30.8	25.4	32.1	24.1	25.0	2.7	0.9	0.4
	3歳 (n=252)	59.5	27.0	21.8	28.2	21.4	22.2	3.2	0.4	2.4
	4歳 (n=259)	59.8	29.0	19.7	28.2	19.3	22.4	3.9	1.9	1.5
	5歳 (n=240)	56.7	29.6	21.3	25.4	14.6	22.1	4.2	1.7	0.8
世帯別	ひとり親世帯 (n=101)	56.4	36.6	21.8	28.7	18.8	16.8	3.0	3.0	1.0
	2世代世帯 (n=1,282)	57.2	28.4	21.1	27.7	20.0	23.5	3.9	0.8	1.4
	3世代世帯 (n=64)	54.7	37.5	31.3	35.9	28.1	25.0	9.4	1.6	1.6

■地域別

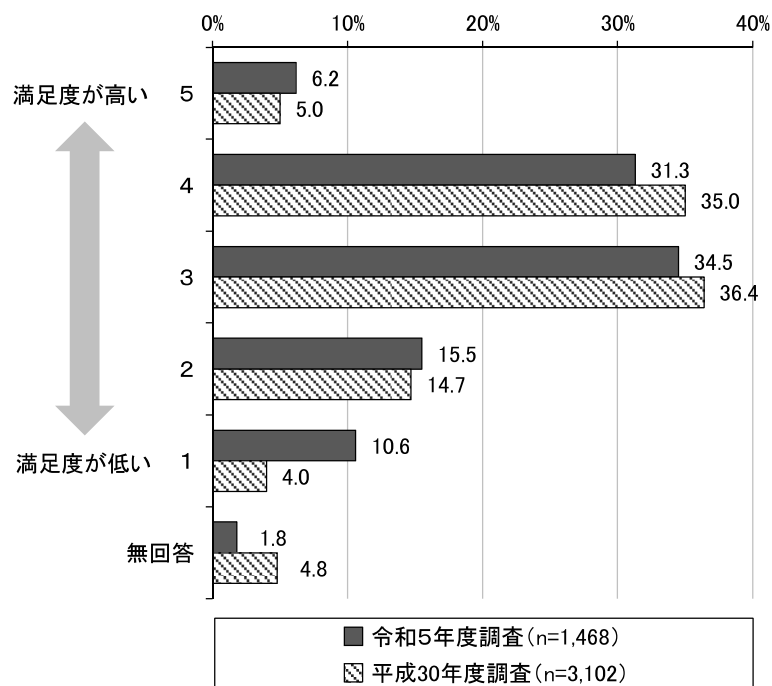
地域別にみると、上郷・下今泉地域では「就学児の放課後の居場所の提供」、国分地域では「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」、その他の地域では「子育て世帯への経済的支援の充実」が最も高くなっています。

単位：％		事業の充実 出産や育児に関する相談	母子の健康増進を図る事業の充実	小児救急医療体制の充実	子どもの発達に関する相談事業の充実	子どもが安心して安全に遊べる場所の提供	安全パトロールなどを通じた安全なまちづくりの実現	多様なニーズにあった保育所・幼稚園施設の提供	待機児童の解消	子育て世帯への経済的支援の充実
全体 (n=1,468)		24.8	18.7	53.3	28.7	61.8	34.9	52.6	46.6	67.0
地域別	柏ヶ谷地域 (n=155)	29.0	18.1	57.4	33.5	62.6	40.0	56.8	45.8	74.8
	上今泉地域 (n=99)	31.3	25.3	48.5	33.3	67.7	32.3	50.5	56.6	68.7
	上郷・下今泉地域 (n=302)	21.9	16.6	52.6	28.1	56.6	34.1	55.3	53.6	63.6
	国分地域 (n=254)	26.4	17.7	46.5	25.6	64.2	26.0	50.8	46.1	56.7
	海西地域 (n=200)	24.5	19.0	51.5	28.0	62.5	38.5	54.0	44.0	68.5
	大谷地域 (n=174)	24.7	23.6	60.3	35.6	63.2	37.4	55.7	46.6	67.8
	杉久保地域 (n=75)	18.7	13.3	54.7	22.7	61.3	36.0	36.0	37.3	77.3
	本郷地域 (n=18)	16.7	5.6	55.6	5.6	66.7	55.6	44.4	33.3	88.9
	社家地域 (n=73)	21.9	17.8	58.9	24.7	57.5	35.6	50.7	39.7	74.0
	門沢橋地域 (n=58)	25.9	24.1	60.3	24.1	63.8	46.6	60.3	39.7	75.9
単位：％		就学児の放課後の居場所の提供	子育て世帯の貧困対策の推進	児童虐待防止対策の推進	子ども向けのバリアフリー化の推進など（道路補正や施設整備など）	子育て支援の効果的な情報発信の推進	父親の育児参加を推進する事業の充実	その他	現状に満足していない	無回答
全体 (n=1,468)		57.0	29.5	21.5	27.9	20.1	23.0	4.1	1.0	1.4
地域別	柏ヶ谷地域 (n=155)	54.8	40.6	23.2	28.4	20.6	21.3	6.5	1.3	0.0
	上今泉地域 (n=99)	65.7	34.3	25.3	29.3	22.2	28.3	3.0	2.0	0.0
	上郷・下今泉地域 (n=302)	65.9	19.2	15.6	23.8	19.2	17.2	4.0	0.7	1.3
	国分地域 (n=254)	56.7	24.4	18.5	22.8	19.7	22.0	6.3	0.4	2.4
	海西地域 (n=200)	57.5	31.0	22.5	29.5	24.5	27.0	4.0	0.5	1.0
	大谷地域 (n=174)	53.4	33.3	27.0	37.9	17.8	29.9	2.9	2.3	1.1
	杉久保地域 (n=75)	42.7	30.7	24.0	21.3	16.0	17.3	5.3	0.0	0.0
	本郷地域 (n=18)	55.6	16.7	16.7	27.8	16.7	22.2	0.0	0.0	5.6
	社家地域 (n=73)	42.5	37.0	24.7	26.0	20.5	24.7	2.7	2.7	1.4
	門沢橋地域 (n=58)	51.7	46.6	29.3	34.5	20.7	19.0	0.0	0.0	3.4

問 37 海老名市における子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。(1つに○)

海老名市における子育ての環境や支援への満足度についてみると、「3」が 34.5%と最も高く、次いで「4」が 31.3%、「2」が 15.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 38 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

いただいたご意見・ご要望を抜粋し、原文のまま掲載しています。

■教育・保育施設の充実と質の向上

- ・マンションが増えているのにも関わらず保育園が足りていない。R6 年度の申し込み数と募集数の差が1 歳児だと 200 人もいる。どうにかしてほしい。
- ・希望の保育園に入るためにゼロ歳で園に子供を預けた。本当は3才児からあずけたかったのでみんなの希望する時に希望する園に入れる体制がほしい。
- ・駅近のマンションが多く建ち、同じく駅近の保育所の需要が高まっているため、町田市が行っているような遠くの保育園への送迎を請け負ってくれるサービスができると大変ありがたいです。
- ・マンションを建て、人口が増えることは市にとっても大きなメリットがあると思います。ただ人口が増えたことによって希望する保育園に入れず、小学校の教室が足りないという弊害も出てきています。マンションを建てるだけでなく、その後の見通しを持って教育施設の整備もしっかりやってほしいです。保育園の入所について共働き世帯が増えている中、特定の職業だけに点数を上乗せするのは不公平だと思います。また 70 歳以下の祖父母が市内に住んでいて、祖父母が未就労の場合に点数を引くことにも疑問を感じます。親世代でさえ体力的にきついと思う子育てを祖父母に長い時間任せるのは無理です。保育園入所の点数のあり方について見直すべきだと思います。昨今、世間的に個性を尊重する傾向があります。多様性を重視するため、保育士や幼稚園小学校教諭の人員を増やし、子どもに携わる仕事をしている方達が余裕を持って働くことができる環境整備を整えていただきたいです。

■保育サービスの充実

- ・保育園に沢山助けられています。一時保育の充実を図り、多くの保護者がリフレッシュ目的での利用が出来れば良いと考えます。
- ・一時預かりサービスのニーズは高く、現状実施保育所では利用希望が殺到しパンクしている。まずは冠婚葬祭などの必要時に利用できるよう、できれば既存の保育所ではなく駅チカに一時預かり専門の施設を作って欲しい。
- ・病児保育の定員が少なく、利用したい時に利用できない状況となっているため、定員の拡大を希望します。
- ・ファミリー・サポート・センターの利用について、利便性を向上させてほしいです。援助会員が利用希望者に対して圧倒的に少ない理由について、援助会員はもちろんのこと、今回のアンケートにも盛り込むべきです(もし援助会員になるとしたら、どのようなことを望むかなど)。報酬が少ないのか、フォロー体制の不足なのか、早急に検証すべき課題の一つと考えています。利用するにも、他市町村に比べて敷居が高く利用しにくいと感じます。

■学童保育の充実

- ・学童保育は民間に頼りきりであり、料金も川崎などと比べ高い。せっかく保育園に入ることができたとしても、学童に入れず仕事をやめたり、短時間しか働けなかったりする親が出てきてしまうのは、社会的にも大きな損失だと思う。学童保育について見直してほしい。
- ・保育園の入所がなかなか決まらず苦勞した為に小学校からの学童にも入所できない不安がかなり有ります。学童を増やす活動や小学校自体に学童を導入する等の対策を考えて頂きたい。
- ・夏休み、冬休み等に単発で学童保育が利用出来たら嬉しいです。子供の長期休暇の為に働き方を考えなければいけない。

■妊娠期における支援

- ・海老名市で産みたいと思う産婦人科が極端に少なすぎる。海老名市民はわざわざ大和や厚木まで足を運んで産んでいる。
- ・人口増加に伴うインフラの整備が遅れていると感じる。子育てしやすい街と聞いて引っ越して来て妊娠・出産したが、子育て支援の対象に妊娠出産期と乳幼児期が含まれていないように感じる。

■子どもの健康確保

- ・とにかく小児科が足りていません。どこも本当に予約が取れなくて、子どもにもし何かあった時に診てもらえるところがないかも、と思うととても不安です。
- ・いろいろと充実していて過ごしやすい街だと思いますが、夜間や休日に市内で医療が受けられないことが多く(厚木や座間の病院を案内される)、できれば市内で受診できると助かります。また、通常診療時間でも感染症流行時は予約が取れないなど苦勞します。受けたいときに受診できるだけの医療の枠があると安心して過ごせます。
- ・産後ケアや子供の健診の回数が都内に比べて手薄で心配です。

■子育てに関する情報発信

- ・市の子育て支援がどういったものがあるのかあまり知らないです。基本的には調べないとわからないので、より積極的な情報発信をしてほしいです。
- ・保育園に関しては案内が丁寧なのにはたいし、学童に関しては情報開示が雑で個人ですべて調べなければならぬところが不思議である。
- ・長男の発達に不安があったが、相談できる専門家が少なすぎる。手帳を持っておらずグレーな為「様子を見ましょう」で終わってしまう。療育の教室も自力で探し、自分で決めたが、療育施設の情報が極端に少ないので苦勞した。相談したりアドバイスをいただけたらできれば全然ちがうと感じる。子どもの発達に不安がある時に「大丈夫よ」と寄り添うだけでなく、専門家からの助言がほしい。

■子育て世帯への経済的支援

- ・給食費の無償化を実現して頂きたいです。
- ・経済的支援を充実してほしい。おむつやおしりふき等の助成を厚木市並みにしてほしいです。
- ・給付金など年収だけで決めるのではなく、子供の数も考えて決めてほしい。子供が3人いますが年が離れているので3人目はいても第1子が大きくなると第2子が第1子扱いになってしまうのがひどいです。年が近い3人と年が離れた3人は出費は変わらないのに考えてほしいです。大学のこととかも同じようにサポートしてもらいたいです。
- ・保育料、学童利用料が高すぎる。小学生と2歳以下の保育園児がいるわが家は1ヶ月に 10 万円もの出費がある。物価も高騰する中、海老名市はオムツ代の補助なども周辺他市に比べて少なすぎる。子育て世代の経済的な実態をもっとしっかり把握すべき。

■子どもが地域交流できる居場所の確保

- ・地域別の移動サロンを提供してくれたおかげで、近所で子育て中の親同士の仲間づくりができて楽しかったです。月2回では物足りないくらいでした。
- ・支援センターのすくすく広場の開催回数を増やしてほしい。予約なしで、定員などがないため、利用しやすい。
- ・駅の近くに子育て支援の場があるといいと思います。厚木のアミューにあるもみじの手のような遊び場があると小さい子がいるお家は助かると思います。海老名の支援センターは駅から歩いて行けないので、もみじの手をよく利用していました。
- ・座間市、大和市、相模原市のように、民間の方達を利用した子育て支援のイベントを増やして欲しい。もっと他の近隣の市を参考に成長してほしい。

■子どもの遊び場、居場所の充実

- ・運動公園など、子どもを連れて長時間遊べる場所なのに、駐車料金がかかるようになり、とても不満です。習い事をしているので1時間以上駐車するので、子どもを連れて1度入れ替えに行ったりとても不便だし、大変そうな親子さん達もたくさん見ます。せっかく子どもがたくさん遊べる場所なのに、駐車料金を気にして利用する人も減っていると思います。対策して頂きたいです。
- ・子供が屋内で安心して遊べる無料の施設が欲しい。夏の酷暑の時に遊べる場所が民間の有料施設しかなく困った。エアコンが効く、公園みたいな施設が必要。
- ・マンションなどが増え、子育て世帯が増えたと思うのですが、地域に遊べる公園が少ないように思います。もう少し増やしてほしいです。

■子どもの安全確保

- ・ベビーカーを利用する際、道路が狭いので広くしてほしい。歩く場合も、車が近くて危ない。禁煙にしてほしい(外でも)。
- ・子供が安心して過ごせる街づくりを期待しています。防犯カメラの増設や安全パトロールなどしてほしいです。
- ・通学路が安全とは思えない、歩道が狭い踏切も狭い。車が多いことが心配。

■障がいのある子どもとその家庭への支援

- ・医療ケア児に向けても、幼稚園や保育園、小学校、学童など希望に合わせた教育ができることを望みます。
- ・発達障がいや医療ケア児への支援の場がとても乏しいと思います。
- ・障がいや疾患のある子に対する保育の支援が全くなっていない。行政に聞いてみても、詳しい情報はもらえず、親が各保育園を1つ1つ回って情報を得ないといけないのは、親の心理的、身体的負担になる。子供の様子も見ずに、疾患を伝えただけで、入園拒否される親の気持ちは、わからないかもしれないが、もう少し支援はないのか。

■その他

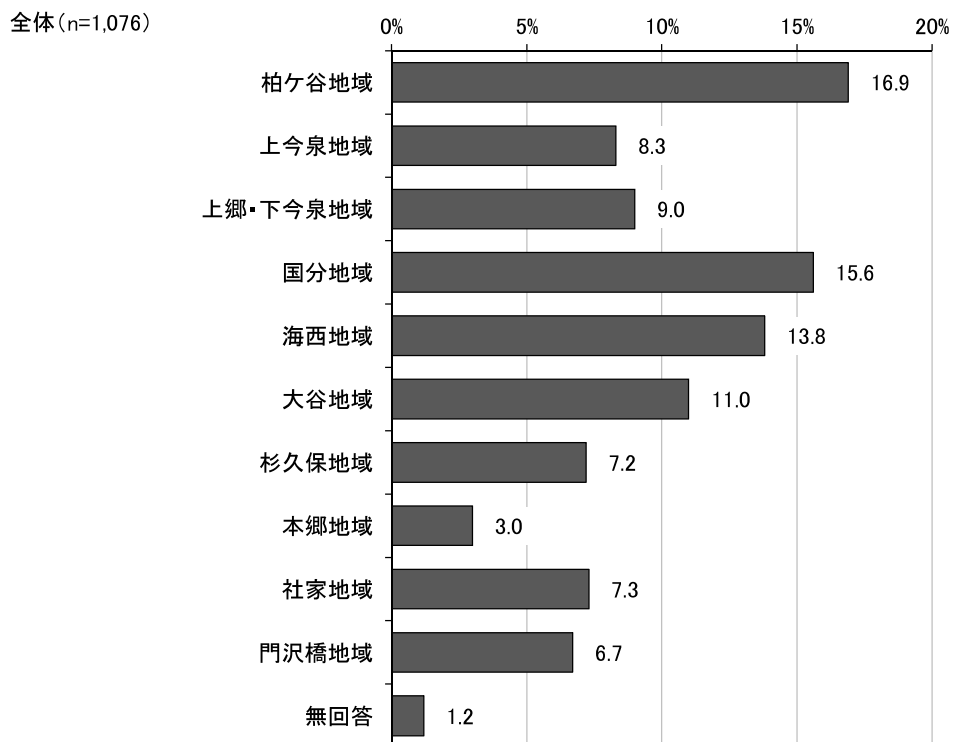
- ・海老名駅周辺での支援は比較的充実しているように思うが、海老名駅周辺から離れて暮らしている住民への支援は乏しく感じてしまうこともある。どのエリアに住んでいても市内であれば平等に支援を受けられるようにしてほしい。
- ・共働き世代が多い中で職場の理解が無いので、そういった事を市が支援するべき。
- ・兵庫県明石市を目標にして、少子化対策してください。未来に投資してください。将来の税金を納めてくれる金の卵は、日本の子供たちです。
- ・今は保育園児ですが、小1の壁が今から心配です。親の方が出勤する時間が早くなってしまうので、小学生になったら仕事を辞めなければならないかもと不安です。
- ・市役所やこどもセンター等、駅から遠く且つ路線バスが少ない事で気軽に通えない。
- ・産前は検診など定期的に相談する機会がありましたが、産後は急に放り出された感覚になったときがありました。女性の産後ケアをもっと充実させてほしいです(特に最初の半年)。

Ⅲ アンケート調査結果（小学生）

Ⅰ 居住地域について

問1 お住まいの地域（1つに○）

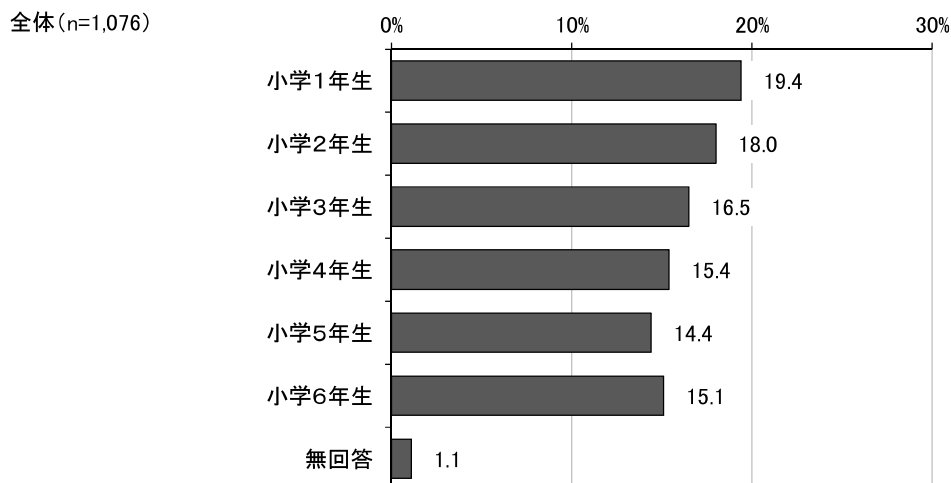
居住地域についてみると、「柏ヶ谷地域」が16.9%と最も高く、次いで「国分地域」が15.6%、「海西地域」が13.8%となっています。



2 子どもと家族の状況について

問2 お子さんの学年をお答えください。(1つに○)

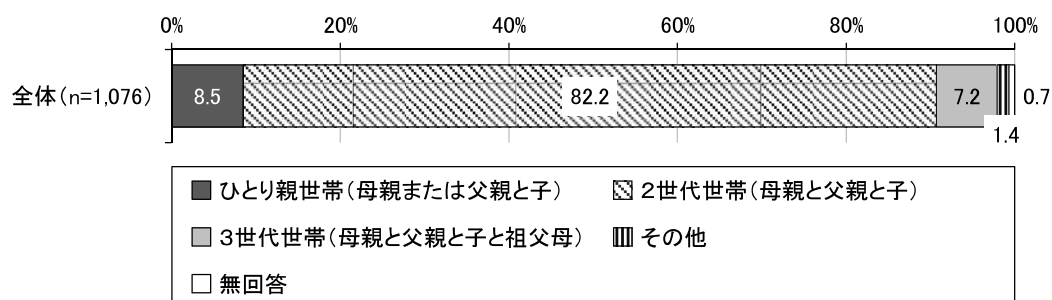
学年についてみると、「小学1年生」が19.4%と最も高く、次いで「小学2年生」が18.0%、「小学3年生」が16.5%となっています。



問3 世帯構成についてお答えください。(1つに○)

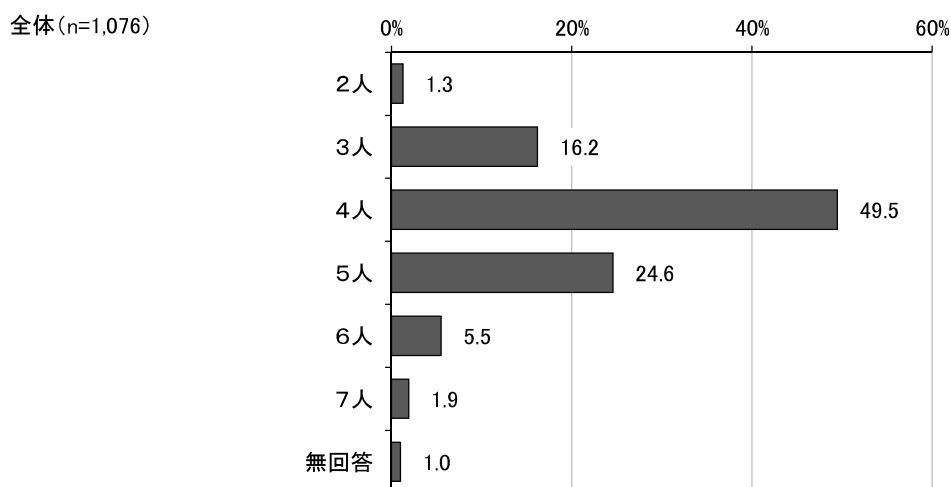
また、同居している家族全員（保護者と対象のお子さんを含む）の人数をご記入ください。

世帯構成についてみると、「2世代世帯(母親と父親と子)」が82.2%と最も高く、次いで「ひとり親世帯(母親または父親と子)」が8.5%、「3世代世帯(母親と父親と子と祖父母)」が7.2%となっています。



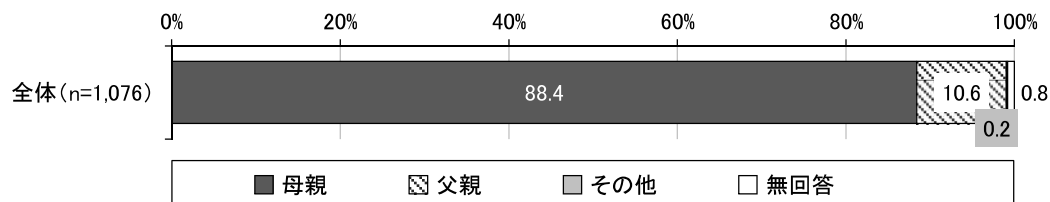
同居している家族全員の人数

同居している家族全員の人数についてみると、「4人」が 49.5%と最も高く、次いで「5人」が 24.6%、「3人」が 16.2%となっています。



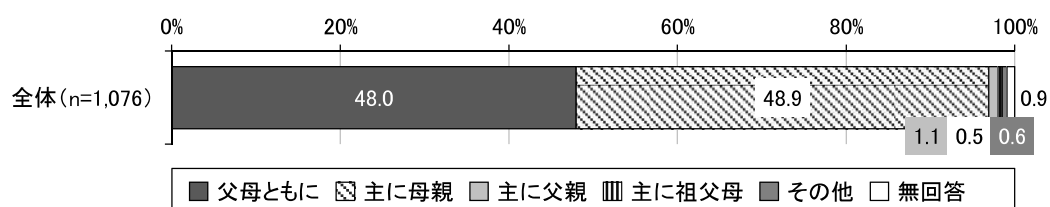
問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。
(1つに○)

調査票の回答者についてみると、「母親」が 88.4%と最も高く、次いで「父親」が 10.6%、「その他」が 0.2%となっています。



問5 お子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(1つに○)

子育てを主に行っている人についてみると、「主に母親」が 48.9%と最も高く、次いで「父母ともに」が 48.0%、「主に父親」が 1.1%となっています。

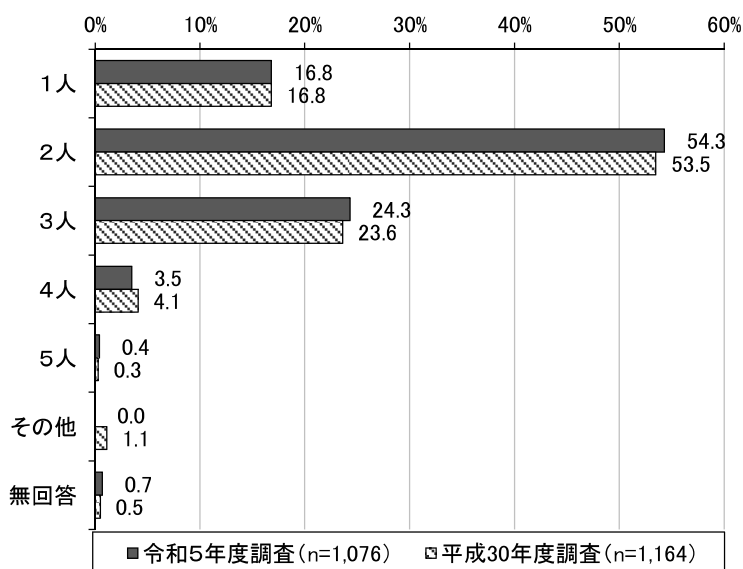


問6 あなたには、何人お子さんがいらっしゃいますか。また、理想的なお子さんの人数は何人ですか。（それぞれ1つに○）

①実際のお子さんの人数

実際の子どもの人数についてみると、「2人」が 54.3%と最も高く、次いで「3人」が 24.3%、「1人」が 16.8%となっています。

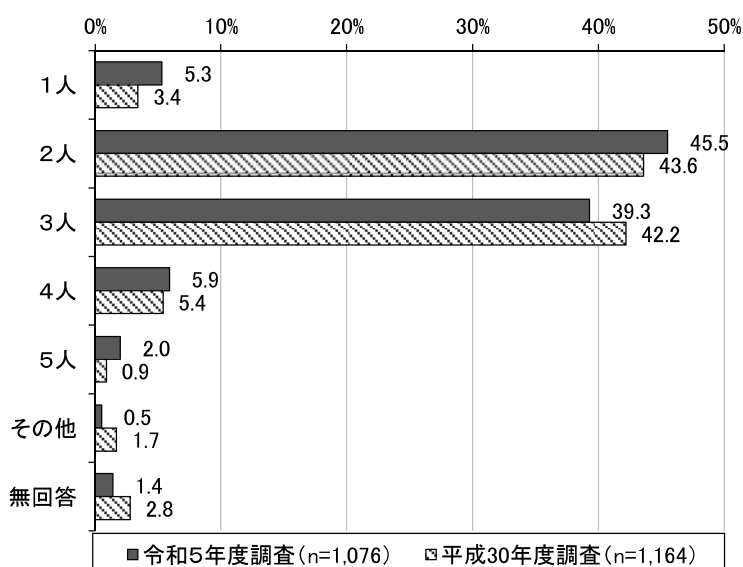
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②理想のお子さんの人数

理想の子どもの人数についてみると、「2人」が 45.5%と最も高く、次いで「3人」が 39.3%、「4人」が 5.9%となっています。

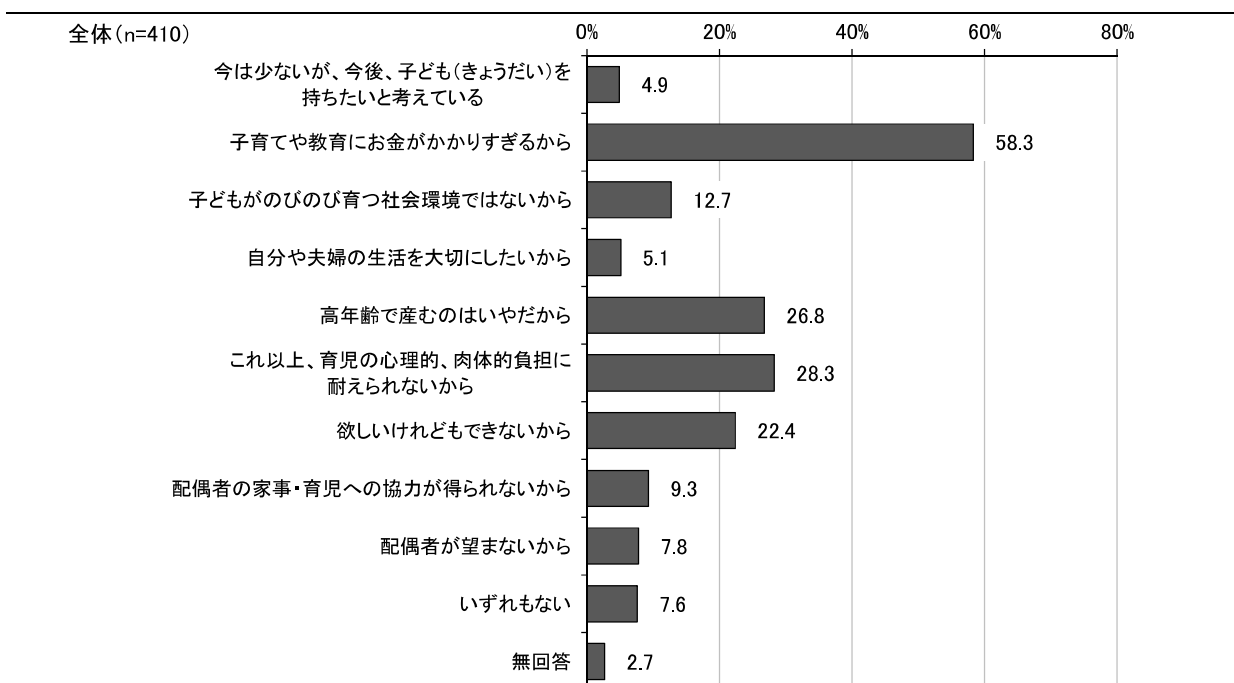
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



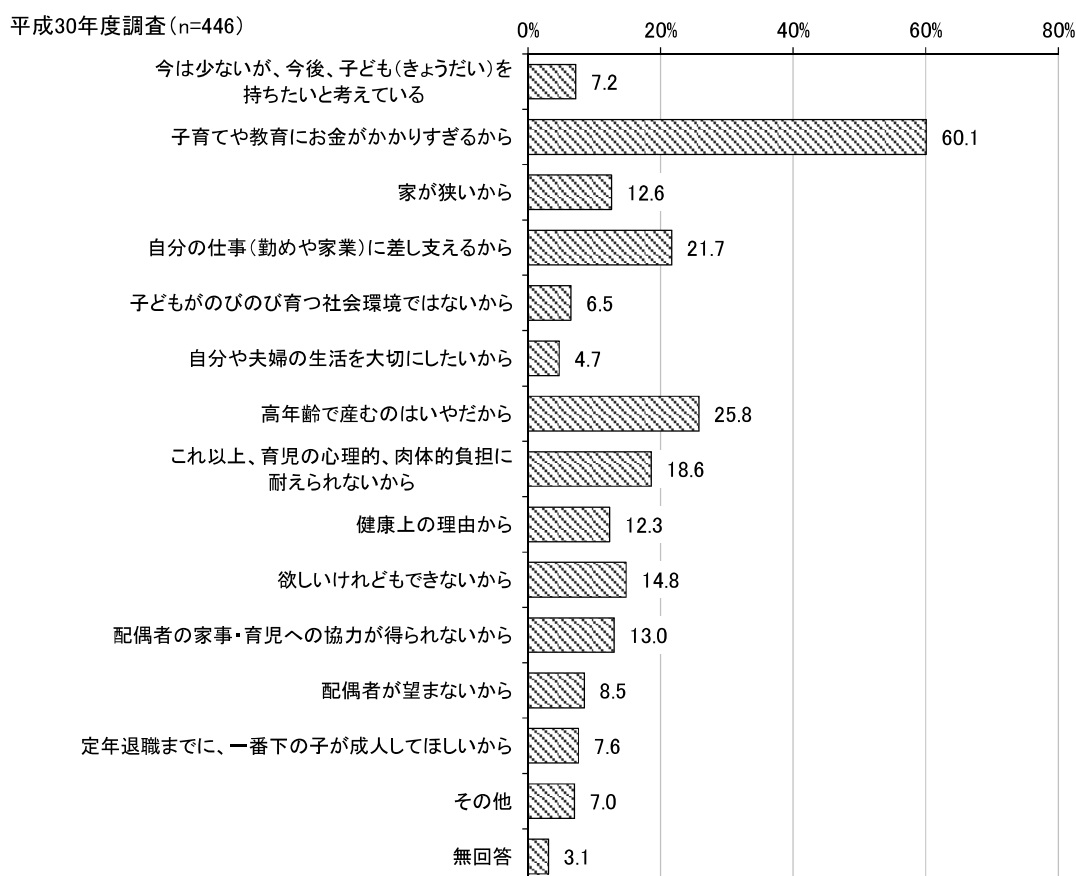
問6で「理想のお子さんの人数」より「実際のお子さんの人数」が少ない方

問6-1 少ない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

理想より現実の子どもの人数が少ない理由についてみると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が58.3%と最も高く、次いで「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」が28.3%、「高年齢で産むのはいやだから」が26.8%となっています。



【参考】

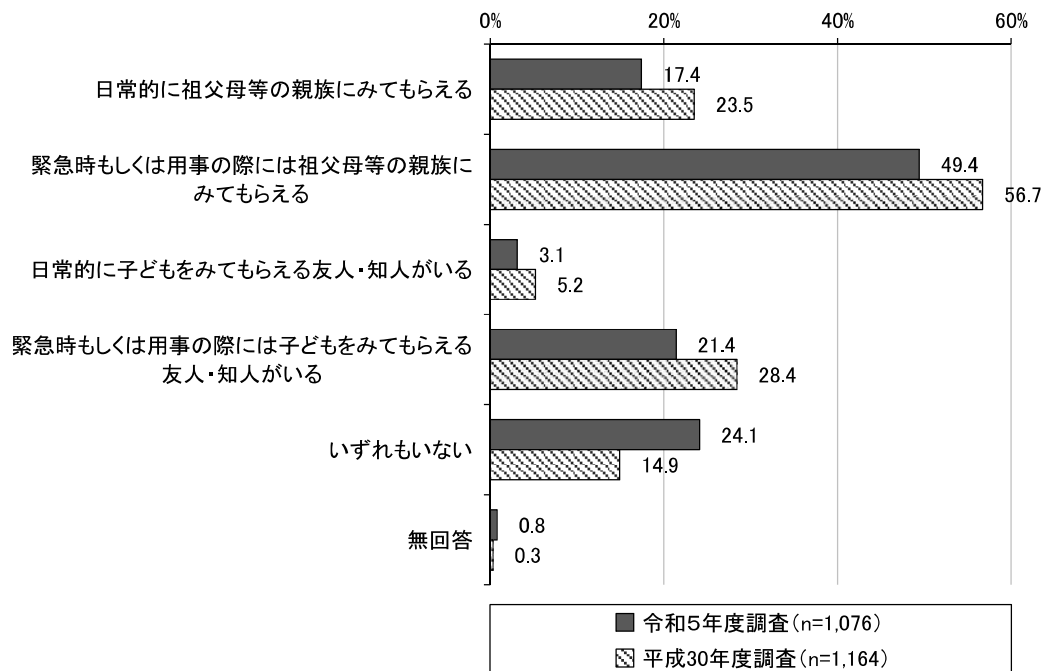


3 子どもの育ちをめぐる環境について

問7 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人はいるかについてみると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が49.4%と最も高く、次いで「いずれもない」が24.1%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が21.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



■世帯別

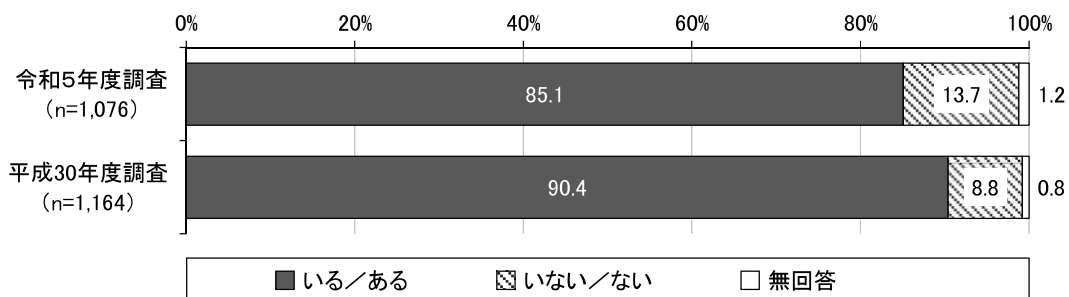
世帯別にみると、ひとり親世帯、2世代世帯では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、3世代世帯では「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高くなっています。また、ひとり親世帯、2世代世帯では「いずれもない」が2割を超えています。

単位: %		日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には友人・知人がいる	いずれもない	無回答
全体 (n=1,076)		17.4	49.4	3.1	21.4	24.1	0.8
世帯別	ひとり親世帯 (n=91)	14.3	40.7	4.4	17.6	27.5	1.1
	2世代世帯 (n=884)	12.7	52.3	3.2	23.0	25.0	0.9
	3世代世帯 (n=78)	69.2	32.1	1.3	10.3	9.0	0.0

問8 お子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所がありますか。(1つに○)

子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はあるかについてみると、「いる／ある」が 85.1%と、「いない／ない」の 13.7%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



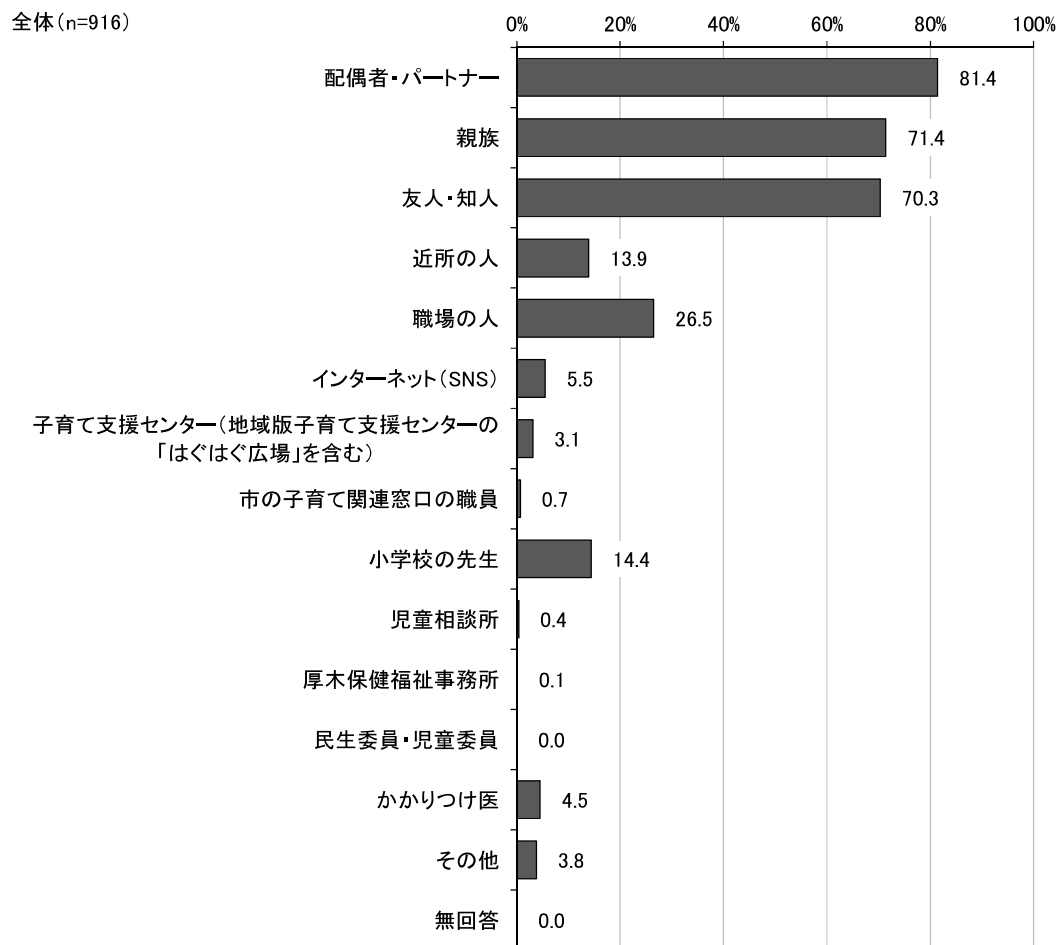
※平成 30 年度調査では「ある」「ない」

問8で「いる／ある」と回答した方

問8-1 お子さんの子育てに関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

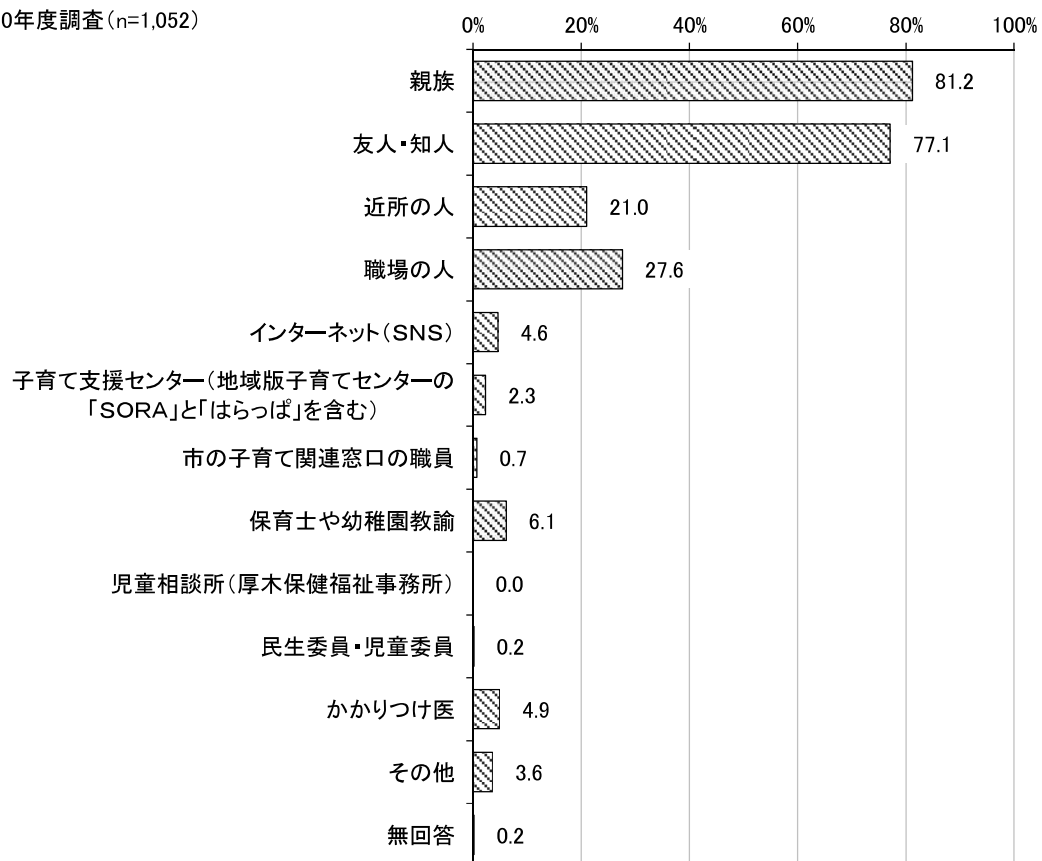
(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して、気軽に相談できる先についてみると、「配偶者・パートナー」が 81.4%と最も高く、次いで「親族」が 71.4%、「友人・知人」が 70.3%となっています。



【参考】

平成30年度調査(n=1,052)

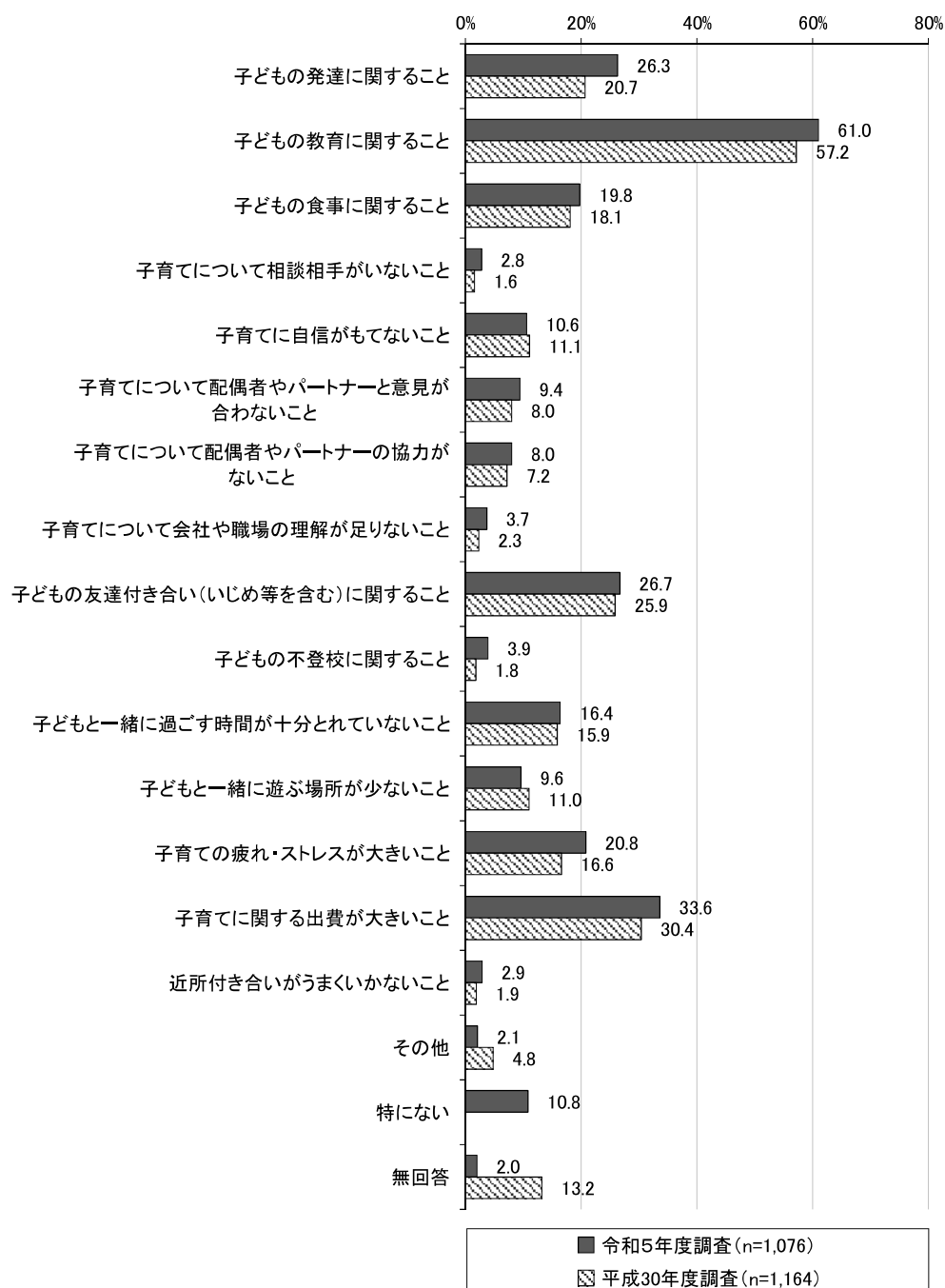


問9 子育てに関して、日頃悩んでいること、また気になることはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して、日頃悩んでいることや気になることについてみると、「子どもの教育に関すること」が61.0%と最も高く、次いで「子育てに関する出費が大きいこと」が33.6%、「子どもの友達付き合い(いじめ等を含む)」に関することが26.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



※「特になし」は、令和5年度調査のみの選択肢

■学年別

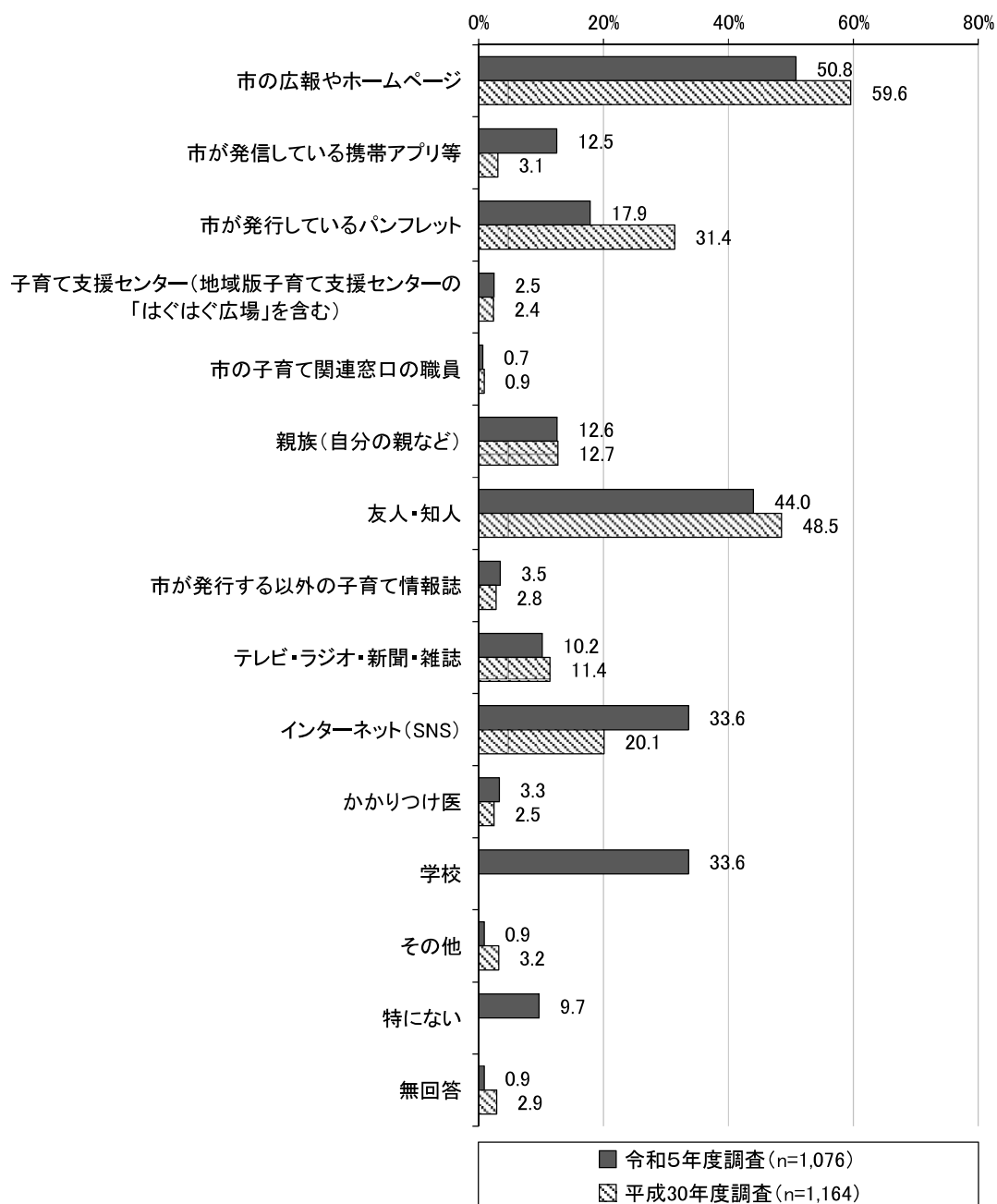
学年別にみると、いずれも「子どもの教育に関すること」が最も高くなっています。また、小学6年生では「子育てに関する出費が大きいこと」が4割を超えています。

単位：％		子どもの発達に関すること	子どもの教育に関すること	子どもの食事に関すること	子育てについて相談相手がないこと	子育てに自信がもてないこと	子育てについて配偶者やパートナーと意見が合わないこと	子育てについて配偶者やパートナーの協力がでないこと	子育てについて会社や職場の理解が足りないこと	子どもの友達付き合い（いじめ等を含む）に関すること
全体(n=1,076)		26.3	61.0	19.8	2.8	10.6	9.4	8.0	3.7	26.7
学年別	小学1年生(n=209)	25.4	58.9	23.0	2.4	9.6	8.1	8.6	5.7	28.2
	小学2年生(n=194)	32.5	60.8	21.1	3.6	15.5	9.3	7.2	6.2	27.8
	小学3年生(n=178)	25.3	60.7	20.2	4.5	11.8	7.9	4.5	2.2	24.7
	小学4年生(n=166)	26.5	57.8	18.7	2.4	6.0	10.2	9.0	3.0	25.3
	小学5年生(n=155)	26.5	64.5	15.5	2.6	11.0	12.3	11.0	1.9	26.5
	小学6年生(n=162)	20.4	62.3	17.3	1.2	8.6	8.6	7.4	2.5	25.9
単位：％		子どもの不登校に関すること	子どもと一緒になにごす時間が十分とれていないこと	子どもと一緒に遊ぶ場所が少ないこと	子育ての疲れ・ストレスが大きいこと	子育てに関する出費が大きいこと	近所付き合いがうまくいかないこと	その他	特にない	無回答
全体(n=1,076)		3.9	16.4	9.6	20.8	33.6	2.9	2.1	10.8	2.0
学年別	小学1年生(n=209)	3.8	16.7	12.0	27.3	32.5	2.9	1.9	8.1	3.3
	小学2年生(n=194)	2.6	19.1	10.8	23.7	27.3	4.1	4.6	10.3	1.5
	小学3年生(n=178)	2.8	19.1	9.0	21.3	32.0	1.7	1.7	9.6	2.2
	小学4年生(n=166)	4.2	12.0	4.8	16.9	34.9	2.4	1.8	13.9	2.4
	小学5年生(n=155)	6.5	17.4	13.5	18.1	34.8	3.2	0.6	11.6	0.0
	小学6年生(n=162)	4.3	13.6	7.4	14.8	42.6	2.5	1.2	12.3	1.2

問 10 子育て支援に関する情報を主にどこから入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

子育て支援に関する情報の入手先についてみると、「市の広報やホームページ」が 50.8%と最も高く、次いで「友人・知人」が 44.0%、「インターネット(SNS)」が 33.6%となっています。

前回調査と比較すると、「インターネット(SNS)」が 10 ポイント以上増加、「市が発行しているパンフレット」が 10 ポイント以上減少しています。



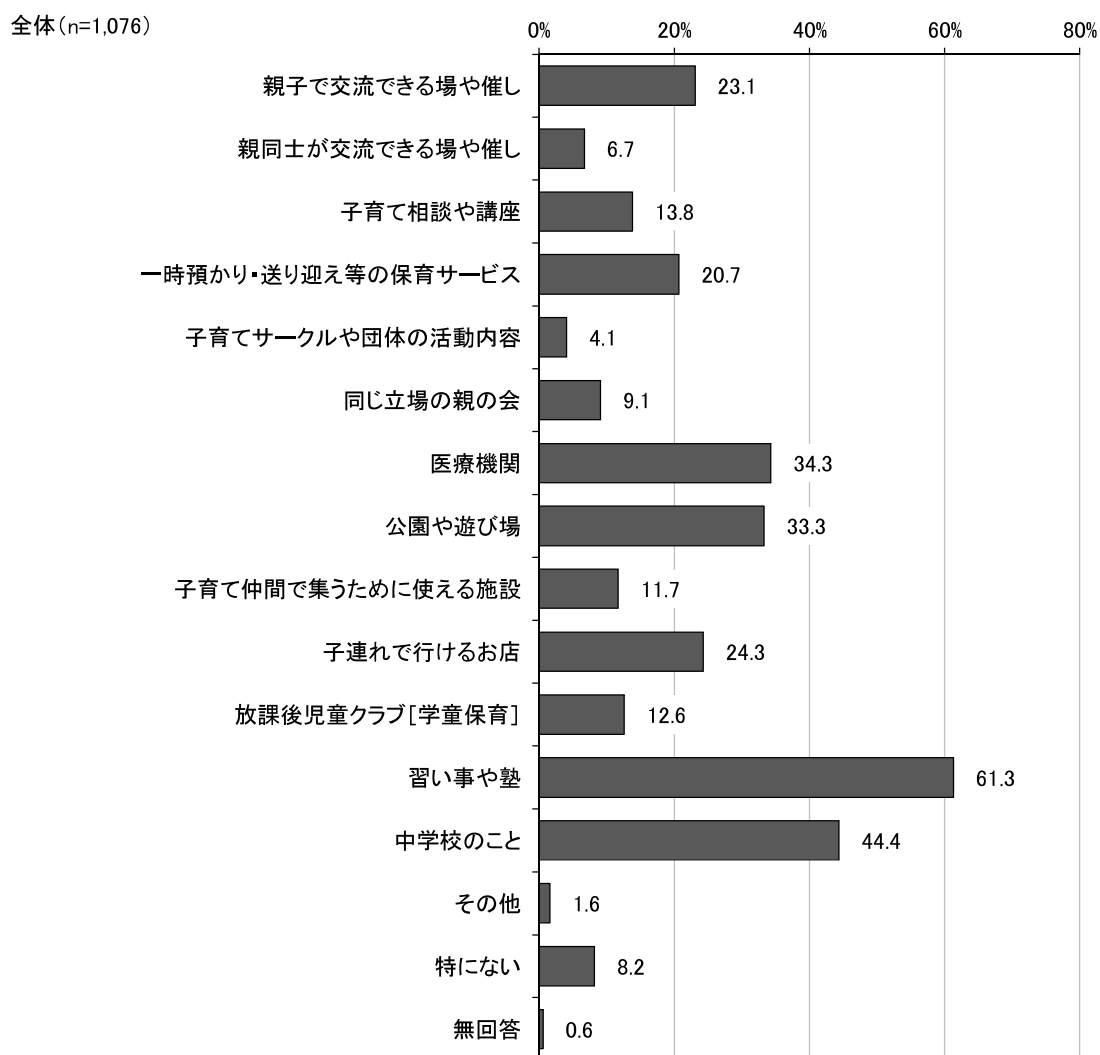
※「学校」「特になし」は、令和5年度調査のみの選択肢

※「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」は、平成 30 年度調査では「テレビ・ラジオ・新聞」

※「子育て支援センター(地域版子育て支援センターの「はぐはぐ広場」を含む)」は、平成 30 年度調査では「子育て支援センター(地域版子育て支援センターの「SORA」と「はらっぱ」を含む)」

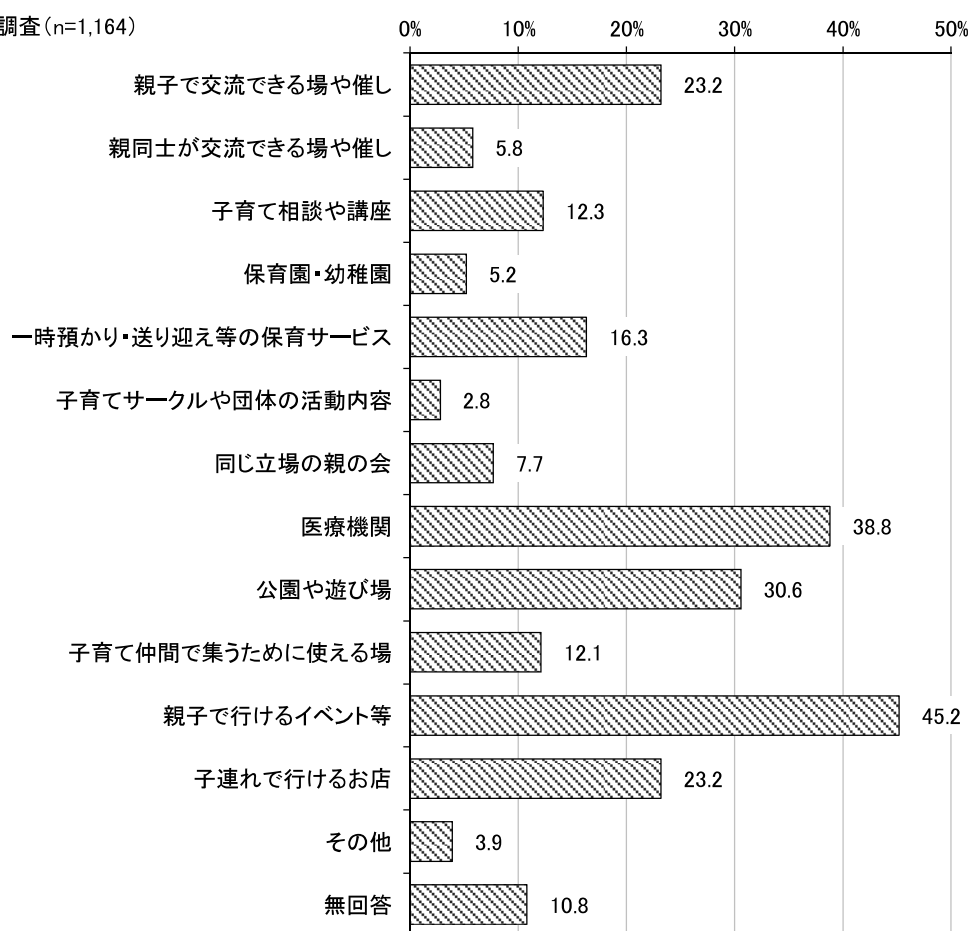
問 11 子育てに関してどのような情報を知りたいですか。(あてはまるものすべてに○)

子育てに関して知りたい情報についてみると、「習い事や塾」が 61.3%と最も高く、次いで「中学校のこと」が 44.4%、「医療機関」が 34.3%となっています。



【参考】

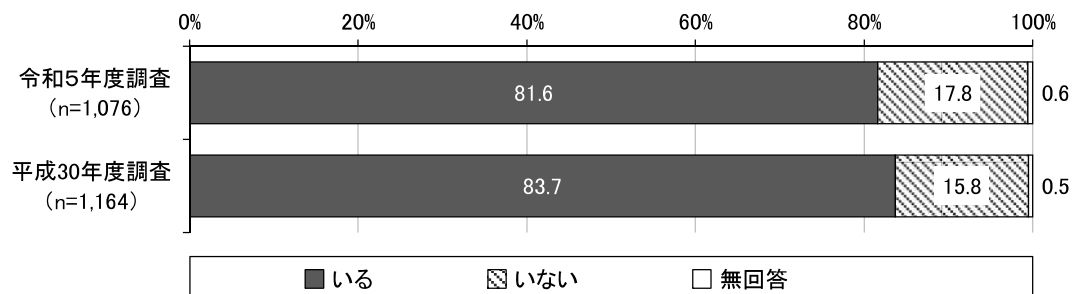
平成30年度調査(n=1,164)



問 12 お子さんのかかりつけの（病気や発育について相談できる）医者がいますか。（1つに○）

子どものかかりつけの（病気や発育について相談できる）医者があるかについてみると、「いる」が81.6%と、「いない」の17.8%を上回っています。

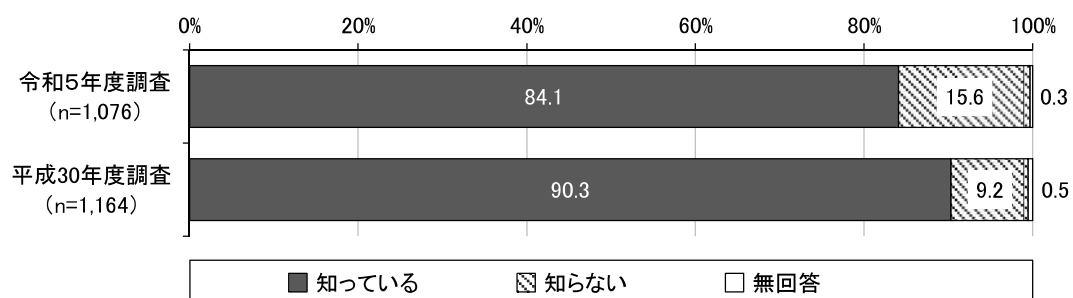
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 13 休日や夜間にお子さん（対象のお子さんに限りません）が病気になったときに受診できる医療機関を知っていますか。（1つに○）

休日や夜間に子どもが病気になったときに受診できる医療機関を知っているかについてみると、「知っている」が84.1%と、「知らない」の15.6%を上回っています。

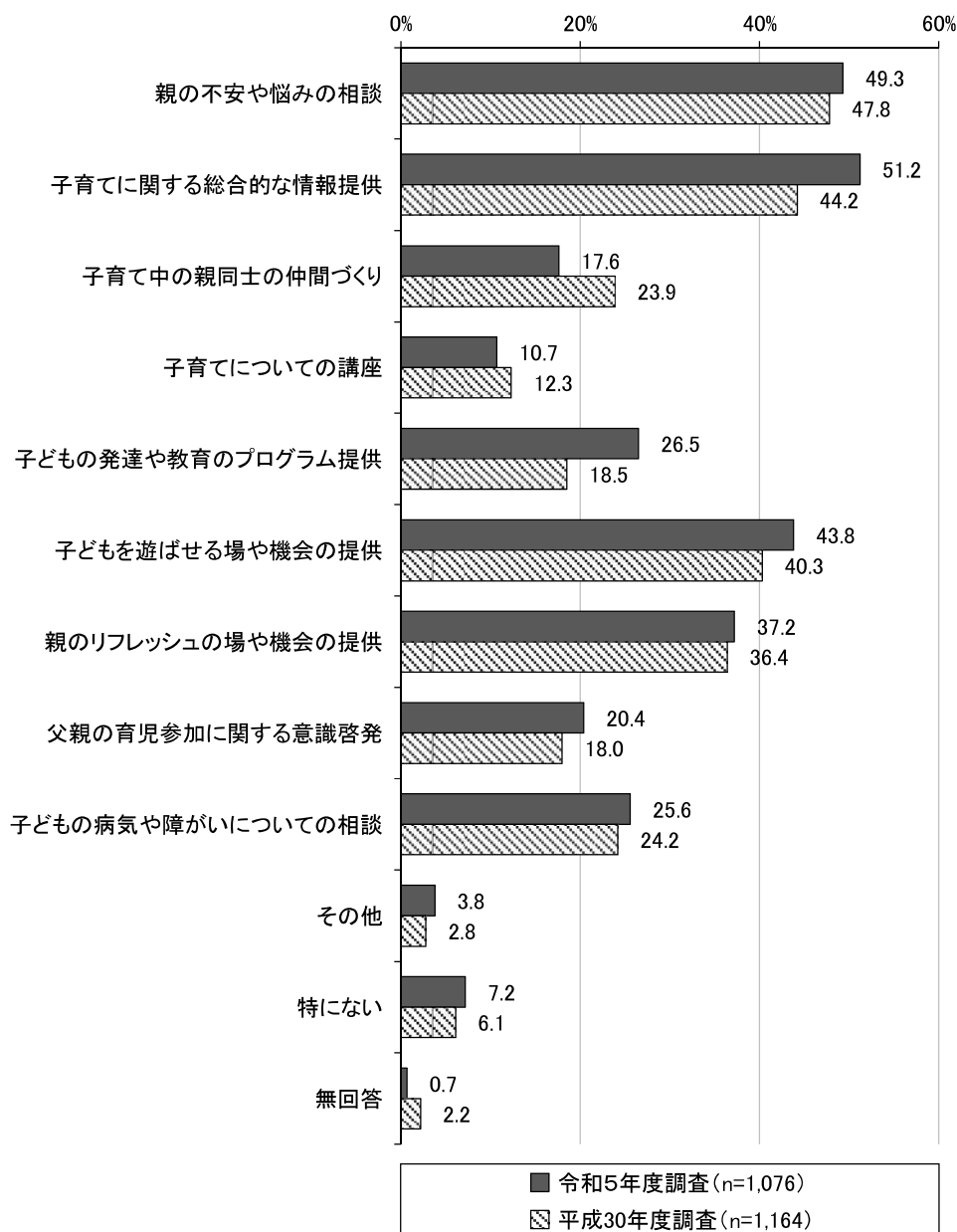
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 14 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートはどのようなものだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要だと思うサポートについてみると、「子育てに関する総合的な情報提供」が51.2%と最も高く、次いで「親の不安や悩みの相談」が49.3%、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が43.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



※「子どもの発達や教育のプログラム提供」は、前回調査では「子どもの発達や幼児教育のプログラム提供」

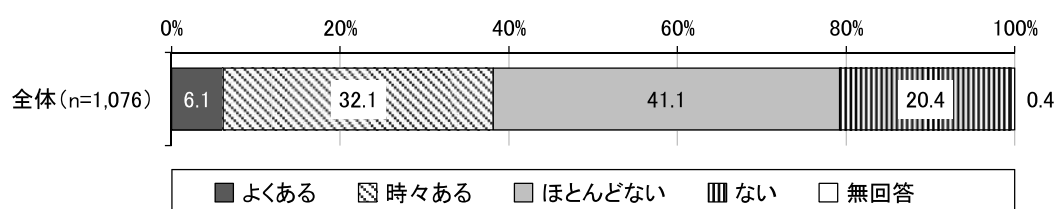
■学年別

学年別にみると、小学2年生、小学3年生では「子どもを遊ばせる場や機会の提供」、小学4年生では「親の不安や悩みの相談」、その他の学年では「子育てに関する総合的な情報提供」が最も高くなっています。

単位：％		親の不安や悩みの相談	子育てに関する総合的な情報提供	子育て中の親同士の仲間づくり	子育てについての講座	子どもの発達や教育のプログラム等の提供	子どもを遊ばせる場や機会の提供	親のリフレッシュの場や機会の提供	父親の育児参加に関する意識啓発	子どもの病気や障がいについての相談	その他	特にない	無回答
全体 (n=1,076)		49.3	51.2	17.6	10.7	26.5	43.8	37.2	20.4	25.6	3.8	7.2	0.7
学年別	小学1年生 (n=209)	48.8	55.0	16.3	15.3	27.3	50.2	43.5	23.4	26.3	1.9	3.8	0.0
	小学2年生 (n=194)	52.6	50.5	20.6	11.3	33.5	56.7	41.8	22.7	28.9	4.6	4.6	0.5
	小学3年生 (n=178)	46.6	46.1	16.3	6.7	25.8	48.3	44.4	19.1	21.9	4.5	6.2	0.6
	小学4年生 (n=166)	46.4	45.8	17.5	10.2	22.9	39.8	30.7	21.1	22.9	2.4	13.9	0.6
	小学5年生 (n=155)	47.7	56.1	20.0	9.0	25.2	33.5	32.3	18.1	26.5	4.5	7.7	0.6
	小学6年生 (n=162)	53.1	55.6	15.4	11.1	23.5	30.2	27.2	15.4	27.2	4.9	8.0	1.2

問 15 子育て中に孤独・孤立を感じることはありますか。(1つに○)

子育て中に孤独・孤立を感じることはあるかについてみると、「ほとんどない」が 41.1%と最も高く、次いで「時々ある」が 32.1%、「ない」が 20.4%となっています。



■世帯別

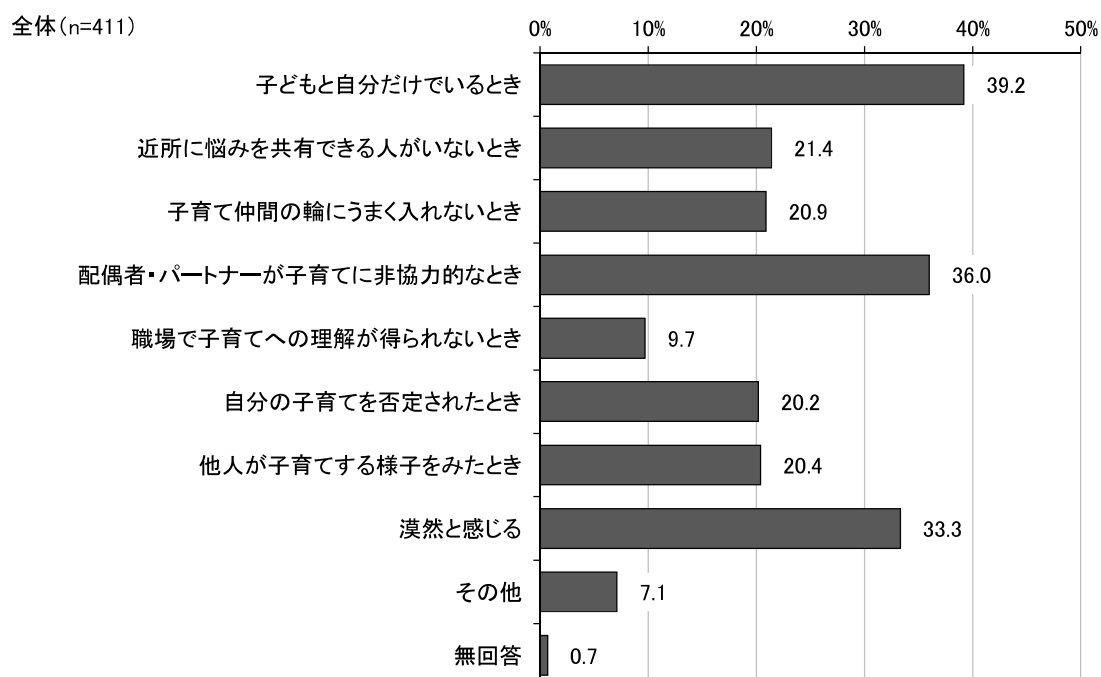
世帯別にみると、いずれも「ほとんどない」が高くなっています。また、ひとり親世帯では『ある（「よくある」と「時々ある」の合計）』が4割を超えています。

単位：％		よくある	時々ある	ほとんどない	ない	無回答	『ある』	『ない』
全体 (n=1,076)		6.1	32.1	41.1	20.4	0.4	38.2	61.5
世帯別	ひとり親世帯 (n=91)	6.6	36.3	38.5	18.7	0.0	42.9	57.2
	2世代世帯 (n=884)	5.9	33.1	40.6	20.0	0.3	39.0	60.6
	3世代世帯 (n=78)	6.4	20.5	47.4	25.6	0.0	26.9	73.0

問 15 で「よくある」または「時々ある」と回答した方

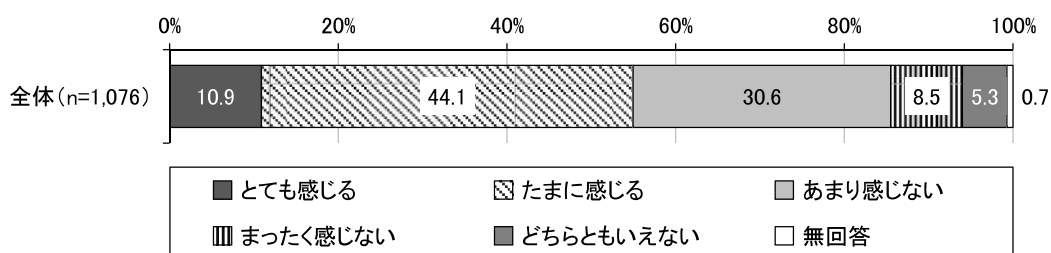
問 15- 1 どのようなときに孤独・孤立を感じますか。（あてはまるものすべてに○）

孤独・孤立を感じるときについてみると、「子どもと自分だけでいるとき」が 39.2％と最も高く、次いで「配偶者・パートナーが子育てに非協力的なとき」が 36.0％、「漠然と感じる」が 33.3％となっています。



問 16 あなたは、海老名市で子育てをしていて、地域で支えられていると感じますか。(1つに○)

海老名市で子育てをしていて、地域で支えられていると感じるかについてみると、「たまに感じる」が44.1%と最も高く、次いで「あまり感じない」が30.6%、「とても感じる」が10.9%となっています。



■ 地域別

地域別にみると、いずれも「たまに感じる」が高くなっています。また、上郷・下今泉地域、海西地域では『感じる(「とても感じる」と「たまに感じる」の合計)』が6割を超えています。

単位: %		とても感じる	たまに感じる	あまり感じない	まったく感じない	どちらともいえない	無回答	『感じる』	『感じない』
全体(n=1,076)		10.9	44.1	30.6	8.5	5.3	0.7	55.0	39.1
地域別	柏ヶ谷地域(n=182)	11.5	48.4	24.2	14.3	1.1	0.5	59.9	38.5
	上今泉地域(n=89)	12.4	37.1	34.8	12.4	2.2	1.1	49.5	47.2
	上郷・下今泉地域(n=97)	11.3	52.6	25.8	6.2	2.1	2.1	63.9	32.0
	国分地域(n=168)	9.5	39.3	38.7	7.7	4.8	0.0	48.8	46.4
	海西地域(n=149)	12.8	48.3	28.9	5.4	4.0	0.7	61.1	34.3
	大谷地域(n=118)	9.3	44.1	31.4	7.6	7.6	0.0	53.4	39.0
	杉久保地域(n=77)	10.4	40.3	27.3	9.1	13.0	0.0	50.7	36.4
	本郷地域(n=32)	18.8	34.4	28.1	3.1	12.5	3.1	53.2	31.2
	社家地域(n=79)	7.6	46.8	36.7	2.5	6.3	0.0	54.4	39.2
	門沢橋地域(n=72)	9.7	41.7	30.6	9.7	6.9	1.4	51.4	40.3

4 保護者の就労状況について

問 17 お子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）を伺います。

（①母親・②父親それぞれ1つに○）

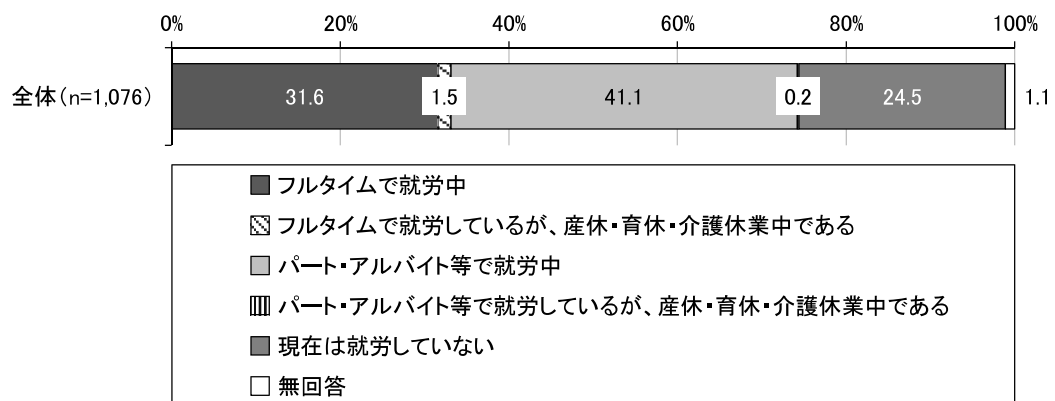
※ひとり親家庭の場合は母親または父親のみお答えください

※フルタイム…1週5日程度・1日8時間程度の就労、パート・アルバイト等…フルタイム以外の就労

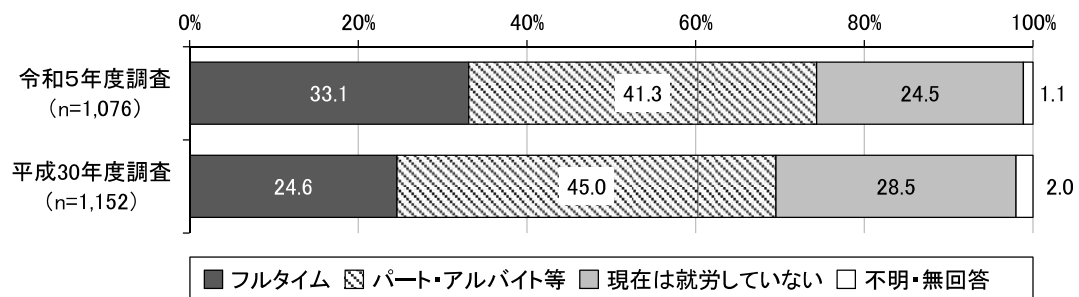
①母親

母親の現在の就労状況についてみると、「パート・アルバイト等で就労中」が 41.1%と最も高く、次いで「フルタイムで就労中」が 31.6%、「現在は就労していない」が 24.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



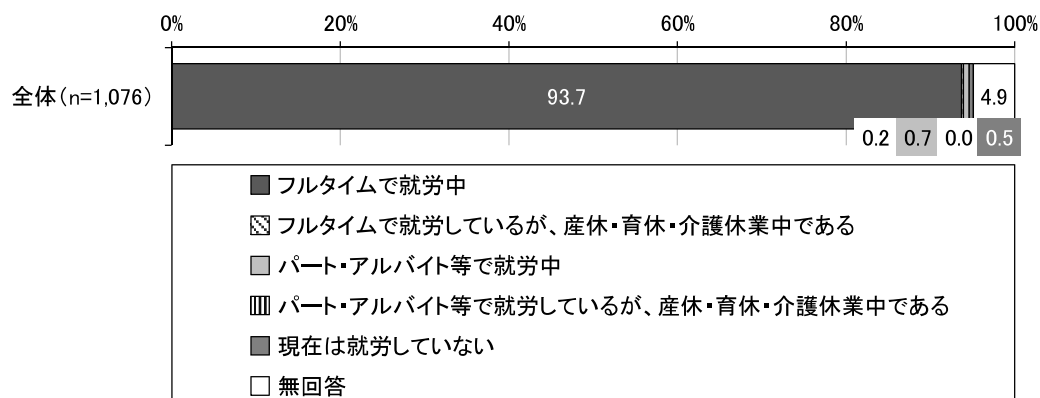
【参考】



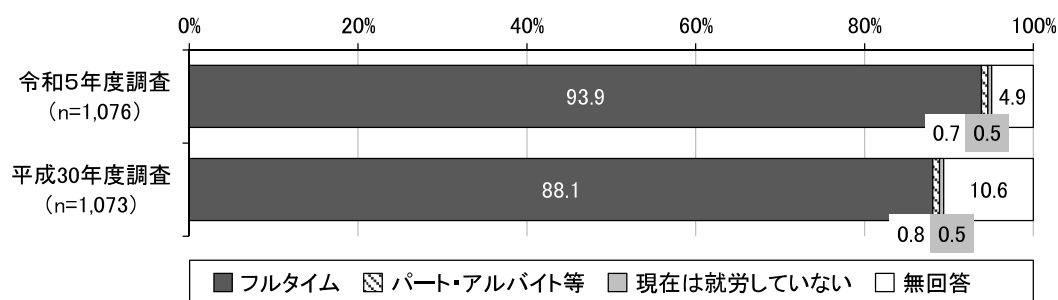
②父親

父親の現在の就労状況についてみると、「フルタイムで就労中」が 93.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労中」が 0.7%、「現在は就労していない」が 0.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



【参考】



問 17 の①母親または②父親で「現在は就労していない」以外を選択した方（就労している方）

問 17- 1 1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、平均的なパターンについてお答えください。（①母親・②父親それぞれ数字で記入）

※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

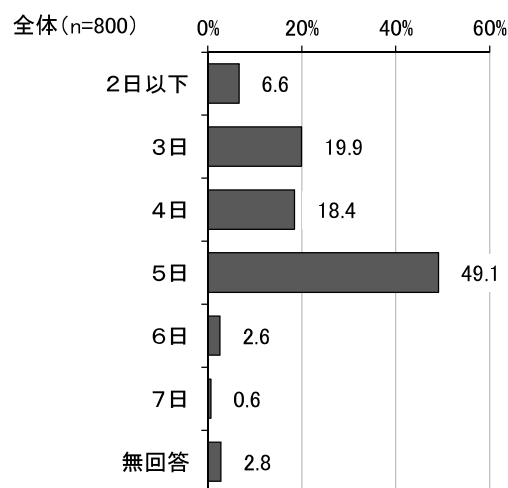
①母親

1週あたりの就労日数／1日あたりの就労時間（残業時間を含む）

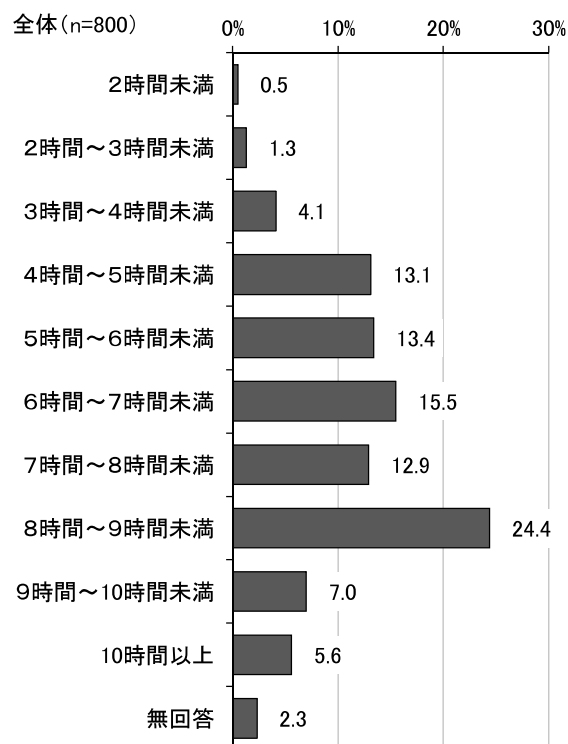
母親の1週あたりの就労日数についてみると、「5日」が 49.1%と最も高く、次いで「3日」が 19.9%、「4日」が 18.4%となっています。

母親の1日あたりの就労時間（残業時間を含む）についてみると、「8時間～9時間未満」が 24.4%と最も高く、次いで「6時間～7時間未満」が 15.5%、「5時間～6時間未満」が 13.4%となっています。

■ 1週あたりの就労日数



■ 1日あたりの就労時間（残業時間を含む）



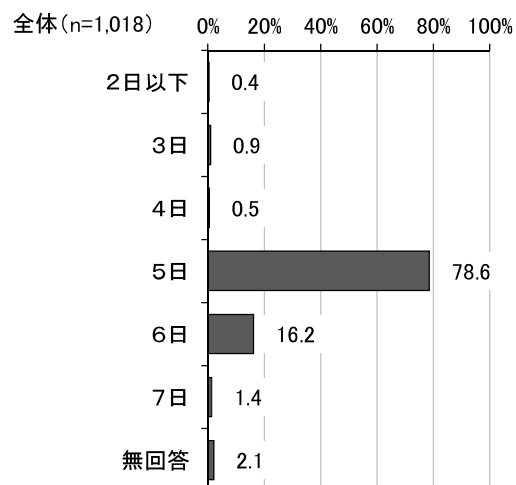
②父親

1週あたりの就労日数／1日あたりの就労時間（残業時間を含む）

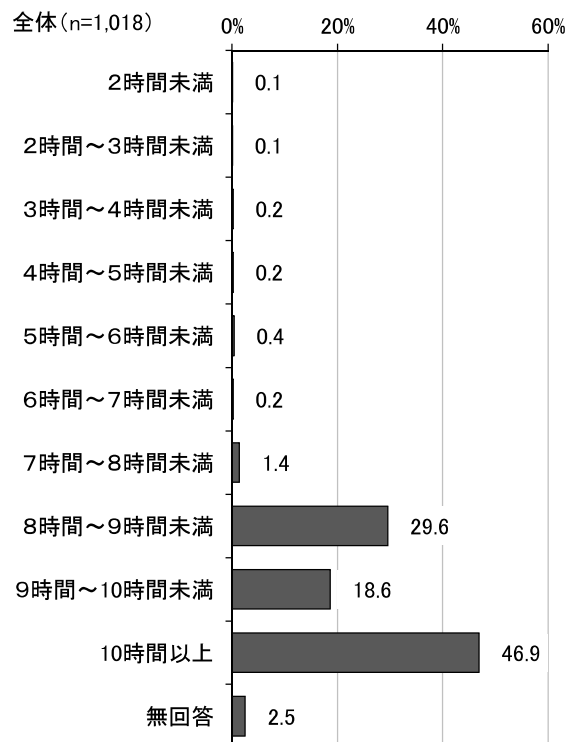
父親の1週あたりの就労日数についてみると、「5日」が78.6%と最も高く、次いで「6日」が16.2%、「7日」が1.4%となっています。

父親の1日あたりの就労時間（残業時間を含む）についてみると、「10時間以上」が46.9%と最も高く、次いで「8時間～9時間未満」が29.6%、「9時間～10時間未満」が18.6%となっています。

■ 1週あたりの就労日数



■ 1日あたりの就労時間（残業時間を含む）



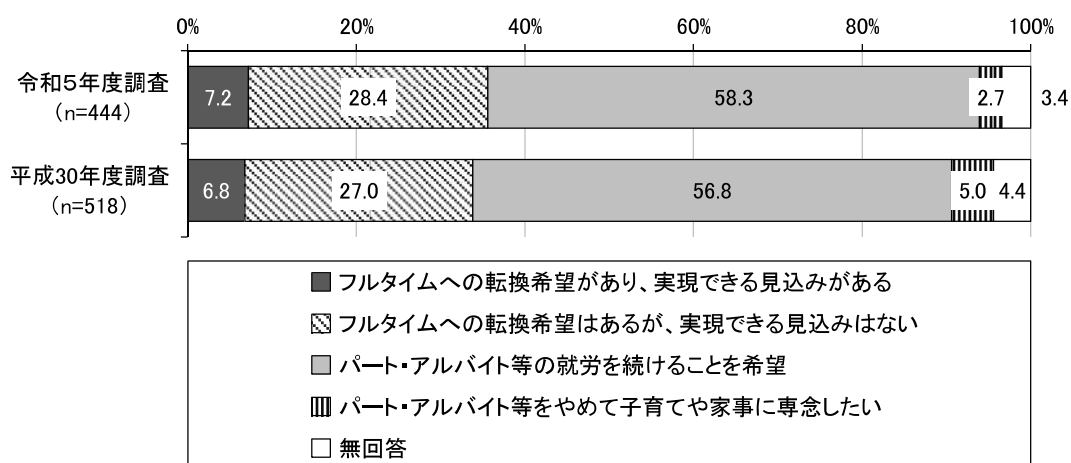
問 17 の①母親または②父親で「パート・アルバイト等で就労中」または「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」と回答した方（パート・アルバイト等で就労している方）

問 17-2 フルタイムへの転換希望はありますか。（①母親・②父親それぞれ1つに○）

①母親

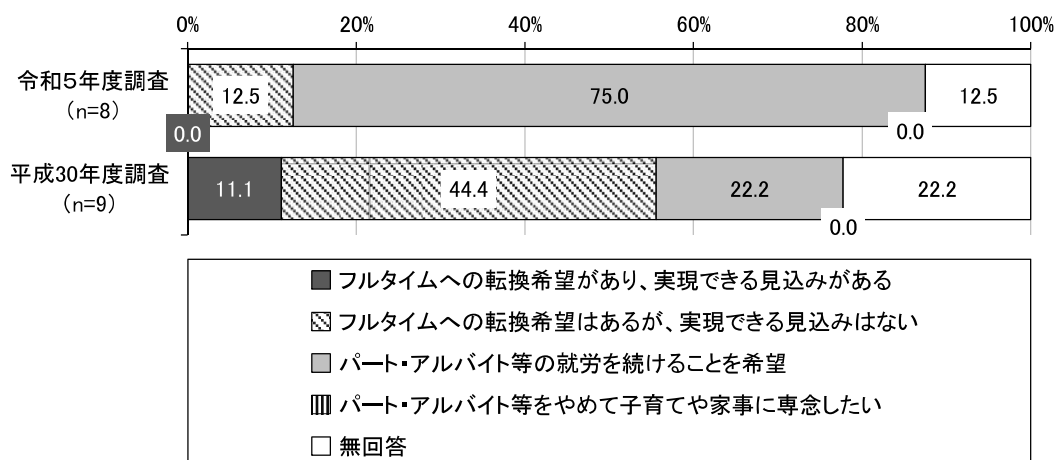
パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望についてみると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 58.3%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が28.4%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が7.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②父親

パート・アルバイト等で就労している父親のフルタイムへの転換希望についてみると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が 75.0%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が12.5%となっています。



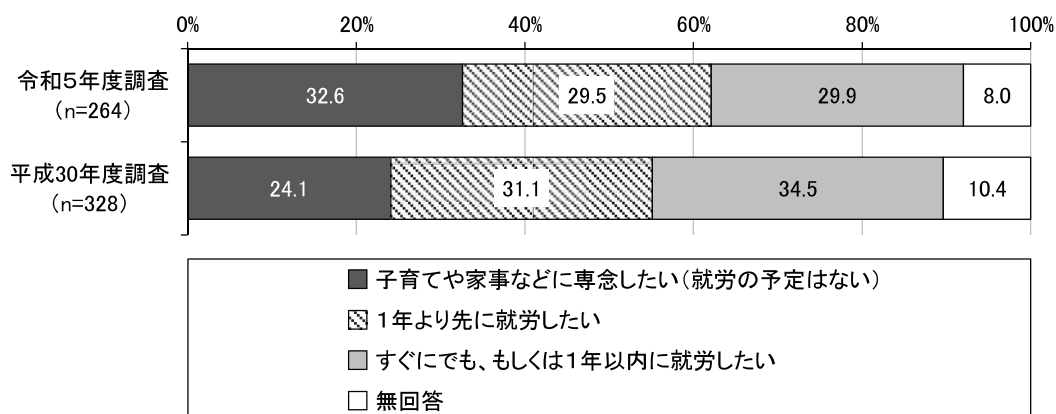
問 17 の①母親または②父親で「現在は就労していない」と回答した方

問 17- 3 就労したいという希望はありますか。(①母親・②父親それぞれ1つに○)

①母親

現在就労していない母親の就労希望についてみると、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が32.6%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が29.9%、「1年より先に就労したい」が29.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



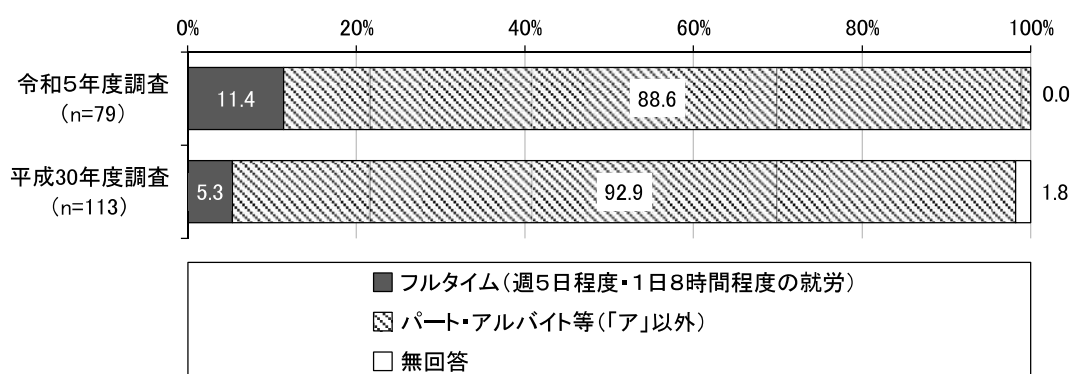
※「1年より先に就労したい」は、平成 30 年度調査では「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した方

希望する就労形態(母親)

母親の希望する就労形態についてみると、「パート・アルバイト等」が88.6%と、「フルタイム」の11.4%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



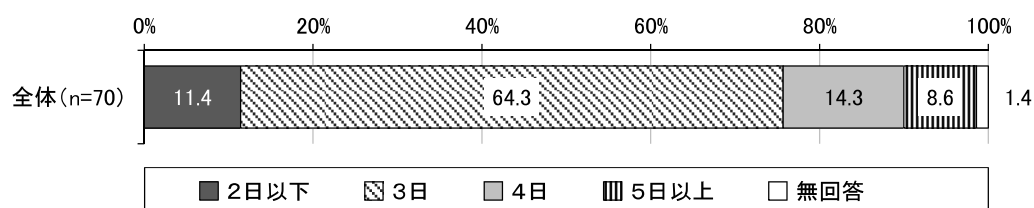
希望する就労形態で「パート・アルバイト等」と回答した方

1週あたりの就労希望日数／1日あたりの就労希望時間（母親）

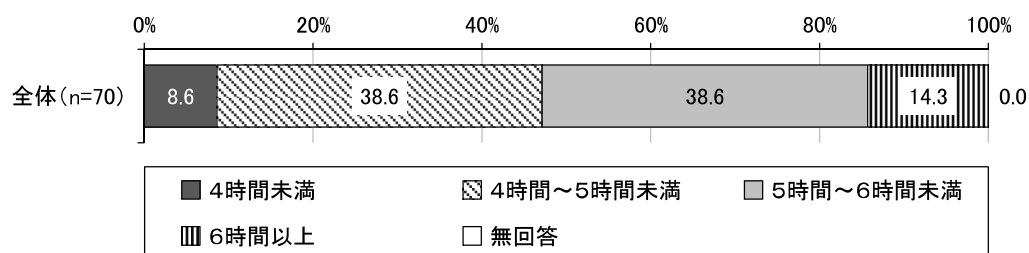
母親の1週あたりの就労希望日数についてみると、「3日」が 64.3%と最も高く、次いで「4日」が 14.3%、「2日以下」が 11.4%となっています。

母親の1日あたりの就労希望時間についてみると、「4時間～5時間未満」「5時間～6時間未満」が 38.6%と最も高く、次いで「6時間以上」が 14.3%となっています。

■ 1週あたりの就労希望日数

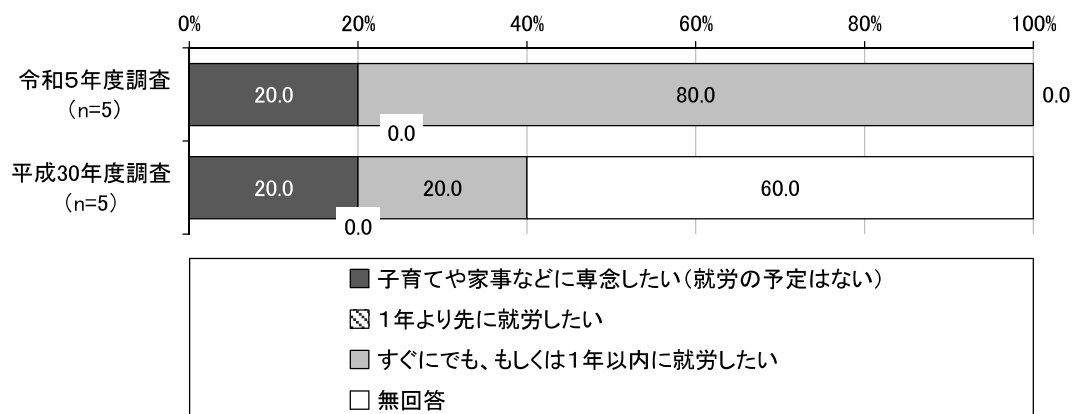


■ 1日あたりの就労希望時間



②父親

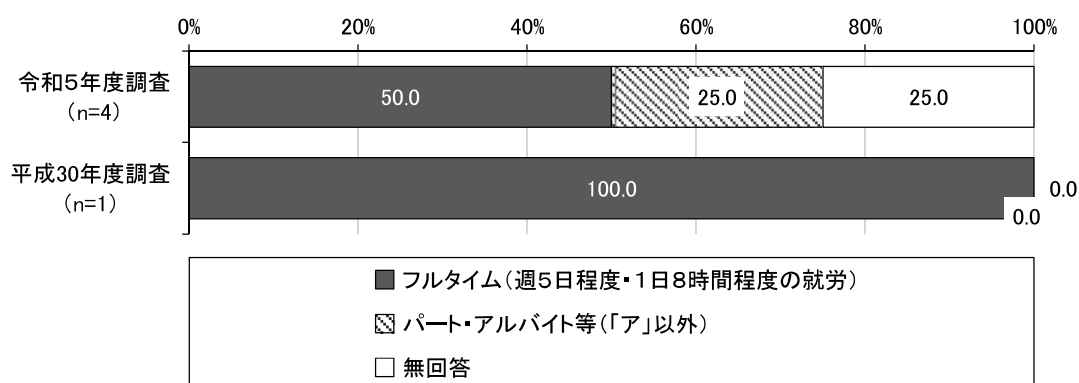
現在就労していない父親の就労希望についてみると、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が80.0%と最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が20.0%となっています。



「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した方

希望する就労形態（父親）

希望する就労形態についてみると、「フルタイム」が50.0%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等」が25.0%となっています。



希望する就労形態で「パート・アルバイト等」と回答した方

1週あたりの就労希望日数／1日あたりの就労希望時間（父親）

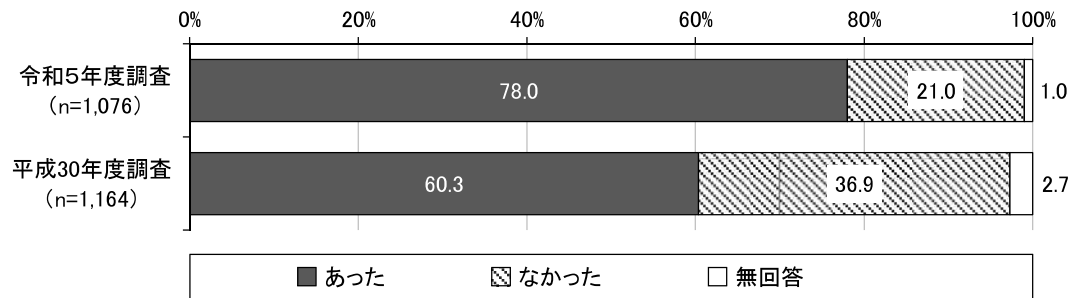
(n=1)「6日以下」:1件

5 子どもの病気の際の対応について

問 18 この1年間に、お子さんが病気やケガで小学校に行けなかったことはありますか。
(1つに○)

この1年間に、子どもが病気やケガで小学校に行けなかったことはあるかについてみると、「あった」が78.0%と、「なかった」の21.0%を上回っています。

前回調査と比較すると、「あった」が15ポイント以上増加しています。

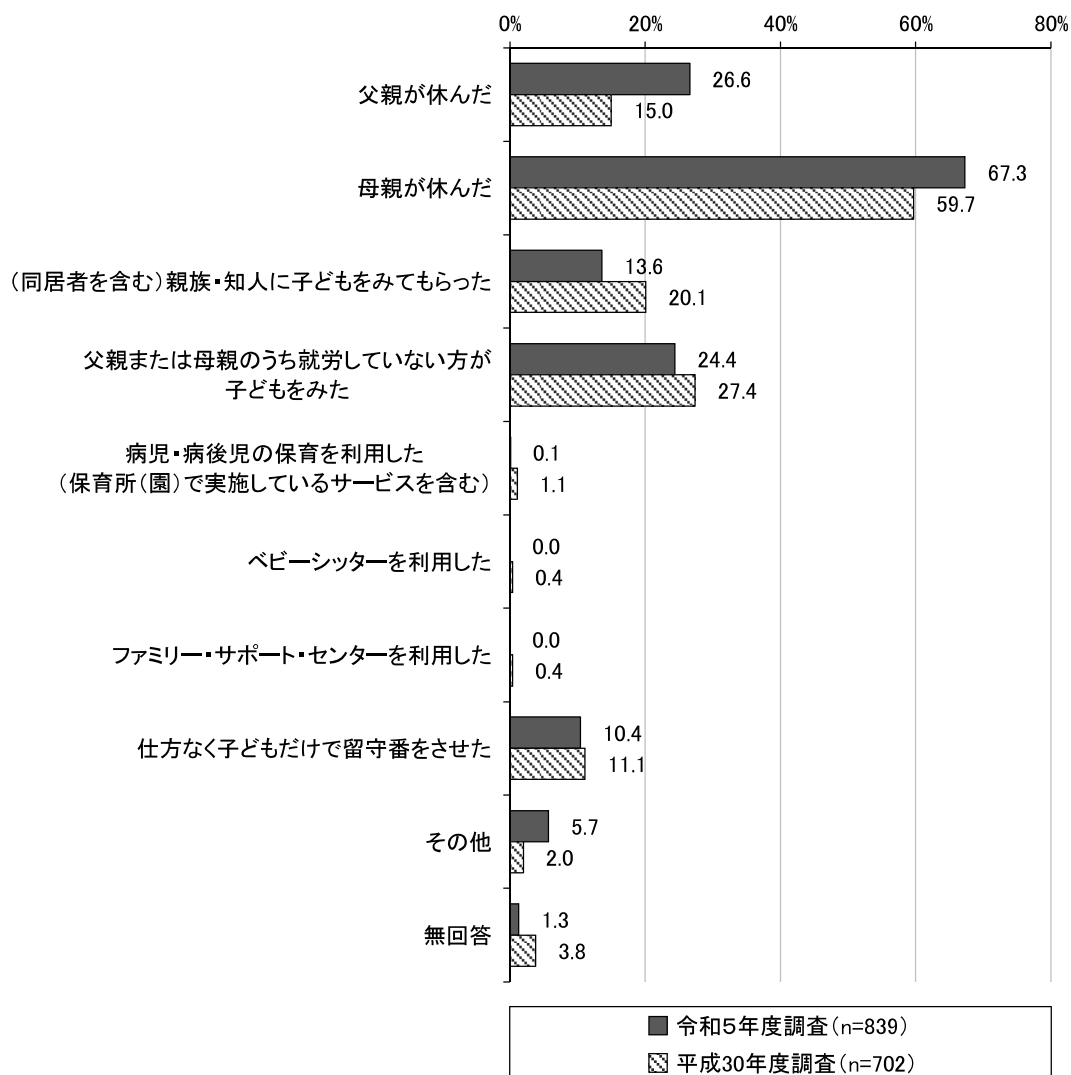


問 18 で「あった」と回答した方

問 18- 1 お子さんが病気やケガで小学校に行けなかった場合に、この1年間に行った対処方法は 何ですか。(あてはまるものすべてに○)

子どもが病気やケガで小学校に行けなかった場合に、この1年間に行った対処方法についてみると、「母親が休んだ」が 67.3%と最も高く、次いで「父親が休んだ」が 26.6%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」が 24.4%となっています。

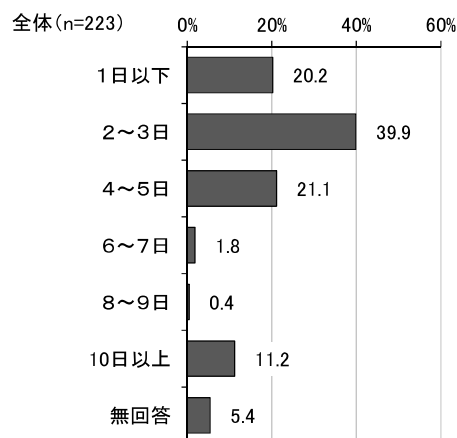
前回調査と比較すると、「父親が休んだ」が 10 ポイント以上増加しています。



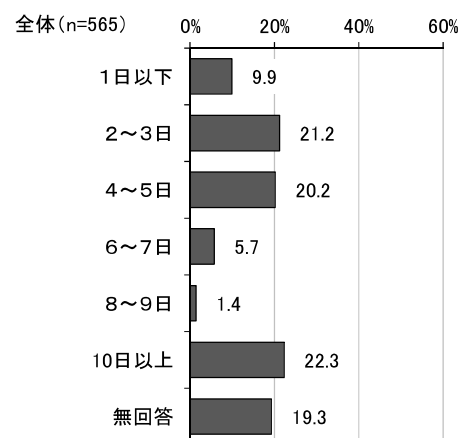
1年間の対処方法別日数

1年間の対処方法別日数についてみると、【父親が休んだ】【(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった】【仕方なく子どもだけで留守番をさせた】【その他】では「2～3日」、【母親が休んだ】【父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた】では「10日以上」が最も高くなっています。

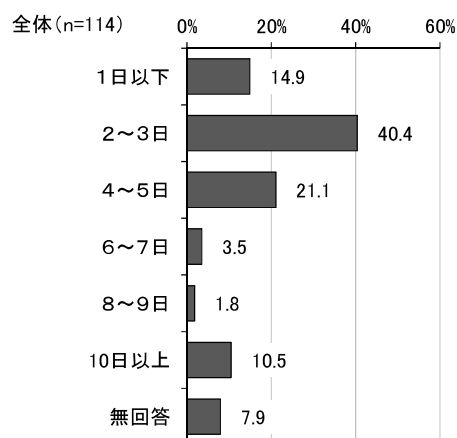
【父親が休んだ】



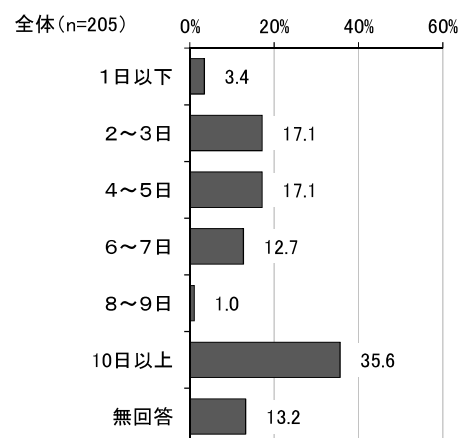
【母親が休んだ】



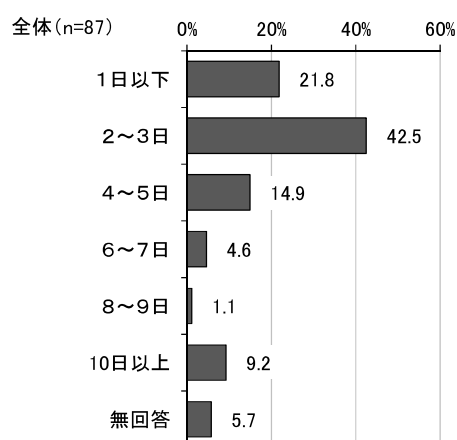
【(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった】



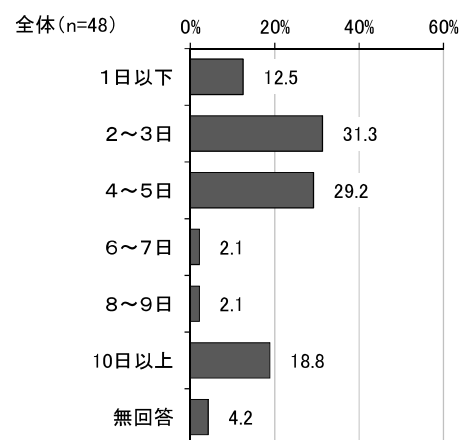
【父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた】



【仕方なく子どもだけで留守番をさせた】



【その他】



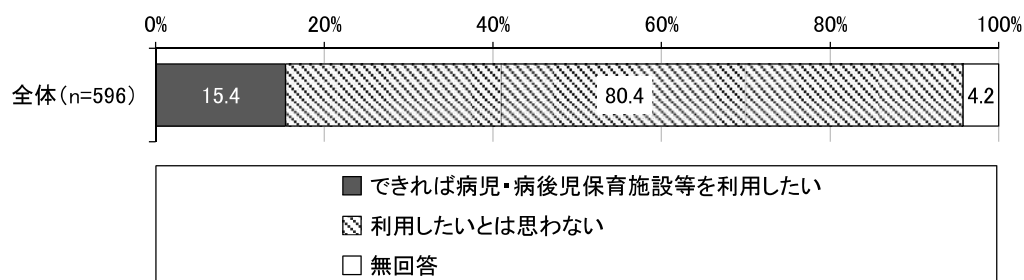
【病児・病後児の保育を利用した（保育所（園）で実施しているサービスを含む）】(n=1)「1日以下」:1件

【ベビーシッターを利用した】【ファミリー・サポート・センターを利用した】(n=0)

問 18- 1 で「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した方

問 18- 2 保護者が休んだその際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思われましたか。(1つに○)

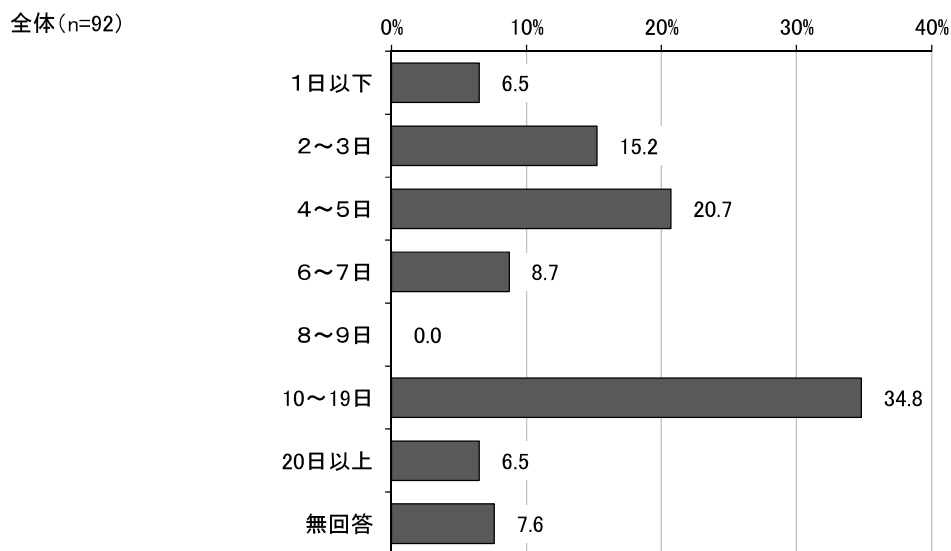
保護者が休んだ際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについてみると、「利用したいとは思わない」が80.4%と、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の15.4%を上回っています。



「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した方

利用したい日数

利用したい日数についてみると、「10～19日」が34.8%と最も高く、次いで「4～5日」が20.7%、「2～3日」が15.2%となっています。

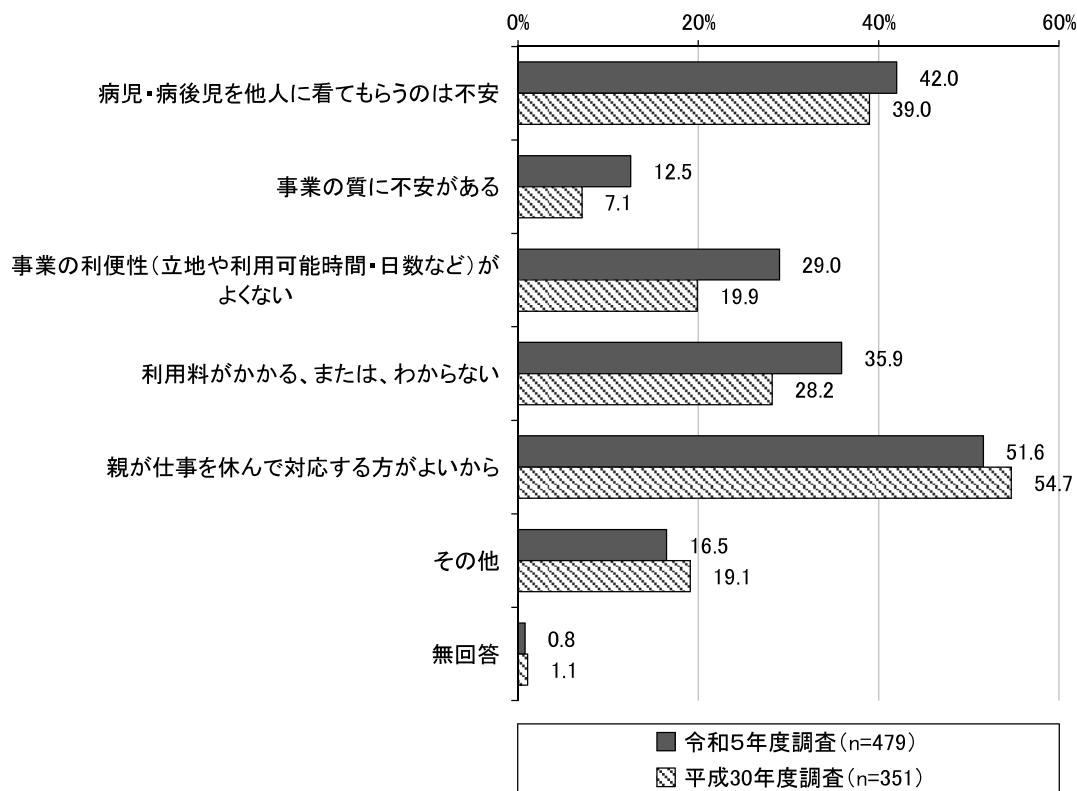


問 18- 2 で「利用したいとは思わない」と回答した方

問 18- 3 そう思われる理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

利用したいとは思わない理由についてみると、「親が仕事を休んで対応する方がよいから」が 51.6%と最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 42.0%、「利用料がかかる、または、わからない」が 35.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

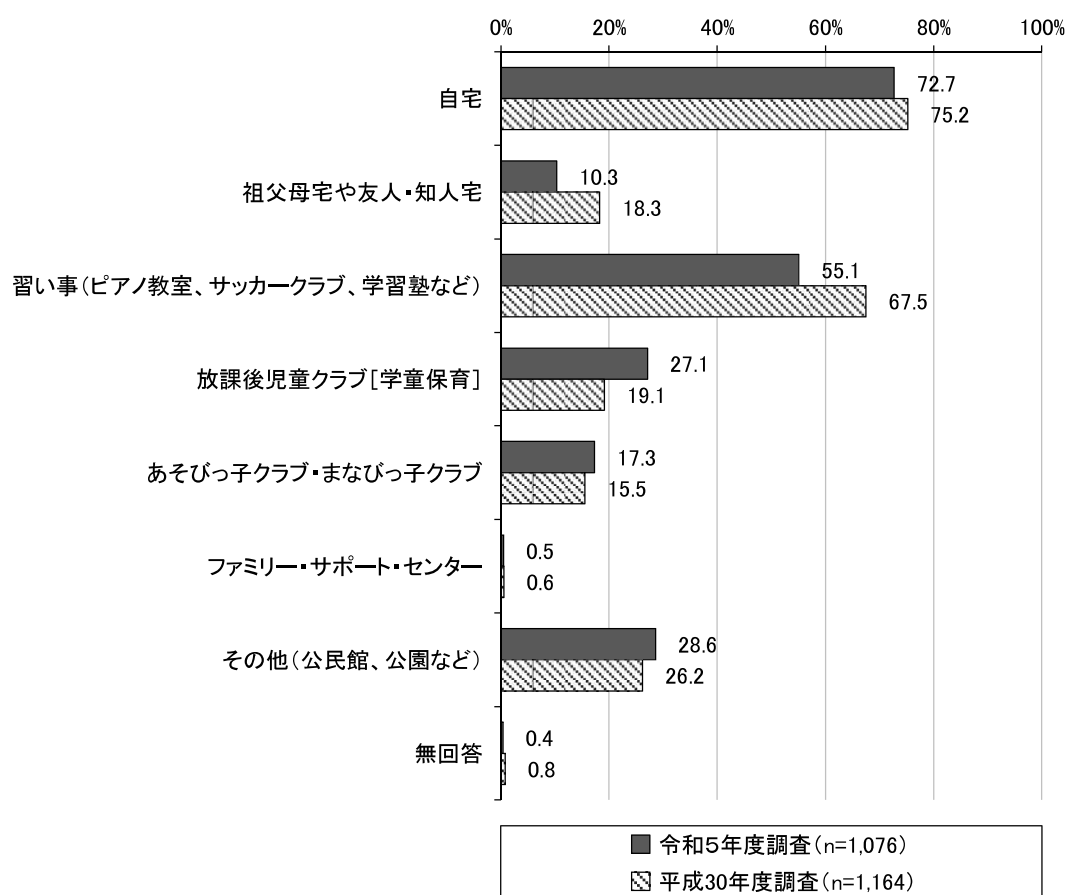


6 放課後の過ごし方について

問 19 お子さんは、現在、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごしていますか。（あてはまるものすべてに○）

現在、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごしている場所についてみると、「自宅」が 72.7%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が 55.1%、「その他（公民館、公園など）」が 28.6%となっています。

前回調査と比較すると、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が 10 ポイント以上減少しています。

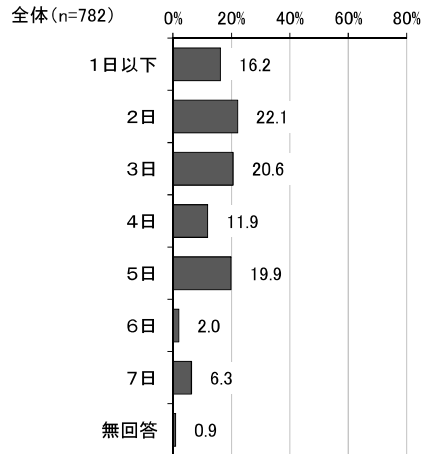


※「その他（公民館、公園など）」は、平成 30 年度調査では「その他」

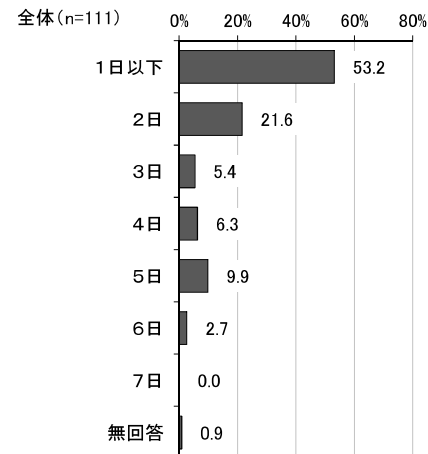
1 週あたりの場所別日数

1週あたりの場所別日数についてみると、【自宅】【習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)】では「2日」、【祖父母宅や友人・知人宅】【あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ】【その他(公民館、公園など)】では「1日以下」、【放課後児童クラブ(学童保育)】では「5日」が最も高くなっています。

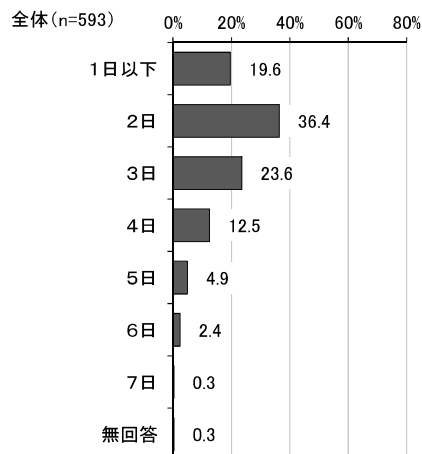
【自宅】



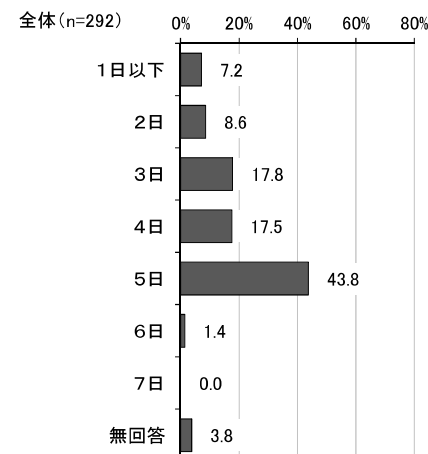
【祖父母宅や友人・知人宅】



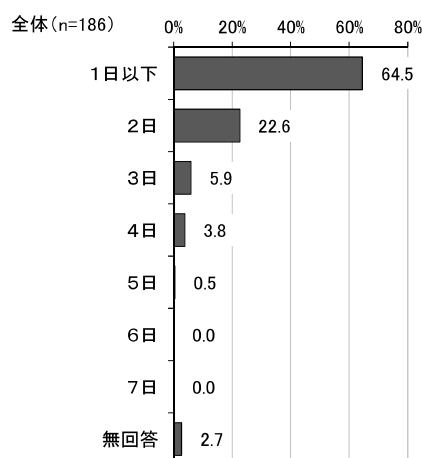
【習い事 (ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)】



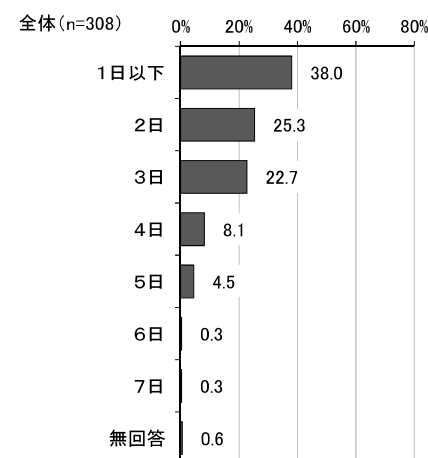
【放課後児童クラブ (学童保育)】



【あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ】



【その他 (公民館、公園など)】

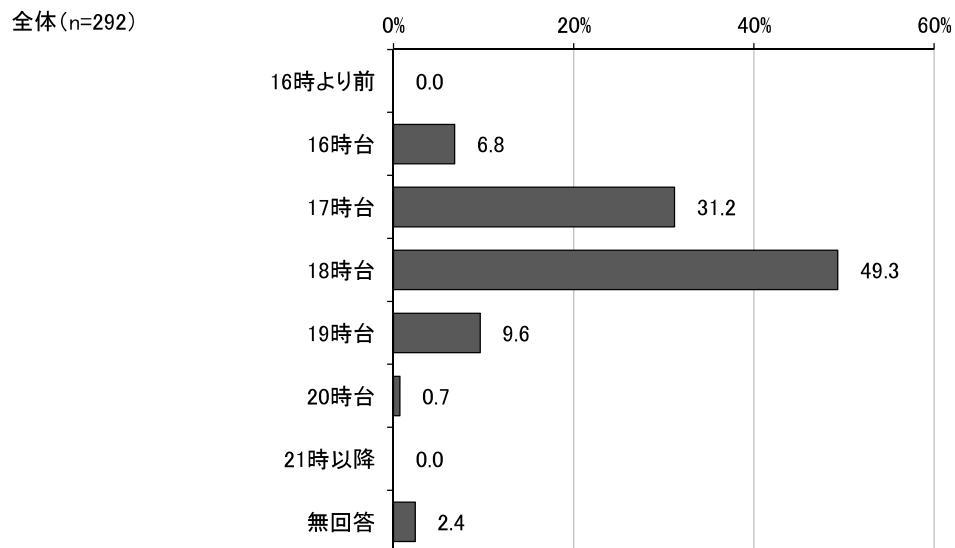


【ファミリー・サポート・センター】(n=5) 「1日以下」: 3件、「2日」: 1件、「無回答」: 1件

放課後児童クラブ〔学童保育〕と回答した方

放課後児童クラブ〔学童保育〕の利用終了時間

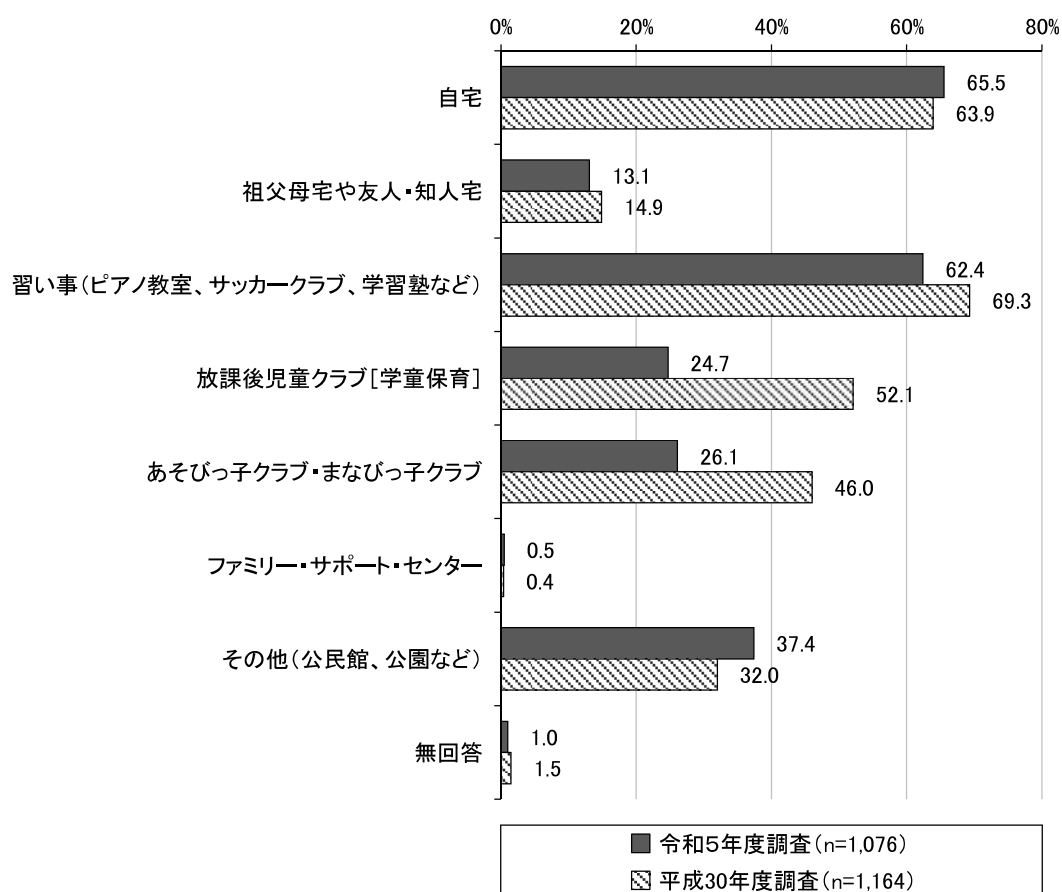
放課後児童クラブ〔学童保育〕の利用終了時間についてみると、「18 時台」が 49.3%と最も高く、次いで「17 時台」が 31.2%、「19 時台」が 9.6%となっています。



問 20 お子さんは、今後、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○、それぞれ希望する週あたり日数を数字で記入）

今後、放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所についてみると、「自宅」が 65.5%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が 62.4%、「その他（公民館、公園など）」が 37.4%となっています。

前回調査と比較すると、「放課後児童クラブ〔学童保育〕」が 25 ポイント以上減少、「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」が 15 ポイント以上減少しています。

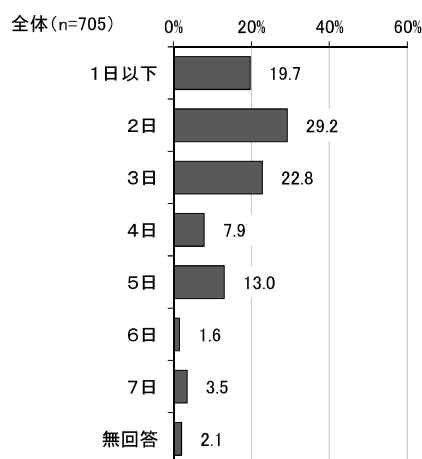


※「その他（公民館、公園など）」は、平成 30 年度調査では「その他」

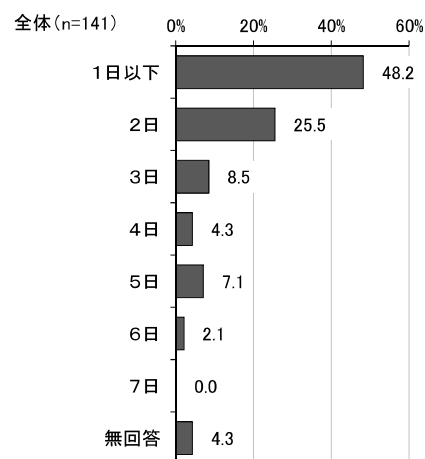
1 週あたりの場所別希望日数

1 週あたりの場所別希望日数についてみると、【自宅】【習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)】【その他(公民館、公園など)】では「2 日」、【祖父母宅や友人・知人宅】【あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ】では「1 日以下」、【放課後児童クラブ(学童保育)】では「5 日」が最も高くなっています。

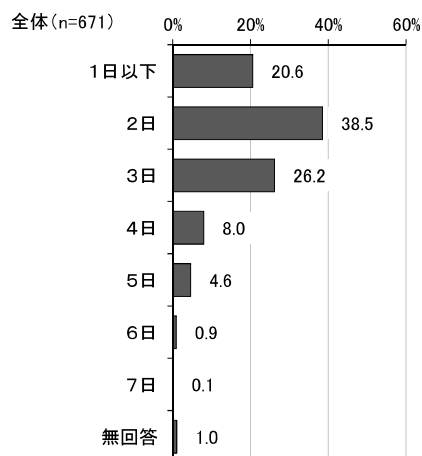
【自宅】



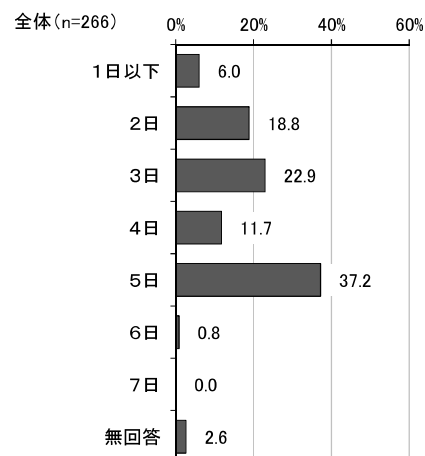
【祖父母宅や友人・知人宅】



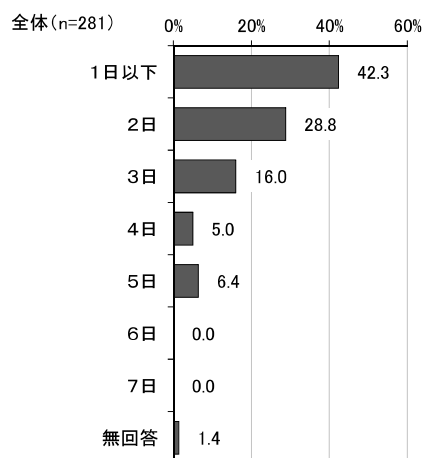
【習い事 (ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)】



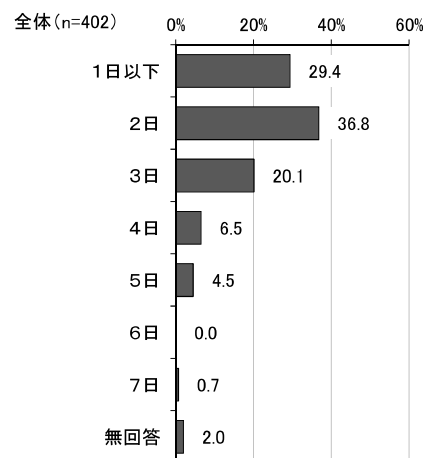
【放課後児童クラブ (学童保育)】



【あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ】



【その他 (公民館、公園など)】

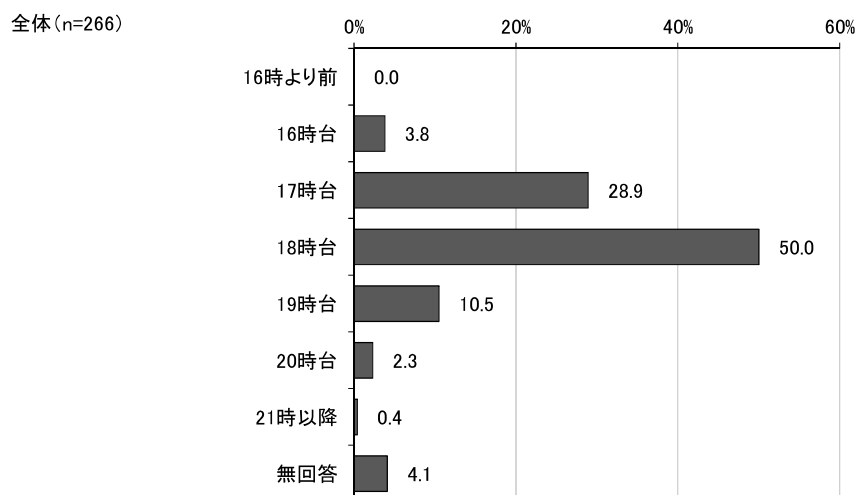


【ファミリー・サポート・センター】(n=5) 「1 日以下」: 3 件、「2 日」: 1 件、「無回答」: 1 件

放課後児童クラブ〔学童保育〕と回答した方

放課後児童クラブ〔学童保育〕の希望終了時間

放課後児童クラブ〔学童保育〕の希望終了時間についてみると、「18 時台」が 50.0%と最も高く、次いで「17 時台」が 28.9%、「19 時台」が 10.5%となっています。

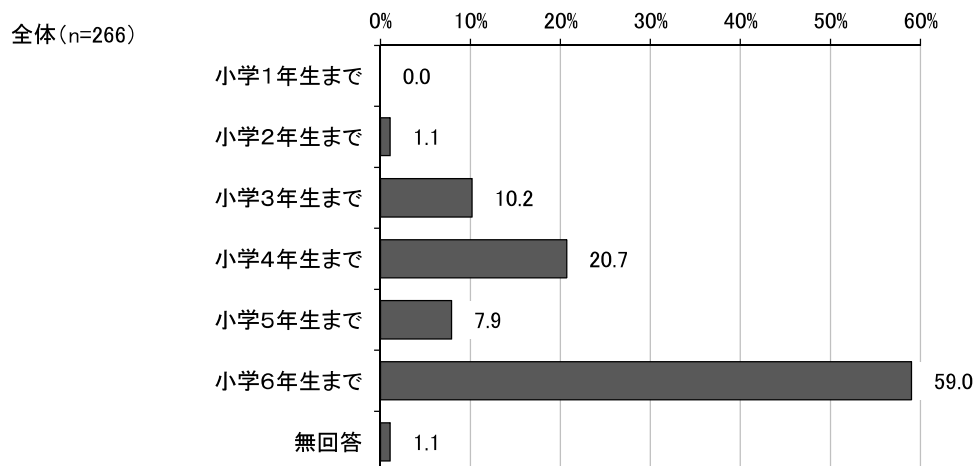


問 20 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 20- 1 お子さんについて、何年生まで、放課後児童クラブを利用したいと思いますか。

(1 つに○)

何年生まで放課後児童クラブを利用したいと思うかについてみると、「小学6年生まで」が 59.0%と最も高く、次いで「小学4年生まで」が 20.7%、「小学3年生まで」が 10.2%となっています。



■学年別

学年別にみると、いずれも「小学6年生まで」が最も高くなっています。

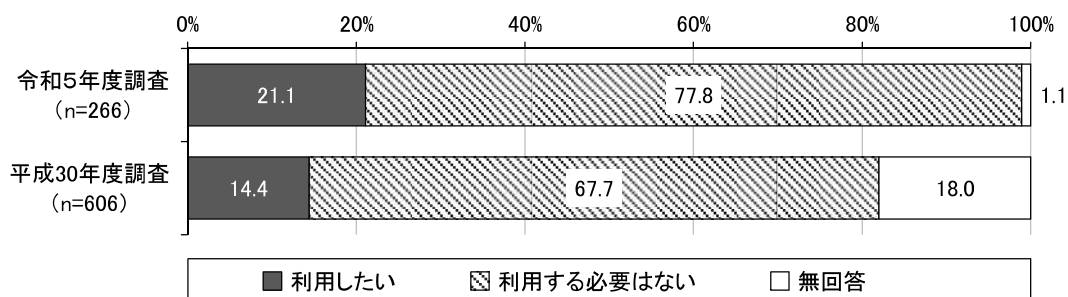
単位：％		小学 1 年生 まで	小学 2 年生 まで	小学 3 年生 まで	小学 4 年生 まで	小学 5 年生 まで	小学 6 年生 まで	無 回 答
全体(n=266)		0.0	1.1	10.2	20.7	7.9	59.0	1.1
学 年 別	小学1年生(n=87)	0.0	2.3	19.5	23.0	3.4	48.3	3.4
	小学2年生(n=73)	0.0	1.4	8.2	27.4	8.2	54.8	0.0
	小学3年生(n=45)	0.0	0.0	4.4	24.4	17.8	53.3	0.0
	小学4年生(n=26)	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	76.9	0.0
	小学5年生(n=19)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	小学6年生(n=13)	0.0	0.0	7.7	15.4	0.0	76.9	0.0

問 20 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 20-2 お子さんについて、①土曜日と②日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。(①・②それぞれ1つに○)

①土曜日

土曜日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が 77.8%と、「利用したい」の 21.1%を上回っています。



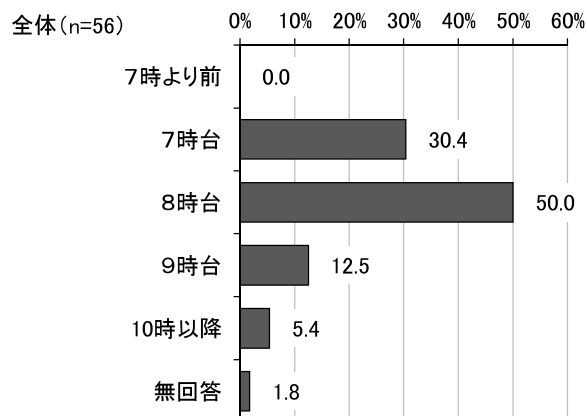
「利用したい」と回答した方

利用したい時間帯

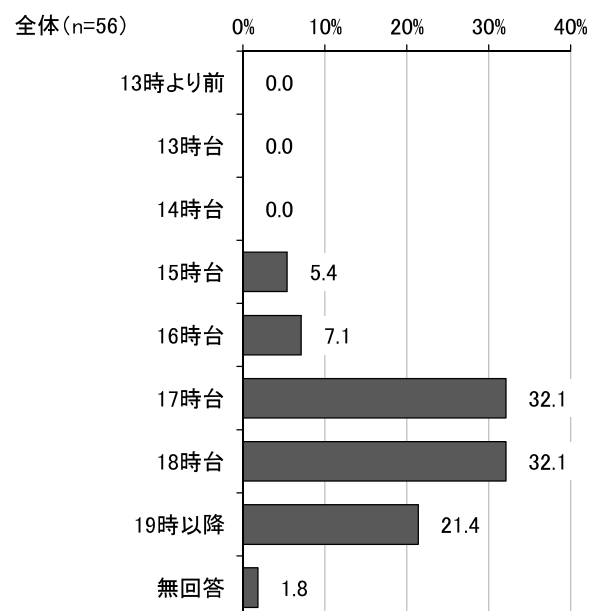
開始時間についてみると、「8時台」が 50.0%と最も高く、次いで「7時台」が 30.4%、「9時台」が 12.5%となっています。

終了時間についてみると、「17時台」「18時台」が 32.1%と最も高く、次いで「19時以降」が 21.4%となっています。

■開始時間

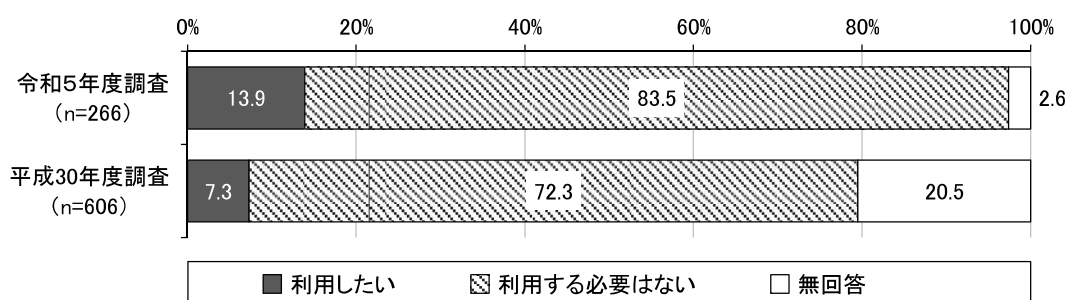


■終了時間



②日曜日・祝日

日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が 83.5%と、「利用したい」の 13.9%を上回っています。



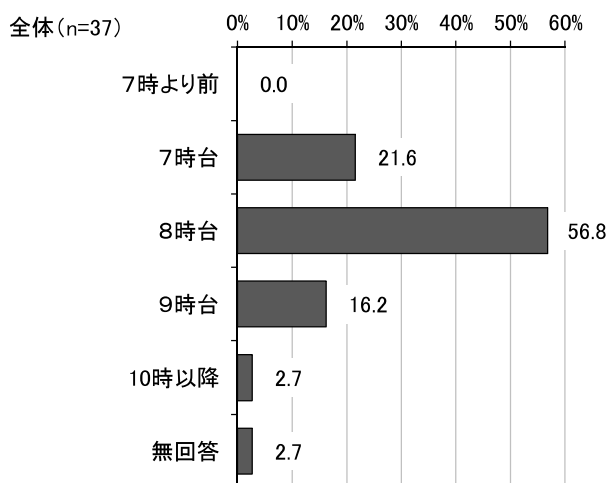
「利用したい」と回答した方

利用したい時間帯

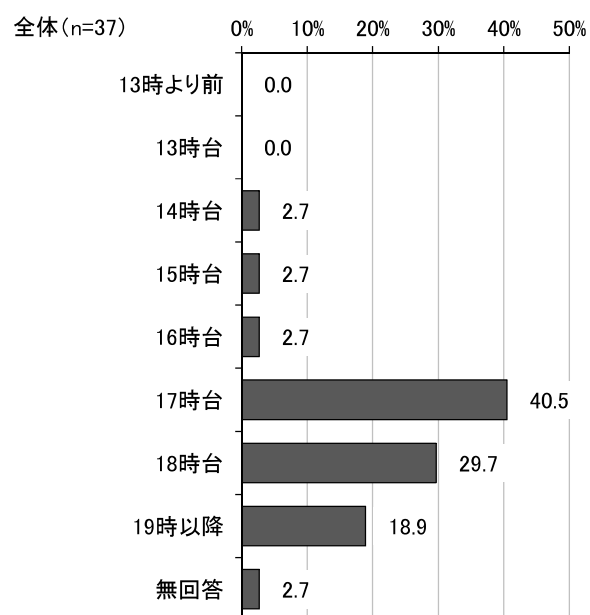
開始時間についてみると、「8時台」が 56.8%と最も高く、次いで「7時台」が 21.6%、「9時台」が 16.2%となっています。

終了時間についてみると、「17時台」が 40.5%と最も高く、次いで「18時台」が 29.7%、「19時以降」が 18.9%となっています。

■開始時間



■終了時間

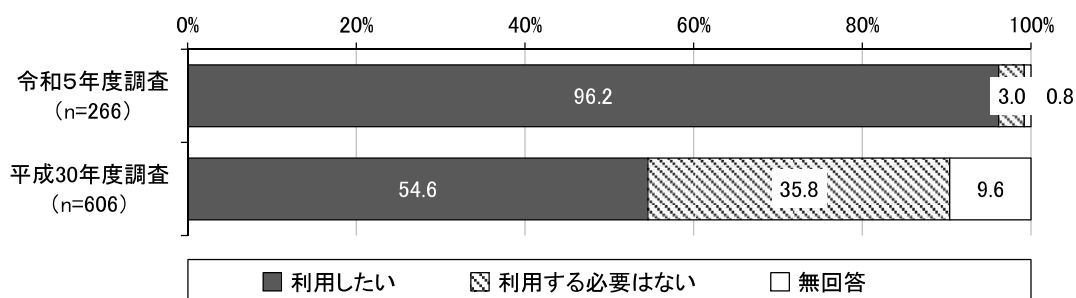


問 20 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 20- 3 お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。(1つに○)

夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望についてみると、「利用したい」が96.2%と、「利用する必要はない」の3.0%を上回っています。

前回調査と比較すると、「利用したい」が40ポイント以上増加しています。



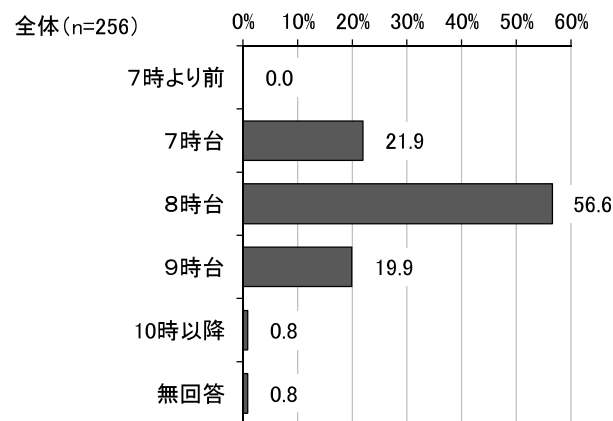
「利用したい」と回答した方

利用したい時間帯

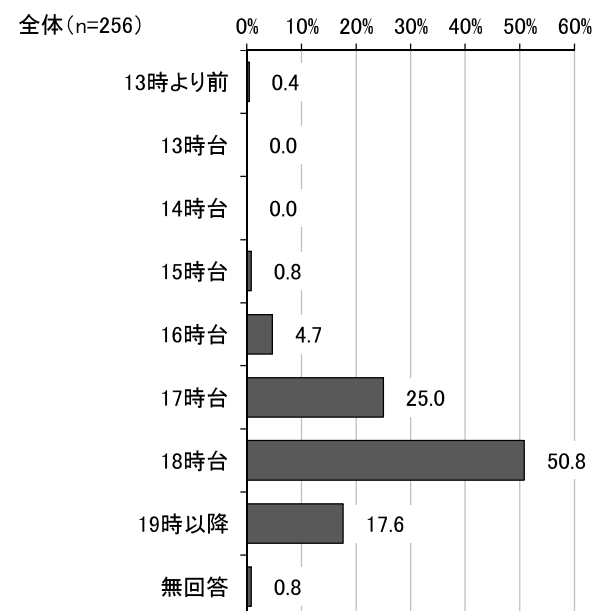
開始時間についてみると、「8時台」が56.6%と最も高く、次いで「7時台」が21.9%、「9時台」が19.9%となっています。

終了時間についてみると、「18時台」が50.8%と最も高く、次いで「17時台」が25.0%、「19時以降」が17.6%となっています。

■開始時間



■終了時間

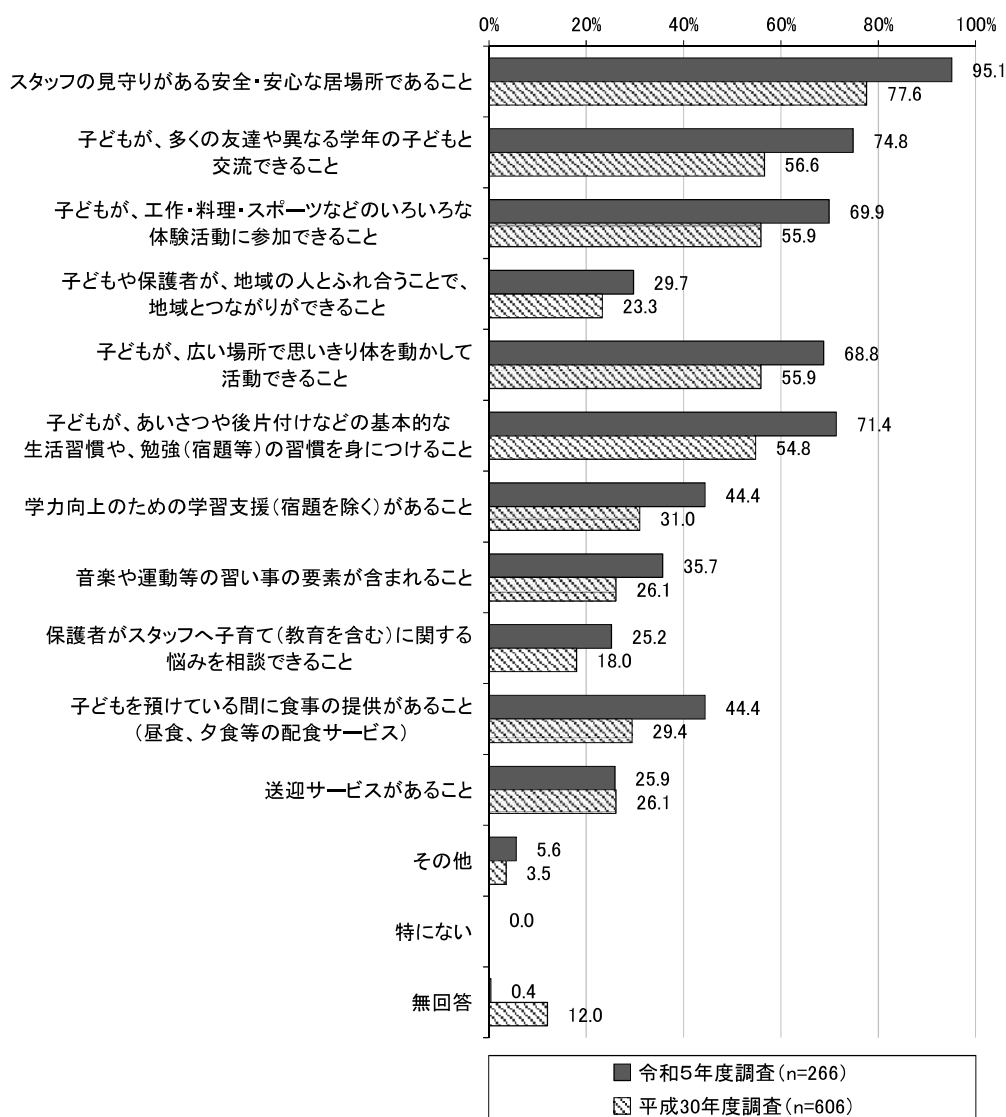


問 20 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 20-4 放課後児童クラブに期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

放課後児童クラブに期待することについてみると、「スタッフの見守りがある安全・安心な居場所であること」が 95.1%と最も高く、次いで「子どもが、多くの友達や異なる学年の子どもと交流できること」が 74.8%、「子どもが、あいさつや後片付けなどの基本的な生活習慣や、勉強(宿題等)の習慣を身につけること」が 71.4%となっています。

前回調査と比較すると、「スタッフの見守りがある安全・安心な居場所であること」「子どもが、多くの友達や異なる学年の子どもと交流できること」「子どもが、あいさつや後片付けなどの基本的な生活習慣や、勉強(宿題等)の習慣を身につけること」「子どもを預けている間に食事の提供があること(昼食、夕食等の配食サービス)」が 15 ポイント以上増加、「子どもが、工作・料理・スポーツなどのいろいろな体験活動に参加できること」「子どもが、広い場所で思いきり体を動かして活動できること」「学力向上のための学習支援(宿題を除く)があること」が 10 ポイント以上増加しています。

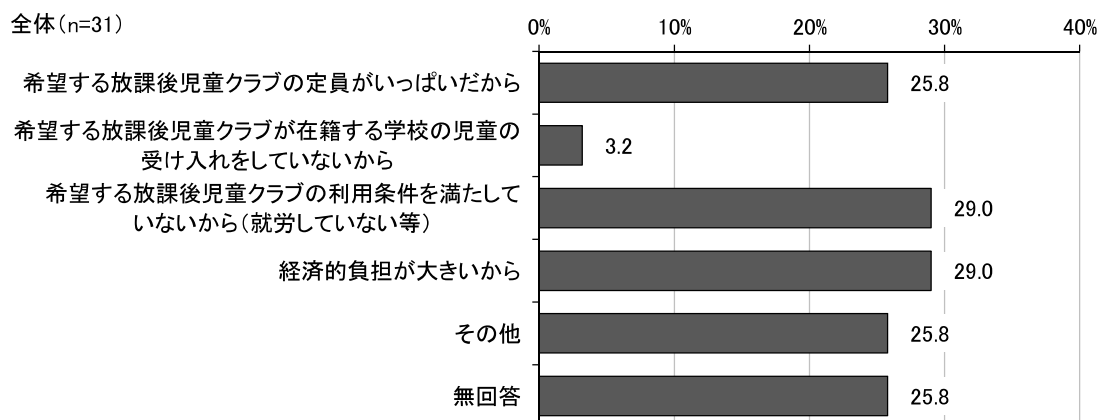


※「特にない」は、令和5年度調査のみの選択肢

現在、放課後児童クラブを利用していないが、問 20 で「放課後児童クラブ」と回答した方

問 20- 5 放課後児童クラブの利用（参加）を希望したいが、利用（参加）できない理由等は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

放課後児童クラブの利用（参加）を希望したいが、利用（参加）できない理由等についてみると、「希望する放課後児童クラブの利用条件を満たしていないから（就労していない等）」「経済的負担が大きいから」が 29.0%と最も高く、次いで「希望する放課後児童クラブの定員がいっぱいだから」「その他」が 25.8%となっています。

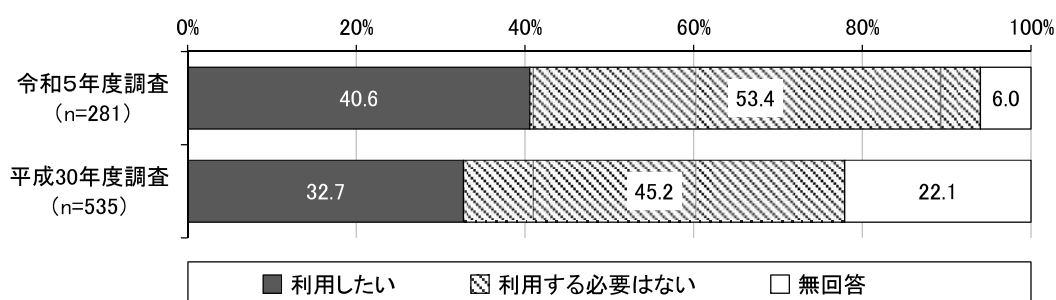


問 20 で「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」と回答した方

問 20- 6 お子さんについて、土曜日にあそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの利用希望はありますか。（1つに○）

土曜日のあそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの利用希望についてみると、「利用する必要はない」が 53.4%と、「利用したい」の 40.6%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



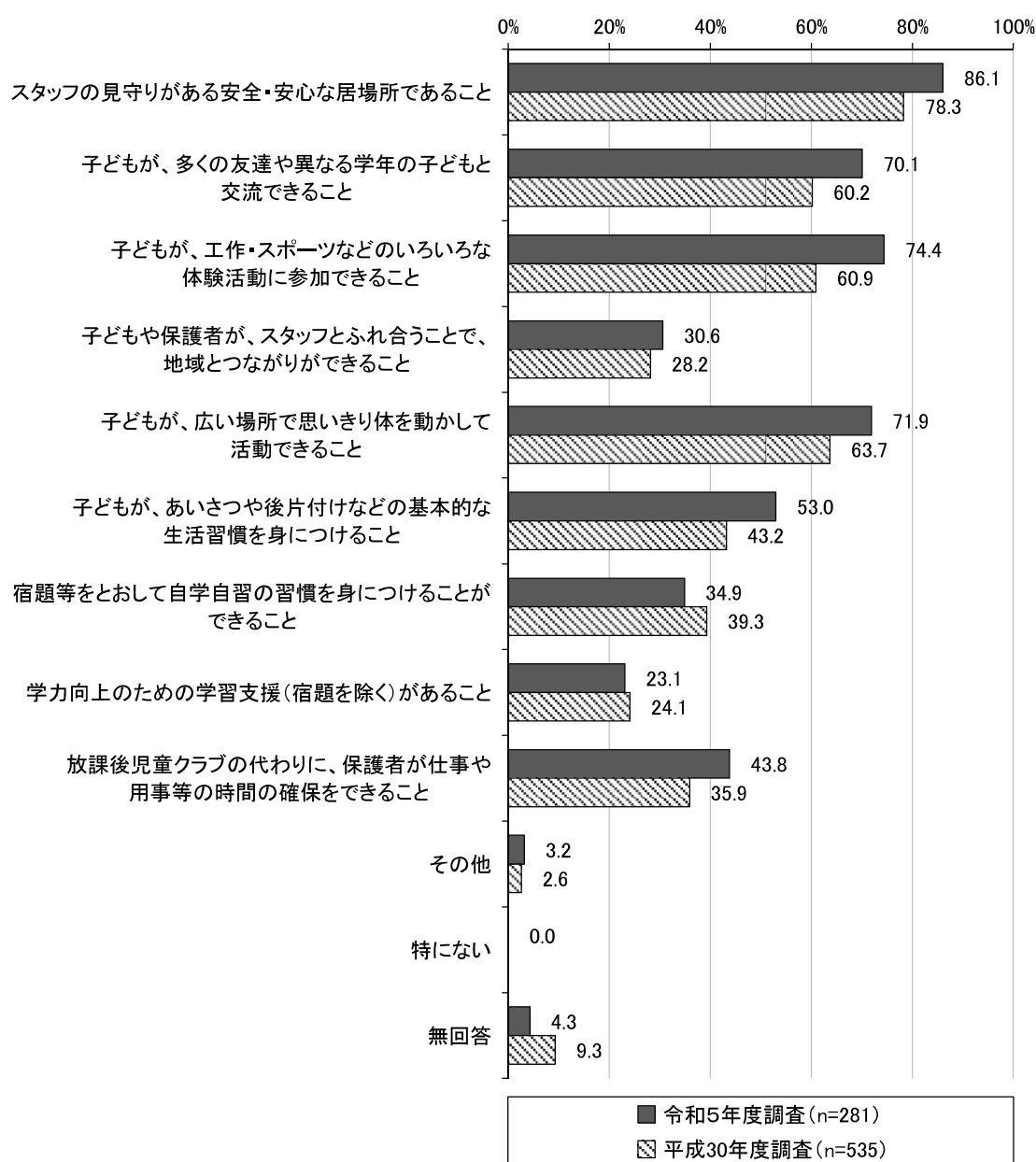
問 20 で「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」と回答した方

問 20- 7 あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブに期待することは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブに期待することについてみると、「スタッフの見守りがある安全・安心な居場所であること」が 86.1%と最も高く、次いで「子どもが、工作・スポーツなどのいろいろな体験活動に参加できること」が 74.4%、「子どもが、広い場所で思いきり体を動かして活動できること」が 71.9%となっています。

前回調査と比較すると、「子どもが、工作・スポーツなどのいろいろな体験活動に参加できること」が 10ポイント以上増加しています。

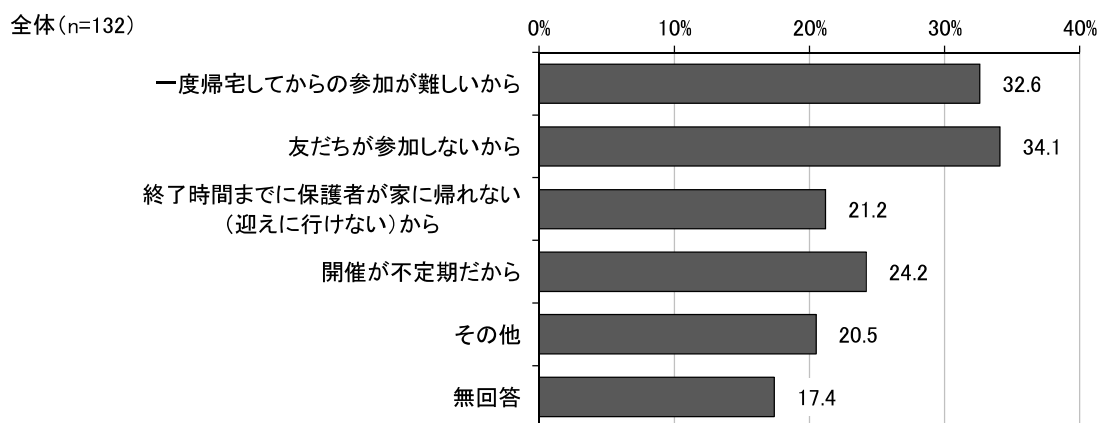


※「特にない」は、令和5年度調査のみの選択肢

現在、あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブを利用していないが、問 20 で「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」と回答した方

問 20- 8 あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの利用（参加）を希望したいが、利用（参加）できない理由等は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

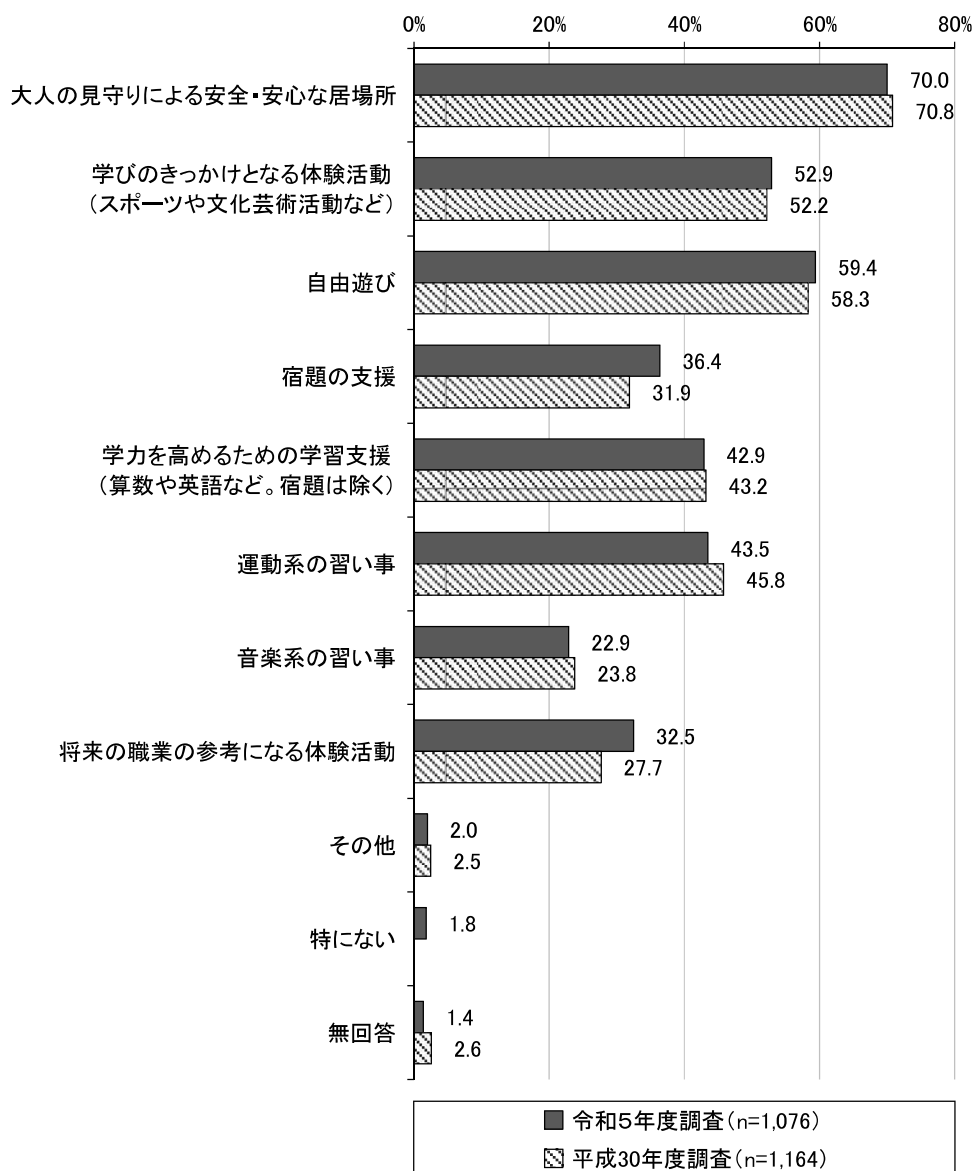
あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの利用（参加）を希望したいが、利用（参加）できない理由等についてみると、「友だちが参加しないから」が 34.1%と最も高く、次いで「一度帰宅してからの参加が難しいから」が 32.6%、「開催が不定期だから」が 24.2%となっています。



問 21 お子さんの放課後に必要と思うものは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

子どもの放課後に必要と思うものについてみると、「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が70.0%と最も高く、次いで「自由遊び」が59.4%、「学びのきっかけとなる体験活動(スポーツや文化芸術活動など)」が52.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



※「特にない」は、令和5年度調査のみの選択肢

■学年別

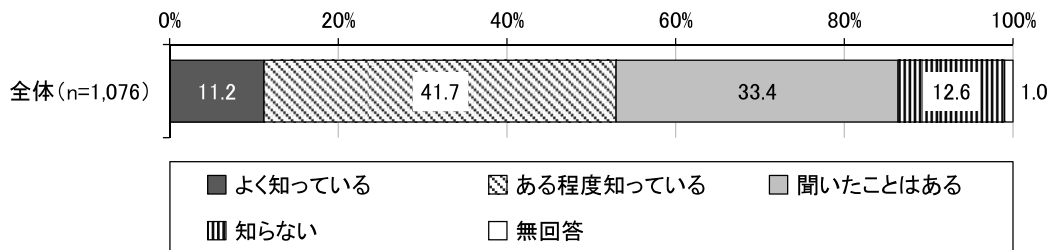
学年別にみると、いずれも「大人の見守りによる安全・安心な居場所」が最も高くなっています。

単位：％		大人の 見守り による安全・ 安心な居場所	学 びの きつ かけ となる 文化 芸術 活動 (スポ ー ツ な ど)	自 由 遊 び	宿 題 の 支 援	学 力 を 高 め る た め の 学 習 支 援 (算 数 や 英 語 な ど 。宿 題 は 除 く)	運 動 系 の 習 い 事	音 楽 系 の 習 い 事	将 来 の 職 業 の 参 考 に な る 体 験 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体 (n=1,076)		70.0	52.9	59.4	36.4	42.9	43.5	22.9	32.5	2.0	1.8	1.4
学 年 別	小学1年生 (n=209)	79.4	54.1	64.6	45.0	39.2	48.8	30.6	26.8	1.0	0.0	2.4
	小学2年生 (n=194)	73.7	60.3	59.8	39.7	45.4	47.4	24.2	28.9	2.1	2.1	2.1
	小学3年生 (n=178)	74.2	48.9	60.7	28.7	40.4	43.8	20.2	37.1	2.8	1.1	0.6
	小学4年生 (n=166)	66.9	55.4	62.0	36.7	44.0	41.6	22.9	33.7	1.2	1.8	0.6
	小学5年生 (n=155)	64.5	51.6	54.2	30.3	43.2	34.8	17.4	36.1	3.2	4.5	0.6
	小学6年生 (n=162)	58.0	46.9	53.1	34.0	45.7	43.2	21.0	35.2	0.6	1.9	1.9

7 「こどもの権利」について

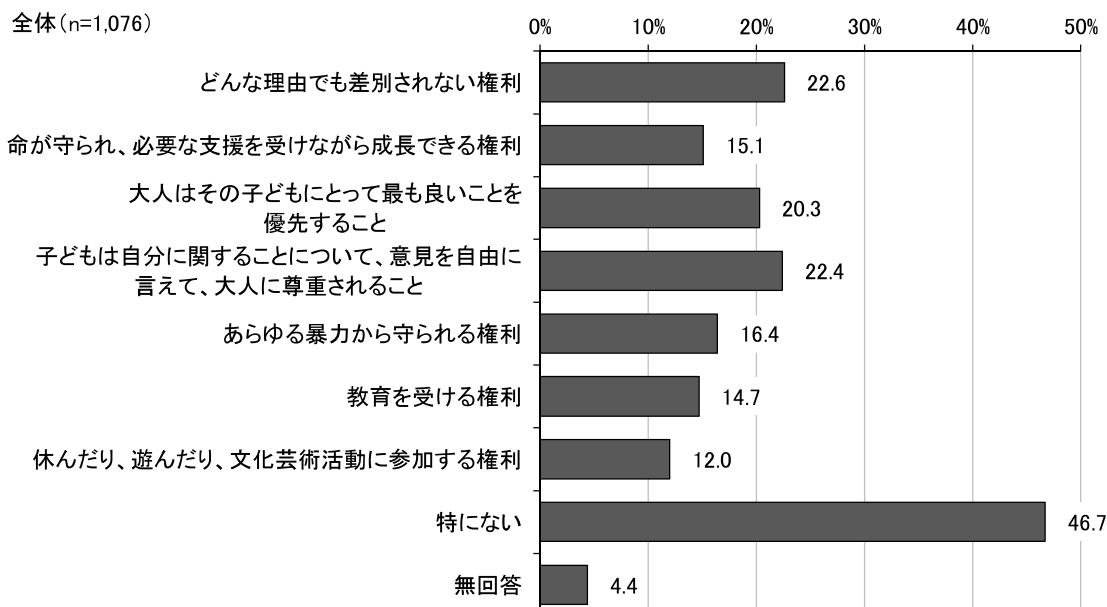
問 22 「こどもの権利」とは、子どもが大人と同じく一人の人間として持つ権利であり、安心して生活できること、自由に意見を言ったり活動したりできることなどが含まれます。あなたは、「こどもの権利」について知っていますか。（1つに○）

「こどもの権利」の認知度についてみると、「ある程度知っている」が 41.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が 33.4%、「知らない」が 12.6%となっています。



問 23 あなたは、あなたのまわりの子どもについて、次にあげるような「こどもの権利」が守られていないと感じるものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「こどもの権利」が守られていないと感じるものについてみると、「特にない」が 46.7%と最も高く、次いで「どんな理由でも差別されない権利」が 22.6%、「子どもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること」が 22.4%となっています。



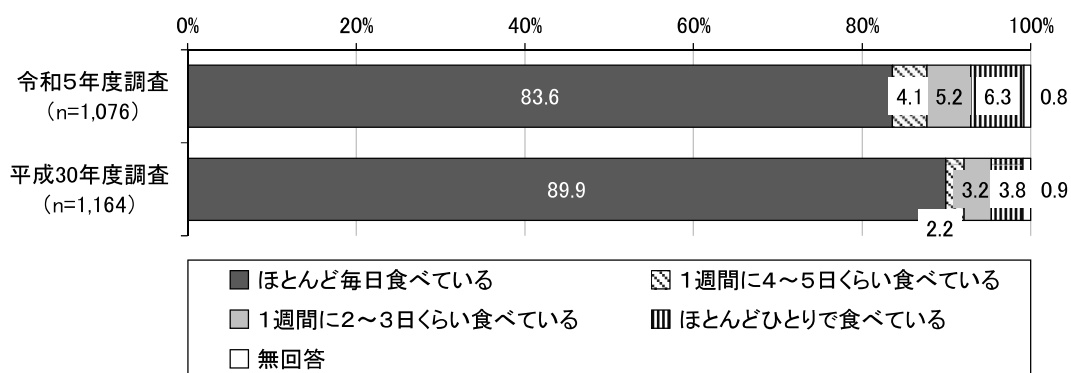
8 子育てと子育て支援について

問 24 お子さんが誰かといっしょに食べる頻度はどれくらいですか。(①・②それぞれ1つに○)

①朝食

朝食を子どもが誰かといっしょに食べる頻度についてみると、「ほとんど毎日食べている」が 83.6%と最も高く、次いで「ほとんどひとりで食べている」が 6.3%、「1週間に2～3日くらい食べている」が 5.2%となっています。

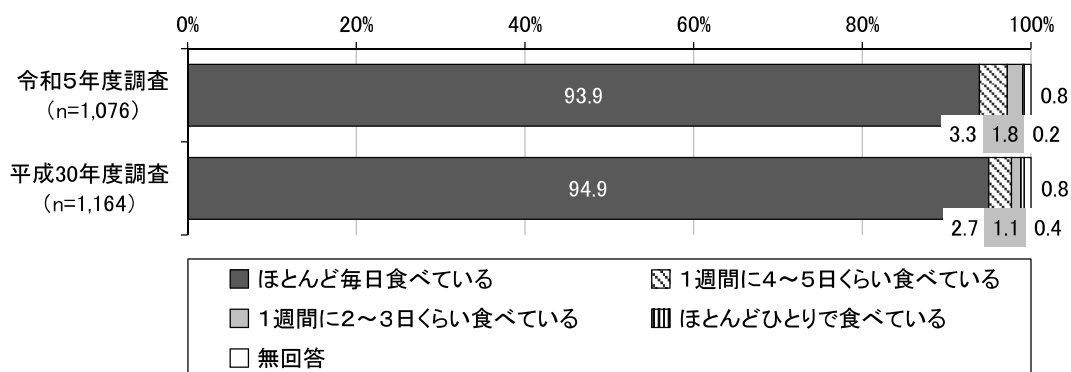
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



②夕食

夕食を子どもが誰かといっしょに食べる頻度についてみると、「ほとんど毎日食べている」が 93.9%と最も高く、次いで「1週間に4～5日くらい食べている」が 3.3%、「1週間に2～3日くらい食べている」が 1.8%となっています。

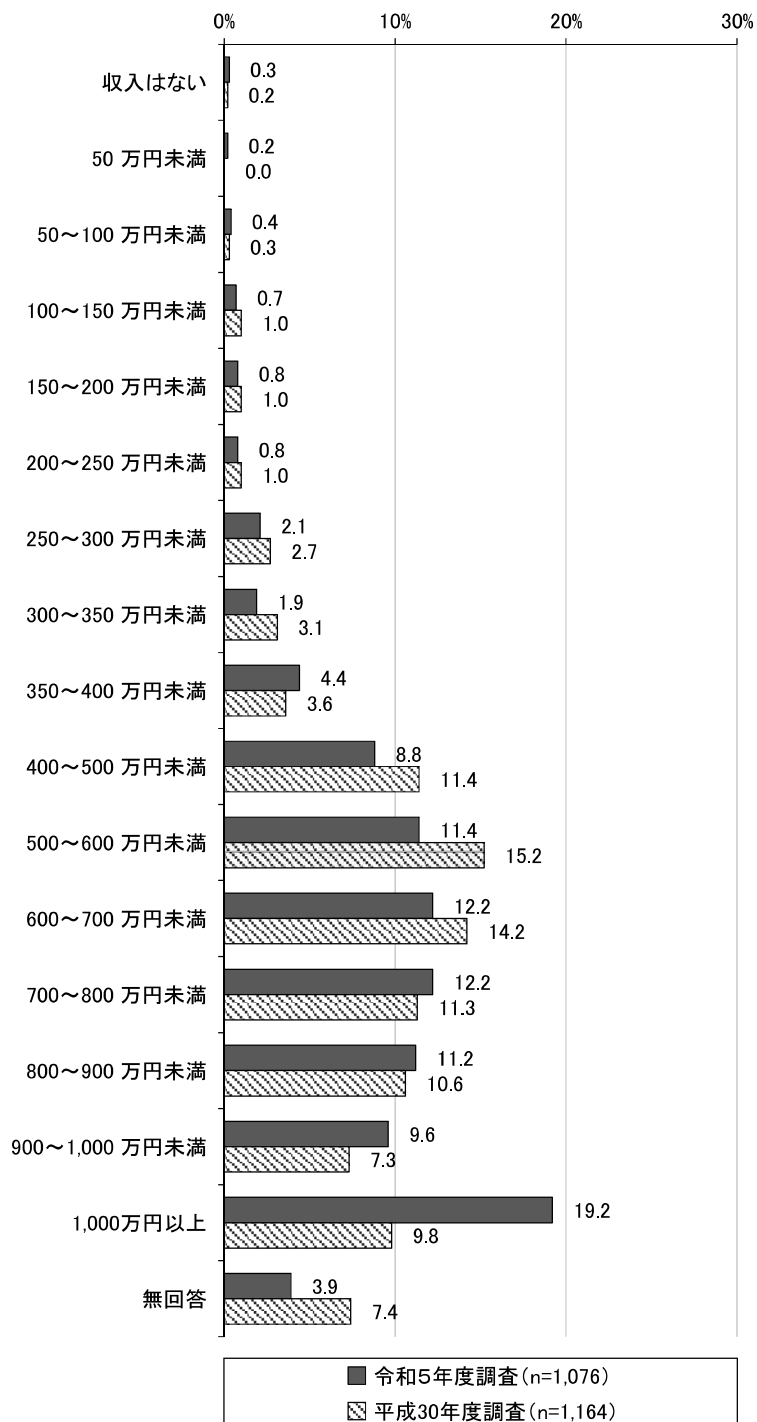
前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 25 あなたのご家庭の全員の収入を合わせた年間の「世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）」を教えてください。単身赴任や進学などのために一時的に別居している方も含みます。
（1つに○）

年間の世帯の収入(年間のボーナス含む手取り額)についてみると、「1,000 万円以上」が 19.2%と最も高く、次いで「600～700 万円未満」「700～800 万円未満」が 12.2%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

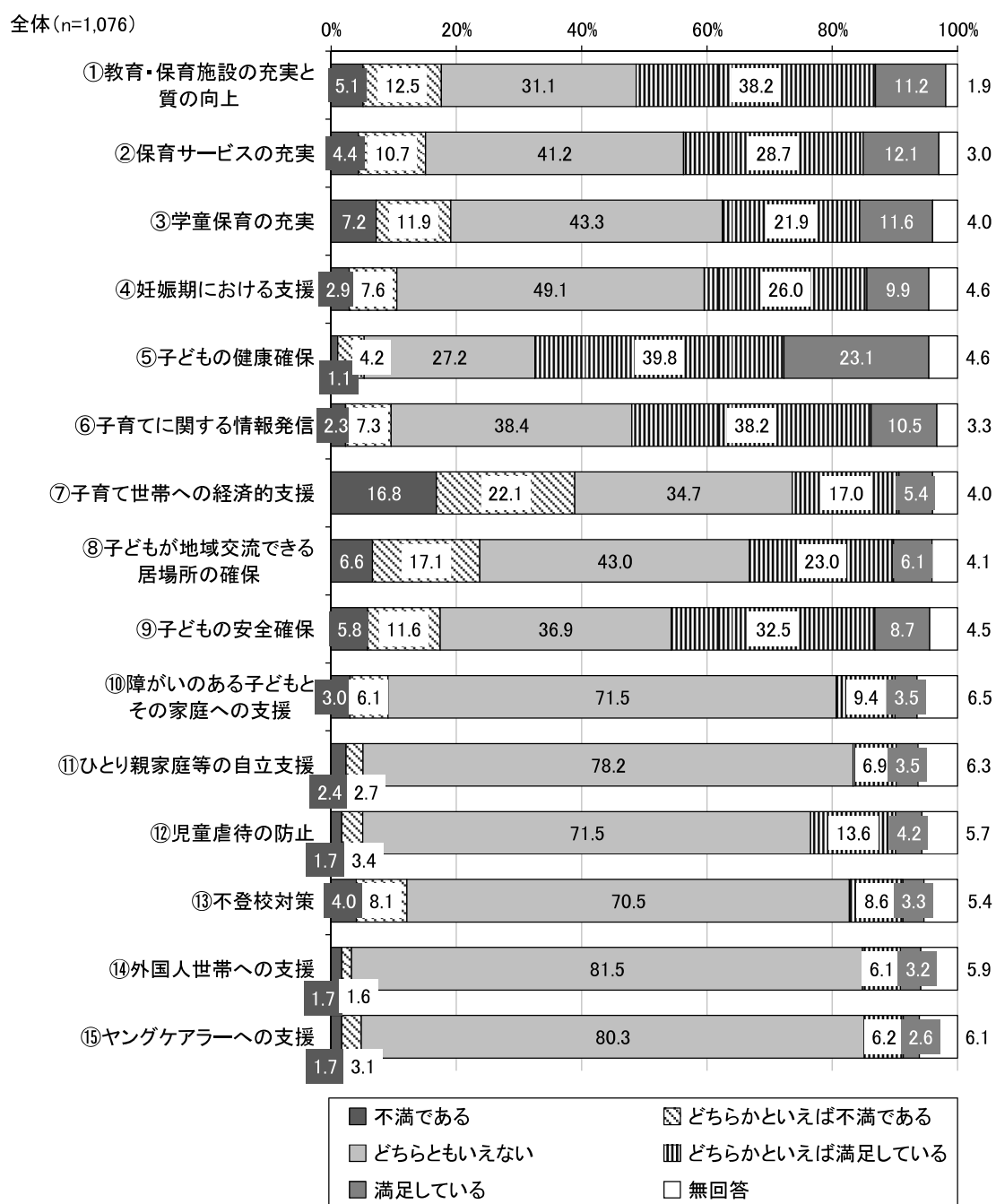


問 26 ①～⑮の市の子育て支援の取組について、(1) 現状の満足度、(2) 今後の重要度をお答えください。(それぞれ1つに○)

(1) 現状の満足度

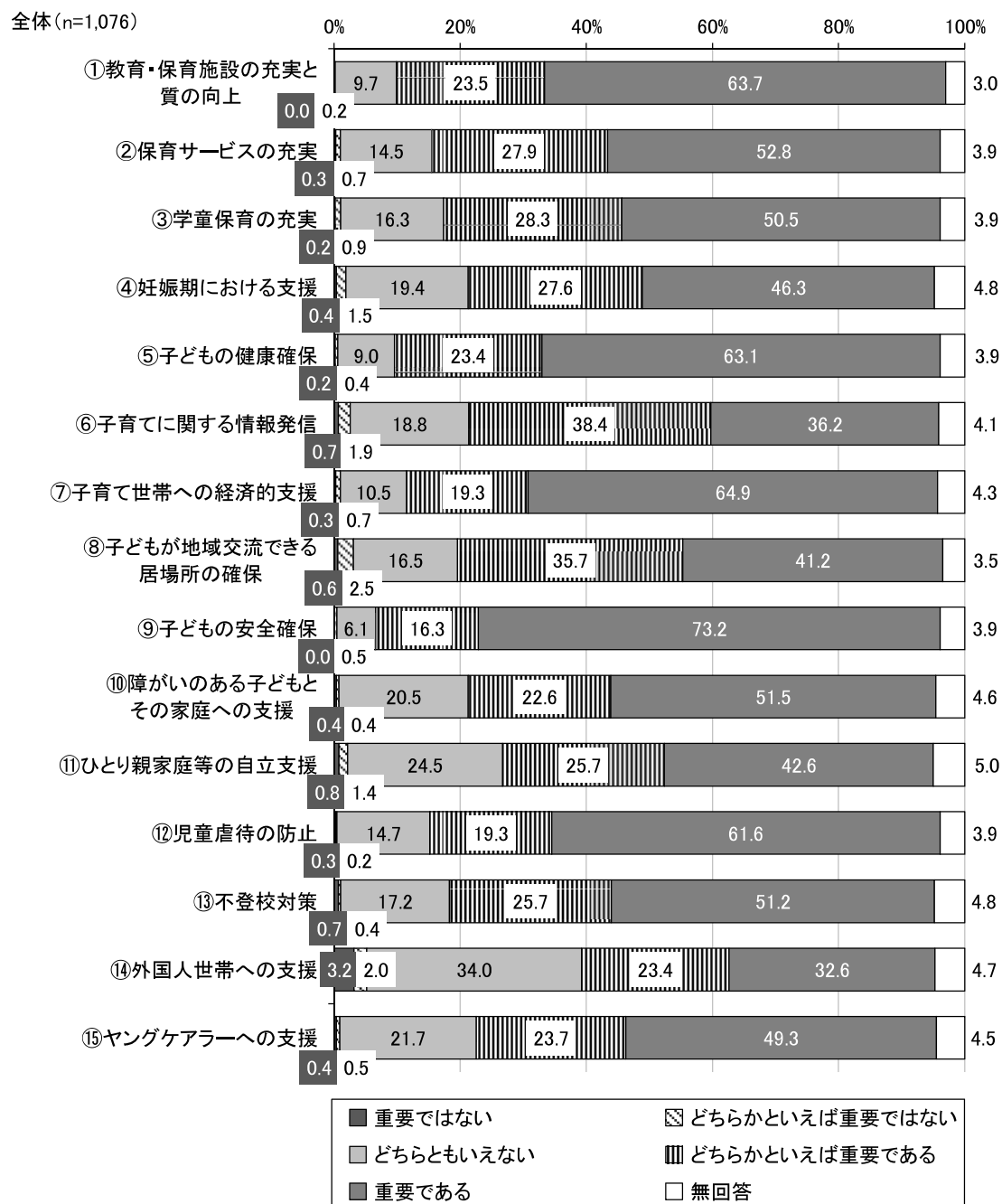
現状の満足度についてみると、『満足している(「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計)』は【⑤子どもの健康確保】が 62.9%、【①教育・保育施設の充実と質の向上】が 49.4%【⑥子育てに関する情報発信】が 48.7%となっています。

『不満である(「不満である」と「どちらかといえば不満である」の合計)』は【⑦子育て世帯への経済的支援】が 38.9%、【⑧子どもが地域交流できる居場所の確保】が 23.7%、【③学童保育の充実】が 19.1%となっています。



（２）今後の重要度

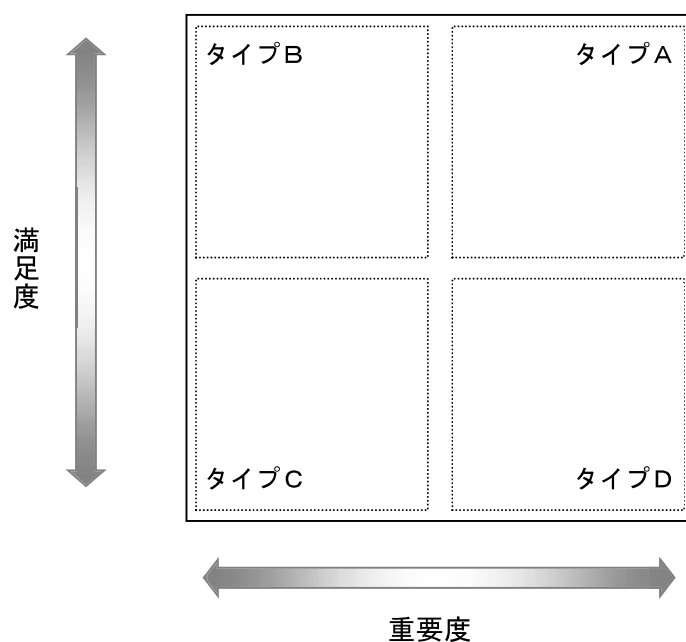
今後の重要度についてみると、『重要である（「重要である」と「どちらかといえば重要である」の合計）』は【⑨子どもの安全確保】が 89.5%、【①教育・保育施設の充実と質の向上】が 87.2%、【⑤子どもの健康確保】が 86.5%となっています。



◎ポートフォリオ分析による満足度・重要度の調査

散布図の右上は、重要度が高く、かつ満足度も高い項目が位置し、今後も維持していく項目となっています。右下は、重要だが不満な項目が位置しており、要改善項目が並んでいます。

各項目の満足度・重要度の得点の関係について、満足度・重要度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。



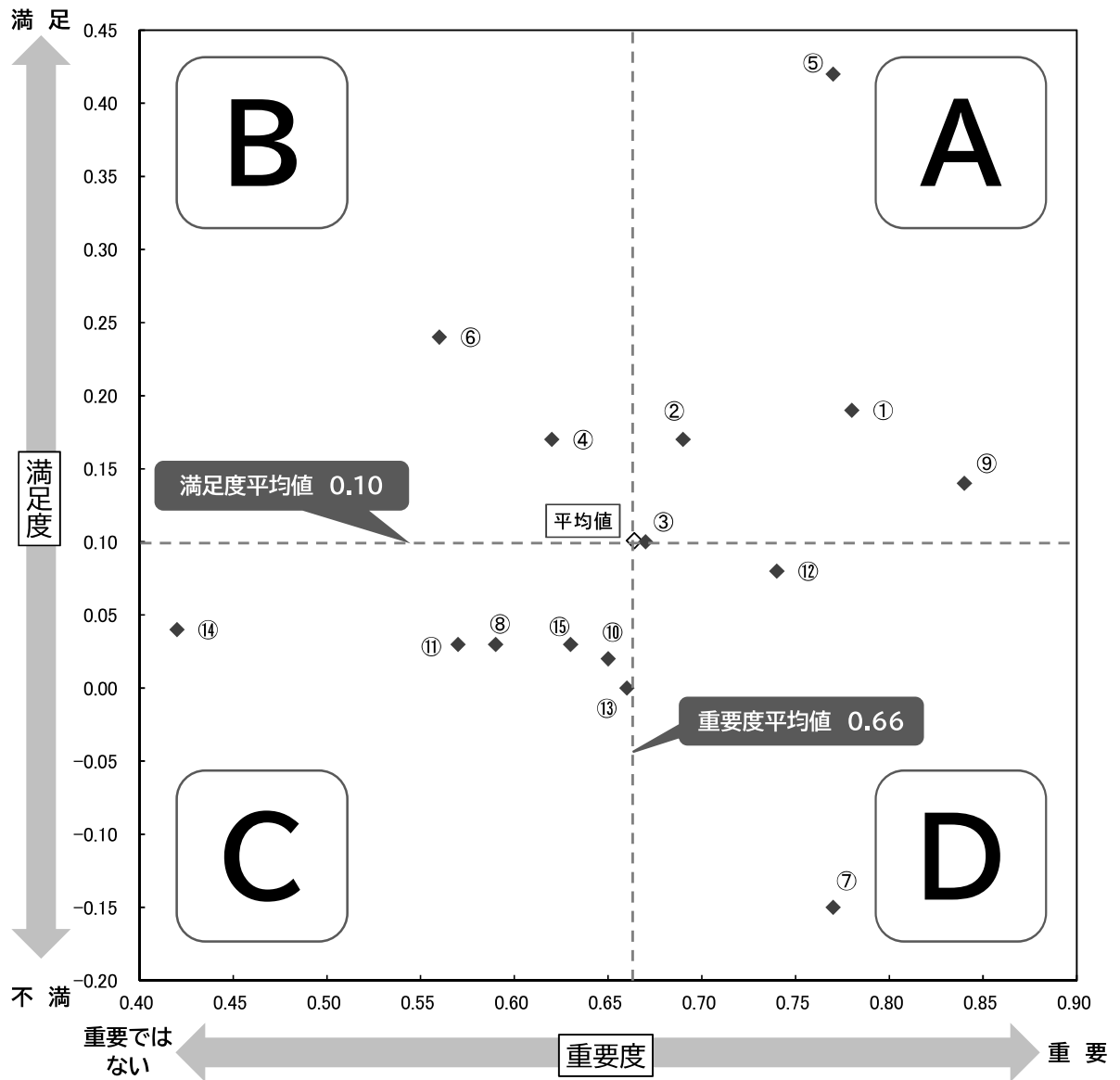
- ◆**タイプA** **継続推進**（重要度：平均点以上 満足度：平均点以上）
重要性の認識も取組に対する満足度もともに高く、現在の水準を下げないように継続的な対応が望まれます。
- ◆**タイプB** **成果検証**（重要度：平均点未満 満足度：平均点以上）
重要性の認識は低いですが、取組に対する満足度は高く、一定の成果を上げているため、必要性を検証し適切な対応が望まれます。
- ◆**タイプC** **検討課題**（重要度：平均点未満 満足度：平均点未満）
重要性の認識は低く、取組に対する満足度も低く、必要性の検証や取組内容の見直しなどを検討し適切な対応が求められます。
- ◆**タイプD** **重点課題**（重要度：平均点以上 満足度：平均点未満）
重要性の認識は高いが、取組に対する満足度は低く、他区分の取組に優先した重点的な対応が望まれます。

<加点方法>

満足度…「満足している」1点、「どちらかといえば満足している」0.5点、
「どちらかといえば不満である」－0.5点、「不満である」－1点

重要度…「重要である」1点、「どちらかといえば重要である」0.5点、
「どちらかといえば重要ではない」－0.5点、「重要ではない」－1点

「問 26」の項目であげている 15 の取り組みについてポートフォリオによる分析を実施しています。

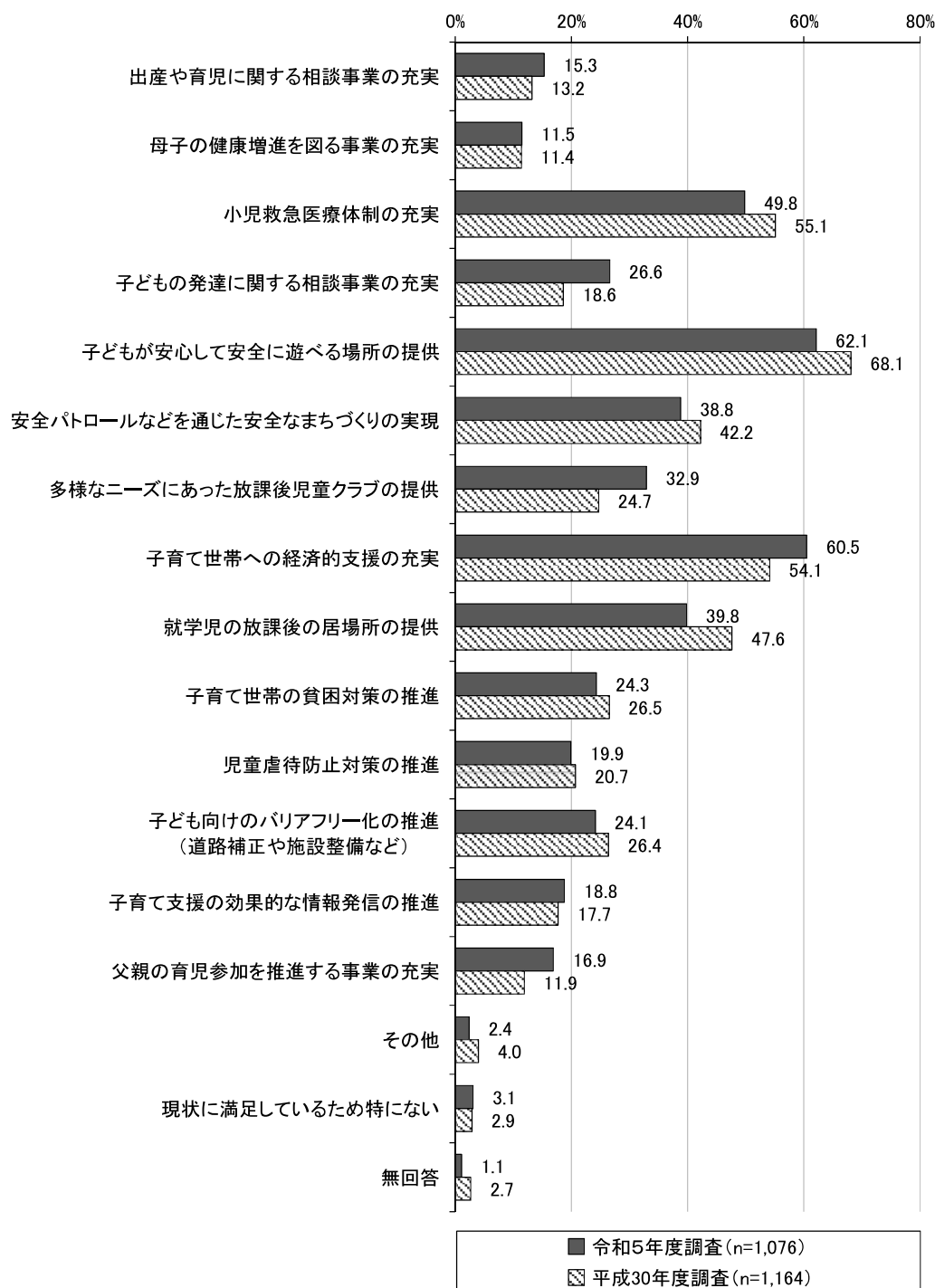


①	教育・保育施設の充実と質の向上	A	⑨	子どもの安全確保	A
②	保育サービスの充実	A	⑩	障がいのある子どもとその家庭への支援	C
③	学童保育の充実	A	⑪	ひとり親家庭等の自立支援	C
④	妊娠期における支援	B	⑫	児童虐待の防止	D
⑤	子どもの健康確保	A	⑬	不登校対策	C
⑥	子育てに関する情報発信	B	⑭	外国人世帯への支援	C
⑦	子育て世帯への経済的支援	D	⑮	ヤングケアラーへの支援	C
⑧	子どもが地域交流できる居場所の確保	C			

問 27 子育て支援でもっと力をいれてほしいものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

子育て支援でもっと力をいれてほしいものについてみると、「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」が 62.1%と最も高く、次いで「子育て世帯への経済的支援の充実」が 60.5%、「小児救急医療体制の充実」が 49.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



※「多様なニーズにあった放課後児童クラブの提供」「就学児の放課後の居場所の提供」は、平成 30 年度調査では「多様なニーズにあった保育園・幼稚園施設の提供」「就学児にかかる放課後の居場所の提供」

■学年別・世帯別

学年別にみると、小学1年生、小学2年生、小学5年生では「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」、その他の学年では「子育て世帯への経済的支援の充実」が最も高くなっています。

世帯別にみると、ひとり親世帯、3世代世帯では「子育て世帯への経済的支援の充実」、2世代世帯では「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」が最も高くなっています。

単位：％		事業の充実	出産や育児に関する相談	母子の健康増進を図る事業の充実	小児救急医療体制の充実	子どもの発達に関する相談事業の充実	子どもが安心して安全に遊べる場所の提供	安全なまちづくりを通じた安全なまちづくりの実現	多様なニーズにあった放課後児童クラブの提供	子育て世帯への経済的支援の充実	就学児の放課後の居場所の提供
全体(n=1,076)		15.3	11.5	49.8	26.6	62.1	38.8	32.9	60.5	39.8	
学年別	小学1年生(n=209)	19.6	18.7	49.8	25.4	70.8	43.1	45.9	65.6	50.7	
	小学2年生(n=194)	15.5	11.3	53.1	32.0	66.0	39.7	37.6	56.7	47.4	
	小学3年生(n=178)	14.0	10.7	49.4	24.2	57.9	38.2	33.1	64.0	39.9	
	小学4年生(n=166)	10.8	6.0	50.0	26.5	58.4	34.3	25.9	60.2	39.8	
	小学5年生(n=155)	16.8	9.7	51.6	23.9	63.9	43.2	28.4	56.1	38.7	
	小学6年生(n=162)	14.8	9.3	44.4	27.2	54.9	34.0	22.8	58.6	19.1	
世帯別	ひとり親世帯(n=91)	16.5	14.3	50.5	22.0	45.1	37.4	33.0	56.0	34.1	
	2世代世帯(n=884)	15.4	10.5	50.0	26.4	63.7	38.8	33.5	60.1	40.5	
	3世代世帯(n=78)	16.7	17.9	46.2	33.3	62.8	39.7	28.2	67.9	41.0	

単位：％		子育て世帯の貧困対策の推進	児童虐待防止対策の推進	やいばり施設整備など（道）の推進	子ども向けの推進（道）の推進	子育て世帯の支援の推進	親子の育児参加を推進する父親の育児参加を推進する	その他	現に満足しているため	無回答
全体(n=1,076)		24.3	19.9	24.1	18.8	16.9	2.4	3.1	1.1	
学年別	小学1年生(n=209)	29.7	20.6	27.8	18.2	20.6	1.9	2.4	1.9	
	小学2年生(n=194)	23.2	21.6	27.3	22.7	20.1	2.6	3.1	0.5	
	小学3年生(n=178)	22.5	16.3	18.0	19.7	14.0	4.5	1.7	0.6	
	小学4年生(n=166)	19.9	21.1	21.1	13.3	13.9	1.8	4.8	0.6	
	小学5年生(n=155)	26.5	24.5	27.1	20.0	17.4	2.6	1.3	1.9	
	小学6年生(n=162)	22.8	14.8	22.2	17.9	13.6	1.2	4.9	1.2	
世帯別	ひとり親世帯(n=91)	47.3	23.1	25.3	17.6	8.8	3.3	3.3	3.3	
	2世代世帯(n=884)	21.5	19.6	23.8	18.2	17.4	2.4	2.9	0.8	
	3世代世帯(n=78)	24.4	21.8	24.4	26.9	21.8	2.6	5.1	1.3	

■地域別

地域別にみると、柏ヶ谷地域、上今泉地域、海西地域、杉久保地域、門沢橋地域では「子育て世帯への経済的支援の充実」、その他の地域では「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」が最も高くなっています。

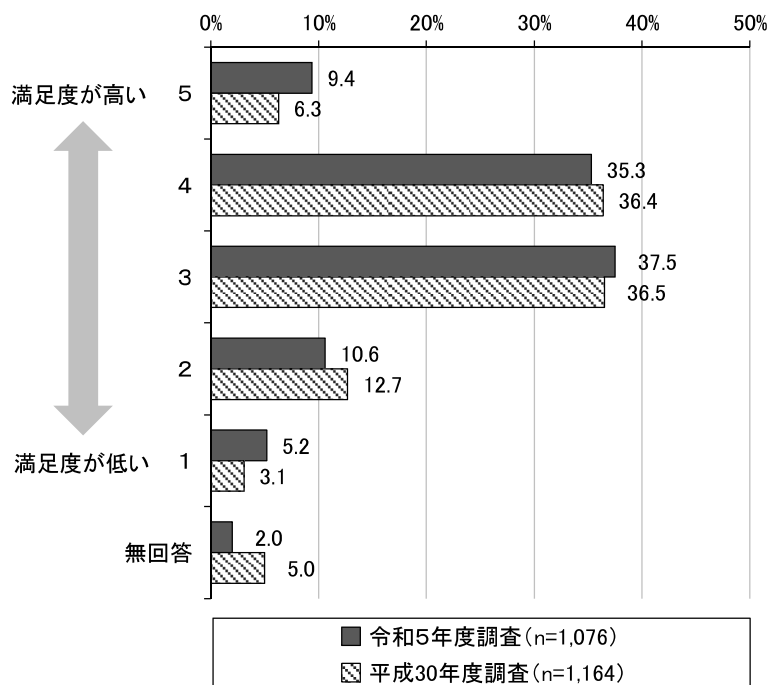
単位：％		事業の充実 出産や育児に関する相談	母子の健康増進を図る事業の充実	小児救急医療体制の充実	子どもの発達に関する相談事業の充実	子どもが安心して安全に遊べる場所の提供	安全なまちづくりを通じた安全なまちづくりの実現	多様なニーズにあった放課後児童クラブの提供	子育て世帯への経済的支援の充実	就学児の放課後の居場所の提供
全体 (n=1,076)		15.3	11.5	49.8	26.6	62.1	38.8	32.9	60.5	39.8
地域別	柏ヶ谷地域 (n=182)	13.2	9.9	54.4	29.1	60.4	45.6	37.4	62.6	45.1
	上今泉地域 (n=89)	19.1	10.1	37.1	31.5	62.9	31.5	34.8	69.7	43.8
	上郷・下今泉地域 (n=97)	8.2	11.3	53.6	24.7	61.9	36.1	23.7	52.6	38.1
	国分地域 (n=168)	13.1	12.5	48.8	25.0	67.9	32.7	29.2	51.8	39.9
	海西地域 (n=149)	18.8	12.1	42.3	27.5	55.7	40.9	43.0	58.4	43.6
	大谷地域 (n=118)	19.5	11.0	49.2	35.6	66.9	32.2	32.2	63.6	34.7
	杉久保地域 (n=77)	19.5	10.4	55.8	20.8	62.3	37.7	29.9	66.2	39.0
	本郷地域 (n=32)	15.6	12.5	56.3	21.9	68.8	46.9	31.3	65.6	50.0
	社家地域 (n=79)	12.7	12.7	60.8	21.5	65.8	49.4	29.1	63.3	30.4
	門沢橋地域 (n=72)	16.7	11.1	48.6	18.1	52.8	43.1	31.9	63.9	33.3

単位：％		子育て世帯の貧困対策の推進	児童虐待防止対策の推進	子ども向けのサービス（道整、施設整備など）の推進	子育て支援の効果的な情報発信の推進	父親の育児参加を推進する事業の充実	その他	現状に満足していないため	無回答
全体 (n=1,076)		24.3	19.9	24.1	18.8	16.9	2.4	3.1	1.1
地域別	柏ヶ谷地域 (n=182)	28.0	22.5	30.2	20.9	18.7	3.3	2.2	1.6
	上今泉地域 (n=89)	24.7	20.2	30.3	31.5	27.0	2.2	3.4	0.0
	上郷・下今泉地域 (n=97)	13.4	16.5	13.4	16.5	14.4	2.1	5.2	1.0
	国分地域 (n=168)	20.8	14.3	19.0	15.5	11.3	2.4	1.8	1.8
	海西地域 (n=149)	22.8	22.8	26.8	18.1	18.8	2.0	3.4	0.0
	大谷地域 (n=118)	21.2	19.5	23.7	13.6	14.4	0.8	4.2	0.8
	杉久保地域 (n=77)	37.7	22.1	20.8	14.3	14.3	1.3	1.3	2.6
	本郷地域 (n=32)	21.9	21.9	34.4	21.9	28.1	3.1	0.0	0.0
	社家地域 (n=79)	21.5	16.5	21.5	19.0	16.5	6.3	3.8	1.3
	門沢橋地域 (n=72)	34.7	25.0	22.2	20.8	15.3	1.4	2.8	1.4

問 28 海老名市における子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。(1つに○)

海老名市における子育ての環境や支援への満足度についてみると、「3」が 37.5%と最も高く、次いで「4」が 35.3%、「2」が 10.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。



問 29 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

いただいたご意見・ご要望を抜粋し、原文のまま掲載しています。

■教育・保育施設の充実と質の向上

- ・学校によって学習への取組(タブレットの活用 etc)の差が大きいように感じる(先生方は様々な努力をして下さっているが、人員、時間が足りないのかもしれない。市でサポートしてくれる人を募る etc 出来たら海老名の全体学力も向上するのかもしれない)。クラブや部活を外部委託出来るようにして、子供達のやってみたいを実現すると同時に先生方の負担を減らすことが出来たらと感じる。
- ・給食をもっと充実させてあげてほしいと思います。物価の上昇で大変だと思うのですが、以前に比べて毎月のメニューがあまり変化なく、品数が少なく感じます。
- ・子どもたちの身近な存在である、学校の先生がより良い環境で、心理的ストレスが軽減されるように人員を増やしたり、専門家を採用するなど改善してほしいと思います。そうする事で、より良い授業、子どもたちへのより良いサポートが出来るのではないかと感じています。
- ・共働き世帯が増えている。小学校においては、PTA 活動など現在の就労状況にはそぐわないものが多いので、存続の仕方を検討してほしい。

■保育サービスの充実

- ・緊急時に子供をすぐに見えてもらえる支援が欲しい。親(祖父母)も高齢で頼りにくく、近所に預けられる知人もいないので自分が病気になりどうしても出なければならない緊急の用事の際が非常に困っています。
- ・病児保育施設が少ない。

■学童保育の充実

- ・学童保育の施設が余りにも少なすぎます。子供の数に対して対応が追いついていない。マンション乱立でこれから様々な問題が起きると思う。学童増設は市として最優先すべき。
- ・土、日、祝、長期休暇の時だけ、単発で学童保育を利用できたらありがたいです。年間で契約している人以外でも1回ごとの利用料で簡単に預けられたら、仕事の幅も広がると思う。
- ・民間に任せる以外に小学校併設の公立学童を増やしてほしい。
- ・学童保育料が周辺他市と比べても高すぎる。

■子どもの健康確保

- ・小児科や耳鼻科、皮膚科などの子どもがよく受診する医院・病院の数が少なく感じます。
- ・小児科の予約が中々取れない。子供が病気でも受診できず困る事がある。

■子育てに関する情報発信

- ・何でもそうですが、自分で調べないと利用できるサービスとかが分からないので、調べなくても情報が手に入ると良いと思う。
- ・今は大分小さい時などの相談場所などが拡充してますが、場所が遠かったり、しても、とりあえず答えました的な対応で、意味がなかったような気がしました。子供が小さい時は、情報が内輪だけの言葉で書かれていて、引越したばかりの人間には、非常に分かりにくかったと思いました。

■子育て世帯への経済的支援

- ・給食費無料など確実に分かる形で所得制限なしに支援して欲しい。
- ・医療費が18歳まで無料、所得制限なしなのが非常にありがたいです。
- ・子育て世帯への支援をしていただく際の、世帯収入上限があったりしますが、世帯収入だけではなく、子どもの人数も考えてもらえると嬉しいです。
- ・2人を学童に通わせている為、学童保育料金が高く、家計を圧迫しています。学童保育も保育園と同じように補助していただけるとありがたいです。

■子どもが地域交流できる居場所の確保

- ・コミセンで行われる「作って遊ぼう」を土曜午前中に(夕方でも可)開催してほしい。平日は習い事等で行けないので。
- ・子どもが自由に遊べる児童館みたいなものを増やして欲しい。昔はあったキャンプ場と提携して星空を見に行くなど、昔やっていた子ども向けのイベントを復活させて欲しい。

■子どもの遊び場、居場所の充実

- ・子供が安心して遊べるよう公園施設を充実させてほしいです。
- ・学童クラブ以外での子供の放課後の居場所をもっと増やしてほしい。
- ・児童、生徒が放課後に安心して遊べる児童館がほしい。オールシーズン遊べる屋内施設がなくて本当に困ります。

■子どもの安全確保

- ・危険な道が多いので、登下校が心配です。人口に伴い車は増えていますが、道路はなかなか改善されず、安心できる環境の整備をしてほしいです。
- ・横断歩道の整備、信号設置、スクールゾーンの設置、防犯パトロールなど、学校区外だとその地域の方が危ないと声をあげているのに、学区外だからと聞き入れてもらえない。学区にとらわれず海老名市全体として、みんなで子ども達の安全安心を守るという意識で努めて欲しいです。

■障がいのある子どもとその家庭への支援

- ・発達に特性のある子供に向けた支援を増やしてほしい。療育施設の充実、内容、市内にある療育施設について詳しい情報があまりない、各施設に問い合わせる1つずつ聞くしかない。市の担当者に聞いても情報があまり得られない。各施設の方針がわかるものがほしい。
- ・子供に障がいがあると、それを理由に色々と制限が付きます。ある程度は仕方ないと思いますが、学童に預けたいファミリーサポートを利用したい場合など本当にハードルが他の児童と比べて高いです。仕事をしていると常に綱渡り状態です。障がいがある子供でも利用できるものが増えると嬉しいです。
- ・発達障がい児、特にグレーゾーンで学校での生活や勉強に困っている子に対しての支援が不十分である。通級指導教室、特別支援学級や放課後デイ等で個人に合った支援が受けられない。

■ひとり親家庭等の自立支援

- ・母子父子寡婦会の活動、支援を活発にしてほしい(食品提供やイベント、頼る人がいない家庭のこども預かりの充実、現状なくて困っています)。
- ・ひとり親家庭の支援について収入や養育費の有無に関わらず、支援をして頂きたい。小学校の教材費も多いと思う。

■児童虐待の防止

- ・産前産後ケアをもう少し大切にしてほしい。海老名市の産後訪問・乳幼児健診時の対応が形式的に感じられ、寂しかったことがあった。産院の助産師の対応が細やかな時代なだけに、意識してもらいたい点。児童虐待防止の肝心な砦だと思う。子育てに不安を感じる身としては頼れる立場であるだけに、偏らない知識を持ったスタッフの対応・質の向上を求める。

■不登校対策

- ・不登校の対策が殆んど行われていないと強く感じています。学校や先生の対応にも一貫性を感じられません。不登校の子供が、平日の昼間に過ごせる居場所が自宅以外ないのが一番の問題です。既存のフリースクールは高額で、選択肢も限られています。市が率先して、不登校の子供たちが安心して気軽にすごせるような場所を、一刻も早く提供してほしいと思っています(勉強をする場というよりも、同じ境遇の子供たちが集まって、遊びを通じて交流したり様々な体験したりするというイメージです)。
- ・子供が学校に通えていないが、授業内容のフォローはプリントをもらうだけなので、オンライン授業が受けられるようにする等、学校に行っているのと同程度の教育が受けられる環境を整備してほしい。

■その他

- ・アンケートに解答していて「父親の育児参加の推進事業」という項目が気になりました。共働き世帯も多く、出産後に父親の意識を変えるのでは遅いと思います。勤務形態など、社会全体を通して考えなければいけないことですが、それをふまえて市政でできることを考えていただけたらと思います。
- ・海老名市だけでなく、他の市などと連携を取り、働きやすく子育てしやすい環境を整えてほしい(他市や他県で働いている人も多い)。

海老名市
子ども・子育て支援に関するニーズ調査
結果報告書

発行：海老名市 保健福祉部 こども育成課
TEL：046-235-7878

発行年月：令和6年3月

子ども・子育て支援に関するニーズ調査の結果概要

【調査からみえる現状と今後の方向性】

調査の目的

本調査は、令和7年度から令和11年度までの5か年を計画期間とした「海老名市こども計画（第3期海老名市子ども・子育て支援事業計画）」の策定にあたり、子育て支援サービスの利用状況や今後の利用希望などを把握し、その結果を計画に反映することを目的として実施しました。

調査概要

	就学前児童	小学生
調査対象者	0歳から6歳までの小学校にあがる前の児童 3,000 名の保護者を無作為抽出	市内 13 校の各学年から1クラス(1組)を抽出した小学校児童 2,324 名の保護者を対象
調査期間	令和5年 12 月 14 日(木)～令和6年1月5日(金)	
調査方法	(配布)郵送 (回収)郵送／専用ウェブサイトからの回答 ※どちらかの方法を回答者が選択	(配布)小学校を通じて配布 (回収)郵送／専用ウェブサイトからの回答 ※どちらかの方法を回答者が選択 ※学校の連絡用メール配信サービスを利用して回答用の URL を送付 ※調査票が複数届いた世帯は、下のお子さんのみ回答

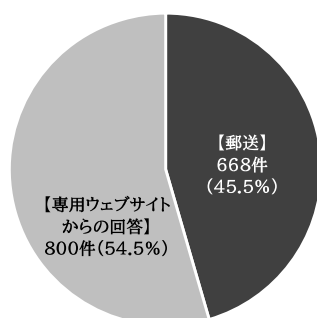
回収結果

	配布数	回収数	回収率
就学前児童	3,000 件	1,468 件	48.9%
小学生	2,324 件	1,076 件	46.3%
合計	5,324 件	2,544 件	47.8%

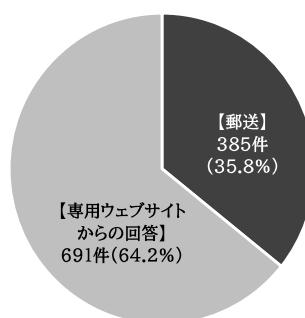
【回収内訳】

	郵送	専用ウェブサイトからの回答
就学前児童	668 件(45.5%)	800 件(54.5%)
小学生	385 件(35.8%)	691 件(64.2%)
合計	1,053 件(41.4%)	1,491 件(58.6%)

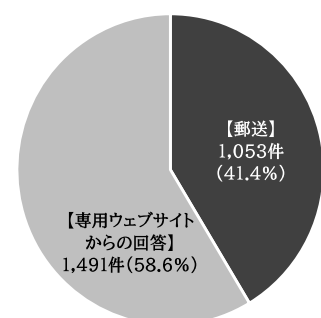
■就学前児童



■小学生



■合計



1 回答者について

- 就学前児童の対象者の年齢についてみると、「4歳」が17.6%と最も高く、次いで「3歳」が17.2%、「5歳」が16.3%となっています。
- 小学生の対象者の学年についてみると、「小学1年生」が19.4%と最も高く、次いで「小学2年生」が18.0%、「小学3年生」が16.5%となっています。
- 世帯構成についてみると、就学前児童・小学生いずれも「2世代世帯(母親と父親と子)」(87.3%・82.2%)が最も高く、次いで「ひとり親世帯(母親または父親と子)」(6.9%・8.5%)、「3世代世帯(母親と父親と子と祖父母)」(4.4%・7.2%)となっています。
- 同居している家族全員の人数についてみると、就学前児童・小学生いずれも「4人」(45.3%・49.5%)が最も高くなっています。
- 調査票の回答者についてみると、就学前児童・小学生いずれも「母親」が8割台(88.0%・88.4%)、「父親」が1割台(11.5%・10.6%)となっています。
- 理想の子どもの人数についてみると、就学前児童・小学生いずれも「2人」(52.5%・45.5%)が最も高く、次いで「3人」(35.7%・39.3%)となっています。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書3～7ページ】

問2 お子さんの生年月を西暦でご記入ください。

問3 世帯構成についてお答えください。また、同居している家族全員(保護者と対象のお子さんを含む)の人数をご記入ください。

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

問6 あなたには、何人お子さんがいらっしゃいますか。また、理想的なお子さんの人数は何人ですか。

【小学生 | 報告書 88～92 ページ】

問2 お子さんの学年をお答えください。

問3 世帯構成についてお答えください。また、同居している家族全員(保護者と対象のお子さんを含む)の人数をご記入ください。

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

問6 あなたには、何人お子さんがいらっしゃいますか。また、理想的なお子さんの人数は何人ですか。

2 子どもの育ちをめぐる環境について

○子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はあるかについてみると、就学前児童・小学生いずれも「いる／ある」が8割台(87.6%・85.1%)、「いない／ない」が1割台(10.2%・13.7%)となっています。

また、気軽に相談できる先についてみると、就学前児童・小学生いずれも「配偶者・パートナー」が8割台(85.6%・81.4%)、「親族」が7割台(76.8%・71.4%)となっています。

○子育て支援に関する情報の入手先についてみると、就学前児童・小学生いずれも「市の広報やホームページ」が5割台(52.3%・50.8%)となっています。一方、「インターネット(SNS)」が3～4割台(40.8%・33.6%)となっており、前回調査と比較すると、「インターネット(SNS)」と回答した方が就学前児童・小学生いずれも10ポイント以上増加しています。

○日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートについてみると、「子育てに関する総合的な情報提供」が4～5割台(47.8%・51.2%)、「親の不安や悩みの相談」が4割台(48.8%・49.3%)となっています。

○子育て中に孤独・孤立を感じることはあるかについてみると、就学前児童・小学生いずれも『ある(「よくある」と「時々ある」の合計)』が3～4割台(41.3%・38.2%)、『ない(「ほとんどない」と「ない」の合計)』が5～6割台(57.1%・61.5%)と、『ない』が『ある』を上回っています。

- ➡8割以上の方が子育てについて気軽に相談できる相手がいる(ある)と回答しており、配偶者や親族、友人など身近な相手が多くなっています。一方、子育て中に孤独・孤立を感じる方も一定数いることから、一人で悩みや困りごとを抱え込まないよう、身近に相談できる体制や個々の背景に応じた支援が求められます。
- ➡情報の収集媒体として「インターネット(SNS)」の利用者が増えている状況がうかがえます。誰もが気軽に情報を入手できるよう、従来の広報等に加え、ICTの活用など様々な媒体を通じた情報提供が重要です。

* 参照グラフ

【就学前児童 | 報告書8～21 ページ】

問8 お子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はありますか。

問8-1 お子さんの子育てに関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。

問10 子育て支援に関する情報を主にどこから入手していますか。

問14 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートはどのようなものだと思いますか。

問15 子育て中に孤独・孤立を感じることはありますか。

【小学生 | 報告書 93～105 ページ】

問8 お子さんの子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所はありますか。

問8-1 お子さんの子育てに関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。

問10 子育て支援に関する情報を主にどこから入手していますか。

問14 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートはどのようなものだと思いますか。

問15 子育て中に孤独・孤立を感じることはありますか。

3 保護者の就労状況について

○母親の現在の就労状況についてみると、就学前児童では「フルタイム」が 46.9%、「パート・アルバイト」が 25.2%、「現在は就労していない」が 27.2%となっています。前回調査と比較すると、「フルタイム」が 10 ポイント以上増加、「現在は就労していない」が 10 ポイント以上減少しています。

小学生では「フルタイム」が 33.1%、「パート・アルバイト」が 41.3%、「現在は就労していない」が 24.5%となっています。前回調査と比較すると、「フルタイム」が5ポイント以上増加しています。

○父親の就労状況についてみると、就学前児童・小学生いずれも「フルタイム」が9割台(96.4%・93.9%)となっています。

○就労している保護者の1日あたりの就労時間は、就学前児童・小学生いずれも母親は「8時間以上」が3～4割台(45.8%・37.0%)に対し、父親は「8時間以上」が9割台(95.0%・95.1%)となっています。また、就労時間「10 時間以上」の父親は、就学前児童・小学生いずれも4割台(48.6%・46.9%)となっています。

- ➡就労している父親の約2人に1人が 10 時間を超える就労となっており、家を出る時間が早く、帰宅時間が遅い状況がうかがえます。
- ➡産休・育休・介護休業中の方も含めると、就労している母親は6～7割を占めています。就学前児童・小学生いずれも「フルタイム」の割合が上昇していることから、子育て世帯が働きやすい職場環境づくりが求められます。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 22～29 ページ】

問17 お子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)を伺います。

問17-1 1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。

【小学生 | 報告書 106～113 ページ】

問17 お子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)を伺います。

問17-1 1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。

4 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

- 平日に利用している教育・保育の事業についてみると、「認可保育所」が 49.0%と最も高く、次いで「幼稚園」が 28.1%、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が 8.7%、「認定こども園」が 6.8%となっています。
- 教育・保育の事業を定期的に利用していない理由についてみると、「すべて子どもの親がみている」が 54.4%と最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため」が 42.4%、「申し込みをしているが、保育・教育の事業に空きがない」が 19.8%となっています。前回調査と比較すると、「申し込みをしているが、保育・教育の事業に空きがない」が 10 ポイント以上増加しています。
- 現在の利用の有無にかかわらず平日に定期的に利用したい教育・保育の事業についてみると、「認可保育所」が 48.6%と最も高く、次いで「幼稚園」が 38.7%、「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」が 38.1%、「認定こども園」が 21.8%となっています。
- 今後利用したい事業について、幼稚園（幼稚園の預かり保育を含む）と他の事業（認可保育所や認定こども園等）を併せて回答された方のうち、幼稚園の利用をより強く希望する方が 65.6%となっています。

- ➡今後利用したい事業として「認可保育所」が最も高くなっているものの、「幼稚園」「幼稚園＋幼稚園の預かり保育」がともに3割台後半となっています。また、幼稚園の利用をより強く希望する方は6割台半ばと、教育ニーズの高さがうかがえます。海老名市では一部の幼稚園で早朝保育や延長保育など、預かり保育を実施し、受け入れ態勢の充実に努めています。引き続きニーズに合わせた受け入れ態勢の充実が求められます。
- ➡保育・教育の事業に空きがなく利用していないと回答した方が約2割となっています。子どもに必要な教育・保育サービスが適正に受けられるよう、確保方策の検討が重要です。

* 参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 30～38 ページ】

問18-1 お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。

問18-4 利用していない理由は何ですか。

問19 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の教育・保育の事業として定期的に利用したいと考える事業は次のうちどれですか。

問 19-2 特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。

5 子育て支援センターの利用状況について（就学前児童）

- 現在の子育て支援センター（地域版子育て支援センターの「はぐはぐ広場」を含む）の利用状況についてみると、「利用していない」が82.0%と、「利用している」の17.0%を上回っています。
- 今後の子育て支援センターの利用希望についてみると、「利用する予定はない」が61.6%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が17.4%、「すでに利用しており、今度も同じように利用したい」が13.0%となっています。

➡子育て支援センターの現在の利用は1割台半ばとあまり高くはないですが、新規で利用したいという声も挙がっており、全体で約3割の利用希望があります。子育て支援センターでは、地域の子育て支援の拠点として、子育て親子の交流や子育てに関する相談、情報提供等を実施しています。引き続き多くの方が利用しやすい事業の充実が求められます。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 39～41 ページ】

問20 現在の子育て支援センター（地域版子育て支援センターの「はぐはぐ広場」を含む）の利用状況についてうかがいます。

問21 今後の子育て支援センターの利用希望についてうかがいます。

6 子どもの病気の際の対応について

- 子どもが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった、または学校を休まなければならなかった際の対処方法については、「母親が休んだ」が6～7割台(76.4%・67.3%)、「父親が休んだ」が2～4割台(44.0%・26.6%)となっています。前回調査と比較すると、就学前児童・小学生いずれも「父親が休んだ」が10ポイント以上増加しています。
- 休んで子どもをみた際に、病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについてみると、「利用したい」が就学前児童では31.9%、小学生では15.4%、「利用したいとは思わない」が就学前児童では65.9%、小学生では80.4%と、利用希望無しが高くなっています。
- 利用したいとは思わない理由についてみると、就学前児童・小学生いずれも「親が仕事を休んで対応する方がよいから」(47.6%・51.6%)が最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(47.1%・42.0%)、「利用料がかかる、または、わからない」(40.4%・35.9%)となっています。

➡子どもが病気やケガをした際の対応は、保護者が仕事を休んで対応することが多く、特に母親が休むケースが多くなっています。一方、病児・病後児保育の利用希望は高くはなく、預けることへの不安や、経済的な負担が障害となっていることから、利用しやすい事業に向けた検討が求められます。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 42～46 ページ】

問22-1 お子さんが病気やケガで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法は何ですか。

問22-2 保護者が休んだその際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思われましたか。

問22-3 そう思われる理由は何ですか。

【小学生 | 報告書 114～118 ページ】

問18-1 お子さんが病気やケガで小学校に行けなかった場合に、この1年間に行った対処方法は何ですか。

問18-2 保護者が休んだその際、できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思われましたか。

問18-3 そう思われる理由は何ですか。

7 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について（就学前児童）

○不定期に利用している事業についてみると、「利用していない」が 79.9%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」が 10.4%、「保育所の一時預かり」が 5.7%となっています。

○現在利用していない理由についてみると、「特に利用する必要がない」が 56.1%と最も高く、次いで「手続きが面倒だから、または面倒だと思うから」が 31.5%、「利用料がかかる・高い」が 27.4%となっています。

○不定期な事業の利用希望についてみると、「利用したい」が 51.4%となっています。

利用目的については、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等、リフレッシュ目的）」が 78.3%と最も高くなっています。

○短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用希望についてみると、「利用したい」が 15.0%となっています。

利用目的については、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が 75.9%と最も高くなっています。

➡不定期の教育・保育事業を利用していない方が約8割となっており、手続きの煩雑さや経済的な負担が利用につながらない要因であるとうかがえます。一方、今後の希望では半数以上の方が利用したいと回答しており、特に私用やリフレッシュ目的での利用希望が高くなっています。また、短期入所生活援助事業の利用希望はそこまで高くはないですが、保護者や家族の育児疲れ・不安を目的とした利用希望があるため、利用しやすい事業に向けた検討が求められます。

* 参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 47～54 ページ】

問23 お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。

問23-1 現在利用していない理由は何ですか。

問24 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業（問23の選択肢）を利用する必要があると思いますか。

問25 お子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

8 放課後の過ごし方について

- 【小学生】現在、放課後の時間を過ごしている場所についてみると、「自宅」が 72.7%と最も高く、次いで「習い事」が 55.1%、「その他(公民館、公園など)」が 28.6%となっています。
今後の意向についてみると、「自宅」が 65.5%、「習い事」が 62.4%、「その他(公民館、公園など)」が 37.4%、「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」が 26.1%、「放課後児童クラブ」が 24.7%となっています。
- 【小学生】放課後児童クラブの利用(参加)を希望したいが、利用(参加)できない理由についてみると、「希望する放課後児童クラブの定員がいっぱいだから」が 25.8%となっています。
- 【就学前児童】小学校に就学した際に、放課後の時間を過ごさせたい場所についてみると、「自宅」が 54.2%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ」が 52.1%、「習い事」が 44.6%、「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」が 32.9%となっています。※5歳児のみ
- 今後放課後児童クラブを利用したい方の、夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の利用希望についてみると、就学前児童・小学生いずれも9割を超えています(96.8%・96.2%)。※就学前児童は5歳児のみ
- 【小学生】土曜日のあそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの利用希望についてみると、40.6%が利用したいと回答しています。

- ➡放課後の居場所として、小学生では「放課後児童クラブ」、「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」がいずれも2割台と高くはないですが、就学前児童(5歳児)では約2人に1人が「放課後児童クラブ」、約3人に1人が「あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ」を挙げています。
- ➡放課後児童クラブを利用したいが、利用できない理由について、約4人に1人が「希望する放課後児童クラブの定員がいっぱいだから」と回答しており、見込みに応じた受け皿の確保が重要となります。
- ➡長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望は、就学前児童(5歳児)・小学生いずれも9割を超えています。また、小学生において、約4割があそびっ子クラブ・まなびっ子クラブを土曜日も利用したいと回答しており、休日や長期休暇中の提供体制の検討が求められます。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 55～60 ページ】

問26 お子さんについて、小学校に就学した際に、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

問26-2 お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。

【小学生 | 報告書 119～134 ページ】

問19 お子さんは、現在、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごしていますか。

問20 お子さんは、今後、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

問20-3 お子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。

問20-5 放課後児童クラブの利用(参加)を希望したいが、利用(参加)できない理由等は何ですか。

問20-6 お子さんについて、土曜日にあそびっ子クラブ・まなびっ子クラブの利用希望はありますか。

9 育児休業など職場の両立支援制度について（就学前児童）

- 子どもが生まれた時の育児休業取得状況についてみると、母親では「取得した（取得中である）」が56.5%、父親では20.6%となっています。前回調査と比較すると、父親では15ポイント以上増加しています。「取得していない」と回答した方は、母親が6.3%、父親が74.9%となっています。
- 育児休業期間の実際と希望を比べると、希望よりも早く職場に復帰した方は、母親では61.0%、父親では56.3%となっています。
- 希望より早く復帰した理由についてみると、母親では「希望する保育所に入るため」が70.3%と最も高くなっています。
父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があった」が39.5%と最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が31.6%、「その他」が24.3%となっています。「その他」には＜会社の雰囲気＞＜評価に影響がないかの不安＞＜長期で取りづらい＞等の回答がありました。
- 育児休業中の母親において、子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、育児休業満了時（1歳）まで取得するかについてみると、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が86.4%となっています。

- ➡希望する保育所に入るために、希望より早く復帰した母親が多くみられます。また、現在育児休業中の母親において、1歳になるまで育児休業を取得したい方が8割を超えていることから、保育園入所への柔軟な対応や1歳になった際に子どもを預けられる体制整備などが求められます。
- ➡育児休業を取得した父親の割合は、前回より大きく上昇している一方、取得していない割合は7割を超えています。
- ➡希望より早く復帰した父親では＜会社の雰囲気＞＜評価に影響がないかの不安＞等、男性の育休への職場の理解が壁となっている様子がうかがえます。男性社員が育児休業を取得しやすい職場環境に向けた意識啓発が重要です。

* 参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 61～67 ページ】

問27 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。

問27-2 育児休業からは、実際にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取りたかったですか。

問27-3 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

問27-4 お子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、育児休業満了時（1歳）まで取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。

10 母親の妊娠、出産等について（就学前児童）

- 妊娠中に妊婦健康診査を受診したかについてみると、「定期的に受診した」が98.6%となっています。
- 妊娠中に重要だと思うサポートについてみると、「母親の健康面の相談」が74.9%と最も高く、次いで「お腹の中の赤ちゃんの相談」が68.9%、「父親向けの子育て講座」が50.5%となっています。
- 出産後に重要だと思うサポートについてみると、「赤ちゃんの育児相談・健康面の相談」が80.0%と最も高く、次いで「母親の健康面の相談」が71.8%、「産後の母親の健診（産後健診）」が60.3%となっています。

➡妊娠中、出産後においても母子の健康に関する相談ニーズが高くなっています。母子が心身ともに健やかに成長できるよう、妊婦健康診査や妊産婦に対する保健指導、妊婦相談、乳児相談など、妊娠期からの切れ目のない支援が求められます。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 68～71 ページ】

- 問28 お子さんの妊娠中に妊婦健康診査を受診しましたか。
- 問29 妊娠中に重要なサポートとはどのようなものだと思いますか。
- 問30 出産後に重要なサポートとはどのようなものだと思いますか。

11 「こどもの権利」について

○「こどもの権利」の認知度についてみると、就学前児童・小学生いずれも『知っている（「よく知っている」と「ある程度知っている」合計）』が5割台（52.0％・52.9％）、「知らない」が1割台（14.6％、12.6％）となっています。

○「こどもの権利」が守られていないと感じるものについてみると、就学前児童・小学生いずれも「特にない」が4割台（47.8％・46.7％）となっています。

➡「こどもの権利」を知らない方も一定数いることから、「こどもの権利」に関する情報発信や啓発が求められます。

*参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 72 ページ】

問31 「こどもの権利」とは、子どもが大人と同じく一人の人間として持つ権利であり、安心して生活できること、自由に意見を言ったり活動したりできることなどが含まれます。あなたは、「こどもの権利」について知っていますか。

問32 あなたは、あなたのまわりの子どもについて、次にあげるような「こどもの権利」が守られていないと感じるものはありますか。

【小学生 | 報告書 135 ページ】

問22 「こどもの権利」とは、子どもが大人と同じく一人の人間として持つ権利であり、安心して生活できること、自由に意見を言ったり活動したりできることなどが含まれます。あなたは、「こどもの権利」について知っていますか。

問23 あなたは、あなたのまわりの子どもについて、次にあげるような「こどもの権利」が守られていないと感じるものはありますか。

12 子育てと子育て支援について

- 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要だと思うサポートについてみると、就学前児童・小学生いずれも「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が4～5割台(58.9%・43.8%)となっています。
- 施策の満足度についてみると、『満足している(「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計)』は、就学前児童・小学生いずれも【⑤子どもの健康確保】、【①教育・保育施設の充実と質の向上】、【⑥子育てに関する情報発信】が上位となっています。
- 『不満である(「不満である」と「どちらかといえば不満である」の合計)』は、就学前児童・小学生いずれも【⑦子育て世帯への経済的支援】が最も高く、就学前児童が 50.4%、小学生が 38.9%となっています。
- 施策の重要度についてみると、殆どの項目で『重要である(「重要である」と「どちらかといえば重要である」の合計)』が7割以上となっています。特に、就学前児童・小学生いずれも【①教育・保育施設の充実と質の向上】、【⑨子どもの安全確保】の重要度が高くなっています。
- 子育て支援でもっと力をいれてほしい取組についてみると、就学前児童・小学生いずれも「子育て世帯への経済的支援の充実」、「子どもが安心して安全に遊べる場所の提供」が上位となっています。

- ➡経済的支援について更に充実して欲しいという声が多くうかがえます。ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化に向けた取組が重要です。
- ➡子どもの遊びの場の充実を求める声も多くなっています。民間とも連携しながら既存施設の整備など遊びの場の拡充に努める必要があります。

* 参照グラフ

【就学前児童 | 報告書 73～87 ページ(問 14 は 17 ページ)】

- 問14 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートはどのようなものだと思いますか。
- 問35 ①～⑮の市の子育て支援の取組について、(1)現状の満足度、(2)今後の重要度をお答えください。
- 問36 子育て支援でもっと力をいれてほしいものは何ですか。

【小学生 | 報告書 136～148 ページ(問 14 は 102 ページ)】

- 問14 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサポートはどのようなものだと思いますか。
- 問26 ①～⑮の市の子育て支援の取組について、(1)現状の満足度、(2)今後の重要度をお答えください。
- 問27 子育て支援でもっと力をいれてほしいものは何ですか。

（仮）海老名市こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画） 策定に係る子ども・若者の意見聴取について

（仮）海老名市こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）では、子ども・若者の意見聴取として、以下の3つを実施し、ニーズ調査と合わせて計画策定のための基礎資料として使用する予定です。

実施結果につきましては、令和6年度の会議で報告いたします。

1 1人1台端末を活用した小・中学生へのアンケート形式の意見聴取

- （1）実施時期：令和6年3月4日～3月15日
- （2）方法：児童・生徒に配布している1人1台端末（グーグルフォーム）を使用し学校で実施
- （3）対象者：小学5年生、中学2年生
- （4）内容：子どもの生活実態や要望など10問のアンケート

2 若者の意見聴取

- （1）実施時期：令和5年度（3回実施）
- （2）方法：学び支援課で実施している「ぷらっとカフェ」（若者の意見交換の場）を活用
- （3）対象者：高校生、大学生
- （4）内容：テーマ「望むまち」などについて若者同士で意見交換

3 子ども・子育て会議委員のワークショップ（関係者・子育て世帯）

- （1）実施時期：令和6年3月22日
- （2）方法：子ども・子育て会議委員がグループワーク形式で実施
- （3）対象者：子ども・子育て会議委員15名
- （4）内容：テーマ「子ども・若者の困りごと」「子ども・若者の困りごとの解決策」

子ども・若者に関するワークショップについて

1. 目的

海老名市こども計画策定のための子ども・若者等の意見聴取の一つとして、子ども・若者に関する現状と今後について意見を出し合い、現状把握や課題の洗い出しを行います。このワークショップは、子ども・若者の関係者ヒアリングとしての要素も兼ねます。

2. テーマ

テーマ1 「子ども・若者の困りごと」

テーマ2 「テーマ1の解決策」

※子どもが考える困りごとと大人が考える子どもの困りごとは必ずしも同じではありませんが、子ども自身も気づけていない困りごともありますので、関係者の皆様がそれぞれの立場で普段見聞きしていることを、何に困って悩んでいるか、思いついたことを挙げてみてください。

ワークショップ開催までに、「困りごと」と「その解決策」を3つ程度考えておいていただきますようお願いいたします。

3. 計画への反映

現状把握や課題の洗い出しを、計画の「海老名市の現状」等に反映させる予定です。

4. グループ分け

(1) 15名の委員を3グループに分けます

同じ区分のグループに分かれて、意見を出してもらいます。

【グループA】地域の子育て支援班 5名

事業主代表、労働者代表、小学校校長、児童委員、国際ソロプチミスト会員
水上委員、中尾委員長、石井副委員長、米山委員、林委員

【グループB】保育者班 5名

関連事業者（保育園・幼稚園・学童関係者）
鍵渡委員、井上委員、富樫委員、北川委員、北村委員

【グループC】保護者班 5名

子どもの保護者（PTA連絡協議会会長、市民公募）
小林委員、大河原委員、安田委員、小針委員、山崎委員

(2) グループ内のリーダーの選出

話し合いの進行、取りまとめ役となるリーダーは、委員の中から事務局で選出しています。

全体の司会・進行は事務局（こども育成課長）が行い、書記として事務局3名を各グループに1人配置します。

関係課はそれぞれ関係するグループに配置し、子育て担当次長はフリーです。

【グループA】 リーダー：中尾委員長

関係課：子育て相談課、生活支援課

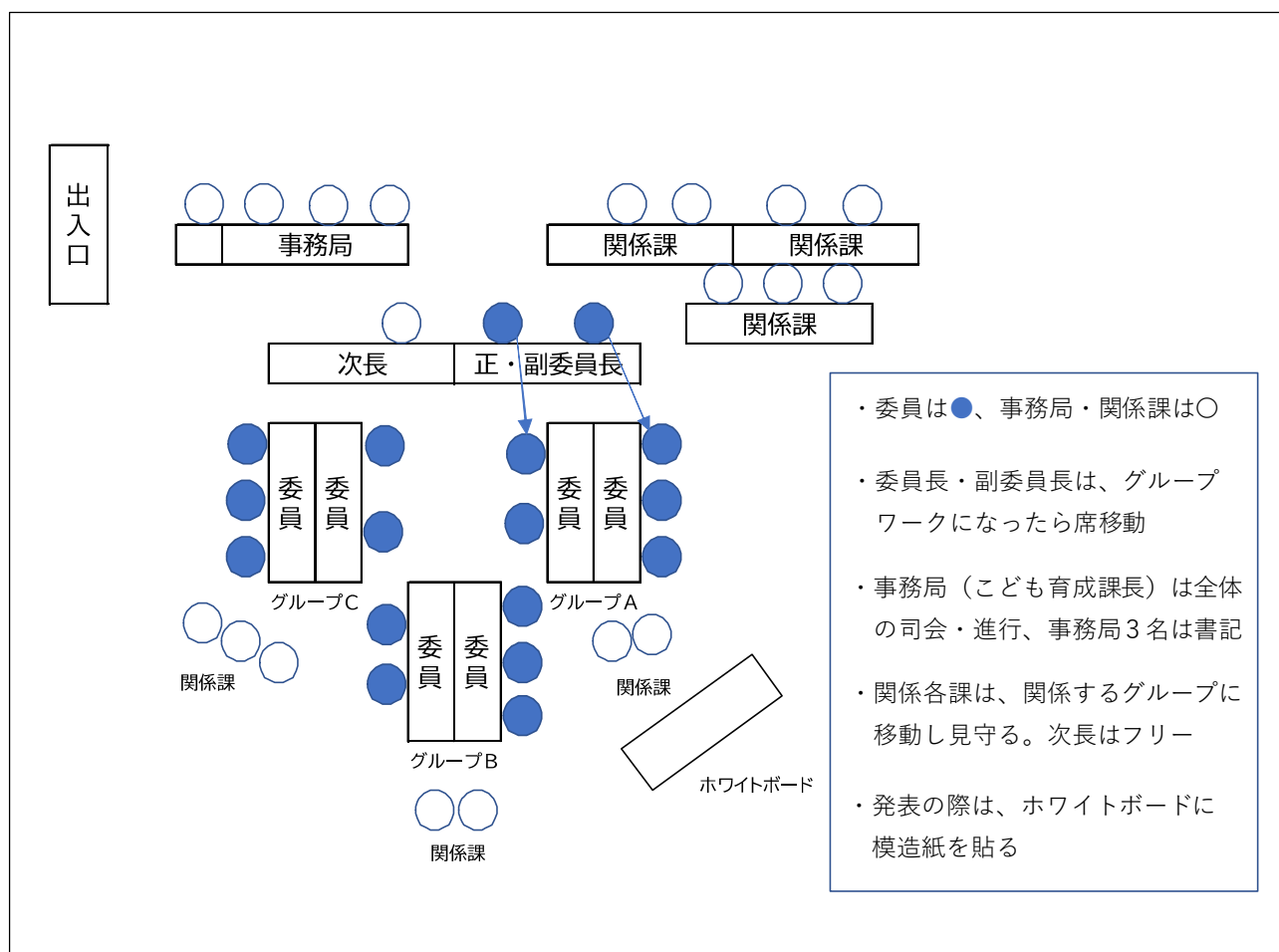
【グループB】 リーダー：富樫委員

関係課：保育・幼稚園課、学び支援課

【グループC】 リーダー：大河原委員

関係課：教育支援課、就学支援課、障がい福祉課

5. 席次（えびなこどもセンター201 会議室）



6. 手順等

(1) ワークショップの流れ（全体で1時間程度）

時間	内容
5～10分程度	① ワークショップについて、事務局から説明
5分	② テーマ1「子ども・若者の困りごと」を黄色の付箋に書く
15分	③ グループ内で発表・共有しながら模造紙に貼る ・リーダーの進行のもと、一人ずつ模造紙に貼る ・全員終了後、付箋をカテゴライズし、カテゴリー名をピンクの付箋に貼る
5分	④ テーマ2「テーマ1の解決策」として、各自、カテゴリーごとに解決策を緑の付箋に書いていく ・カテゴリー名は青の付箋を使用する
15分	⑤ グループ内で発表・共有しながら模造紙に貼る ・テーマ2の解決策などをもとに、子ども・若者の困りごとを解決するキャッチコピーを考える
15分	⑥ グループの代表が発表する（各グループ5分程度） ・代表は各グループで決める
5分	⑦ 委員長の総括
※⑦・⑧合わせて5分程度	⑧ 事務局のまとめ

(2) 模造紙イメージ (A1サイズ)

実施前

テーマ1 子ども・若者の困りごと

↓

テーマ2 テーマ1の解決策

↓

キャッチコピー

実施後

テーマ1 子ども・若者の困りごと

居場所

- ・遊び場が少ない
- ・学校に居場所がない
- など

●●●

- ・人前で上手く話せない
- ・友達との関係に悩む
- ・運動が苦手
- など

○○○

- ・親とコミュニケーションとれない
- ・○○○
- など

テーマ2 テーマ1の解決策

居場所

- ・公園を整備する
- ・学校に代わる場所をつくる
- など

●●●

- ・話す練習の場をつくる
- ・相談支援の充実
- ・楽しく自由に運動できる場をつくる
- など

○○○

- ・親に子どもの気持ちを考えるサポートをする
- ・○○○
- など

キャッチコピー

「子ども目線で 子ども支援 子育て支援」
(キーワード「子どもの気持ち」「子どもの幸せ」でも可)

困りごとや解決策
をカテゴライズ
し、キャッチコピー
をつくる
キーワードでも可

第2期海老名市子ども・子育て支援事業計画
子ども・子育て支援事業

令和6年4月

子ども・子育て支援事業一覧

No.	支援事業	事業所管課	掲載ページ
基本目標Ⅰ 安心して子どもを預けられる教育・保育施設と学童保育施設を提供できる体制づくり			
1	幼稚園充実事業	保育・幼稚園課	5
2	保育所充実事業	保育・幼稚園課	5
3	認定こども園充実事業	保育・幼稚園課	5
4	小規模保育事業	保育・幼稚園課	5
5	家庭的保育事業	保育・幼稚園課	6
6	居宅訪問型保育事業	保育・幼稚園課	6
7	事業所内保育事業	保育・幼稚園課	6
8	公立保育園のあり方	保育・幼稚園課	6
9	病児保育	保育・幼稚園課	7
10	病後児保育	保育・幼稚園課	7
11	一時預かり事業	保育・幼稚園課	7
12	延長保育事業	保育・幼稚園課	7
13	子育て短期支援事業	子育て相談課	8
14	多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業	保育・幼稚園課	8
15	実費徴収に係る補足給付を行う事業	保育・幼稚園課	8
16	放課後児童健全育成事業 (放課後児童クラブ)	学び支援課	8
17	放課後子ども教室(あそびっ子クラブ)	学び支援課	9
18	放課後子ども教室(まなびっ子クラブ)	学び支援課	9

No.	支援事業	事業所管課	掲載ページ
基本目標Ⅱ 親と子の健康を確保するための環境づくり			
19	妊婦健康診査	こども育成課	9
20	妊婦歯科健康診査	こども育成課	9
21	乳児家庭全戸訪問事業	こども育成課	10
22	すこやかマタニティスクール	こども育成課	10
23	特定不妊治療費助成事業	こども育成課	10
24	不育症治療費助成事業	こども育成課	10
25	乳幼児健康診査	こども育成課	11
26	家庭訪問	こども育成課	11
27	育児相談	子育て相談課	11
28	親と子の相談支援事業	こども育成課	11
29	健康診査事後指導事業	こども育成課	12
30	乳幼児予防接種	こども育成課	12
31	離乳食講座	子育て相談課	12
32	むし歯予防教室	子育て相談課	12
33	子ども医療費助成事業	国保医療課	13
34	新入学児童運動能力測定	文化スポーツ課	13

No.	支援事業	事業所管課	掲載ページ
基本目標Ⅲ 妊娠・出産から切れ目のない総合的な子育て支援を提供できる体制づくり			
35	子育て情報発信事業	こども育成課	13
36	こどもセンター連携会議	こども育成課	13
37	ファミリー・サポート・センター事業	子育て相談課	14
38	仕事と育児の両立支援事業	市民相談課	14
39	子育て・子育て応援事業	こども育成課	14
40	教材費支援事業	就学支援課	14
41	修学旅行保護者負担軽減補助金交付事業	教育支援課	15
42	子育て支援センター	子育て相談課	15
43	地域版子育て支援センター	子育て相談課	15
44	小学校スポーツ大会の実施	教育支援課	15
45	海老名市・白石市・登別市少年少女スポーツ交流事業	文化スポーツ課	16
46	保育園等の安全監視員の配置	保育・幼稚園課	16
47	安全・安心子どもパトロール	保育・幼稚園課	16
48	学校の安全監視員の配置	就学支援課	16
49	通学路安全パトロールの実施	就学支援課	17

No.	支援事業	事業所管課	掲載ページ
基本目標Ⅳ 配慮を必要とする子どもと家庭への支援			
50	児童発達支援事業	障がい福祉課	17
51	保育所等訪問支援事業	障がい福祉課	17
52	医療的ケア児支援事業	障がい福祉課	17
53	放課後等デイサービス事業	障がい福祉課	18
54	就学前後の相談支援事業	教育支援課	18
55	支援教育補助指導員・介助員・看護介助員等配置事業	教育支援課	18
56	通級指導教室による児童生徒支援事業	教育支援課	18
57	ひとり親家庭等家賃助成	こども育成課	19
58	スクールライフサポート	就学支援課	19
59	ライフ・スタディサポート事業	学び支援課	19
60	教育訓練給付金	こども育成課	19
61	高等職業訓練促進給付金	こども育成課	20
62	高等学校卒業程度認定試験合格支援制度	こども育成課	20
63	母子・父子自立支援員による相談事業	こども育成課	20
64	養育支援訪問事業	子育て相談課	20
65	虐待防止の相談及び啓発活動	子育て相談課	21
66	教育支援センター（えびりーぶ）	教育支援課	21
67	不登校児童・生徒支援事業（びなるーむ）	教育支援課	21
68	通訳派遣	市民相談課	21
69	母子健康手帳の多か国語版	こども育成課	22

子ども・子育て支援事業

支援事業No.	1	幼稚園充実事業				保育・幼稚園課	
事業概要	幼稚園については、一定のニーズが見込まれます。市では、少しでも多くの児童が受け入れられる状況を確保できるよう取り組みます。教育時間終了後の預かり保育等の様々なニーズによる保育に対して運営費を助成し、待機児童解消のための環境整備を行います。						
計画の指標となるもの	教育時間での保育を希望する児童数の量の見込み	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		1,401名	1,389名	1,996名	1,988名	1,964名	
5年後の方向性	令和元年10月から実施された幼児教育・保育無償化により、幼稚園を利用することを希望する世帯はより増えることが見込まれます。しかし一方で全国的な少子化による児童数の減少があるため、今後の市民のニーズに合わせた事業運営が必要と考えています。						
支援事業No.	2	保育所充実事業				保育・幼稚園課	
事業概要	新規保育所の設立や既存保育所の定員拡大など、少しでも多くの児童が受け入れられる状況を確保できるような取り組みを行うことで、待機児童解消のための環境整備を推進します。						
計画の指標となるもの	保育所等の需給差	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		△508名	△453名	3名	△27名	△43名	
5年後の方向性	増加する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて需要の見込める地区に対して戦略的に整備を進めます。						
支援事業No.	3	認定こども園充実事業				保育・幼稚園課	
事業概要	既存幼稚園の認定こども園への移行により、保育が必要な児童を少しでも多く受け入れられる状況を確保できるような取り組みを行うことで、待機児童解消のための環境整備を推進します。						
計画の指標となるもの	保育所等の需給差	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		△508名	△453名	3名	△27名	△43名	
5年後の方向性	増加する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて需要の見込める地区に対して戦略的に整備を進めます。						
支援事業No.	4	小規模保育事業				保育・幼稚園課	
事業概要	子ども・子育て支援新制度において市の認可事業として位置づけられており、新規の小規模保育施設の設立により、少しでも多くの児童が受け入れられる状況を確保できるような取り組みを行うことで、待機児童解消のための環境整備を推進します。						
計画の指標となるもの	保育所等の需給差	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		△508名	△453名	3名	△27名	△43名	
5年後の方向性	増加する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて需要の見込める地区に対して戦略的に整備を進めます。						

支援事業No.	5	家庭的保育事業				保育・幼稚園課	
事業概要	子ども・子育て支援新制度において市の認可事業として位置づけられており、保育者の居宅等で、5名以下の3歳未満の子どもを家庭的な雰囲気の中で保育するものです。						
計画の指標となるもの	保育所等の需給差	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		△508名	△453名	3名	△27名	△43名	
5年後の方向性	多様化する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて需要の見込める地区に対して戦略的に整備を進めます。						
支援事業No.	6	居宅訪問型保育事業				保育・幼稚園課	
事業概要	子ども・子育て支援新制度において市の認可事業として位置づけられており、3歳未満の乳幼児の居宅において1対1を基本とする保育を実施します。保育所等では対応しきれないニーズなど、個々に応じた柔軟な利用が可能となります。						
計画の指標となるもの	保育所等の需給差	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		△508名	△453名	3名	△27名	△43名	
5年後の方向性	多様化する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて需要の見込める地区に対して戦略的に整備を進めます。						
支援事業No.	7	事業所内保育事業				保育・幼稚園課	
事業概要	子ども・子育て支援新制度において市の認可事業として位置づけられており、企業が仕事と子育ての両立を支援するため、従業員の子どもの預かり、保育を実施します。また、地域の3歳未満の子どもの受け入れが可能な施設となります。						
計画の指標となるもの	保育所等の需給差	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		△508名	△453名	3名	△27名	△43名	
5年後の方向性	多様化する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて需要の見込める地区に対して戦略的に整備を進めます。						
支援事業No.	8	公立保育園のあり方				保育・幼稚園課	
事業概要	待機児童の解消を図るため、保育園の定員拡大を鋭意進めていますが、少子化の進展により、近い将来、保育需要の減少が見込まれます。このため、定員調整、老朽化対策、民間活力の活用などを総合的に推進するため、公立保育園の統廃合や民営化を図ります。						
計画の指標となるもの	公設公営保育所の数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		5か所	4か所	4か所	4か所	4か所	
5年後の方向性	障がい児保育、年度途中での受け入れのための定員枠の確保、市内保育所の指導的役割など、公立保育園として果たすべき役割もあるため、市内3地区に1園ずつの直営園を堅持します。申込数などの状況を見極め、市内3園体制に向けたスケジュールを示します。						

支援事業No.	9	病児保育	保育・幼稚園課			
事業概要	小規模保育施設（ほほえみさくら保育園）に併設する、病児・病後児保育室（ほほえみルーム）で病気中の生後6ヶ月から小学6年生までの児童を一時的に預かります。 保護者が就労しているなど、家庭での保育が困難である方が利用の対象となる事業です。					
計画の指標 となるもの	病児・病後児保育利用人数	令和2年 実施検討	令和3年 実施検討	令和4年 200名	令和5年 200名	令和6年 200名
5年後の 方向性	保護者の子育てと就労等の両立を支援するため、継続して事業を実施します。					

支援事業No.	10	病後児保育	保育・幼稚園課			
事業概要	小規模保育施設（ほほえみさくら保育園）に併設する、病児・病後児保育室（ほほえみルーム）で病気中の生後6ヶ月から小学6年生までの児童を一時的に預かります。 保護者が就労しているなど、家庭での保育が困難である方が利用の対象となる事業です。					
計画の指標 となるもの	病児・病後児保育利用人数	令和2年 200名	令和3年 200名	令和4年 200名	令和5年 200名	令和6年 200名
5年後の 方向性	保護者の子育てと就労等の両立を支援するため、継続して事業を実施します。					

支援事業No.	11	一時預かり事業	保育・幼稚園課			
事業概要	現在、海老名市内の公立・私立合わせ15の保育所において、一時預かり事業を実施しています。自宅保育者以外にも保育所待機者の代替施設としてのニーズもあることから、市では各保育所での一時預かり事業を支援します。					
計画の指標 となるもの	一時預かり利用人数	令和2年 15,000名	令和3年 15,000名	令和4年 7,408名	令和5年 7,871名	令和6年 8,334名
5年後の 方向性	全国的な少子化による児童数の減少の一方で当市では保育所のニーズは増加しています。ついては、市では引き続き各保育所での一時預かり事業を支援します。					

支援事業No.	12	延長保育事業	保育・幼稚園課			
事業概要	現在、海老名市内の公立・私立合わせ27の保育所及び認定子ども園において、延長保育事業を実施しています。今後も保護者のニーズ等から、一定の利用希望者が見込まれるため、市は各保育所での延長保育事業を支援します。					
計画の指標 となるもの	延長保育利用人数	令和2年 67,034名	令和3年 67,704名	令和4年 1,200名	令和5年 1,232名	令和6年 1,265名
5年後の 方向性	全国的な少子化による児童数の減少の一方で当市では保育所のニーズは増加しています。市は引き続き各保育所での延長保育事業を支援します。					

支援事業No.	1 3	子育て短期支援事業				子育て相談課	
事業概要	保護者の疾病、仕事等により、家庭での養育が一時的に困難となった子どもを対象に、児童養護施設等で一定期間、養育・保護します。						
計画の指標 となるもの	実施するための調査・研究をする	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		実施検討	実施検討	実施検討	実施検討	実施検討	
5年後の 方向性	ニーズ調査から把握した、保護者の疾病等のやむを得ない理由により、家庭において子どもを養育することが一時的に困難となった子どもの人数を基に、ほかの事業による対応の可能性も勘案し、事業の実現に向けた検討を行います。						
支援事業No.	1 4	多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業				保育・幼稚園課	
事業概要	各施設の設置基準や職員配置基準など、新規事業者には様々な対応が求められることから、新規参入希望事業者からの相談等に対応し、情報の提供を行います。						
計画の指標 となるもの	多様な事業者の能力活用の 必要性	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	認可1園	認可1園	認可1園	
5年後の 方向性	増加する保育ニーズに対応するため、待機児童の解消へ向けて保育所の誘致を進め、基準を満たした民間事業者には保育所設置認可を行います。						
支援事業No.	1 5	実費徴収に係る補足給付を行う事業				保育・幼稚園課	
事業概要	保護者の世帯所得の状況等から、特定教育・保育施設等に対して保護者が支払うべき副食費、日用品、文具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用の一部を助成します。						
計画の指標 となるもの	低所得世帯への支援の必要 性	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の 方向性	対象世帯が円滑に保育が利用できるよう、継続して事業を実施します。						
支援事業No.	1 6	放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）				学び支援課	
事業概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校等に通う子どもたちに、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業です。						
計画の指標 となるもの	施設定員数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		1,565名	1,615名	1,880名	2,000名	2,120名	
5年後の 方向性	学童保育クラブの需要は、大規模開発によって今後不足が生じる地域と、少子化の影響により余剰が生じる地域があり、偏在化していく状況です。このことから、学童保育クラブを必要とする地域に適切に供給できるよう配置していきます。						

支援事業No.	17	放課後子ども教室（あそびっ子クラブ）				学び支援課
事業概要	放課後の居場所づくりとして、市内13小学校の体育館や校庭を開放して子どもたちに自由あそびができる場を提供している事業です。各校多少の差がありますが、13校ほぼ毎日開催しています。					
計画の指標となるもの	参加児童数（延べ人数）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		60,000名	61,000名	62,000名	63,000名	64,000名
5年後の方向性	あそびっ子クラブの需要は、共働き家庭の増加により、増加傾向が見込まれます。このことから、あそびっ子クラブ支援員の確保が必須となるため、パートナー会議で行政支援を協議しながら、支援員の口コミやあそびっ子だより等で確保をしていきます。					
支援事業No.	18	放課後子ども教室（まなびっ子クラブ）				学び支援課
事業概要	放課後の居場所づくりの一環として、児童の学習習慣の定着をねらいとしている事業です。市内13小学校の空き教室を利用して、子どもたちに自学自習ができる場を提供し、13校ほぼ週1回開催しています。					
計画の指標となるもの	参加児童数（延べ人数）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		5,500名	5,700名	5,800名	5,900名	6,000名
5年後の方向性	まなびっ子クラブの需要は、一定数見られるが、学区により人数の顕著な差が見られます。回数を増やすためには支援員の確保が必要であり、様々な会議で事業の周知を図ります。また、自学自習の場だけでなく、内容の検討も行っています。					
支援事業No.	19	妊婦健康診査				こども育成課
事業概要	安心して出産ができるよう、妊婦の健康管理とともに、新生児の疾病や異常の早期発見の機会となるよう、妊婦健康診査を実施しています。神奈川県産婦人科医会に委託し、県内の産科等医療機関を妊婦が健診を受けた際の費用の一部を補助します。					
計画の指標となるもの	受診件数（延べ人数）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		12,000名	12,000名	13,000名	13,000名	13,000名
5年後の方向性	妊婦健康診査は各種検査等にかかる費用が大きいため、1回あたりの助成額の見直しを図ります。					
支援事業No.	20	妊婦歯科健康診査				こども育成課
事業概要	妊娠中は、むし歯や歯周病などが悪化しやすく、歯周病は早産等の原因となることがあるため、口腔内の異常の早期発見の機会となるよう、妊婦歯科健康診査を実施しています。市内歯科医療機関へ委託し、妊娠中無料（1回）で受診できます。					
計画の指標となるもの	受診件数（実人数）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		400名	410名	410名	420名	420名
5年後の方向性	受診者数が減少しないよう、周知方法の検討、実施歯科医療機関の見直し等を行います。					

支援事業No.	2 1	乳児家庭全戸訪問事業				こども育成課
事業概要	4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育ての不安や悩みの相談を聞き、子育て支援に必要な情報提供を行い、地域の中で子どもが健やかに成長できるよう支援をします。委託助産師や市の保健師、主任児童委員がご家庭を訪問します。					
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
5年後の方向性	乳児家庭全戸訪問後、支援が必要とされた家庭に対する適切な支援方法の検討を行います。					
支援事業No.	2 2	すこやかマタニティスクール				こども育成課
事業概要	初めて母親、父親になるご家庭を対象に、妊娠中の不安を軽減し、安全な出産・育児ができるように、すこやかマタニティスクールを実施しています。助産師、保健師、歯科衛生士、栄養士が支援をしています。					
計画の指標となるもの	参加人数（延べ人数）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		450 名	450 名	450 名	450 名	450 名
5年後の方向性	すこやかマタニティスクール参加者のニーズを調査し、実施回数、実施方法等の検討を行います。					
支援事業No.	2 3	特定不妊治療費助成事業				こども育成課
事業概要	不妊に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図るため、医療保険が適用されず高額な医療費がかかる特定不妊治療に要する費用の一部を助成します。令和4年度から不妊治療が保険適用となったため、令和5年度以降は、事業の見直しを図ります。					
計画の指標となるもの	助成件数（延べ人数）	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		100 名	100 名	120 件	事業見直し	事業見直し
5年後の方向性	現行の特定不妊治療に要する費用の一部を助成しながらも新たな助成について検討し、事業見直しを図ります。					
支援事業No.	2 4	不育症治療費助成事業				こども育成課
事業概要	不育に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図るため、不育症の診断後に実施した医療保険適用外の不育症治療を受けられた夫婦に対し、治療費の一部を助成します。					
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
5年後の方向性	不育に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図るため、事業を継続します。					

支援事業No.	25	乳幼児健康診査				こども育成課	
事業概要	子どもの健やかな成長を願って、4 か月児、8 か月児、1 歳 6 か月児（内科・歯科）、2 歳児歯科、3 歳 6 か月児（内科・歯科）の健康診査を行います。8 か月児健康診査、1 歳 6 か月児健康診査（内科・歯科）は、委託医療機関にて個別で実施しています。						
計画の指標となるもの	各健診の受診率 ①＝4 か月児健診 ②＝3 歳 6 か月児健診	令和2年 ①98% ②96%	令和3年 ①98% ②96%	令和4年 ①98% ②96%	令和5年 ①98% ②96%	令和6年 ①98% ②96%	
5 年後の方向性	必要な年齢の乳幼児に対して、引き続き乳幼児健康診査を実施していきます。						
支援事業No.	26	家庭訪問				こども育成課	
事業概要	乳幼児のいる家庭を訪問し、妊産婦や乳幼児の健康、育児や母乳についての相談や育児の悩みや子どもの発達についての相談を聞き、必要な支援や情報提供を行います。助産師や保健師、栄養士がご家庭を訪問します。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年 事業継続	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続	
5 年後の方向性	家庭訪問を通じて、育児や発達の悩みを継続して支援できるよう実施していきます。						
支援事業No.	27	育児相談				子育て相談課	
事業概要	同年齢の子どもを持つ親同士が共通の話題や情報交換などができる交流の場である年齢別サロンにおいて、遊びながら気軽に子どもの心身の発達や育児に関する保護者の悩みなどの疑問を保健師や栄養士と相談できる場を提供します。						
計画の指標となるもの	利用者数	令和2年 5,352 名	令和3年 5,780 名	令和4年 683 名	令和5年 670 名	令和6年 658 名	
5 年後の方向性	年齢に応じた遊びや絵本の読み聞かせなど、魅力あふれる基本事業で、多くの利用者と呼び込み、一人でも多くの親子が、孤独感や育児不安を解消していただけるよう努めます。						
支援事業No.	28	親と子の相談支援事業				こども育成課	
事業概要	子どもの発達（言葉、動作）、子育ての不安や悩み、気になるくせなどの様々な相談をする場所として、親と子の相談支援事業を実施しています。臨床心理師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士の専門の相談員が相談に応じています。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年 事業継続	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続	
5 年後の方向性	相談者が相談したい時に相談できるような体制づくりを検討します。						

支援事業No.	29	健康診査事後指導事業				こども育成課	
事業概要	乳幼児健康診査の事後指導として、心身の発達が気になる子どもや育児不安がある親子に対し、より良い親子関係を育み、幼児の健やかな発達を促すために実施しています。保健師、保育士、臨床心理師、栄養士が従事しています。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の方向性	親と子の相談支援事業と連携し、必要な親子に対して支援できる体制づくりを検討します。						
支援事業No.	30	乳幼児予防接種				こども育成課	
事業概要	予防接種法に基づく「定期接種」のワクチンを、各委託医療機関で無料接種することができます。また、予防接種スケジュールの自動作成などの機能が付いた「えび〜にゃのちっくんナビ」もご利用いただけます。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の方向性	必要な予防接種が継続的に実施できるようにします。						
支援事業No.	31	離乳食講座				子育て相談課	
事業概要	赤ちゃんの発育や発達に合わせ、離乳食を始めるタイミング、作り方や量、味付けなど、試食を交えて具体的な進め方を学ぶ講座と、講師を囲んだグループワークの二本立てで開催しています。グループワークでは親同士の情報交換や、講師への質問や悩みの共有をすることで、離乳食に関する不安や苦勞を軽減する場にもなっています。						
計画の指標となるもの	利用者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		550名	594名	273名	268名	263名	
5年後の方向性	育児相談事業とあわせて、離乳食の悩みや疑問を気軽に相談できる場を提供してまいります。また、グループワークなどの質疑応答を集約して、講座に参加されない方にも広く情報を提供していく方法を検討します。						
支援事業No.	32	むし歯予防教室				子育て相談課	
事業概要	乳幼児期は基本的な歯の健康づくりを身に付ける重要な時期ととらえ、生涯にわたって歯の健康が身に付くよう、歯磨き指導を通して、幼児のむし歯予防や望ましい食事、おやつとの与え方について学びます。						
計画の指標となるもの	利用者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		252名	272名	143名	140名	138名	
5年後の方向性	乳幼児期の歯の疑問や悩みにより丁寧かつ効率的に情報提供できる機会として、むし歯予防講座の在り方を検討します。						

支援事業No.	33	子ども医療費助成事業	国保医療課			
事業概要	0歳から満18歳に達する日以後最初の3月31日までの市内在住の子どもが、ケガや病気などで医療機関にかかったときの医療費を助成しています。所得制限はありません。					
計画の指標となるもの	対象者数	令和2年 17,800名	令和3年 17,800名	令和4年 17,800名	令和5年 21,200名	令和6年 21,200名
5年後の方向性	子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもたちが安心して必要な医療を受けられるよう、継続して事業を実施します。将来にわたり事業を継続できるよう、対象年齢の見直しや一部負担金の導入など様々な方策の検証を行います。					
支援事業No.	34	新入学児童運動能力測定	文化スポーツ課			
事業概要	児童の体力・運動能力の向上を目的に、新しく小学校1年生になる児童の運動能力測定を実施し、今後の運動能力向上についての意識付けとしてもらいます。(競技：25m走、立ち幅跳びなど)					
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年 事業継続	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続
5年後の方向性	あらゆる運動（スポーツ）に興味を持つきっかけにもなる事業であるため、今後も継続して実施していきます。					
支援事業No.	35	子育て情報発信事業	こども育成課			
事業概要	妊娠中の方から未就学児のいる世帯までの全世帯に、子育てガイドブック「えびな健康だよりSUKUSUKU」を配布しています。携帯アプリ「子育てタウン」を通じて子育てに関する情報を発信し、子育てに関する行政情報等を積極的に発信し、周知を図ります。					
計画の指標となるもの	子育てガイドブックの配布世帯数	令和2年 8,000世帯	令和3年 7,950世帯	令和4年 7,900世帯	令和5年 7,850世帯	令和6年 7,800世帯
5年後の方向性	子育てガイドブック「えびな健康だよりSUKUSUKU」は、乳幼児健診の日程等の情報を掲載しているため、継続して毎年配布します。					
支援事業No.	36	こどもセンター連携会議	こども育成課			
事業概要	子どものライフステージに合わせた切れ目のない支援を実現させるため、福祉と教育を縦割りとし、こどもセンター連携会議等を通じて連携体制の充実を図ります。					
計画の指標となるもの	連携会議の開催回数	令和2年 4回	令和3年 4回	令和4年 4回	令和5年 4回	令和6年 4回
5年後の方向性	こどもセンターの運営に関して必要なことを調整する場として、毎年継続して開催します。					

支援事業No.	37	ファミリー・サポート・センター事業				子育て相談課
事業概要	子育て支援を受けたい人（利用会員）と援助ができる人（援助会員）が会員となって、互いに協力し合って、地域の中で子育てを支援する有償ボランティアです。					
計画の指標となるもの	活動件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		2,197 件	2,372 件	1,743 件	1,711 件	1,681 件
5年後の方向性	援助会員を増やし、利用会員の多様化するニーズに応えられるよう、地域の中での助け合いという観点で、両者の関係を維持できるようにコーディネートしていきます。					
支援事業No.	38	仕事と育児の両立支援事業				市民相談課
事業概要	子育て世帯の仕事と子育ての両立を支援するため、育児・介護休業制度等も含めた関係法制度等の広報・啓発、情報提供等を行います。					
計画の指標となるもの	関連講座の開催回数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
5年後の方向性	講座や講演会の内容やタイトルなどを工夫して、多くの子育て世帯の方々が参加していただけるようにします。					
支援事業No.	39	子育て・子育て応援事業				こども育成課
事業概要	令和3年度に紙オムツ支給事業から子育て・子育て応援事業として事業のリニューアルを行いました。住んでいただいていることへの感謝と成長している喜びを伝えるため、出生児と各乳幼児集団健診受診対象者へ紙オムツや衛生用品などのお祝い品を贈呈します。					
計画の指標となるもの	支給対象者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		2,364 名	事業見直し	4,100 名	4,100 名	事業見直し
5年後の方向性	リニューアル後の事業を継続しながらより良い事業内容の検討・研究を行い、より充実した子育てサポートを実現します。					
支援事業No.	40	教材費支援事業				就学支援課
事業概要	小中学校に通学する児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、全児童・生徒を対象に教材費を無償化します。					
計画の指標となるもの	対象人員	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		2,309 名	事業継続	事業継続	事業継続	事業拡大 (10,463 名)
5年後の方向性	事業を継続することで、保護者の経済的負担の軽減を実現します。					

支援事業No.	4 1	修学旅行保護者負担軽減補助金交付事業				教育支援課
事業概要	海老名市立小中学校が実施する修学旅行に参加する、海老名市在住の小学校6年生の児童の保護者及び中学3年生の生徒の保護者に対し、小学校6年生参加児童一人あたり上限10,000 円、中学校3年生の参加生徒一人あたり上限 15,000 円を交付します。					
計画の指標となるもの	対象人員	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		2,143 名	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
5年後の方向性	令和元年度より始まった事業であり、今後の望ましい修学旅行のあり方や発注方法の改善による旅行代金の抑制など、修学旅行検討委員会を中心に検討を進め、教育委員会としての提言を行います。					
支援事業No.	4 2	子育て支援センター				子育て相談課
事業概要	年齢別サロン、すくすく広場、移動サロン、育児講座や、各種イベントを通して、子育て親子の交流の促進、子育てに関する相談、子育て支援に関する情報の提供、講習等を実施します。					
計画の指標となるもの	利用者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		45,559 名	49,203 名	18,956 名	18,607 名	18,281 名
5年後の方向性	子ども家庭相談室やこども育成課など関係各課等と連携し、より専門的な相談に的確に対応できる体制を整備するとともに、一人でも多くの親子が、足を運びたいと思える魅力ある事業の充実を図ります。					
支援事業No.	4 3	地域版子育て支援センター				子育て相談課
事業概要	より身近で地域に根差した地域版子育て支援センター「はぐはぐ広場」を、市内3か所で運営しています。運営は、民間のアイデアやノウハウを生かすため、子育て関係の民間事業者に委託をして行います。					
計画の指標となるもの	利用者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		22,678 名	24,492 名	10,846 名	10,646 名	10,460 名
5年後の方向性	子育て支援センターとはぐはぐ広場相互に情報交換や連携を密にし、地域の子育て支援の拠点としての機能の充実を図ります。また、専門的な相談に対しては、他機関とも連携して対応できる体制を整備してまいります。					
支援事業No.	4 4	小学校スポーツ大会の実施				教育支援課
事業概要	子どものスポーツに対する興味、自己記録への関心、意欲の向上を図るための小学校連合運動会を開催します。					
計画の指標となるもの	市内小学 6 年生	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		1,184 名	1,170 名	1,152 名	1,188 名	1,107 名
5年後の方向性	開催が暑い時期となるので、水分補給や直射日光を防止するための工夫を検討します。また、競技種目等の見直しを行います。					

支援事業No.	4 5	海老名市・白石市・登別市少年少女スポーツ交流事業				文化スポーツ課
事業概要	海老名市の姉妹都市である白石市を訪問し、歴史や文化を学び、スポーツを通じて仲間との協調性、自主性を養うことを目的にして毎年違う種目でのスポーツ交流を行っています。					
計画の指標 となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
5年後の 方向性	白石市の歴史や文化に触れあうことにより、スポーツだけでなく様々な分野に興味を持つきっかけにもなる事業であるため、今後も継続して実施を予定しておりますが、白石市の児童の減少が進んでいることから見直しが必要となる場合があります。					
支援事業No.	4 6	保育園等の安全監視員の配置				保育・幼稚園課
事業概要	市内保育所の園児の安全確保のため、保育所職員と協力し敷地内及びその周辺の安全監視を行います。施設内への不審者等の侵入防止を図るとともに、もしものときには、保育所職員と連携して、園児の避難誘導を行います。					
計画の指標 となるもの	園児の安全の保障	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
5年後の 方向性	園児が安心して保育園生活が送れるように、今後も事業を継続していきます。					
支援事業No.	4 7	安全・安心子どもパトロール				保育・幼稚園課
事業概要	園児の安全確保のため、市内認可保育園及び幼稚園等の巡回監視を行い、安全で安心な子育て環境の向上を図ります。不審者情報があった場合、現場に急行し周辺の警戒にあたります。					
計画の指標 となるもの	市内保育施設における巡回監視の必要性	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
5年後の 方向性	園児や保育所職員が安心・安全な保育環境を維持するために、継続してパトロールが必要と考えています。					
支援事業No.	4 8	学校の安全監視員の配置				就学支援課
事業概要	市内の各小学校へ安全監視員を配置することにより、校門を監視し不審者の侵入を抑止するとともに、敷地内を巡回し、子どもの安全確保に努めています。					
計画の指標 となるもの	市内小学校 各1名	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		13名	13名	13名	13名	13名
5年後の 方向性	事業を継続することで、安全確保に努めます。					

支援事業No.	49	通学路安全パトロールの実施				就学支援課	
事業概要	市内小学生の登下校時にあわせて青色防犯パトロール（青パト）車でパトロールを実施しています。青パト車3台で市内全域のパトロールを実施しています。						
計画の指標 となるもの	青パト車3台による実施	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		3台	3台	3台	3台	3台	
5年後の 方向性	事業を継続することで、安全確保に努めます。						
支援事業No.	50	児童発達支援事業				障がい福祉課	
事業概要	未就学児を対象に日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を行います。（※「障がい者福祉計画」に準じます。）						
計画の指標 となるもの	利用人数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		216名	195名	211名	228名	※	
5年後の 方向性	旧児童デイサービスから毎年伸びている事業であり、早期療育の視点からも必須事業となっています。児童発達支援センターと地域の事業所との連携、それによるニーズの拡大に対応していきます。						
支援事業No.	51	保育所等訪問支援事業				障がい福祉課	
事業概要	保育所、幼稚園、小中学校、特別支援学校等に在籍する障がい児が、他の児童と集団生活に適應できるよう当該施設を訪問し、専門的な支援を行うサービスです。（※「障がい者福祉計画」に準じます。）						
計画の指標 となるもの	利用人数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		5名	10名	14名	18名	※	
5年後の 方向性	児童発達支援センター機能による関係機関との連携により増加が見込まれるため、実施事業所の拡充に努め、在園・在学児童に対するきめ細やかな支援体制を促進します。						
支援事業No.	52	医療的ケア児支援事業				障がい福祉課	
事業概要	医療的ケア児の支援に向け、対応の入り口となる相談支援の充実など、保健・医療・教育・福祉等が連携した協議の場の仕組みづくりや、障がい児の成長に応じた支援の充実に向けて取り組む事業です。（※「障がい者福祉計画」に準じます。）						
計画の指標 となるもの	支援体制づくりの取り組み や支援の充実に向けた取り組み	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	協議の場の 設置及び開催	協議の場の 開催	協議の場の 開催	※	
5年後の 方向性	自立支援協議会と連携を図り、保健・医療・教育・福祉の連携による協議の場を設置し、成長に応じたきめ細やかな支援体制づくりに取り組みます。						

支援事業No.	53	放課後等デイサービス事業				障がい福祉課
事業概要	就学児童を対象に生活能力の向上のために必要な訓練や社会との交流促進を図ります。放課後又は長期休暇中に提供するサービスです。（※「障がい者福祉計画」に準じます。）					
計画の指標となるもの	利用人数	令和2年 288名	令和3年 315名	令和4年 340名	令和5年 367名	令和6年 ※
5年後の方向性	児童発達支援センターと地域の事業所との連携、それによるニーズの拡大に対応していきます。					
支援事業No.	54	就学前後の相談支援事業				教育支援課
事業概要	児童の教育的ニーズや状態、保護者の意見、教育学・医学・心理学等専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点等から、小学校入学後の支援について相談しています。また、入学後も支援については見直し・検討していきます。					
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年 事業継続	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続
5年後の方向性	就学前から中学校卒業後までも切れ目のない相談支援が行えるよう、各関係機関との連携と、支援シートを介した個別の支援計画の作成を行っていきます。					
支援事業No.	55	支援教育補助指導員・介助員・看護介助員等配置事業				教育支援課
事業概要	学習に困難さを抱える児童生徒に対する個別学習支援を行う「支援教育補助指導員」、配慮を要する児童生徒に対して姿勢保持・介添え・安全確保・学習活動の支援等を行う「介助員」、医療的ケアを含む支援を行う「看護介助員」を各校に配置しています。					
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年 事業継続	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続
5年後の方向性	教育的支援を要する児童生徒の社会での自立に向けて、一人ひとりのニーズを把握し、必要な支援を今後も実施していくために、事業を継続していきます。					
支援事業No.	56	通級指導教室による児童生徒支援事業				教育支援課
事業概要	小学生対象の言葉や聞こえに対しての指導を行う「ことばの教室」、他者とのかわり方等のコミュニケーションに関する指導を行う「そだちの教室」、中学生対象の言葉の指導を行う「じりつの教室」において、通級指導を実施しています。					
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年 事業継続	令和3年 事業継続	令和4年 事業継続	令和5年 事業継続	令和6年 事業継続
5年後の方向性	今後も通級する児童生徒一人ひとりに適切な支援を行っていくためにも、教室の拡張や新設、各校への巡回指導型での指導の在り方など研究していきます。					

支援事業No.	57	ひとり親家庭等家賃助成				こども育成課	
事業概要	母子家庭、父子家庭等に対して住宅の家賃の一部を助成することにより、ひとり親家庭等の生活の安定と自立を支援し、ひとり親家庭等の福祉の増進を図ることを目的とする事業です。						
計画の指標 となるもの	対象者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		270名	270名	270名	270名	270名	
5年後の 方向性	平成30年度に改正した現在の制度を継続して実施できるよう努めます。						
支援事業No.	58	スクールライフサポート				就学支援課	
事業概要	経済的な理由で小中学校の就学が困難な方に、学用品費や給食費など学校生活に必要な費用の一部の援助をしています。						
計画の指標 となるもの	対象人員	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		1,007名	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の 方向性	事業を継続することで、保護者の経済的負担の軽減を実現します。						
支援事業No.	59	ライフ・スタディサポート事業				学び支援課	
事業概要	生活保護世帯、児童扶養手当受給世帯、就学援助受給世帯等の中学生を対象とした学習支援をはじめ、日常的な生活習慣、活動ができる居場所づくりなどの生活支援を子どもと保護者の双方に支援を行うことで、高校等への進学を促し将来の貧困連鎖からの脱却を目指します。						
計画の指標 となるもの	支援対象者の高校等進学率	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		100%	100%	100%	100%	100%	
5年後の 方向性	令和元年5月に策定した事業計画に基づき、事業の実績と効果を検証しながら、実施場所や対象者の拡大などを検討していきます。						
支援事業No.	60	教育訓練給付金				こども育成課	
事業概要	母子家庭、父子家庭等に対して、資格取得にかかる講座費用の一部を助成し、主体的な能力開発を支援することにより、自立の促進を図ることを目的とした事業です。						
計画の指標 となるもの	支給対象者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		4名	4名	4名	4名	4名	
5年後の 方向性	自立支援のための後押しのメニューとして継続して支援を行います。						

支援事業No.	6 1	高等職業訓練促進給付金				こども育成課
事業概要	母子家庭、父子家庭等に対して、一定期間、高等職業訓練促進給付金を支給し生活費の負担を軽減することで、就職に有利で生活の安定に資する資格の取得を促進することを目的とした事業です。					
計画の指標となるもの	支給対象者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		6名	6名	6名	6名	6名
5年後の方向性	自立支援のための後押しのメニューとして継続して支援を行います。					
支援事業No.	6 2	高等学校卒業程度認定試験合格支援制度				こども育成課
事業概要	母子家庭、父子家庭等の親及びその子ども（20 歳未満）に対して、高等学校卒業程度認定試験合格のための講座費用の一部を助成することにより、より良い条件での就職につなぎ、自立や生活の安定を図ることを目的とした事業です。					
計画の指標となるもの	支給対象者数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		1 名	1 名	1 名	1 名	1 名
5年後の方向性	自立支援のための後押しのメニューとして継続して支援を行います。					
支援事業No.	6 3	母子・父子自立支援員による相談事業				こども育成課
事業概要	母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づき、生活の安定と向上のために、県福祉資金の貸付・子どもの養育・就業・その他生活向上のことなど、自立を促すための相談に応じています。ひとり親のサポートブックを発行し、必要な助成や手当等の情報を提供しています。					
計画の指標となるもの	相談件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		1,300 件	1,300 件	1,300 件	1,300 件	1,300 件
5年後の方向性	離婚相談から離婚後の子どもの養育など、ひとり親家庭の方への相談は長期間にわたる場合が多く、その需要も高いため、引き続き相談事業を継続します。					
支援事業No.	6 4	養育支援訪問事業				子育て相談課
事業概要	児童虐待の予防のため平成 24 年度から開始しています。育児支援が必要な家庭に保健師等が定期的に訪問し、子どもへの育児状況等を把握し、子どもの保護者にあった支援を検討し、実施するものです。					
計画の指標となるもの	支援件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
		24 件	24 件	24 件	24 件	24 件
5年後の方向性	家事支援員・保育士・看護師・保健師を派遣して養育状況を把握し、各家庭にあった支援を検討し実施していきます。					

支援事業No.	65	虐待防止の相談及び啓発活動				子育て相談課	
事業概要	親又は親に代わる保護者による子どもへの身体的、精神的等の虐待は、子どもの心身の成長、人格の形成に重大な影響を与えます。子どもの人権侵害にあたる児童虐待を早期に防ぐため、相談員2名を配置し、子どもの相談窓口の充実を図ります。						
計画の指標となるもの	相談（電話・来庁）件数	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		1,300件	1,300件	1,300件	1,300件	1,300件	
5年後の方向性	相談体制の充実を図るため、相談員は定期的に研修を受講し、スキルアップを図っていきます。また、子育て講座を開催し、子育ての悩み等の解消に努めていきます。						
支援事業No.	66	教育支援センター（えびりーぶ）				教育支援課	
事業概要	不登校や学校生活に関すること、発達や障がいに関すること、就学に関すること等について、電話相談や来所相談を行っています。また、小学校と中学校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを派遣しています。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の方向性	就学前から中学校卒業後も、切れ目のない相談支援が行えるように、関係各課や関係機関との連携を深めていきます。						
支援事業No.	67	不登校児童・生徒支援事業（びなるーむ）				教育支援課	
事業概要	様々な理由で不登校状態にある小中学生のための教室です。学校復帰や将来の社会的自立を目的とし、児童生徒が安心して過ごす中で、人と関わる力や学ぼうとする意欲を高めることを支援しています。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の方向性	不登校児童生徒に対して、より個に応じた支援ができるような体制づくりについて、今後研究していきます。						
支援事業No.	68	通訳派遣				市民相談課	
事業概要	日本語会話に困っている外国につながる幼児とそのご家庭が安全・安心に生活できるよう、通訳派遣システム事業に係る体制を構築します。						
計画の指標となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の方向性	日常会話や文字の読み書きに問題を抱えている外国につながる幼児とそのご家庭のために、市が発信する情報への理解を深めるよう努めます。						

支援事業No.	69	母子健康手帳の多か国語版				こども育成課	
事業概要	母子健康手帳は、妊娠の初期から子どもが小学校に入学するまでの一貫した健康記録になります。外国人の方には、外国語版母子健康手帳（英語・スペイン語・タガログ語・ポルトガル語・中国語・タイ語・ハングル語・インドネシア語）を交付しています。						
計画の指標 となるもの	事業の継続	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	
		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
5年後の 方向性	海老名市内に在住の外国人の方が安心して妊娠・出産できるよう、引き続き交付を継続します。						